熊本県文化財調査報告第 311 集

新南部遺跡群３

白川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

March.2015
熊本県教育委員会

▲航空写真　東から西

▼航空写真　西から東

熊本県文化財調査報告第 311 集

新南部遺跡群3

白川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

March.2015
熊本県教育委員会

序　文

熊本県熊本市中央区渡鹿の新南部遺跡群は、白川左岸に所在する遺跡である。国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所が河川改修事業を開始するにあたり、熊本県教育委員会が同地内の埋蔵文化財確認調査をおこなったところ、古墳時代後期の有力な遺跡が存在することが判明した。

白川河川改修事業に先立ち、熊本県教育庁教育総務局文化課は、平成１６年度及び平成２２年度に現地での発掘調査を実施した。この発掘調査では、数多くの竪穴住居、溝等の遺構が検出され、数多もの土師器、須恵器等の遺物が出土した。

これらにつき、ここに報告書として刊行し、滅失した遺跡の記録としたい。

なお、発掘調査の実施にあたっては、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の協力はもとより、地元の熊本市当局、渡鹿と新南部地区の皆さんの多大な協力と援助があった。心から厚く御礼申し上げる。

平成２７年３月３１日

熊本県教育長　田崎　龍一

例言

1　本書は、国土交通省の白川河川改修事業に伴い記録保存を目的として実施した熊本県熊本市中央区渡鹿所在の新南部遺跡群（調査範囲は調査後に滅失）の発掘調査報告書である。

2　新南部遺跡群の発掘調査は、熊本県教育委員会が調査主体となり、教育総務局文化課文化財調査第一係が担当した。

3　なお、新南部遺跡群に係る報告書は、『西谷遺跡』熊本県文化財調査報告第 76 集及び『新南部・潤野遺跡』熊本県文化財調査報告第 84 集が既に刊行されているため、本書を巻次３とし『新南部遺跡群３』と表記する。

4　発掘調査に係る整理は、熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町沈目 1667）で実施した。調査記録及び出土遺物は、熊本県文化財資料室が保管している。

5　本書の編集は、宮崎敬士が担当した。

Table of CONTENTS

口絵　Frontispieces
序文　Introduction
例言　Preface
目次　Contents

1　目的と方法
1-1　発掘の概要
1-1-1　調査の目的 …… 3
1-1-2　調査の経緯 …… 3
1-1-3　調査体制 …… 5
1-1-4　調査経過 …… 6
1-1-5　整理体制 …… 12
1-1-6　整理経過 …… 12
1-1-7　保存と活用 …… 13
1-2　新南部遺跡群の立地と構造
1-2-1　自然 …… 15
1-2-2　人文 …… 15
1-3　発掘の方法
1-3-1　発掘の方法 …… 21
1-3-2　整理の方法 …… 27

2　発掘の成果
2-1　遺構と遺構出土遺物
2-1-1　S001（芋穴）…… 31
2-1-2　S002（芋穴）…… 31
2-1-3　S003（芋穴）…… 31
2-1-4　S004（芋穴）…… 31
2-1-5　S005（溝）…… 31
2-1-6　S006（土壙）…… 31
2-1-7　S007（芋穴）…… 33
2-1-8　S008（芋穴）…… 33
2-1-9　S009（芋穴）…… 33
2-1-10　S010（芋穴）…… 33
2-1-11　S011（芋穴）…… 33
2-1-12　S012（芋穴）…… 34
2-1-13　S013（芋穴）…… 34
2-1-14　S014（芋穴）…… 34
2-1-15　S015（芋穴）…… 34
2-1-16　S016（芋穴）…… 34
2-1-17　S017（芋穴）…… 34
2-1-18　S018（芋穴）…… 34
2-1-19　S019（土壙）…… 34
2-1-20　S020（土壙）…… 35
2-1-21　S021（溝）…… 35
2-1-22　S022（溝）…… 35
2-1-22.1　S022-1（溝）…… 35
2-1-23　S023（土壙）…… 35
2-1-24　S024（土壙）…… 35
2-1-25　S025（土壙）…… 37
2-1-26　S026（道路）…… 37
2-1-27　S027（芋穴）…… 37
2-1-28　S028（竪穴住居）…… 37
2-1-29　S029（竪穴住居）…… 45
2-1-30　S030（硬化面）…… 45
2-1-31　S031（土壙）…… 47
2-1-32　S032（道路）…… 47
2-1-33　S033（溝）…… 47
2-1-34　S034（芋穴）…… 47
2-1-35　S035（芋穴）…… 47
2-1-36　S036（芋穴）…… 47
2-1-37　S037（道路）…… 47
2-1-38　S038（竪穴住居）…… 47
2-1-39　S039（畝溝）…… 61
2-1-40　S040（竪穴住居）…… 61
2-1-41　S041（竪穴住居）…… 64
2-1-42　S042（竪穴住居）…… 64
2-1-43　S043（竪穴住居）…… 64
2-1-44　S044（土壙）…… 67
2-1-45　S045（土壙）…… 67
2-1-46　S046（竪穴住居）…… 70
2-1-47　S047（竪穴住居）…… 70
2-1-48　S048（竪穴住居）…… 70

2-1-49　S049（竪穴住居）…… 73
2-1-50　S050（竪穴住居）…… 73
2-1-51　S051（竪穴住居）…… 79
2-1-52　S052（土壙）…… 82
2-1-53　S053（土壙）…… 82
2-1-54　S054（竪穴住居）…… 82
2-1-55　S055（不明）…… 83
2-1-56　S056（竪穴住居）…… 85
2-1-57　S057（竪穴住居）…… 85
2-1-58　S058（竪穴住居）…… 88
2-1-59　S059（硬化面）…… 88
2-1-60　S060（不明）…… 88
2-1-61　S061（不明）…… 88
2-1-62　S062（硬化面）…… 88
2-1-63　S063（不明）…… 91
2-1-64　S064（竪穴住居）…… 91
2-1-65　S065（畝溝）…… 91

2-2　包含層出土遺物
2-2-1　土器（RP403 ～ 481）…… 95
2-2-2　石器（RQ22）…… 95
2-2-3　金属器（RM14 ～ 17）…… 95

2-3　遺物観察表
2-3-1　土器（RP）観察表…… 101
2-3-2　石器（RQ）観察表…… 112
2-3-3　鉄器（RM）観察表…… 112

3　分析
3-1　新南部遺跡群から出土した種実遺体
パリノ・サーヴェイ株式会社
…… 115
3-2　新南部遺跡群から出土した製塩土器
大坂亜矢子
…… 125
3-3　低平な沖積地に点在する古墳時代後期の集落
尾方禎莉
…… 129
3-4　西日本における竈破却の一二相
宮崎敬士
…… 137

4　写真図版
4-1　遺構写真…… 152
4-2　遺物写真…… 167

抄録　Abstract
奥付　Colophon

1 Preface

1　目的と方法

新南部遺跡群は、熊本県熊本市中央区渡鹿及び新南部に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。白川左岸に形成された中位段丘及び低位段丘、並びに河川沿岸に帯状に形成された沖積地に位置する新南部 A、B、C、D 遺跡、渡鹿貝塚、北久根山遺跡、小関原遺跡、小関小松山甕棺遺跡、西谷遺跡、上西原遺跡等、複数の遺跡を包括する遺跡群として新南部遺跡群は遺跡地図に記載されている。低位段丘上に位置する縄紋時代の内陸部最奥の渡鹿貝塚、中位段丘上に展開する縄紋土器編年の標識遺跡である北久根山遺跡等、新南部遺跡群を構成する各遺跡は個々に多様な立地を採り、その時期も縄紋時代から奈良・平安時代までの多期にわたる。このように多様性に富んだ内容をもった新南部遺跡群の調査履歴は、『新熊本市史』史料編第 1 巻考古資料（新熊本市史編纂委員会 1996）に簡潔に記載されている。

ここで報告する発掘は、白川沿岸に帯状に形成された沖積地に立地し、古墳時代後期の竪穴住居群により構成された集落を対象としている。

（参考文献）

1996、新熊本市史編纂委員会、『新熊本市史』史料編 1 考古資料、熊本市、熊本。

1-1　発掘の概要

新南部遺跡群の埋蔵文化財発掘調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の白川河川改修事業に伴い、熊本県教育委員会（以下、「熊本県教育庁」と記す。）が調査主体となって実施した。現地における発掘調査は、平成 16 年 6 月 10 日から平成 16 年 12 月 1 日まで（調査区 1 区及び 2 区）、平成 22 年 11 月 1 日から平成 22 年 12 月 10 日まで（調査区 3 区）の 2 回にわたり実施されている。発掘調査面積は 2,930㎡（1 区及び 2 区）及び 230㎡（3 区）、合計 3,160㎡である。

1-1-1　調査の目的

白川河川改修事業に伴い事業地内の新南部遺跡群が滅失するため、当該遺跡の発掘調査を実施し、記録保存を行うことを目的とした。

1-1-2　調査の経緯

白川は、その源を熊本県阿蘇郡高森町の根子岳（標高 1,433m）に発し、阿蘇外輪山東麓から熊本平野を貫流して有明海に注ぐ、幹川流路延長 74km、流域面積 480k㎡の一級河川である。白川の氾濫域には熊本市の密集市街地がすべてふくまれ、熊本県の県央部における社会、経済、文化の基盤をなしていることから、その治水、利水等、河川の総合的な保全と利用を図ることが必要とされている。

白川河川改修事業の経緯

白川は昭和 28 年 6 月（死者行方不明者 422 人、家屋浸水 31,145 戸、橋梁流出 85 橋。）、昭和 55 年 8 月（死者行方不明者 1 名、家屋全半壊 18 戸、床上浸水 3,540 戸、床下浸水 3,245 戸）、平成 2 年 7 月（死者行方不明者 14 名、家屋全半壊 146 戸、床上浸水 1,614 戸、床下浸水 2,200 戸）に大洪水をおこしていた。これら洪水をはじめとする災害を防ぎ、白川の総合的な保全と利用を図るため、昭和 28 年 6 月の大洪水を契機として「白川水系改修基本計画（昭和 29 年 12 月）」が決定され、昭和 31 年から国の直轄事業として熊本市黒髪町から河口までの区間について本格的な改修事業が開始された。その後、これまでの計画を踏襲した「白川水系工事実施基本計画（昭和 42 年 6 月）」が策定され、昭和 55 年 3 月の全面的な計画改定等を経ながら、河川改修事業が継続して実施されてきた。

事業予定地における埋蔵文化財の予備調査

白川河口から小磧橋（17.3㎞地点）までの区間は、国土交通省が直轄事業として河川改修事業を実施している。当該区間の最上流部にあたる竜神橋―小磧橋区間における河川改修工事計画にあたり、事業予定地に係る埋蔵文化財の予備調査が国土交通省熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼され、踏査、試掘調査、確認調査が順次実施されている。

白川河川改修事業に係る埋蔵文化財について平成 6 年 12 月 15 日付け建九熊一調第 88 号で建設省熊本工事事務所長から熊本県教育長あて協議があり、平成 6 年 12 月 27 日に熊本県教育庁文化課木村元浩学芸員及び熊本市教育委員会文化課稲津暢洋文化財保護主事が踏査し、その結果を平成 7 年 1 月 5 日付け教文第 1159 号で熊本県教育長から建設省熊本工事事務所長あて通知するとともに、その内容を熊本市教育長あて通知した。

埋蔵文化財の試掘について平成 7 年 1 月 27 日付け建九熊一調第 9 号で建設省熊本工事事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、平成 7 年 3 月 22 日から 24 日まで熊本県教育庁文化課木村元浩学芸員が試掘・確認調査を実施し、その結果を平成 7 年 3 月 31 日付け教文第 1516 号で熊本県教育長から建設省熊本工事事務所長あて通知するとともに、その内容を熊本市教育長あて通知した。

埋蔵文化財の試掘調査について平成 13 年 4 月 17 日付け国九整熊二工第 1 号で国土交通省九州地方整備局熊本工事事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、平成 13 年 5 月 7 日及び 8 日に熊本県教育庁文化課水野哲郎文化財保護主事が試掘・確認調査を実施し、その結果を平成 13 年 5 月 18 日付け教文第 383 号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本

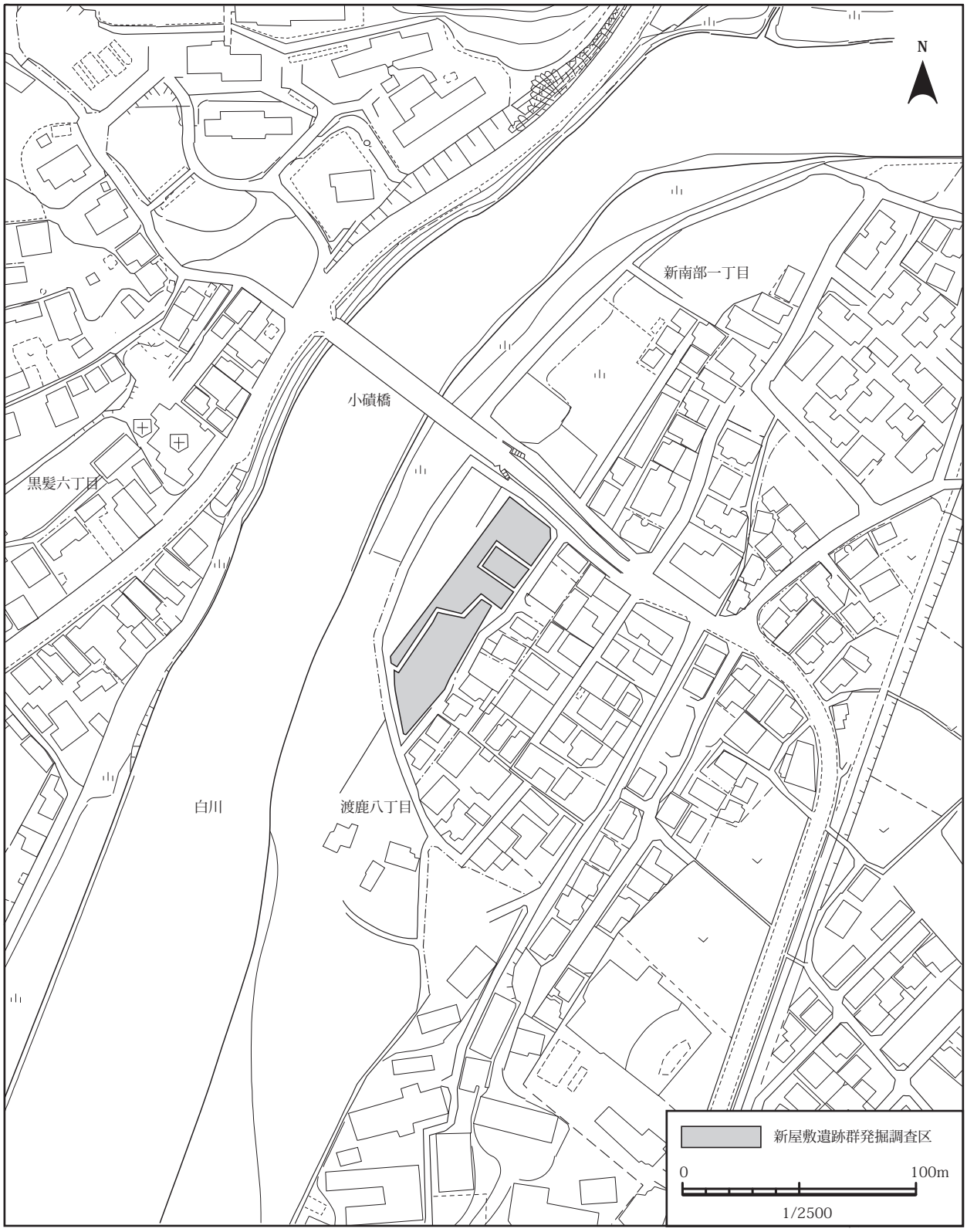


図１　調査区の位置

工事事務所長あて通知するとともに、その内容を熊本市教育長あて通知した。

埋蔵文化財の試掘・確認調査について平成 15 年 5 月 27 日付け国九整熊一工第 4 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、平成 15 年 8 月 12 日から 21 日までの内 5 日間に熊本県教育庁文化課岡本真也文化財保護主事が試掘・確認調査を実施し、その結果を平成 15 年 9 月 10 日付け教文第 629 号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて通知するとともに、その内容を熊本市教育長あて通知した。

以上の予備調査により今次調査区の範囲には埋蔵文化財が包蔵されていることが判明し、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所と熊本県教育庁文化課との協議によって工事の実施に際しては記録保存を目的とした埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。

土木工事等による発掘

文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 57 条の 3 第 1 項の規定により土木工事等のための埋蔵文化財発掘について平成 16 年 4 月 1 日付け国九整熊一工第 3 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から文化庁長官あて通知があり、平成 16 年 5 月 6 日付け教文発第 517 号で熊本市教育長から熊本県教育長あて進達なされ、工事着手前に発掘調査が必要との指示が平成 16 年 5 月 24 日付け教文第 461 号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて通知された。

埋蔵文化財の発掘調査

平成 16 年度の発掘調査について、平成 16 年 4 月 1 日付け国九整熊一工第 3 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 58 条の 2 第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘調査について平成 16 年 5 月 27 日付け教文第 681 号で熊本県教育庁文化課長から熊本県教育長あて通知するとともに、その内容を国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び熊本市教育長あて通知した。

平成 22 年度の発掘調査について、平成 22 年 9 月 16 日付け国九整熊一工第 37 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘調査について平成 22 年 10 月 6 日付け教文第 1422 号で熊本県教育庁文化課長から熊本県教育長あて通知するとともに、その内容を国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び熊本市教育長あて通知した。

文化財の発見

平成 16 年度の発掘調査で出土した出土文化財は、文化財保護法第 59 条第 2 項で準用する第 59 条第 1 項の規定により、文化財の発見について平成 16 年 12 月 7 日付け教文第 2550 号で熊本県教育長から熊本東警察署長あて通知するとともに、その内容を熊本市教育長あて通知した。

平成 22 年度の発掘調査では、出土文化財は発見されていない。

現在、出土した文化財はすべて熊本県に帰属し、熊本県文化財資料室に収蔵されている。

1-1-3　調査体制

現地における発掘調査は、平成 16 年度及び平成 22 年度に熊本県教育庁が調査主体となり、熊本県教育庁教育総務局文化課が調査担当となって実施した。

なお、調査担当者等は以下のとおりである。担当年度、氏名（職名）を記している。

調査責任者

文化課長が担当した。

H16 島津義昭（文化課長）
H22 小田信也（文化課長）

調査統括

課長補佐が担当した。

H16 倉岡　博（課長補佐）
H22 木﨑康弘（課長補佐）

調査指導

文化財調査第一係長が担当した。

H16 高木正文（課長補佐、文化財調査第一係担当）

H22 村﨑孝宏（文化財調査第一係長）

調査担当

文化財調査第一係職員が担当した。

H16 岡本真也（文化財保護主事）

高野信子（非常勤嘱託）

林禎一郎（非常勤嘱託）

H22 上村竜馬（文化財保護主事）

木下　勇（非常勤嘱託）

島浦健生（非常勤嘱託）

横田光智（非常勤嘱託）

調査作業員

H16 今村明美、上村久子、梅原美奈子、岡田イツ代、河野義勝、桑原みどり、境百合子、柴田道子、庄司修三、白石美智子、田島弘子、田中マリ子、田上次敏、田上トシ子、土山富枝、中村キヌイ、西岡正治、西岡チズコ、早田咲百合、番山明子、古林喜久江、松井昭子、松永里美、松永一代、三宅幸生、森川　護、森川征子、森田　登、山田由美、吉川雅信。

H22 伊藤千代子、稲本佳子、大田陽介、柴田道子、関　律子、豊民誠之、畑中儀介、福田實雄、松本和徳、三宅幸生。

（順不同）

1-1-4　調査経過

新南部遺跡群における既往調査は、現在、以下のとおり確認することができる。一般国道３号熊本北バイパス建設に伴い昭和59年２月～４月に西谷遺跡（Ⅰ地区）、昭和59年12月～昭和60年３月に西谷遺跡（Ⅱ、Ⅲ地区）、昭和60年５月～９月に上西原遺跡が熊本県教育庁により発掘調査された。次に、県道瀬田熊本線道路改良事業に伴い平成11年度から13年度までの期間及び平成16年度に新南部遺跡群が熊本県教育庁により発掘調査されている。本書で報告する白川河川改修事業に伴う新南部遺跡群の発掘調査は、平成16年度及び平成22年度に実施された。さらに、白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴い新南部遺跡群における発掘調査が、平成25年度に熊本県教育庁により２地区、平成26年度に熊本市教育委員会により１地区で実施されている。この他、熊本市教育委員会による調査が複数実施されているが、それらの詳細は熊本市教育委員会が発行する発掘調査報告書を参照されたい。

現地における発掘調査は、平成16年６月10日から平成16年12月１日まで（調査区１区及び２区）、平成22年11月１日から平成22年12月10日まで（調査区３区）の２回にわたり実施されている。発掘調査面積は2,930㎡（１区及び２区）及び230㎡（３区）、合計3,160㎡である。

発掘調査対象地は、平成15年９月10日付け教文第629号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて通知された試掘・確認調査の結果に基づき設定されている。調査区は１区から３区までの調査区に分ち、平成16年度は１区及び２区を同時併行で発掘し、平成22年度は３区を発掘調査している。実質的には２次にわたる発掘調査であったこととなるが、これは、用地買収等、河川改修事業の進捗状況に因って平成16年度に発掘が実施できなかった範囲を、平成22年度に調査することとした結果である。

なお、平成16年度、平成22年度の調査日誌に記載された進捗状況を、一部整え、以下に掲載する。

【平成16年６月】

６月10日　表土掘削開始。重機による表土剥ぎを行う。国交省田島さん来跡。

６月11日　台風のため作業中止。

６月14日　表土掘削２日目。ダンプが水道管を破る。旭設備工業へ修理委託。他、東側３ヶ所を止栓。ダンプによる廃土、土嚢運搬。資料室より鶴崎、岡田、岩下さん来跡。

６月15日　表土掘削３日目。表土剥ぎの廃土より、6C後半と思われる須恵器の高坏出土。深堀トレンチ設定。草刈り、土嚢作り。水道修理旭設備工

業。ジオ・プランニング渡邊さん来跡。

6月16日　表土掘削4日目。調査区中央水路南側の北壁土層断面図実測。表土と撹乱中から土師器2点（高坏の脚部と坏部）出土。

6月17日　表土掘削5日目。馬場、土山さん来跡。試掘のトレンチを分層。⑤層暗褐色砂質土より、天草砥石（流紋岩）出土。安全管理のためロープ貼り、杭打ち、看板設置。

6月18日　表土掘削6日目。文化企画課古森、高田さん来跡。作業員全員により台風養生。

6月21日　表土掘削7日目。木村さん来跡。

6月22日　表土掘削8日目。午前中、九州財務局との協議に岡本出席。

6月23日　表土掘削9日目。撹乱杭の土出し、調査区壁の清掃、土嚢作り。

6月24日　表土掘削10日目。土嚢作り、土器洗い。

6月25日　表土掘削11日目。調査区南西側の家屋跡地を取り除いた後のプライマリーより、住居跡と考えらえる遺構と焼土を確認。④層（包②）の中層より古代の須恵器と古墳の土師器を断面採集。

6月28日　係会議のため現場作業なし。

6月29日　表土掘削12日目で終了。作業員を入れての調査開始。土嚢作り、土層確認トレンチ掘り、アパート周りの壁の清掃、一輪車用道作り、廃土のシート被せ。寒冷紗張り。南西側より、須恵器の坏身出土。

【平成16年7月】

7月1日　坂田、坂井田、橋口、福田さん来跡。テントを建て、寒冷紗を張る。2区、アパート東側、北側トレンチ、深掘り（黒褐色土層上面まで）と清掃。アパート東側の写真撮影。中央トレンチ深掘り、鉄製品（釘）出土。アパート東、北断面の土層断面線引き。

7月2日　九州航空原口さん来跡。2区アパート西、南トレンチ、撹乱の清掃。アパート東側トレンチの土層断面実測、西壁土層断面の写真撮影。焼土検出、明らかに遺構、甑の把手（古代～古墳）、中世の瓦器埦出土。

7月5日　1区、壁の清掃、撹乱の処理。1区、近世墓と考えられる遺構確認、4基切り合っている。近世墓の確認状況写真撮影。2区アパート東側の土層断面実測。

7月6日　村﨑、亀田さん来跡。ジオテックに外部委託した杭打ち。1区A～1、I～3平面実測。撹乱と北側清掃、平板測量、アウトラインと撹乱実測。2区、アパート西側トレンチ掘削。アパート東側の土層断面実測。7世紀の須恵器、坏、蓋出土、土師器の皿片出土（亀田さんのアドバイス）。

7月7日　1区、遺構配置図と図面割図作成、遺構アウトライン、撹乱などの平面実測。撹乱の清掃。2区、アパート北側、西側の土層断面実測。

7月8日　土壙墓のお祓いと安全祈願のため三ノ宮神社宮司来跡。ジオ・プランニング来跡。B、C、D、J、K、Lの撹乱清掃、掘り下げ。I、J-4、5の撹乱清掃。1区平板実測。2区アパート北側、西側の土層断面実測。午後より降雨のため発掘調査中止。

7月9日　坂田、川俣さん来跡。遺構配置図作成及び平板実測、ベルト設定。J、L、K-8、9、D、E、Fグリッドごとの遺物取上げ、掘り下げ及び清掃。昨日の暴風で剥がれたシートおさえ、杭及びトロープにて補強。

7月12日　福田さん来跡。ジオ・プランニング4名来跡。1区、平板実測。S005溝掘り下げ、近世以降の陶磁器片が出土。D、E、F、K、J掘り下げ、断面清掃。2区、アパート北側、西側の土層断面実測。

7月13日　外部委託ジオ・プランニング2名による遺構配置図作成。1区、S005溝北側の掘り下げ、平面実測、土層断面撮影。S、T、U、V、W、X、Y掘り下げ及び清掃。2区、アパート東側、北側、西側トレンチ土層断面実測。

7月14日　高木補佐、国土交通省藤原、星子さん来跡。1区、S005、Y、Z、U、V、Wの掘り下げ。高木補佐の所見では、その他の土壙（S001～S004）は遺構ではなく芋穴ではないか。S005の平板測量。2区アパート北側、土層断面実測。

7月15日　ジオ・プランニング（納品）来跡。吉田さん（図録）来跡。1区F～Jの掘り下げ、溝の

検出、S005 の遺構実測。F-2 遺構検出状況の写真撮影。F-2 北側土壙より釘 1 本出土。

7 月 16 日　G、H、I 掘り下げ。S001、S003、S006 ～ S011 土壙掘り下げ。調査区 1 区撹乱プランの平板実測。S006 ～ S011 検出状況の写真撮影。

7 月 20 日　F-1 清掃及び掘り下げ。S005 の下層にある黒色土中に骨片出土。人骨か動物のかは不明。G、H-1、4、5 掘り下げ。調査区東側の南壁土層断面実測。S001 ～ S011 の平面と断面実測。S009、S010、S011 ベルトが残った状態で写真撮影。

7 月 21 日　G、H-3、4、5 の掘り下げと清掃。調査区東側の土層断面実測。S005 の平面実測と土層断面及び骨片出土状況の写真撮影。S001 ～ S011 の平面実測と半截及び完掘状況の写真撮影。

7 月 22 日　D、C、D の掘り下げ。S002、S012 ～ S017 の土壙掘り下げ。I、H、G の掘り下げ。S001、S002、S003、S004 の平面実測と周辺のライン引き。S005（H-1）の平面実測と土層断面実測終了する。S012 ～ S017 の平板実測。

7 月 23 日　C、D、E-2、3、G、H、I-5、6、7 の掘り下げと一斉に清掃かけて遺構を検出した。J、K-5、6、7 の土層断面実測。S013、S014、S001、S002 の芋穴平面実測。1 区、2 区の平面実測にアウトライン等を入れる。S007、S008、S009、S010、S011 の完掘。

7 月 26 日　S006 ～ S011、S012 ～ S018 の掘り下げ、土壙プランとレベル実測、完掘。S007 ～ S017 完掘状況の写真撮影。

7 月 27 日　馬場、熊本市山下さん来跡。1 区 B-1、2、C-2、3、D-2、3、E-2、G-4、5、H-3、4、J-3、4、5 の清掃と遺構検出のため精査を行う。1 区北アパート跡掘り下げ、J-4 より手捏ね土器が 1 点出土。

7 月 28 日　B、C、D、E-2、3 遺物点取り上げ、遺物出土状況の写真撮影。K、L-8、9、10、G、H-4、5 の掘り下げ。焼夷弾（？）みたいな鉄製の筒（ひどく錆びている）が出土。S018（芋穴上、下）と S019、S020（土壙上端のみ）実測。J-4 手捏ね土器の写真撮影。

7 月 29 日　溝 S005 は完掘し半分実測した。3 層に陶磁器片が混入していることから、現代の洪水の際にできた溝と考えられる。S022 の掘削。S012、S016、S017、S018 の実測。

【平成 16 年 8 月】

8 月 2 日　1 区№ 14（G-1、2）、№ 12（F-3、4）溝の実測（S=1/20）。2 区の全面清掃を行う。特に遺物は出ず、小さな土器片のみ出土。

8 月 3 日　午前中は光波による測量の実習。午後は図面整理。

8 月 4 日　遺構配置図（S=1/100）の繋がり関係及び記入漏れのチェック。割図による S=1/20 の図面（7 月 29 日まで）を S=1/800 に縮小し繋いでチェック、及び記入漏れのチェック。他の図面の整理。

8 月 5 日　倉庫の整理（鉄製品）。午前 10：00 八代河川国道事務所永松さんより電話。K、L-5 の撹乱の杭が壊れ、壁がえぐれているので、注意が必要。調査区を分断している溝にも土砂が溜まっている。

8 月 6 日　ビニールテープで 5 色の旗を作る。昼に住重ナカミチ川井さん来跡。ラジオの変更の件を再度依頼。

8 月 9 日　午前中研修があり、午後より作業。1 区 I-2、F-2 掘り下げ、C、D、E-2 精査する。土器片が僅かに確認されるが、硬化面との繋がりはない模様。午後 3 時頃より突然の雷、豪雨のため作業終了。

8 月 10 日　1 区溝の清掃。1 区№ 12（F-3、4）、№ 14（G-1、2）、№ 15（G-3、4）光波による実測（S=1/20）。S021、S022、F-2 掘り下げ。B、C、D、E-2 清掃。S005、S021、S022 実測。調査区内及び駐車場の草刈り。

8 月 11 日　S023、S024 掘削、清掃。S022 完掘し、土層断面実測。2 区調査区と土層断面の実測、ポイント入力。S023 完掘状況写真撮影。S023 は土壙と考えられるが新しい。S024 は自然流路の一部か土壙であると推定される。

8 月 12 日　高木補佐来跡。S005 断面用ベルト取

り。S024 完掘。D-2、3、K、L-9、10 掘り下げ。S005、S023 上端、下端の実測。S022 ベルトを取り壊し実測。S005 断面 A、B、C 写真撮影。D-2 グリッドを中心に古墳時代後期～終末期の坏身と蓋が 7 ～ 8 個出土。

8 月 16 日　B ～ F-2 ～ 4 掘り下げ。S005、S024、S026 掘り下げ清掃、その後光波による実測（S=1/20）。S025（D-3、4）は半分だけの土壙、S026（L-8、9）は道路状遺構と思われる。

8 月 17 日　雨のため作業中止。室内にて図面整理。

8 月 18 日　吉田補佐、倉岡補佐、高木補佐来跡。1 区写真撮影のため雨水汲み上げ後清掃。S024 光波による実測。1 区 F-2 ドットによる遺物取り上げ。S005、S021、S022（溝、土壙群）完掘状況写真撮影。

8 月 19 日　1 区 S013、S014、S015、S016、S017 断面図作成（S=1/20）。機械取り上げ台帳作成。

8 月 20 日　1 区遺構検出のため全面清掃、及び F-2 掘り下げ。1 区北側調査区ライン実測。1 区 S0（土壙）実測、写真撮影。S026（道路状遺構）完掘状況写真撮影。1 区遺物取り上げ。2 区南側（M-11、L-10）土層断面実測。I-6、E-4 のプラン確認、及び J-4 の土層確認。

8 月 23 日　1 区 D、E、F、G、H、I、J、K 掘り下げ、遺構検出。S027（土壙）、D、E-4 浅い土壙、S028（住居跡）を確認。2 区 S024 及びトレンチの平面・土層断面実測。

8 月 24 日　1 区 D、E、F、G、H、I、J、K 掘り下げ、遺構検出。新たに S029 住居跡（K-7、8）確認。精査により硬化面、焼土、竈の土を確認。S027（土壙）を完掘、土器片と小さな石英を出土。S019、S020 完掘状況写真撮影。2 区 S024 の平面・断面実測。藤尾先生の講演会出席のため午前中で作業終了。

8 月 25 日　国立歴史民俗博物館藤尾さん来跡。1 区清掃、掘り下げ後、F-5、G-6 で竈を持った住居跡のプラン確認。5 層の黒色土と住居跡の覆土が似ているので注意が必要。1 区 S019、S020、S025（土壙）、I、J-4、5（硬化面）の実測。2 区（M-9）土層断面実測。S030 土層の分層及びプラン確認作業、その後写真撮影。S019、S020、S025 完掘状況、アパート北側東壁の土層断面の写真撮影。

8 月 26 日　12 時過ぎ住重ナカミチ川井さん来跡。1 区 G、H、I、J ベルト取り除き作業。1 区 S029 平面、S030 断面実測。2 区アパート北側東壁の土層断面実測

8 月 27 日　2 区 Q ～ V 掘り下げ。1 区 S028 平面、S030 住居跡断面実測。2 区 P ～ R 南東壁の土層断面実測。

8 月 30 日　台風 16 号接近のため発掘作業は中止。現場事務所にて図面整理。

8 月 31 日　台風によりシート等が散乱したため養生する。1 区の清掃、及びベルトを取り除く。ピットを多数確認。

【平成 16 年 9 月】

9 月 1 日　2 区アパート北側の掘り下げを行い、土器片出土。2 区グリッド設定。1 区 S030 の実測。2 区調査区のライン実測。

9 月 2 日　午前中は、降雨のため図面整理。午後より、1 区、S030 の断面図作成と遺物取り上げ。2 区 M-5、6、7、8、10、N-6、7、8、10 の掘り下げ。Pit1 の確認

9 月 3 日　2 区 N-9、10 を移植コテによる掘り下げ。M-6、7、8、N-6、7、8 をスコップにより掘り下げる。1 区 S030 の掘り下げと 1 区遺物取り上げ。S028 の遺物出土状況の写真撮影。

9 月 6 日　台風 18 号接近のため台風対策を行う。

9 月 7 日　台風のため発掘調査中止。

9 月 8 日　S028 とその周辺グリッドの清掃。S028 の北西ベルトはずしと遺物取り上げ。S029、S030 の掘り下げ。

9 月 9 日　J、K、L、M-9、10、11、E、F-2、3 のベルトはずし、掘り下げ。S028 の遺物断面見通し図実測。

9 月 10 日　G、H-2、3、J、K、L、M-7、8、9 の掘り下げ。1 区 S028 の遺物断面見通し図実測。1 区 S031（仮）の遺構検出及び遺物出土状況の写真撮影。

9 月 13 日　H、I-3、4、5、Q、R、S-9、10、11、

M、N-10、11 の掘り下げ。S032（道路状遺構）、S033（溝）の検出と半截状況の写真撮影。S028 の遺物取り上げ完了。

9 月 14 日　西原中 2 年生 6 名がナイストライ事業の体験発掘のため来跡。S032（道路状遺構）、S033（溝）の実測。H-3、4 にトレンチをいれる。トレンチ内より坏が出土。

9 月 15 日　S032(道路状遺構)の掘り下げ。S033(溝)周辺の清掃、断面実測。

9 月 16 日　岩下、後藤、田尻さん来跡。1 区 J-7、8、K-7、8、9、L-8、9 の遺構検出。J-7、8、9 の南側にサブトレンチ設定。1 区 S031 完掘状況の写真撮影。S026（道路状遺構）の検出、掘り下げ。S034 ～ S036、トレンチの清掃。S038 の遺物出土状況の実測。L4、5 の撹乱部土層断面実測。

9 月 17 日　丸山さん、他 2 名体験発掘のため来跡。1 区 G、H、I、J、K の掘り下げ。L-8、遺構検出。K-6､7､東西サブトレンチ設定。S028 の遺構実測、S038 の遺物レベル入れ。S037 の道路検出状況、S028 の完掘状況、S038 の遺物出土状況の写真撮影。

9 月 21 日　降雨のため発掘調査中止。

9 月 22 日　降雨のため発掘調査中止、事務所にて図面整理、台帳製作、遺物（鉄器等）の整理。

9 月 27 日　2 区表土掘削 1 日目。1 区 B ～ E-2 のトレンチ設定。G-3 の S034 ～ S036 の実測。2 区清掃。畝状遺構を検出。

9 月 28 日　2 区表土掘削 2 日目。人吉市の和田さん来跡。台風 21 号接近のため台風対策を行う。2 区清掃。

9 月 29 日　台風のため現場待機。重機搬出

9 月 30 日　台風後の片付け、ブルーシートの補修、草刈り作業。2 区の道の確保作業と全面清掃。

【平成 16 年 10 月】

10 月 1 日　1 区（B、C、D-2）トレンチ掘り下げ。C-2 に焼土確認。2 区写真撮影のため全面清掃、撮影後畝状遺構掘り下げ。畝の深さは深いところで 10 ～ 15㎝程度である。断面をみると畝状遺構は一段低くほぼアパートの前後に広がると推測され、一方居住域はより高い地層に存在する。

10 月 4 日　1 区 S040、S042 プラン確認作業、S041 トレンチを設定して掘り下げ。S038、トレンチ掘り下げ。C-2 に焼土のかたまり、F-2 南北に道路のような硬化面を確認。S038 トレンチに高坏出土。

10 月 5 日　1 区 S040、S041、B、C、D-2、3、4 掘り下げ。S039 実測。2 区畝状遺構掘り下げ。5 層下面より糸切り底土師皿が出土。午後、中島さん来跡、11 月中に発掘現場で地域住民対象の現場説明会の開催要望あり。

10 月 6 日　1 区 S040､S041 周辺の掘り下げ。B-4､D、E-3、4、トレンチ掘り下げ。甕の破片が集中して出土。1 区アパートの基礎間の土層断面確認から畝状遺構はないと推定される。2 区アパート北側焼土広がりの確認。Ⅳ -2 層が畝状遺構の埋土となっている。2 区 S039 の実測。

10 月 7 日　高木補佐、倉岡補佐、三木さん来跡。1 区 D-4、E-4、トレンチ周りの掘り下げ。硬化面と焼土有り。K-6、7 北側トレンチ、K-6、7、8 南側トレンチの掘り下げ。2 区アパート南側掘り下げ。糸切り小皿、糸切り坏出土。2 区 S039 上端下端の実測。11 月 27 日に西原地区の現場説明会を開くことに決定。

10 月 8 日　1 区 D、E-5、6、K、L-5、6 掘り下げ。住居跡 S038、S042 が 2 軒検出された。竈は北を向いている模様。K、L-5、6 の深掘りは上の 5 層と下の⑤層が繋がらず、不鮮明である。土器洗いを行った。

10 月 12 日　1 区 S038、S042、K、l-5、6、7、8 掘り下げ。S038 の硬化面は 30㎝下なのに、上層で遺物や大礫が破棄されている様相が見て取れる。2 区 S039 コンター、土層断面実測。

10 月 13 日　1 区 S038 を掘り下げて硬化面を確認。上層・下層の 2 層に分けて作業を進めた。北側上層に土器、礫が固まっている。

10 月 14 日　1 区 S038、S043、北側トレンチ、東側トレンチ、中央部掘り下げ。G-4、5 を清掃、プラン確認。1 区南側ピット、北側・東側土層断

面実測。S034 ～ S036、S044 の実測、及び完掘状況写真撮影。

10 月 15 日　中島さん、県土木部職員 2 名来跡。1 区 S043 とその周辺のトレンチ掘り下げ。1 区北側の清掃と掘り下げ。中央部を清掃後、住居跡を 3 基確認。あとは切り合いが激しく、トレンチ等で精査確認が必要。S038 遺構平面、1 区北側土層断面実測。2 区畝状遺構実測。

10 月 18 日　1 区 S040、S042 遺構掘り下げ。S042 竈の障壁の粘土部分を確認。S038 遺構平面、S039 畝平面実測。

10 月 19 日　雨天のため発掘作業中止。現場事務所にて図面整理等。

10 月 20 日　台風 23 号のため発掘作業中止。現場事務所にて図面チェック、整理、土器洗い。

10 月 21 日　1 区 S040 掘り下げ。S038 住居跡実測。2 区 S039 畝状遺構実測。

10 月 22 日　1 区 S038 ベルトを取り外し、硬化面まで掘り下げた。S040、S042、S043、S046（住居跡）掘り下げ。S038 遺構平面、S039 畝状遺構実測。

10 月 25 日　1 区 S040、S043、S046 掘り下げ。S046 の竈はきちんと石を左右に配置してある。竈の土を洗い始める。2 区 S039 畝状遺構実測。

10 月 27 日　1 区 J-4､5 掘り下げ。1 区 S038 住居跡、2 区 S039 畝状遺構実測

10 月 28 日　1 区 S040 掘り下げ。S043 ベルト取り、硬化面検出。その他 1 区掘り下げ。1 区 S038 の平面及び断面実測。2 区コンター。S042 竈検出。

10 月 29 日　文化課古森さん来跡。1 区 S042 ピット（柱穴）探し。S038 遺構断面実測。S038、S046 の竈周辺の土洗い､炭化種子の検出を行う。

【平成 16 年 11 月】

11 月 1 日　1 区全面清掃。S038 遺物取り上げ（鉄器、土器、№ 50 まで）。S042、S043 遺物平面実測。S046 のベルトはずしと竈周辺の土の除去。S038 遺物出土状況の写真撮影。

11 月 2 日　S047、B、C-2、3、G-3、4 の掘り下げ。S040､S046 の竈掘り。S038 の遺物取り上げ(№ 51 ～№ 76 まで)。S042、S043、S046 プラン確認。S042 の完掘状況、S046 の竈半截と遺物の写真撮影。

11 月 4 日　1 区住居跡の硬化面追いとトレンチ設定。S038 の遺物取り上げ。S042、S046 のプラン検出と遺物レベル入れ。S042、S040、S046 の竈遺物出土状況、半截の写真撮影。

11 月 8 日　2 区畝の土壌サンプル採集とその部分を図面実測。その土洗い。1 区 S038 の遺物出土状況の写真撮影と実測。

11 月 9 日　1 区 S038 の実測。

11 月 10 日　コンゴー測器酒井さん来跡。現場説明会のための、写真選び出し。調査区西側のアパート基礎下、等高線の実測（光波）。

11 月 11 日　（有）九州文化財リサーチ 3 名来跡。1 区 S038 の遺物取り上げ、土器（№ 77 ～№ 101）石器（№ 72 ～№ 85)、清掃、柱穴の検出。S049 の住居と竈の断面実測。

11 月 12 日　1 区 S040 の平面実測。1 区住居跡の発掘と写真撮影。

11 月 13 日　文化企画課古森さん来跡。1 区 S040 の竈部分の断面見通し実測。S047、S049、S051 の切り合い確認。1 区住居跡、竈周辺遺物の写真撮影。

11 月 15 日　午前中、土器洗い。調査区内、用水路の壁の補強。S040 の竈断面実測。

11 月 16 日　S040 の見通し断面図の実測と S049 の平面実測。S043、S048、S038 の実測。S038 の土器取り上げ。土洗い。

11 月 17 日　S049 の断面実測 S049 のベルトはずしと硬化面の検出。S051 の掘り下げ。S049 の実測。土洗い。

11 月 18 日　コンゴー測器酒井さん来跡。降雨のため終日、土洗い。

11 月 19 日　熊本日日新聞社富田さん来跡（現場説明会の件について）。S049、S050、S051 の掘削と平面実測。S050 のプラン確定。土洗い。

11 月 22 日　S049 の平面実測と切り合い確認。土洗い。

11 月 23 日　高木補佐来跡。2 区畝の清掃とライン引き。1 区 S038、S043、S048 の平面実測。1 区竈周辺遺物出土状況の写真撮影。
11 月 24 日　熊本日日新聞朝刊に新南部遺跡群の記事が掲載される。1､2 区航空写真撮影のための、清掃とライン引き。1 区中央部深掘。1 区遺構実測。午後より同和教育研修出席。
11 月 25 日　調査区全体の清掃とライン引き。航空写真撮影。1 区遺構実測。午後より 1 区中央部竈付近の土洗いと現場説明会の準備。
11 月 26 日　土洗いと現場説明会の準備。
11 月 27 日　現場説明会、約 100 名来跡。
11 月 28 日　現場説明会、約 95 名来跡
11 月 29 日　1 区中央部掘り下げと遺構検出。1 区中央部の遺構切り合い部の実測と写真撮影。
11 月 30 日　引っ越し準備。KAB サタブラ取材。

【平成 16 年 12 月】
12 月 1 日　S049 の実測。現場撤収。本日で発掘作業終了。

【平成 22 年 11 月】
11 月 1 日　発掘調査開始。重機による表土掘削を 2 段階に分けて実施する。

【平成 22 年 12 月】
12 月 10 日　近世の畝溝 16 条を検出して、発掘調査を終了する。

1-1-5　整理体制

整理作業は、平成 25 年度から平成 26 年度までの期間に熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町）にて実施した。

なお、整理担当者は以下のとおりである。担当年度（未記載の場合は両年度）､氏名（職名）を記している。

整理責任者

文化課長が担当した。
H25 小田信也（文化課長）
H26 手島伸介（文化課長）

整理統括

課長補佐が担当した。
西住欣一郎（課長補佐）

整理指導

文化財調査第一係長が担当した。
村崎孝宏（主幹兼文化財調査第一係長）

整理担当

文化財調査第一係職員が担当した。
宮崎敬士（参事）
H25 山口節子（非常勤嘱託）
H26 尾方禎莉（非常勤嘱託）

整理作業員

吉岡直子、園田尚子、田中知恵美、浪床せい子、平岡春代、山本邦子、渡邊いわ子、
H25 広瀬恵子、
H26 川井田久子。
（順不同）

なお、遺物写真は松本智子、蓮池千恵、村田百合子が撮影した。

1-1-6　整理経過

整理作業は、発掘調査期間中は発掘調査事務所（熊本市中央区渡鹿）で一部を実施し、平成 25 年度から平成 26 年度までの期間に熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町）にて実施した。

整理作業は、水洗、註記、接合、復元、実測、製図の各作業を経て、その成果が報告書に編集される。熊本県文化財資料室では、これらの作業を、水洗から復元までの作業を主に担当する一次整理と、実測、製図を主に担当する二次整理とに分かち、職員等、各担当者の整理計画にもとづき実施している。

平成 16 年度の現場作業では、整理作業の一部である水洗、註記、接合、復元が既に進められている。この整理作業において「S001」といった遺構名、「④層（包②）」といった出土層位、その他が遺物カードに記載されたとおりに註記されている。

平成 25 年度の整理作業は、宮崎敬士（参事）及び山口節子（非常勤嘱託）を担当者として、一次整理から土器実測図作成までを実施した。平成 26 年度の整理作業は、宮崎敬士（参事）及び尾方禎莉（非常勤嘱託）を担当者として、石器実測図作成、遺構実測図製図、写真撮影並びに報告書作成までの整理作業を実施した。

一次整理は、現場事務所での洗浄、註記が未了であった遺物を対象として実施した。その後、接合、復元に移行している。土器の二次整理はすべて外部委託し、方眼紙に手書き実測した後「トレースくん Cubic」（株式会社 CUBIC）を用いたデジタルトレースの成果品を得ている。石器、金属器等の二次整理は、方眼紙に手書き実測した後、遺構実測図は「トレースくん Cubic」を用いてデジタルトレースを行った。

1-1-7　保存と活用

現地発掘中の新南部遺跡群では、平成 16 年 9 月 14 日に職場体験教育プログラム「ナイストライ」の一環として西原中 2 年生 6 名が体験発掘に参加している。

なお、10 月 5 日には地域住民から現場説明会の開催要望があり、11 月 27 日、28 日に現場説明会を開催した。見学者は約 100 名（27 日）、95 名（28 日）、合計 200 名程となり盛会であった。

また、新聞報道（11 月 24 日熊本日日新聞）、放送取材（11 月 30 日熊本朝日放送）等、公共メディアでも取り上げられている。

新南部遺跡群の既往調査の成果は、次のとおり報告書として取りまとめられている。

一般国道 3 号熊本北バイパス建設に伴う西谷遺跡の発掘調査は『西谷遺跡』（浦田 1985）、上西原遺跡の発掘調査は『新南部・潤野遺跡』（平岡 1986）、県道瀬田熊本線道路改良事業に伴う発掘調査は『新南部遺跡群 4』（古城 2015）に各々の調査報告が記載されている。白川河川改修事業に伴う発掘調査は、『新南部遺跡群 3』（宮崎 2015）として本書に記載されている。

新南部遺跡群は、複数の遺跡を包括して遺跡地図に記載された経緯をもつ埋蔵文化財包蔵地である。このことにより、新南部遺跡群に係る報告書は、既に『西谷遺跡』、『新南部・潤野遺跡』、計 2 巻が刊行されていることとなるので、本書は巻次を「３」とし、書名「新南部遺跡群」と併せて『新南部遺跡群３』と表記することとなった。同様に、県道瀬田熊本線道路改良事業に伴う発掘調査は『新南部遺跡群 4』と表記している。参考までに記せば、「3」と「4」の差は、籤運の有無により生じた結果である。

（参考文献）

1985、浦田信智、『西谷遺跡』熊本県文化財調査報告 76、熊本県教育委員会、熊本。

1986、平岡勝昭、「新南部遺跡」、『新南部・潤野遺跡』熊本県文化財調査報告 84、熊本県教育委員会、熊本。

2015、宮崎敬士、『新南部遺跡群 3』熊本県文化財調査報告 311、熊本県教育委員会、熊本。

2015、古城史雄、『新南部遺跡群 4』熊本県文化財調査報告 313、熊本県教育委員会、熊本。

1-2　新南部遺跡群の立地と構造

新南部遺跡群は、熊本県熊本市中央区渡鹿及び新南部に所在する。旧石器時代から平安時代にかけて集落、貝塚、甕棺墓等が形成され、多種複数の遺跡が集合した遺跡群として取り扱われている。白川左岸に形成された中位段丘及び低位段丘、並びに河川沿岸に帯状に形成された沖積地に位置する新南部 A、B、C、D 遺跡、渡鹿貝塚、北久根山遺跡、小関原遺跡、小関小松山甕棺遺跡、西谷遺跡、上西原遺跡、新南部三石遺跡等、各々隣接又は集合した遺跡を包括している。

なかでも、低位段丘上に位置した縄紋時代の内陸部最奥の渡鹿貝塚、中位段丘上に展開した縄紋土器編年の標識遺跡である北久根山遺跡が含まれており、併せて、対岸にはつつじヶ丘横穴群等、複数の横穴群が凝集していることから、新南部遺跡群は学史的にも繰り返し考古学の検討対象とされ続けてきた。

1-2-1　自然

日本列島は、ユーラシア大陸の東縁に位置する 5 つの島弧の集合である。西から琉球弧、西南日本弧、東北日本弧、千島弧が連続し、伊豆－小笠原弧は南伸してマリアナ、グァム、パラオへと続く。各島弧は海溝に面し、島弧が縁海を囲繞する環海構造を形成する。西から述べれば、琉球弧は環東シナ海、西南日本弧、東北日本弧は環日本海、千島弧は環オホーツク海といった環海構造をユーラシア大陸との間に形成している。そして、これらの環海構造は島弧部分において重なり、南から北へ連なっている。

九州は、列島の最も西側に位置する琉球弧の中では最大の島であり、かつ、琉球弧の北端に位置する。その北は対馬海峡を経て韓半島からユーラシア大陸に連なり、南は台湾、台湾海峡を経てユーラシア大陸に臨み、環東シナ海構造を形成している。また、九州の北半部は関門海峡、豊後水道を挟んで西南日本弧に連なり、環日本海構造の南端を担う。

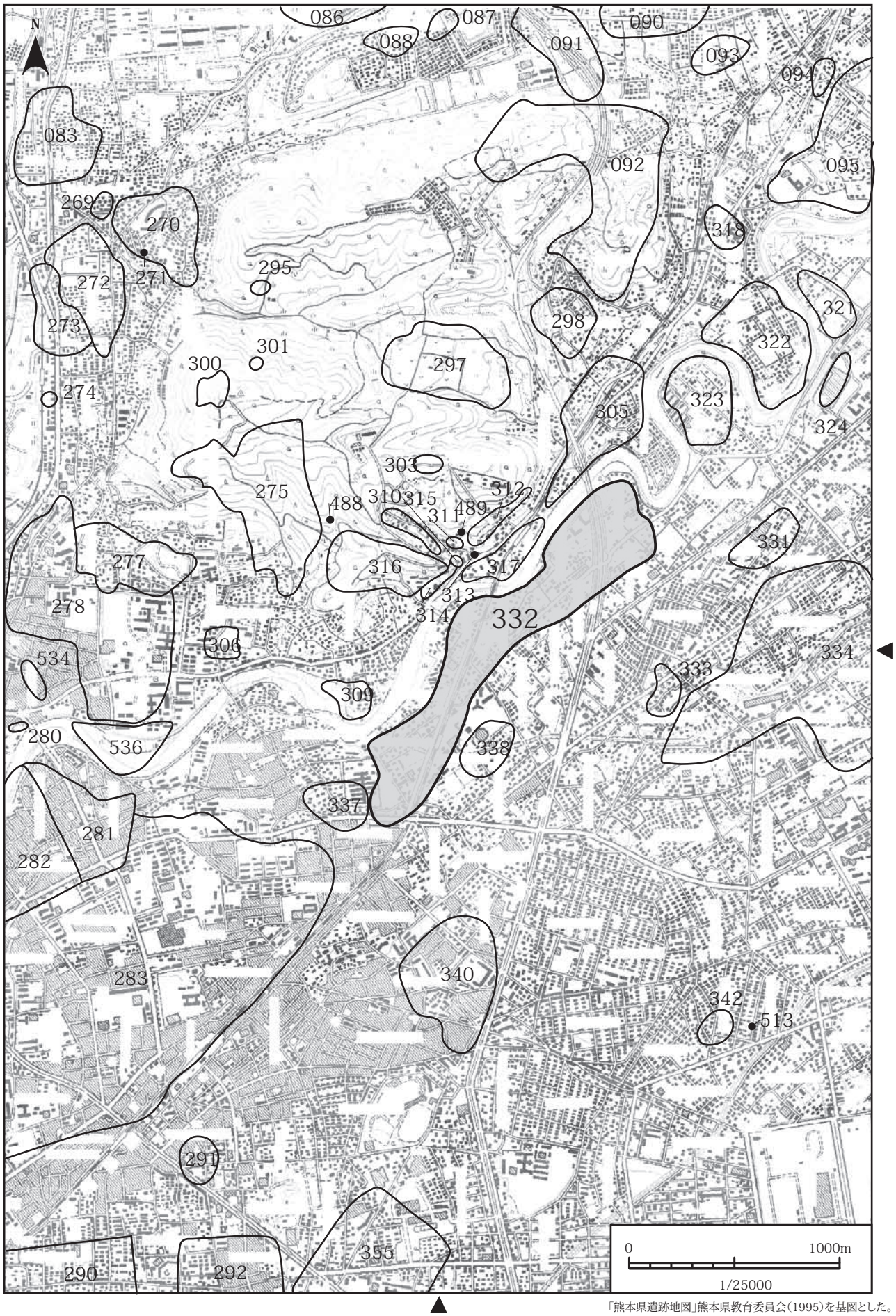
九州、四国では中央構造線が東西に走向し、その南には山地が連続して形成されている。熊本地域では、三郡帯、領家帯、黒瀬川帯、秩父帯南帯、四万十帯が主要構造体となり、北から南に帯状配列している。領家帯と黒瀬川帯の境界は臼杵－八代構造線（中央構造線）と呼ばれ、熊本地域を南北に区分している。この臼杵－八代構造線の北側には別府－島原地溝が並走し、地溝内には島原、阿蘇、九重、由布－鶴見の各火山が分布し、火砕流をはじめとする第四紀以後の火山噴出物が厚く堆積している。

熊本地域の北半は別府－島原地溝の西半部に該当し、その東端には阿蘇カルデラ、西端には有明海に面した熊本平野が位置し、その間隙を阿蘇外輪山と台地が連なり塞ぐ構造をとっている。阿蘇カルデラは、約 27 万年前から約 9 万年前まで間に 4 回にわたる火砕流（Aso-1、Aso-2、Aso-3、Aso-4）を噴出した大噴火により形成された陥没カルデラである。そのカルデラ内には中央火口丘群が位置し、これに東接する根子岳によりカルデラ底は南北に分別され、C 字形の形態を呈している。カルデラ底の北半（阿蘇谷）には黒川、南半（南郷谷）には白川が西流し、カルデラ底の西端部で合流した後、立野火口瀬から外輪山東麓に流出し、支流をほぼ交えることなく単一河川の様相のまま火砕流堆積物（凝灰岩）を基盤とした地帯を穿入蛇行し、熊本平野に達してから坪井川、井芹川等を合流し、あるいは藻器掘川、加勢川等、緑川水系と併せて網状河川を展開する。

このように熊本地域の北部は、東から西に配列された山地、台地、平野を西流する白川が貫き、各地形が上流域、中流域、下流域に対応する基本構造をとっている。

1-2-2　人文

熊本地域の北部は、合計 4 段の平坦面に区分することができる。白川の流れに沿って高位平坦面から順に述べると、溶岩及び阿蘇火砕流堆積物により形成された上流域の白水面、白川によってつくられた河成段丘である託麻面（中位段丘）、その低位にある保田窪面（低位段丘）、そして白川等により沖積された下流

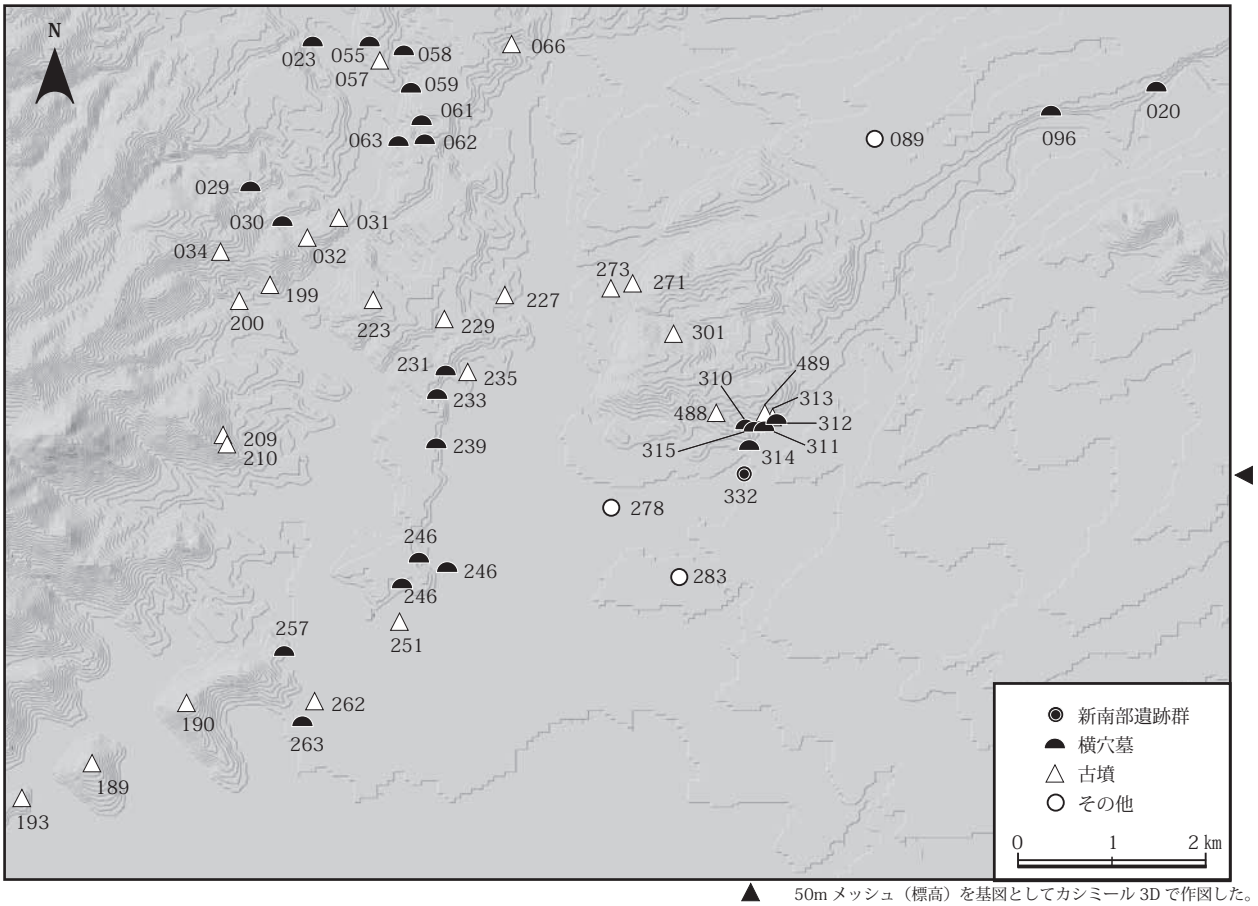


「熊本県遺跡地図」熊本県教育委員会（1995）を基図とした。

図２　新南部遺跡群と周辺遺跡

表１　新南部遺跡群と周辺遺跡

番号	遺跡名	時代	種別	旧遺跡名	備考・指定
332	新南部遺跡群	旧石器～平安	包蔵地	新南部A～D遺跡・北久根山遺跡・西谷遺跡・小関原遺跡・小関小松山甕棺遺跡・新南部三石遺跡	県北バイパス調査、市マンション調査、田辺昭三調査などあり
083	亀井遺跡群	縄文～中世	包蔵地	亀井遺跡・亀井城跡・亀井金剛院跡・亀井松山墓地・亀井薬師堂前板碑	城は現光照寺内。板碑天文2年銘
086	岩倉山中腹	縄文～中世	包蔵地		
087	岩倉山山頂	縄文～中世	包蔵地		
088	岩倉山	旧～中世	包蔵地		
090	堂ノ前遺跡群	旧～中世	包蔵地	堂の前遺跡・一丁霍遺跡	
091	庵ノ前	旧石器・弥生	包蔵地		早期住居跡3基・甕棺墓群
092	迫ノ上遺跡群	縄文～平安	包蔵地	迫ノ上甕棺群・緑が丘遺跡・緑ヶ山ノ神遺跡・堂ノ前屋敷窯跡・長蓮寺窯跡	堂の前窯跡は平安期か
093	壱町鶴	縄文～中世	包蔵地		
094	吉ノ平	縄文～中世	包蔵地		
095	竹ノ後・芭蕉遺跡群	縄文～平安	包蔵地	竹ノ後遺跡・竹ノ後甕棺群・芭蕉遺跡	竹の後縄文後期、合口甕棺、土偶
269	古閑前	縄文～中世	包蔵地		旧石器
270	清水町谷口	旧石器～平安	包蔵地	万石遺跡	県調査あり
271	万石塚坊主古墳群	古墳	古墳		2基円墳
272	松崎遺跡群	弥生～平安	包蔵地	松崎甕棺遺跡・松崎中世遺跡・松崎葉山天神跡	
273	松崎八幡箱式石棺	古墳	埋葬	松崎石棺	
274	室園	縄文～中世	包蔵地		
275	黒髪町下立田遺跡群	古墳～江戸	包蔵地	白石古墳・白石遺跡・立田南中腹遺跡・城床古墳群・豊国廟跡	
277	小峰	縄文～平安	包蔵地	金光山無相寺跡	
278	黒髪町遺跡群	縄文～中世	包蔵地	黒髪町遺跡(済々黌高校敷地)・九州女学院遺跡・坪井古屋敷出土の甕棺	一帯に甕棺墓群
280	子飼	縄文～中世	包蔵地		
281	大江白川	縄文～平安	包蔵地	旧往生院跡・善行寺の板碑・放牛地蔵	甕棺
282	新屋敷	弥生～中世	包蔵地		弥生(前期、環濠)、輸入陶磁器
283	大江遺跡群	縄文～明治	包蔵地	大江遺跡・大江青葉遺跡・大江東原遺跡・白川中学校校庭遺跡・渡鹿旧電電波高校遺跡・熊高敷地遺跡・熊高通り遺跡・杉ノ本遺跡・託麻郡家推定地・渡鹿廃寺・熊本英学校跡・建設会館遺跡他	
290	出水国府跡	弥生～中世	包蔵地		
291	西水前寺町	縄文～中世	包蔵地	縄文阿高系	
292	国分寺跡	縄文～中世	包蔵地	七重塔心礎石・宮園遺跡・労働金庫遺跡	県・市による多数の調査あり
295	万石乗越	縄文～古代	包蔵地		
297	秣野	縄文～平安	包蔵地		
298	陳内上ノ園遺跡群	縄文～古墳	包蔵地	上ノ園A・B遺跡・竜田陳内館跡	御手洗A式、押型文、須玖式甕棺、方形周溝墓
300	立田山山頂	古墳～平安	包蔵地		
301	万石茶山古墳	古墳	古墳		横穴式石室
303	宇留毛浦山市営墓地	縄文～平安	墓地		
305	竜田陳内遺跡群	旧石器～中世	包蔵地	竜田陳内遺跡・陳内宮の前遺跡	曽畑式土器、県報告あり
306	桜山中学校校庭	古墳～平安	包蔵地	下立田一里木	
309	宇留毛B	縄文～平安	包蔵地		
310	浦山第2横穴群	古墳	古墳		県指定
311	浦山第1横穴群	古墳	古墳		18基、県指定
312	女瀬平横穴群	古墳	古墳	長薫寺横穴群を含む	
313	長薫寺古墳	古墳	古墳		円墳横穴式石室
314	宇留毛小磧橋際横穴群	古墳	古墳		
315	つつじヶ丘横穴群	古墳	古墳		県指定
316	宇留毛神社周辺遺跡群	古墳・中世	包蔵地	宇留毛神社境内古墳群・立田山南古墳(上・下)・宇留毛浦山火葬墓・立田山城跡	立田山南麓古墳円墳2基横穴式石室
317	竜田口	縄文～平安	包蔵地		
317	竜田口	縄文～平安	包蔵地		
318	堂前畠	縄文～平安	包蔵地		
321	王田	縄文～平安	包蔵地		黒髪式合口甕棺
322	牧鶴遺跡群	古墳	包蔵地	牧鶴古墳・西牧鶴箱式石棺群・中牧鶴箱式石棺群	
323	下南部	縄文～古墳	包蔵地		須玖式甕棺
324	平ノ山		包蔵地		
331	松の窪		包蔵地		
333	南原		包蔵地		
334	乾原・迎八反田	縄文～平安	包蔵地	乾原迎・八反田遺跡・田の迎遺跡	乾原縄文後晩期、迎八反田縄文早期
337	辻	縄文～平安	包蔵地		縄文後晩期、箆描土器・墨書土器
338	新南部西原	縄文～平安	集落	保田窪地蔵碑	
340	帯山遺跡群	縄文～平安	包蔵地	帯山遺跡・保田窪遺跡	布目瓦、曽畑、阿高、竹崎
341	保田窪東一本松	縄文～平安	包蔵地		
342	三郎塚	縄文～平安	包蔵地		
355	神水	縄文～平安	包蔵地		県・市調査、報告書あり
355	神水	縄文～平安	包蔵地		県・市調査、報告書あり
488	狐穴古墳参考地	古墳	古墳		
489	宇留毛城床古墳	古墳	古墳		石材各所に散乱
513	三郎塚古墳	古墳	古墳		
534	七軒町	縄文～中世	包蔵地		
536	上河原	縄文～古代	包蔵地		



50m メッシュ（標高）を基図としてカシミール 3D で作図した。

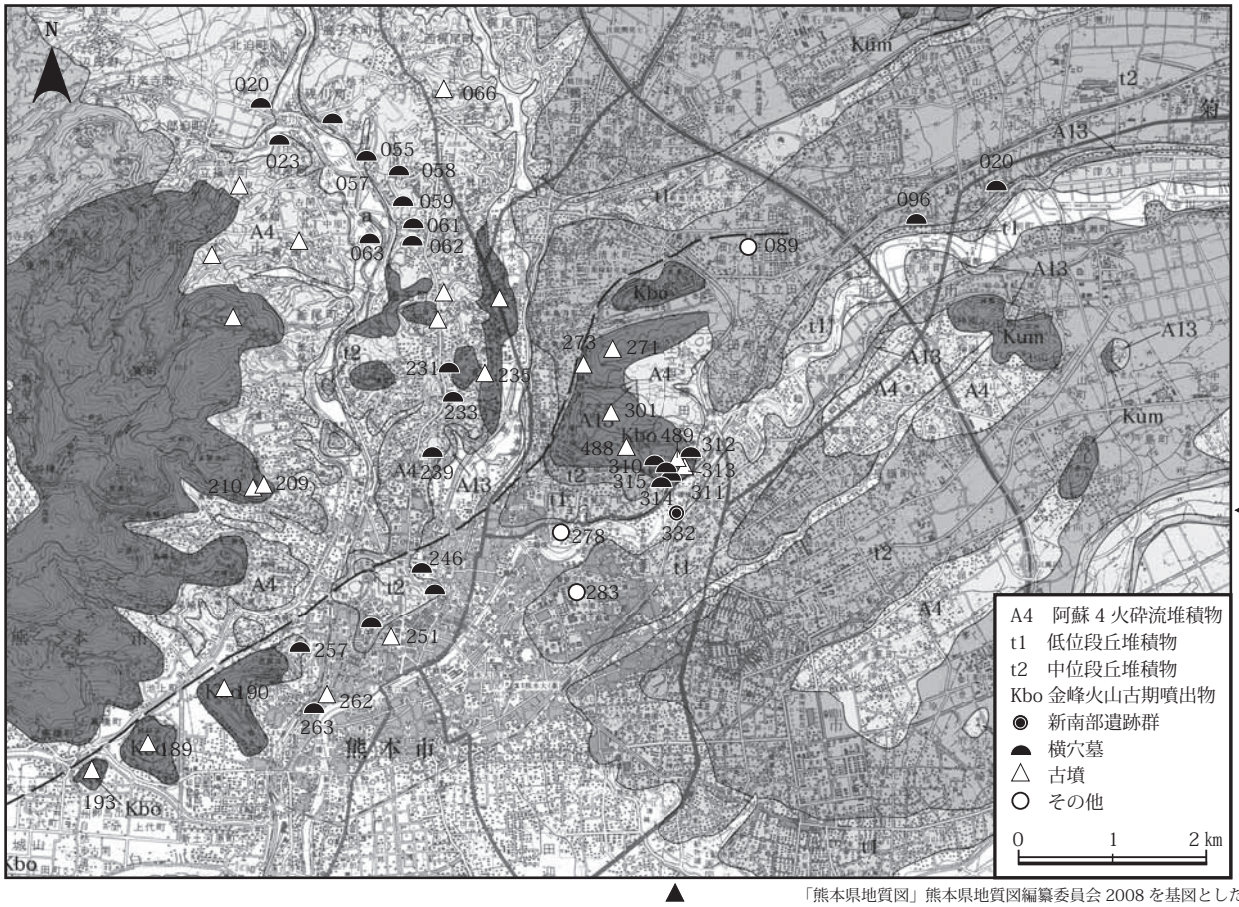
図 3　古墳と横穴墓の分布（10m 等高線）

域の熊本平野面となる。

各平坦面は、その利用頻度が時代により変動する。白水面の利用は弥生時代後半から確かになるが、これはカルデラ底に存在したカルデラ湖等の水文環境、そして植生環境が密接に関連するものと推察される。白水面には弥生時代後期に鉄器を生産する集落が集中するが、各集落は古墳時代前期にまで継続することなく、中通り古墳群等、土地利用の中心もさらに上流へと東遷する。託麻面（中位段丘）と保田窪面（低位段丘）は縄紋時代から古代（奈良・平安時代）に至るまで継続的に土地利用がなされている。これは阿蘇火砕流堆積物を基層、ニガシロ、クロボク等、火山灰堆積物を被覆層とした浸透性が高い地質構造と、地表面の傾斜が緩やかで平坦な地形構造により、流水による浸食作用が不活発となり広い平坦面が安定して存続したことに起因していよう。熊本平野面は、保田窪面の周端部に形成された渡鹿貝塚、カキワラ貝塚（上益城郡嘉島町）、辺田見貝塚（上益城郡御船町）が示すとおり、ほぼ全域が縄紋海進期より後に陸化している。熊本平野面では縄紋時代後期以降に、河川に形成された自然堤防や海浜に発達した砂州等の微高地上から土地利用が開始され、順次、低平地域へと利用範囲が浸潤する。しかし、古墳時代に前方後円墳が築造された形跡はなく、古代（奈良・平安時代）に至っても国府、郡家、廃寺の推定地はすべて熊本平野面の中心部ではなく縁辺部に形成され、保田窪面の周端部から 2㎞以上離れることはない。これは、熊本平野面が安定した陸とはなっていないこと、築堤、導水等、治水技術を中心とした抑止策の不足が惹起した現象と考えられ、古代においても縄紋時代後期以降のインフラストラクチャーが継続的に機能していたことを示唆している。なお、白川右岸を範囲とした飽田郡関連施設を除けば、すべて緑川水系の流域が利用されることとなる。

九州、なかでも熊本地域は弥生時代後期に形成された拠点とその連関網が古代においても、ほぼ維持され続けている。例を引けば、神水遺跡と詫麻国府、新御堂遺跡と益城国府、二本木遺跡と飽田国府のように、弥生時代後期の拠点集落の地に国府が比定又は推定されていることに端的に表れていよう。熊本地域には「領域区分の基本形（平野 2002）」が弥生時代後期には既に存在し、以後、継続されている、と理解してよい。この領域区分の基本形は、先述した各平坦面の構造とその差異に規制されて派生しているため、最上面の白水面または最下面の熊本平野面が変容するまで継続的に存在したのである。

新南部遺跡群は、白川中流域と下流域との境界域に



「熊本県地質図」熊本県地質図編纂委員会 2008 を基図とした。

図 4　古墳と横穴墓の分布（地質図）

位置している。このため、遺跡群内には中位段丘の託麻面、低位段丘の保田窪面、そして沖積面の合計 3 面が白川に並行する形で帯状に分布している。縄紋時代から以後、託麻面及び保田窪面には貝塚、集落、墓が形成されてきた。縄紋時代早期から利用されてきたが遺構に乏しく（平岡 1986）、縄紋時代後期から遺跡の規模が拡大し（富田 1996）、弥生時代中期には鋳造鉄斧片等の鉄器が、古墳時代後期から古代にかけては鞴羽口が出土する（浦田 1985）等、各時代の特徴を体現した内容を示している。しかし、いずれの遺跡（遺構群）も託麻面及び保田窪面に形成されており、今回調査区のように最下位の沖積面に遺跡が形成された例は極少数である。類例をひけば、今回調査区の 500m 程下流の熊本市調査区（平成 26 年度調査中）の他、近隣では竜田陳内遺跡（熊本市北区）、下南部遺跡（熊本市東区）の 3 例であり、対象を緑川水系にまで広げても 12㎞程南の滝川石田遺跡（上益城郡御船町）の 1 例を確認することができるのみである。しかし、いずれの遺跡も古墳時代後期集落であるとの共通項をもち、その立地と併せて、特定時期に限定された土地利用である可能性が高い。事実、今回調査区及び熊本市調査区では、古墳時代後期に集落が形成された後、近世以後の畑作まで土地利用痕跡が認められていない。洪水等、水害のリスクを負った沖積面よりは、隣接する高位で広範な保田窪面あるいはさらに上位の託麻面を利用することが、汎時代的な選択であったのである。

したがって、なぜ特定時期に沖積面に集落が形成されたのか、このことが発掘調査の課題となる。

（参考文献）

富田紘一、1996、『北久根山』、肥後上代文化研究会、熊本。

浦田信智、1985、『西谷遺跡』熊本県文化財調査報告 76、熊本県教育委員会、熊本。

平岡勝昭、1986、「新南部遺跡」、『新南部・潤野遺跡』熊本県文化財調査報告 84、熊本県教育委員会、熊本。

平野邦雄、2002、『邪馬台国の原像』p119、学生社、東京。

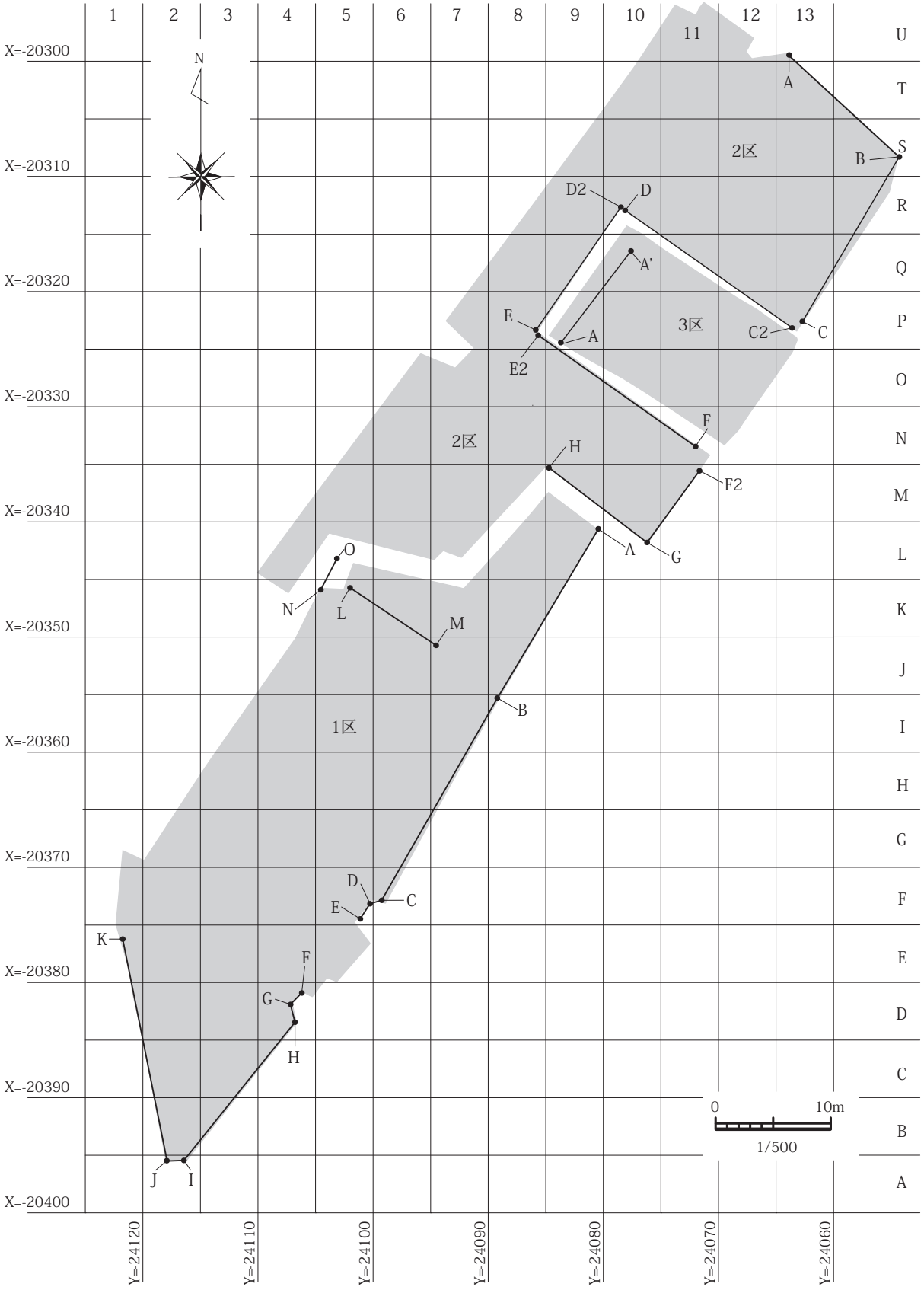

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
U
T
S
R
Q
P
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
X=-20300
X=-20310
X=-20320
X=-20330
X=-20340
X=-20350
X=-20360
X=-20370
X=-20380
X=-20390
X=-20400
Y=-24120
Y=-24110
Y=-24100
Y=-24090
Y=-24080
Y=-24070
Y=-24060
N
2区
3区
1区
A
B
C
D
D2
A'
E
E2
C2
F
F2
H
G
O
N
L
M
K
J
I
0
10m
1/500

図5　グリッド配置図

1-3　発掘の方法

表土は重機を用いて除去し、包含層及び遺構は人力により精査し、掘削した。

現地における記録は、以下の方法に拠り作成した。遺構実測図は、グリッドから実測用メッシュを張り、縮尺 1/20 を基本として 1mm 方眼紙に作図した。なお、必要に応じて、光波測距議を用いた点取り等を行った。写真は、遺跡環境をも撮影対象とした航空写真は外部委託し、遺構、遺物を対象とした写真には中判カメラ、35mm カメラ並びに白黒ネガ、カラーリバーサルの 2 種類のフィルムを用いて撮影している。この他、調査日誌を作成し、発掘の過程等、必要事項を記録している。

現地調査終了後に、熊本県文化財資料室で資料整理、記録作成を進め、一次整理は人力の集中、二次整理は作業のデジタル化、そして外部委託の導入等、種々の方途、方策により迅速化を図っている。

1-3-1　発掘の方法

発掘調査に際しては、グリッド法及び分層発掘法を採用した。

グリッド法

グリッドは、世界測地系に則り、平面直角座標第Ⅱ系に準拠して、座標値（X= － 20,400、Y= － 24,145）を起点とした 5m グリッドを設定している。

グリッドの名称は、その東西軸には西端を起点として「1、2、3…」の算用数字を、南北軸には南端を起点として「A、B、C…」のアルファベット（大文字）を与え、両者を「A-1」、「A-2」、「A-3」と「 - （ハイフン）」を用いて連結し、グリッド名としている。

なお、調査区は 1 区から 3 区までに分かたれているが、単一のグリッド網に基づき発掘調査がなされているため、調査区区分は意味をもたない。併せて、このグリッド網は、平成 16 年度の調査区のみを包括するものであり、新南部遺跡群全体を包括するものではない。

分層法

各層は、土壌色、粒状構造等、により区分されている。

各層の土壌色、粒状構造等は、「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠して記録されている。

層名は、上層からローマ数字を用いて「Ⅰ層」、「Ⅱ層」、「Ⅲ層」と表記し、細分した層位は、上層から算用数字「1」、「2」、「3」を「 - （ハイフン）」を用いて付加して「Ⅲ-1 層」、「Ⅲ-2 層」、「Ⅲ-3 層」と表記している。

新南部遺跡群の基本層序は、次のとおりである。

なお、調査区 3 区の発掘調査に際しては、Ⅳ-2 層及びⅤ層を鍵層として調査区 1 区及び 2 区の層序と対照し、層序の整合を確認している。

Ⅰ層：客土、撹乱等。
客土：砂利や整地層を含む。
撹乱 1：黒褐色砂質土（10YR3/2）
撹乱 2：暗褐色砂層（10YR3/3）
撹乱 3：黒褐色砂質土（10YR3/2）

Ⅱ層：3 層に細分される。
Ⅱ-1 層：暗褐色砂層（10YR3/3）、撹乱と同じ程度の砂層。色調は黄土色。しまりはゆるい。
Ⅱ-2 層：黒褐色砂質土（10YR3/2）にやや粒子の大きい暗褐色土混じる。
Ⅱ-3 層：暗褐色砂層（10YR3/3）

Ⅲ層：暗褐色砂質土（10YR3/3）、黒褐色土（10YR2/3）。きめが細かくやわらかい。Ⅳ層と比較して砂質がやや強い。色調が赤紫色。古代～古墳の遺物を多く含む。

Ⅳ層：2 層に細分される。
Ⅳ-1 層：暗褐色土（10YR3/3）。砂質ではない。遺物包含層であり、遺構検出面である。きめが非常に細かくやわらかい。色調は明るい

1区 A-K

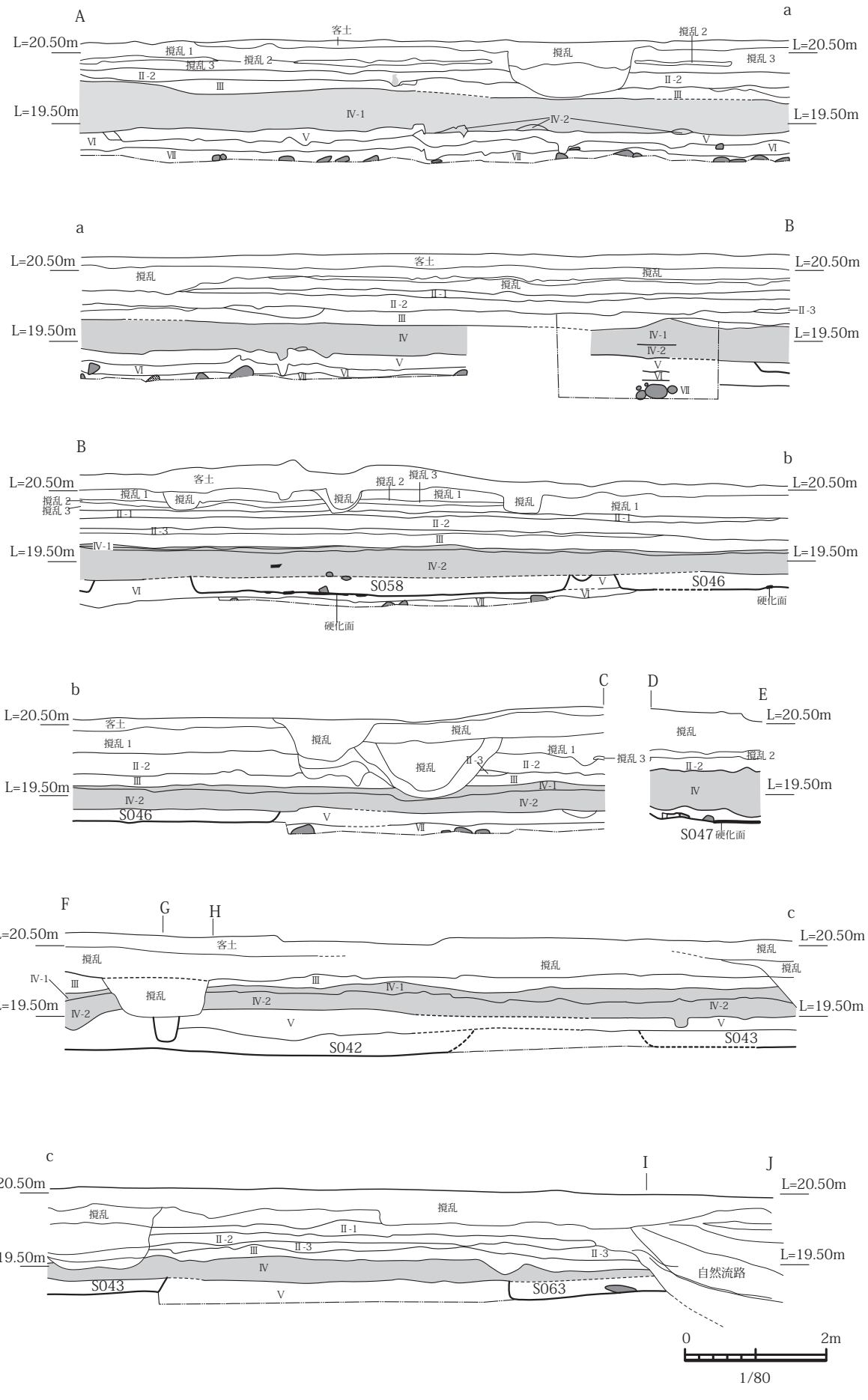
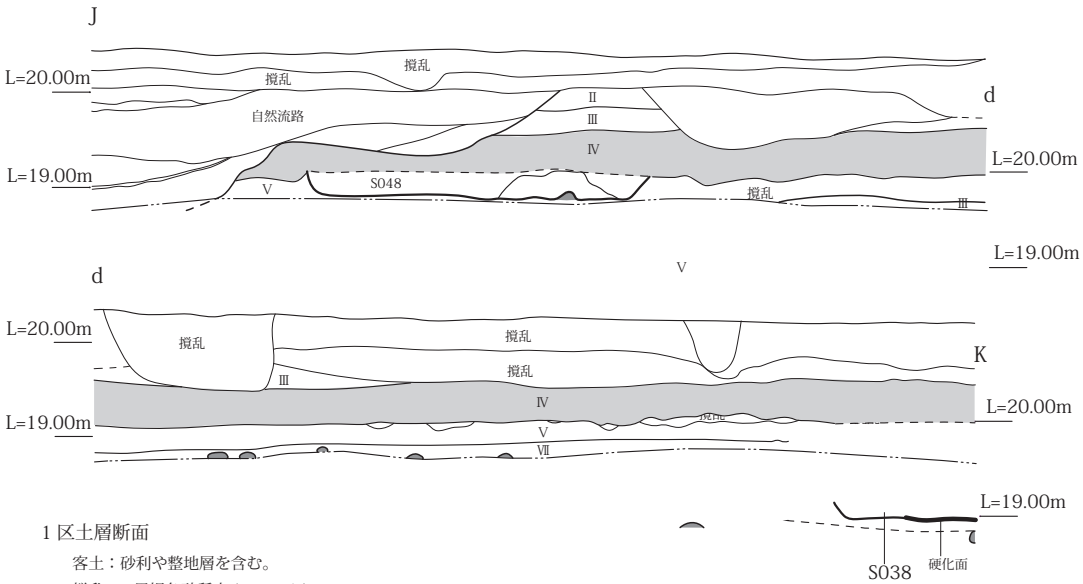


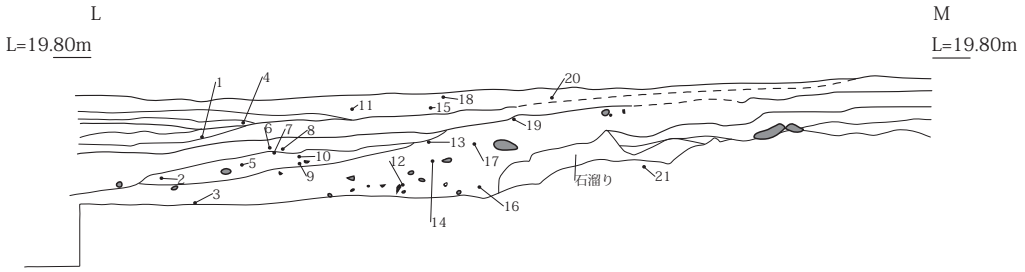
図6　1区 土層断面図（1）



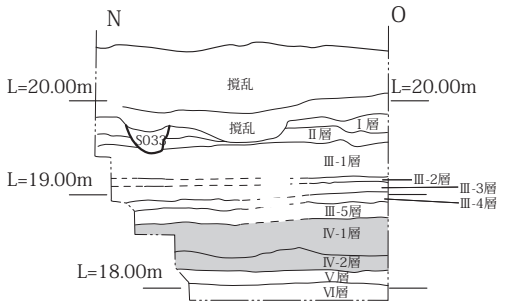
1 区土層断面

客土：砂利や整地層を含む。
攪乱 1：黒褐色砂質土 (10YR3/2)
攪乱 2：暗褐色砂層 (10YR3/3)
攪乱 3：黒褐色砂質土 (10YR3/2)
Ⅱ-1 層：暗褐色砂層 (10YR3/3)、攪乱と同じ程度の砂層。色調は黄土色。しまりはゆるい。
Ⅱ-2 層：黒褐色砂質土 (10YR3/2) にやや粒子の大きい暗褐色土混じる。
Ⅱ-3 層：暗褐色砂層 (10YR3/3)
Ⅲ　層：暗褐色砂質土・黒褐色土 (10YR2/3)、きめが細かくやわらかい。古代～古墳の遺物を多く含む。Ⅳ層と比較して砂質がやや強い。色調が赤紫色。
Ⅳ-1 層：暗褐色土 (10YR3/3)、砂質ではない。遺物包含層であり、遺構検出面である。きめが非常に細かくやわらかい。色調は明るい褐色に近い。
Ⅳ-2 層：褐色土・暗褐色土 (10YR3/3)、きめが細かく褐色土が帯状に入る。色調は上の層より明るい。遺物を含む。
Ⅴ　層：黒褐色土 (10YR2/2)、きめが細かくやや粘性がある。色調は黒色で一番土らしい土層。まれに 2 ～ 3cm 大のカーボンを含む。遺物包含層である。
Ⅵ　層：暗褐色砂質土 (10YR3/3)、きめがやや大きく、褐色土が帯状に入る。1 ～ 3cm 大の小礫や 10 ～ 30cm 大の礫を含む礫層である。

1 区 L-M



1区N-O



Ⅰ　層：黒褐色砂質土(10YR3/2)、鉄分(酸化鉄)を含んだ暗褐色土(5YR3/6)
Ⅱ　層：黒褐色土(10YR)、マンガンや粘土ブロックを少々含む。
Ⅲ-1層：黒褐色砂質土(10YR2/2)、きめの細かい砂質土。
Ⅲ-2層：硬化ブロック層(少し粘土に近い)、所々層状に入る。
Ⅲ-3層：黒褐色土(10YR3/2)
Ⅲ-4層：にぶい黄褐色(やや明るい粒子の大きい砂層)
Ⅲ-5層：黒褐色砂質土(10YR2/2)
Ⅳ-1層：暗褐色砂質土(10YR3/3)、きめの細かい砂質。ｶｰﾎﾞﾝ少々、土器片を含む。
Ⅳ-2層：暗褐色砂質土(10YR3/2)、きめが細かく、明るい色調の砂層。
Ⅴ　層：黒褐色砂質土(10YR2/2)、やや粘質。
Ⅵ　層：暗褐色砂質土

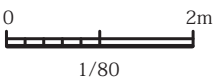
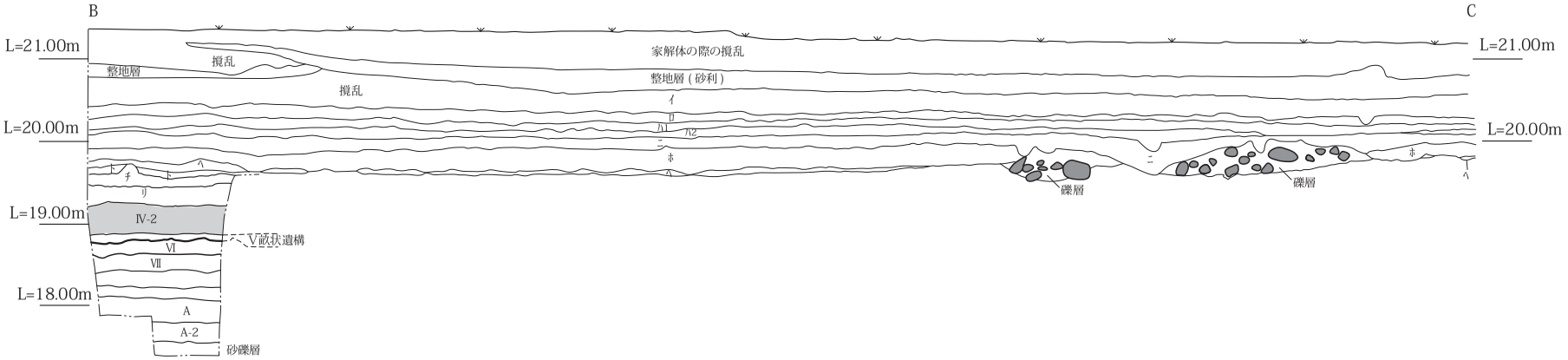


図 7　1 区 土層断面図（2）

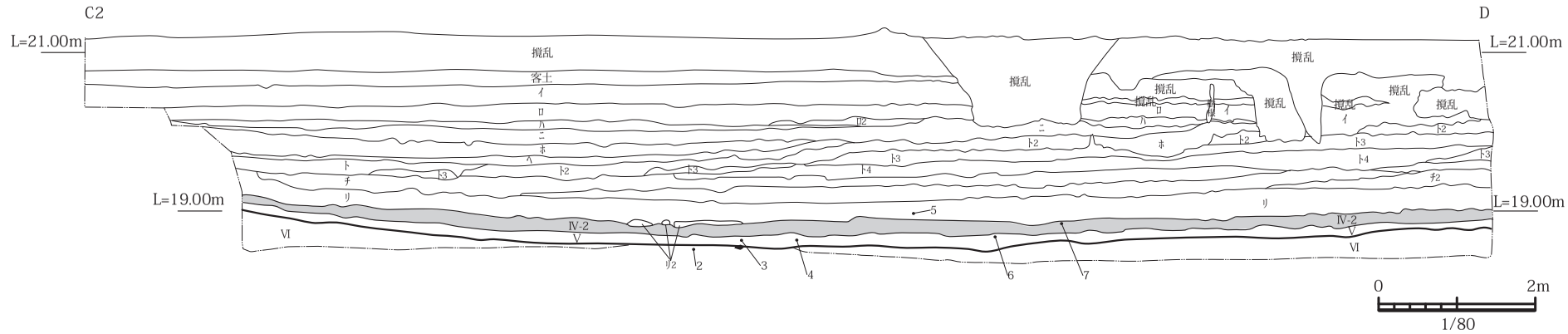
図８　２区土層断面図（1）

2区 A-B

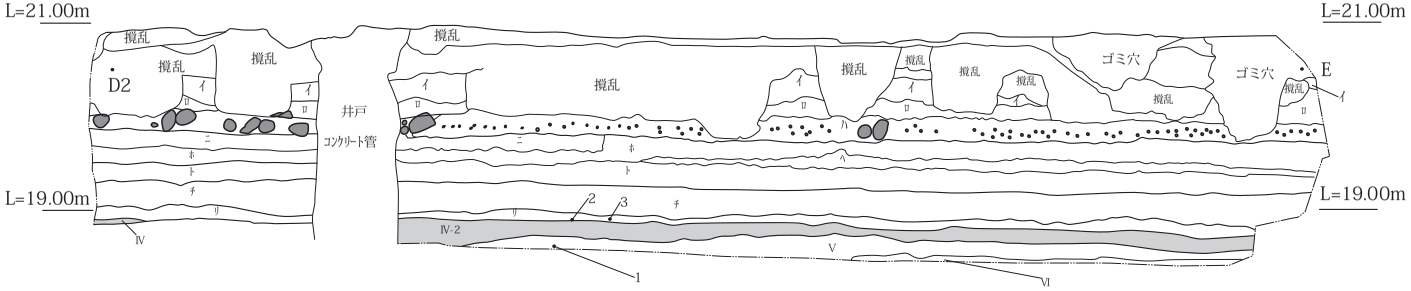
2区 B-C



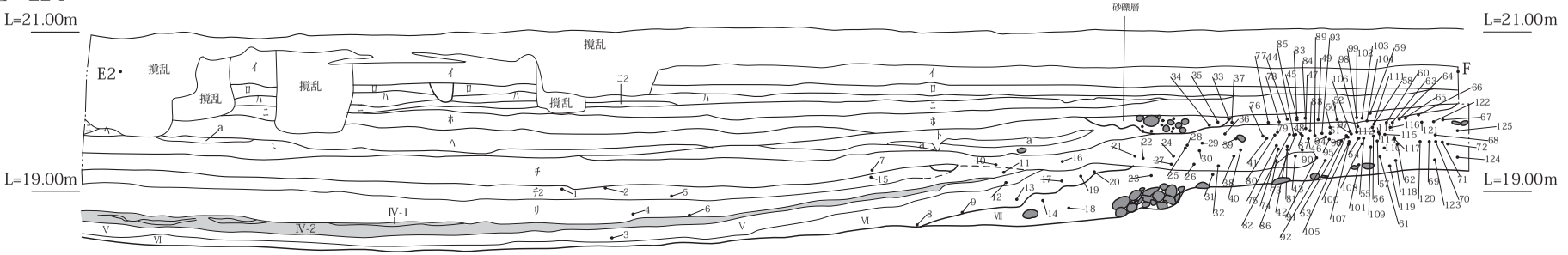
2区 C2-D



2区　D2-E



2区　E2-F



２区土層断面

客土：整地層（砂利層）

ｲ: 暗褐色砂質土 (10YR3/2)、きめが細かく非常に硬くしまる（撹乱）。１～２mm 大のカーボンやその他の混入物多し。

ﾛ: 暗褐色砂質土 (10YR3/2)、下層に向かうに従いきめが粗くなる。しまりは上層ほどではない。

ﾊ: 暗褐色砂層 (10YR3/3)。きめの細かい砂層。ややしまる。

ﾊ2：砂層。きめのやや粗い砂層。色調はやや青黒く、ややしまる。

ﾆ: 砂層。きめが細かい砂層。色調はやや明るく、ややしまる。

ﾎ: 暗褐色砂質土 (10YR3/3)、きめが細かくややしまる。色調はやや明るい。

ﾍ: 砂層。きめが細かい砂層。色調は青黒く（乾くと青い）、硬くしまる。

ﾄ1：暗褐色砂質土 (10YR3/3)、0.5～２㎝大の小礫を多く含む。色調は（ﾄ2）よりやや暗い。

ﾄ2; 暗褐色砂質土 (10YR3/2)、所々に 0.5～１㎝大の小礫を含む。色調の明るい土層。ややわらかい。

ﾄ3：砂層。きめの細かい砂層。サラサラしていて触ると崩れる。色調は青黒い。

ﾄ4：暗褐色砂質土 (10YR3/3)、所々部分的に青黒い。

a：暗青灰色砂質土 (10BG4/1) ガチガチの青い層。

ﾁ: 暗褐色砂質土 (10YR3/3)、きめが細かくしまる。

ﾁ2：黒褐色土 (10YR2/3) 混暗褐色砂質土。きめが細かくやわらかい。

ﾘ: 暗褐色砂質土 (10YR3/3)、きめが上層よりやや粗くやわらかい。

ﾘ2：黒褐色土 (10YR3/2)、暗褐色砂質土中にこげ茶色の粘土を含む。

Ⅳ-2 層：暗褐色砂質土 (10YR3/4)、きめが細かくやわらかい。所々に２～5mm 大の細長いカーボンを含む。

Ⅴ　層：黒褐色土 (10YR2/3)、きめが細かく、やや粘性がある。遺物や２～5mm 大のカーボンを所々に含む。

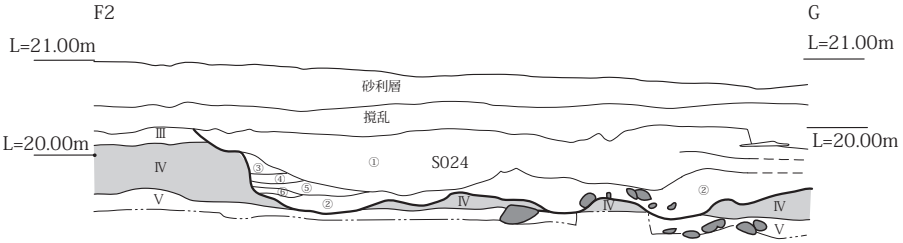
Ⅵ　層：暗褐色砂質土 (10YR3/3)、上層と比較すると色調がやや明るい。カーボンは入ってない。

Ⅶ　層：黒褐色土 (10YR3/2)、砂質ではなくサラサラな土に近い。下の包含層。礫や遺物を多量含む。

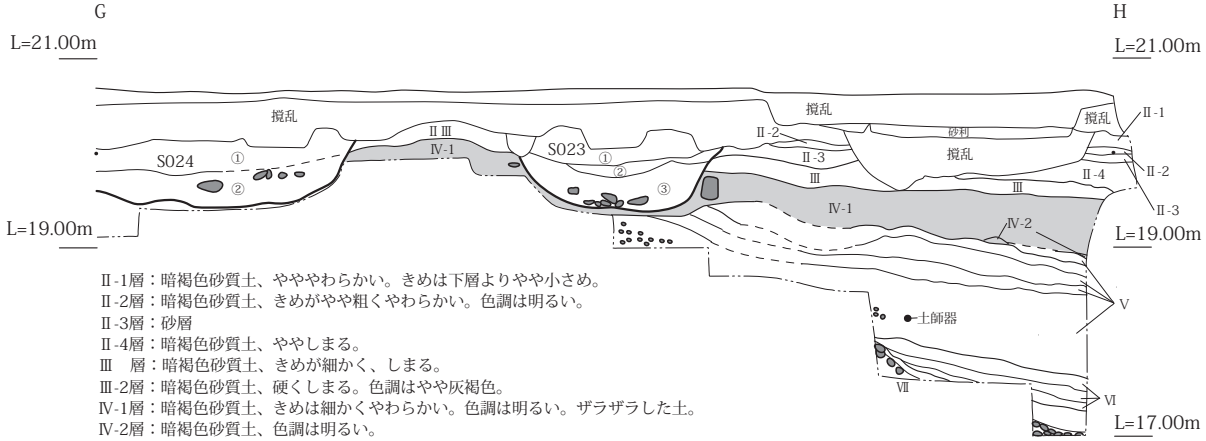
0　2m

1/80

2区 F2-G



2区 G-H

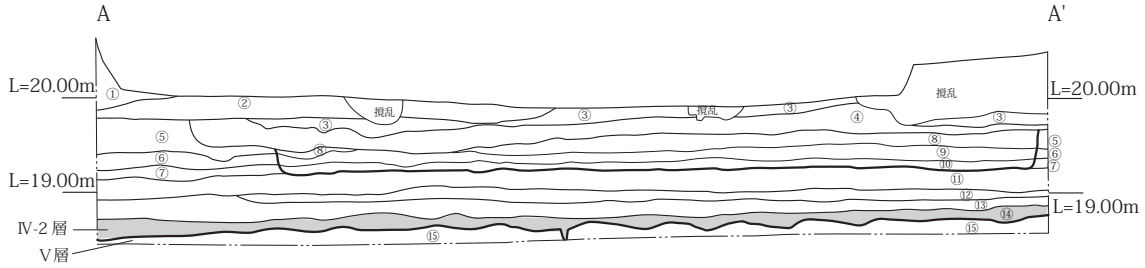


Ⅱ-1層：暗褐色砂質土、ややわらかい。きめは下層よりやや小さめ。
Ⅱ-2層：暗褐色砂質土、きめがやや粗くやわらかい。色調は明るい。
Ⅱ-3層：砂層
Ⅱ-4層：暗褐色砂質土、ややしまる。
Ⅲ　層：暗褐色砂質土、きめが細かく、しまる。
Ⅲ-2層：暗褐色砂質土、硬くしまる。色調はやや灰褐色。
Ⅳ-1層：暗褐色砂質土、きめは細かくやわらかい。色調は明るい。ザラザラした土。
Ⅳ-2層：暗褐色砂質土、色調は明るい。
Ⅴ　層：黒褐色土(10YR2/3)、きめが細かく、やや粘性有。所々にカーボンが残る。
Ⅵ　層：黒褐色砂質土(10YR3/2)、やや粘性あり。カーボンを含む。ややきめが細かい。
Ⅶ　層：やや目の粗い砂層。

S023
①暗褐色砂質土、ややしまる。白色粒の混入物あり。
②暗褐色砂質土、色調やや明るい(白っぽい)。少しやわらかい。
③暗褐色砂質土、少ししまる。色調はやや暗い。

S024
①黒褐色砂質土(10YR3/2)、きめが細かくやわらかい。砂質が強い。
②黒褐色砂質土(10YR3/2)、やや色調が明るく土に近い。
③～⑥砂と砂質土の互層、水による堆積と思われる。

3区 A-A'



3区土層断面
① 暗褐色砂質土(10YR3/3)、粘質非常に弱く、しまり弱い。きめの細かい(0.5～1mm大)粒を少量含む。
② 黒褐色砂質土(10YR2/3)、粘性非常に弱く、しまりやや弱い。
③ 暗褐色砂質土(10YR3/3)、粘性非常に弱く、しまり弱い。5～10mm大の粒を含む。
④ 暗褐色砂質土(10YR3/4)、粘性非常に弱く、しまり弱い。粒子の細かい砂の堆積層。サラサラしている。
⑤ 暗褐色砂質土(10YR3/3)、粘性は非常に弱く、しまり強い。5～10mm大の粒を③より多く含む。
⑥ 黒褐色砂質土(10YR2/3)、粘性は非常に弱く、しまりやや強い。5～10mm大の粒を多量含む。
⑦ 黒褐色砂質土(10YR3/2)、粘性非常に弱く、しまりやや弱い。
⑧ 暗褐色砂質土(10YR3/4)、粘性非常に弱く、しまりやや弱い。きめの細かい黒褐色土が少量混じる。
⑨ 暗褐色砂質土(10YR3/3)、粘性弱く、しまりやや強い。
⑩ にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)、粘性やや強く、しまりやや弱い。暗褐色土をブロック状に多く含む。
⑪ 暗オリーブ褐砂質土(2.5YR3/3)、粘性非常に弱く、しまり強い。粒子の細かい(0.5～1mm大)粒を少量含む。
⑫ 暗褐色砂質土(10YR3/4)、粘性非常に弱く、しまりやや弱い。粒子が細かくサラサラしている。
⑬ 暗褐色砂質土(10YR3/4)、粘性非常に弱く、しまり弱い。1mm大の砂で形成されている。
⑭ 暗褐色砂質土(10YR3/4)、粘性非常に弱く、しまり強い。きめが細かくやわらかい粒(2～5mm大)を含む。(Ⅳ-2層)
⑮ 黒褐色砂質土(10YR2/3)、粘性やや強く、しまりやや強い。遺物を少々含む。2～5㎜大の粒を含む。(Ⅴ層)

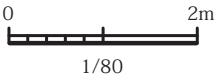


図 10　2 区及び 3 区 土層断面図

褐色に近い。

Ⅳ-2 層：褐色土 (10YR3/2)、暗褐色土（10YR3/3)。きめが細かく褐色土が帯状に入る。色調は上の層より明るい。遺物を含む。

Ⅴ層：黒褐色土（10YR2/2)。きめが細かくやや粘性がある。色調は黒色で一番土らしい土層。まれに 2 ～ 3cm 大のカーボンを含む。遺物包含層である。

基盤層：暗褐色砂礫層（10YR2/2)。きめの大きい砂質土を主体に 1 ～ 3cm 大の小礫や 10 ～ 30cm 大の礫を含む礫層である。

遺構出土遺物の取扱い

平成 16 年度の発掘では、遺構出土遺物と包含層出土遺物について特有の取扱いがなされている。

包含層掘削の過程で出土した遺物について、その出土位置を記録するため「点取り遺物」としてその周囲を掘り残していた遺物群が、その所属する包含層が掘削され下位の遺構検出面において遺構が確認された場合、下位の遺構名を記載して取り上げられた例が存在する。

上記例の遺物カードには、遺構名が記載されると同時に、包含層名、上層、一括、下層並びに 2 種類の点取り番号が付される場合があり、遺物カードに出土地点が混同して記載されている。調査者は「遺構の姿が見えた後、包含層と埋土を弁別して取り扱った」発掘を実施している。しかし、調査日誌には「下層」遺物を取り上げた後「上層」遺物を取り上げる記載もあり、出土地点、出土層位の混乱を抑止する調査手順が実施されているわけではない。

したがって、当該遺物群は、層位学的に上層から下層へと調査されたと認めることはできず、包含層と遺構埋土の弁別も土層註記に欠くために検証することができない状態にある。

ついては、通常の記載内容をもつ遺物カードと上記例の遺物カードとを分別し、次のとおり 2 群の遺物群を併記することとした。

Ⅰ群：当該遺構からの出土が確実な遺物群

Ⅱ群：遺構名と包含層名が併記されていた遺物カードを付された遺物群

本書では、出土層位の調整等は一切実施せずに記載し、報告する。これは、出土遺物への註記が既に完了していたため新たな調整が新たな錯誤を生む可能性が高く、これを回避するための措置である。

1-3-2　整理の方法

現地調査事務所では、現地調査と併行して出土品を水洗し、註記し、一部を接合、復元した。現地調査終了後、文化財資料室で実施した一次整理は、土器の註記、接合作業から開始されている。接合作業は、調査区を作業単位として展開し、まず、遺構又はグリッドを単位として接合を実施し、後、遺構とグリッド、さらに隣接グリッドを対象として接合を実施した。なお、土器の接合には接着剤「セメダイン C」（セメダイン会社製）を用いた。

復元作業は、全調査区を単位として実施した。なお、土器の復元には修復材「デンカ・キューテックス」（東郷化成株式会社製）を用いた。

文化財資料室における二次整理は、実測及び製図作業であり、土器の実測及び製図等、その一部は外部に委託している。実測作業は、石器類から開始し、順次、金属器等に移っている。なお、遺物の種類を問わず、実測はすべて縮尺 1/1 で実施し、実測用紙には 1mm 方眼紙を用いた。

製図作業は、電子トレース方式で実施した。トレースには外部委託の場合も含めて「トレースくん Cubic」（株式会社 CUBIC）を用い、トレース図を「Adobe Illustrator」（アドビシステムズ株式会社）を用いて版組し、版下デジタルデータを作成した。

なお、整理作業に際しては、各遺物に実測番号を付して、復元、実測、製図作業を実施している。ただし、実測番号に一意性があるとは限らない状況であった。

本書では遺物を土製品（RP)、石製品（RQ)、金属製品（RM）に区分し、各区分の掲載順に報告書番号を付し、この報告書番号を用いて本文を記述している。

2　発掘の成果

新南部遺跡群は、調査区を 1 区、2 区及び 3 区に分かち発掘調査を実施した。調査区 1 区及び 2 区は平成 16 年度に併行して発掘され、調査区 3 区は平成 22 年度に単独で調査されている。調査区 3 区の調査時期が異なるのは、事業用地買収等、国交省河川整備事業の進捗状況を反映した結果である。

遺構番号は、調査区 1 区及び 2 区では一連の遺構番号（S001 ～ S065）が付されている。調査区 3 区では、「畝状遺構」のみが検出されたため遺構番号を付す必要がないと判断された。整理にあたっては、調査区 3 区検出の「畝状遺構」に調査区 1 区及び 2 区の遺構番号に連続した遺構番号（S065）を付した。その結果、すべての遺構には一連の遺構番号が付与されたこととなる。以下、遺構番号に順じて各遺構の調査結果を記述する。

なお、遺構番号、遺構名、調査結果等、遺構に係る調査結果は、すべて現地で記録された発掘調査記録を用いて記述する。これは、現地調査の段階ですでに遺物註記作業等に着手されていたことに因る。

発掘された遺構は、芋穴 20 基、竪穴住居 18 軒、土壙 11 基、溝 5 条、道路 3 条、硬化面 3 面、畝溝 2 群及び種類不明な遺構 4 基、合計 66 基である。以下、遺構番号順にその発掘内容を記述する。

発掘された遺物のうち図示した遺物は、土器（RP）481 点、石器（RQ）22 点、金属器（RM）17 点、合計 523 点である。以下、出土遺構の遺構番号順、そして包含の順に記述する。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
X=-20340
X=-20345
X=-20350
X=-20355
X=-20360
X=-20365
X=-20370
X=-20375
X=-20380
X=-20385
X=-20390
X=-20395
Y=-24120
Y=-24115
Y=-24110
Y=-24105
Y=-24100
Y=-24095
Y=-24090
Y=-24085
Y=-24080
N
S001
S002
S003
S004
S005
S006
S007
S008
S009
S010
S011
S013
S014
S015
S016
S017
S019
S020
S021
S022
S022-1
S023
S025
S026
S027
S028
S031
S032
S033
S034
S035
S036
S037
S038
S040
S042
S043
S044
S045
S046
S047
S048
S049
S050
S051
S052
S053
S054
S056
S057
S058
S059
S062
S063
S067
S068
S069
S070
S071
S072
S073
S074
S075
S076
S077
S078
S079
S080
S081
S082
S083
S084
S085
S086
S087
S088
S089
新
近代以降の遺構
古
古墳時代の遺構
0
10m
1/300

図 11　1 区 遺構配置図

2-1　遺構と遺構出土遺物

S001（芋穴）

D4 グリッドに位置し、S002（芋穴）を切っている芋穴である。

平面形態は長方形を呈し、法量は 0.65m × 0.95m、遺構検出面からの深さ 15cm を測る。

S002（芋穴）

D4 グリッドに位置し、S001（芋穴）及び S003（芋穴）に切られている芋穴である。

平面形態は円形を呈し、法量は 0.75m × 0.85m、遺構検出面からの深さ 25cm を測る。

S003（芋穴）

D4 グリッドに位置し、S002（芋穴）を切っている芋穴である。

平面形態は正方形を呈し、法量は 0.95m × 0.95m、遺構検出面からの深さ 15cm を測る。

S004（芋穴）

D4 グリッドに位置し、一部が調査区外に位置している芋穴である。

平面形態は方形を呈し、法量は現存長で 0.20m × 1.00m、遺構検出面からの深さ 12cm を測る。

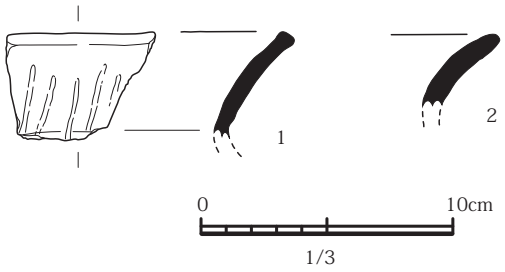


図 13　S005 出土土器（RP）実測図

S005（溝）

F2 及び F3 グリッドに位置し、撹乱土壙により切られている溝である。

南東から北西に走向し、法量は全長 8.5m、幅 1.6m、遺構検出面からの深さ 60cm を測る。

土器は、土師器の甕 2 点（RP1、2）を図示した。

なお、種別、部位等、詳細不明な動物遺存体、近世以降の瓦及び陶磁器類が検出された。

S006（土壙）

F3 グリッドに位置する土壙である。

平面形態は楕円形を呈し、法量は 0.5m × 0.65m、遺構検出面からの深さ 30cm を測る。

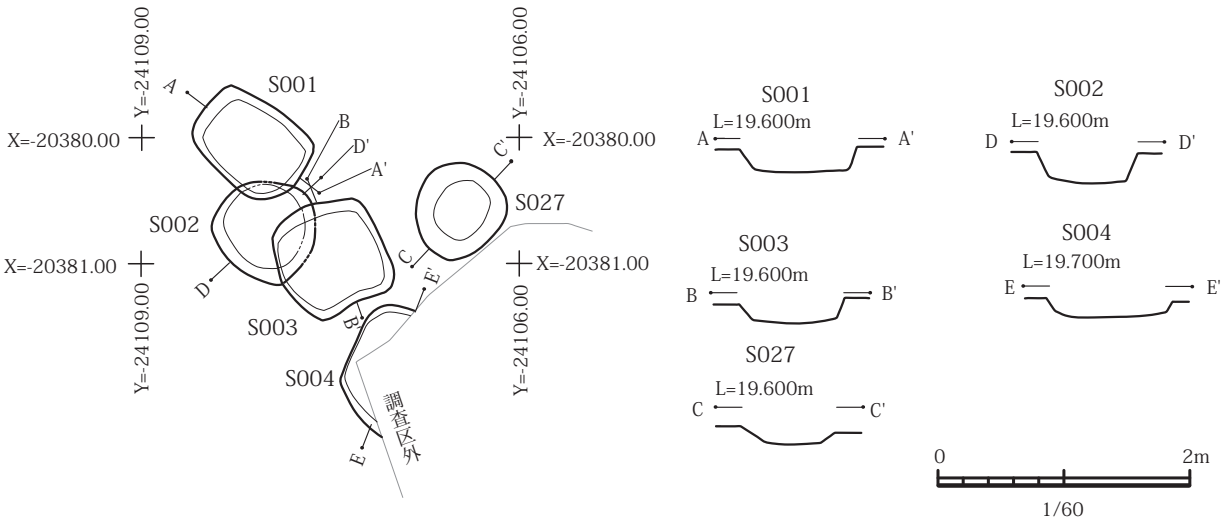


図 12　S001 ～ S004、S027 実測図

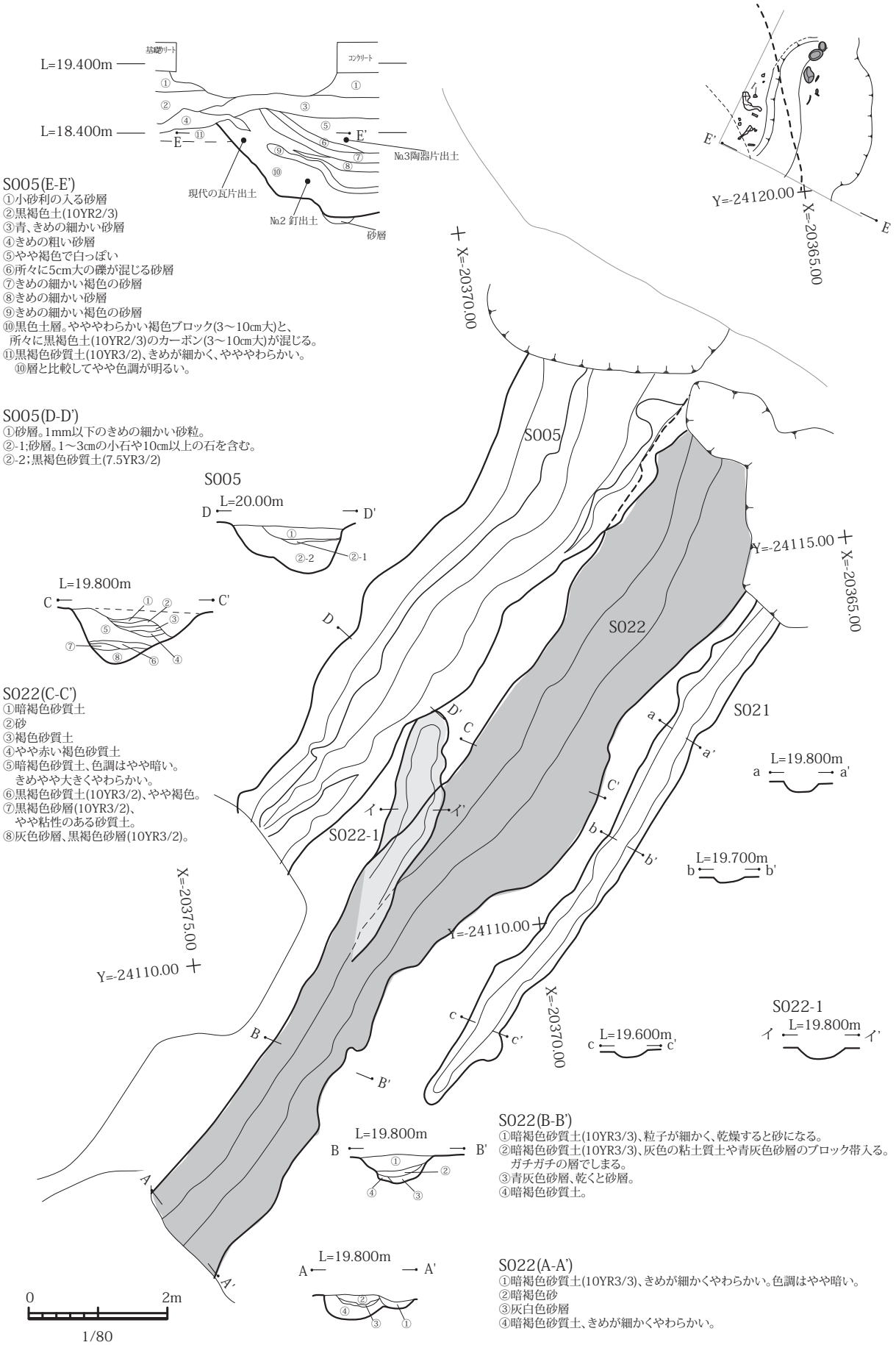


図 14　S005、S022、S022-1、S021 実測図

S007（芋穴）

F2 グリッドに位置する芋穴である。

平面形態は長方形を呈し、法量は 0.55m × 0.90m、遺構検出面からの深さ 32cm を測る。

S008（芋穴）

F2 グリッドに位置し、撹乱土壙により切られている芋穴である。

平面形態は長方形を呈し、法量は 0.75m × 0.95m、遺構検出面からの深さ 30cm を測る。

土器は、土師器の甕 1 点（RP3）を図示した。

S009（芋穴）

F2 グリッドに位置し、撹乱土壙により切られている芋穴である。

平面形態は長方形を呈し、法量は 0.70m × 0.85m、遺構検出面からの深さ 28cm を測る。

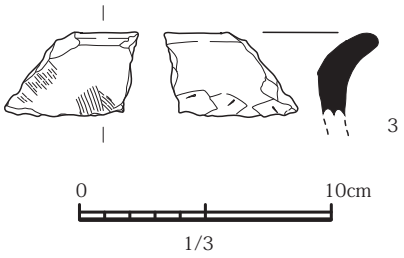


図 16　S008 出土土器（RP）実測図

S010（芋穴）

F2 グリッドに位置する芋穴である。

平面形態は長方形を呈し、法量は 0.70m × 1.15m、遺構検出面からの深さ 35cm を測る。

S011（芋穴）

F2 グリッドに位置する芋穴である。

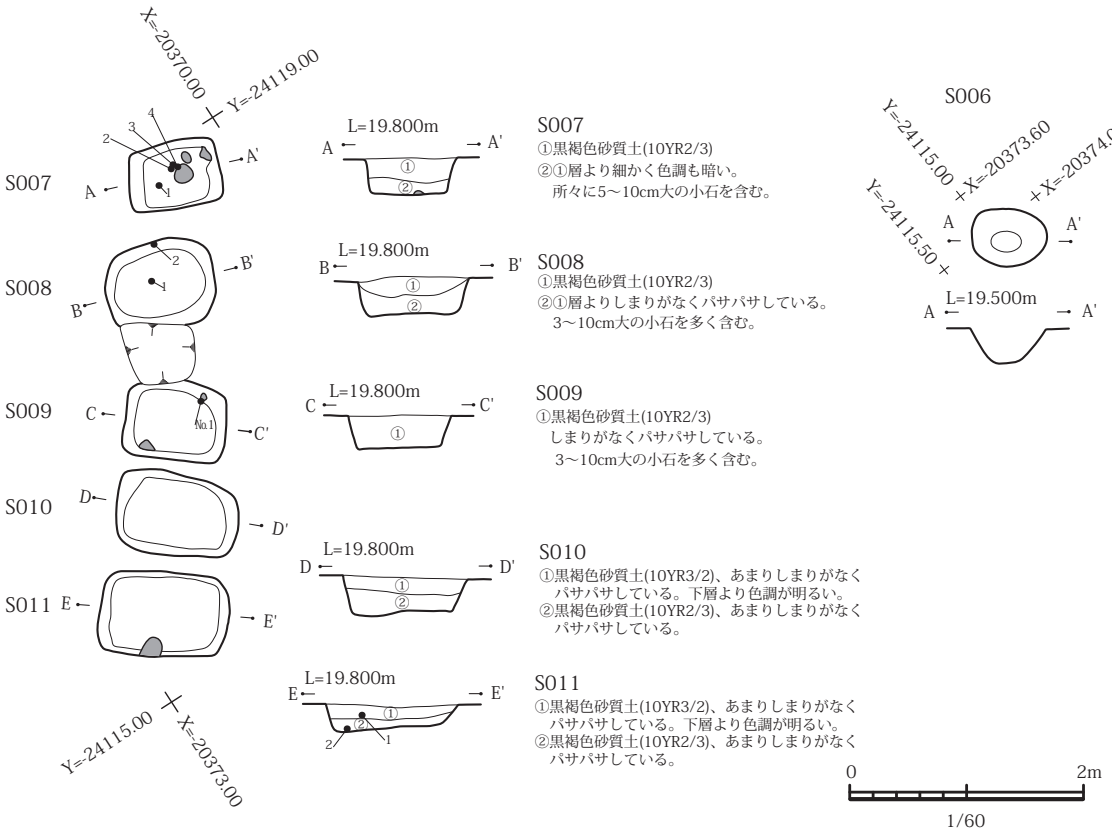


図 15　S006 ～ S011 実測図

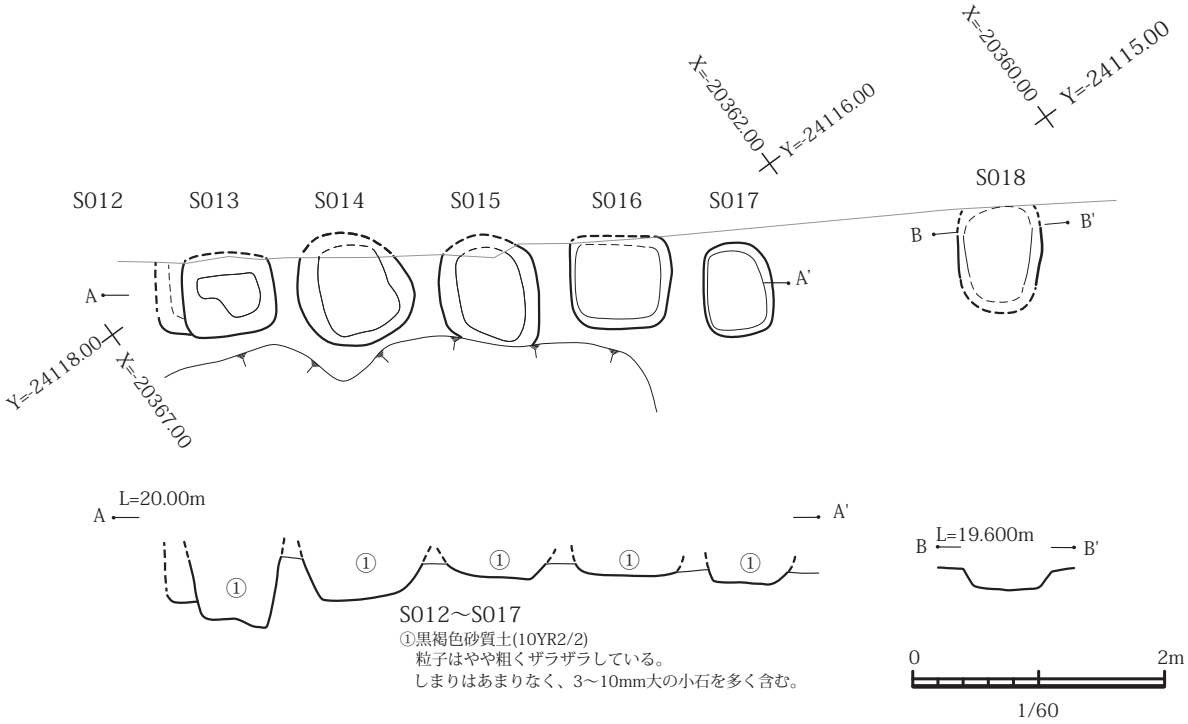


図 17　S012 ～ S018 実測図

平面形態は長方形を呈し、法量は 0.70m × 1.15m、遺構検出面からの深さ 25cm を測る。

S012（芋穴）

G2 グリッドに位置し、S013（芋穴）及び撹乱土壙により切られている芋穴である。

平面形態は不明であり、法量（現存長）は 0.63m × 0.20m、遺構検出面からの深さ 25cm を測る。

S013（芋穴）

G2 グリッドに位置し、一部が調査区外に位置している芋穴である。

平面形態は正方形を呈し、法量（現存長）は 0.65m × 0.70m、遺構検出面からの深さ 55cm を測る。

S014（芋穴）

G2 グリッドに位置し、一部が調査区外に位置している芋穴である。

平面形態は円形を呈し、法量（現存長）は 0.90m × 0.92m、遺構検出面からの深さ 30cm を測る。

S015（芋穴）

H2 グリッドに位置し、撹乱土壙に切られ、一部が調査区外に位置している芋穴である。

平面形態は円形を呈し、法量（現存長）は 0.80m × 0.85m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

S016（芋穴）

H2 グリッドに位置し、一部が調査区外に位置している芋穴である。

平面形態は、ほぼ正方形を呈し、法量（現存長）は 0.73m × 0.80m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

S017（芋穴）

H2 グリッドに位置する芋穴である。

平面形態は楕円形を呈し、法量は 0.55m × 0.75m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

S018（芋穴）

H3 グリッドに位置し、一部が調査区外に位置している芋穴である。

平面形態は不明で、法量（現存長）は 0.65m × 0.55m、遺構検出面からの深さ 16cm を測る。

S019（土壙）

H4 グリッドに位置する土壙である。

平面形態は楕円形を呈し、法量は 0.6m × 0.9m、遺構検出面からの深さ 35cm を測る。

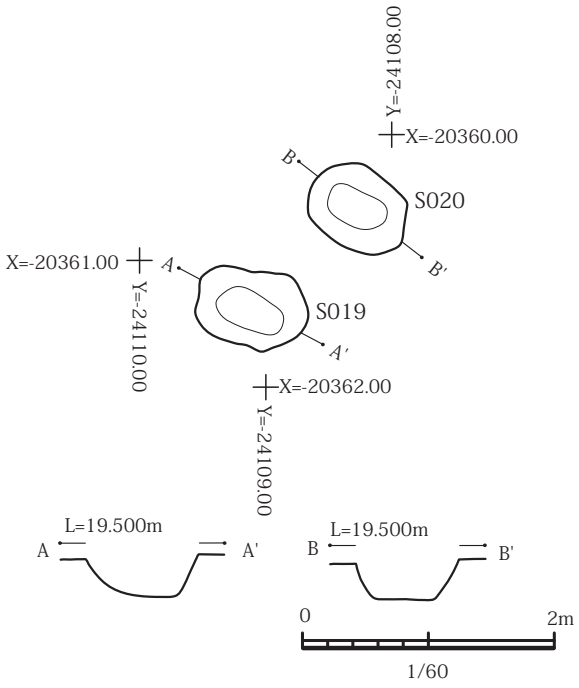


図 18　S019、S020 実測図

S020（土壙）

H4 グリッドに位置する土壙である。

平面形態は楕円形を呈し、法量は 0.65m × 0.85m、遺構検出面からの深さ 35cm を測る。

S021（溝）

G3、F4 グリッドに位置し、撹乱土壙により切られている溝である。

北西から南東に走向し、法量は長さ 8.6m、幅 0.8m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

土器は、土師器の須恵器模倣坏 1 点（RP4）を図示した。

S022（溝）

F4 及び G3 グリッドに位置し、両端を撹乱土壙により切られ、中位を S022-1（溝）に切られている溝である。

北西から南東方向に走向し、法量は全長 12.8m、幅 2.6m、遺構検出面からの深さ 80cm を測る。

土器は、須恵器の壺 1 点（RP5）、甕 1 点（RP6）、

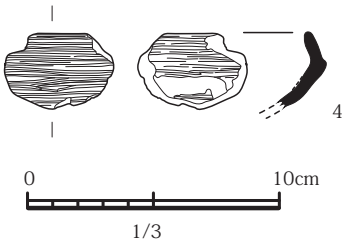


図 19　S021 出土土器（RP）実測図

合計 2 点を図示した。

S022-1（溝）

G3 グリッドに位置し、S022（溝）を切っている溝である。

北西から南東に走向し、法量は全長 3.8m、幅 0.65m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

S023（土壙）

L9 グリッド、M9 グリッドに位置する土壙である。

平面形態は不規則な楕円形を呈し、北東部は S024（土壙）に接続している。法量は 5.7m × 2.15m、遺構検出面からの深さ 60cm を測る。

S024（土壙）

M10、M11 グリッドに位置し、調査区外のため南東部が未検出の土壙である。

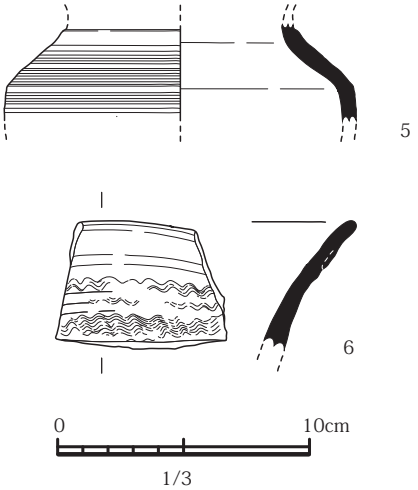


図 20　S022 出土土器（RP）実測図

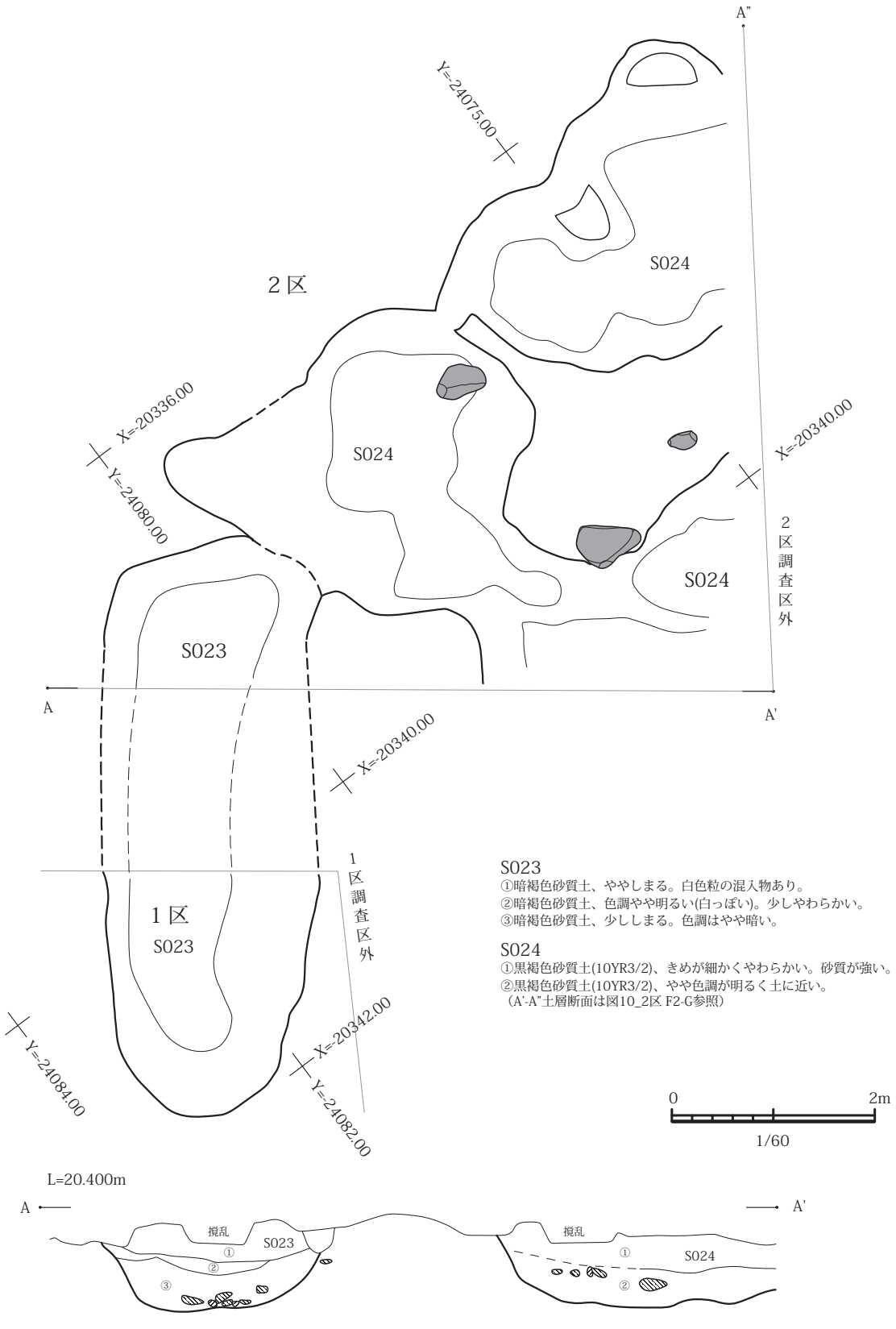


図 21　S023、S024 実測図

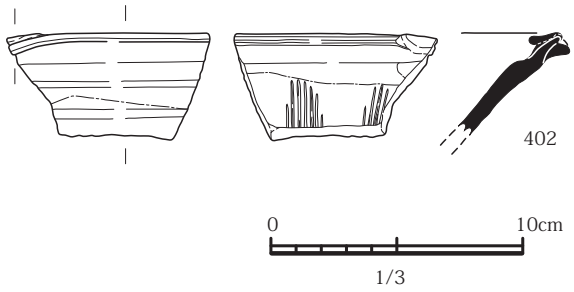


図 22　S024 出土土器（RP）実測図

平面形態は複数の土壙が連続する不定型な形状を呈し、南西部は S023 土壙と接続している。法量は 5.9m × 5.9m、遺構検出面からの深さ 70cm を測る。

須恵器の擂鉢 1 点（RP402）を図示した。

S025（土壙）

C3 グリッドに位置し、北西部を撹乱により切られている土壙である。

平面形態は円形を呈し、法量（現存長）は 0.4m × 1.3m、遺構検出面からの深さ 15cm を測る。

S026（道路）

L8 及び L9 グリッドに位置し、S040（竪穴住居）を切り、撹乱土壙により切られている道路である。

北東から南西に走向し、法量は長さ 7.2m × 幅 0.7m、遺構検出面からの高さ 3cm を測る。

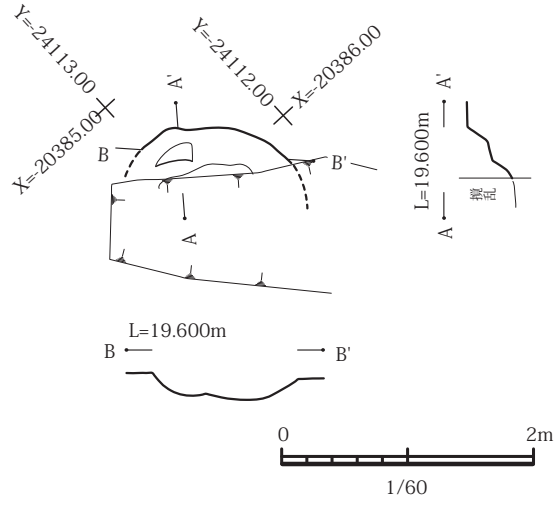


図 23　S025 実測図

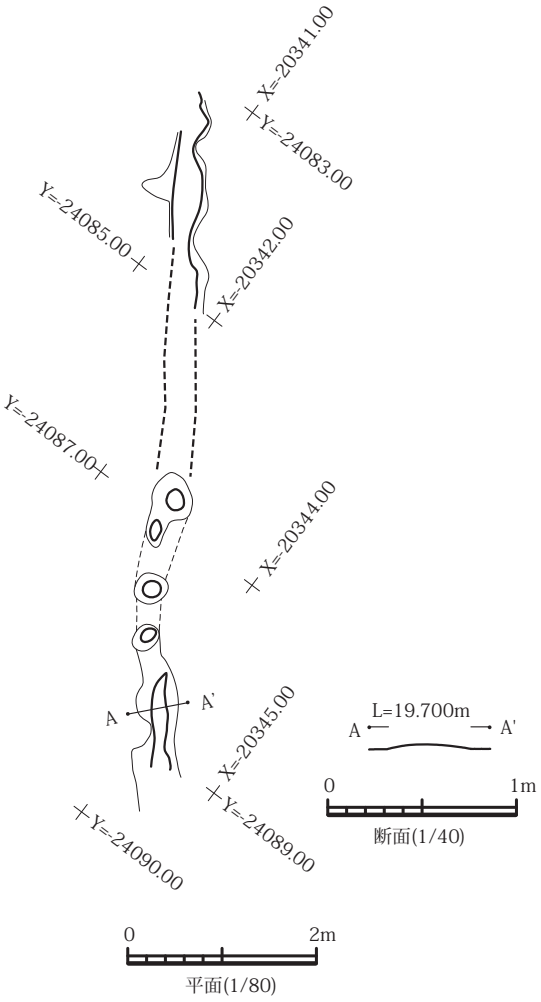


図 24　S026 実測図

S027（芋穴）

D4 グリッドに位置する芋穴である。

平面形態は円形を呈し、法量は 0.70m × 0.75m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

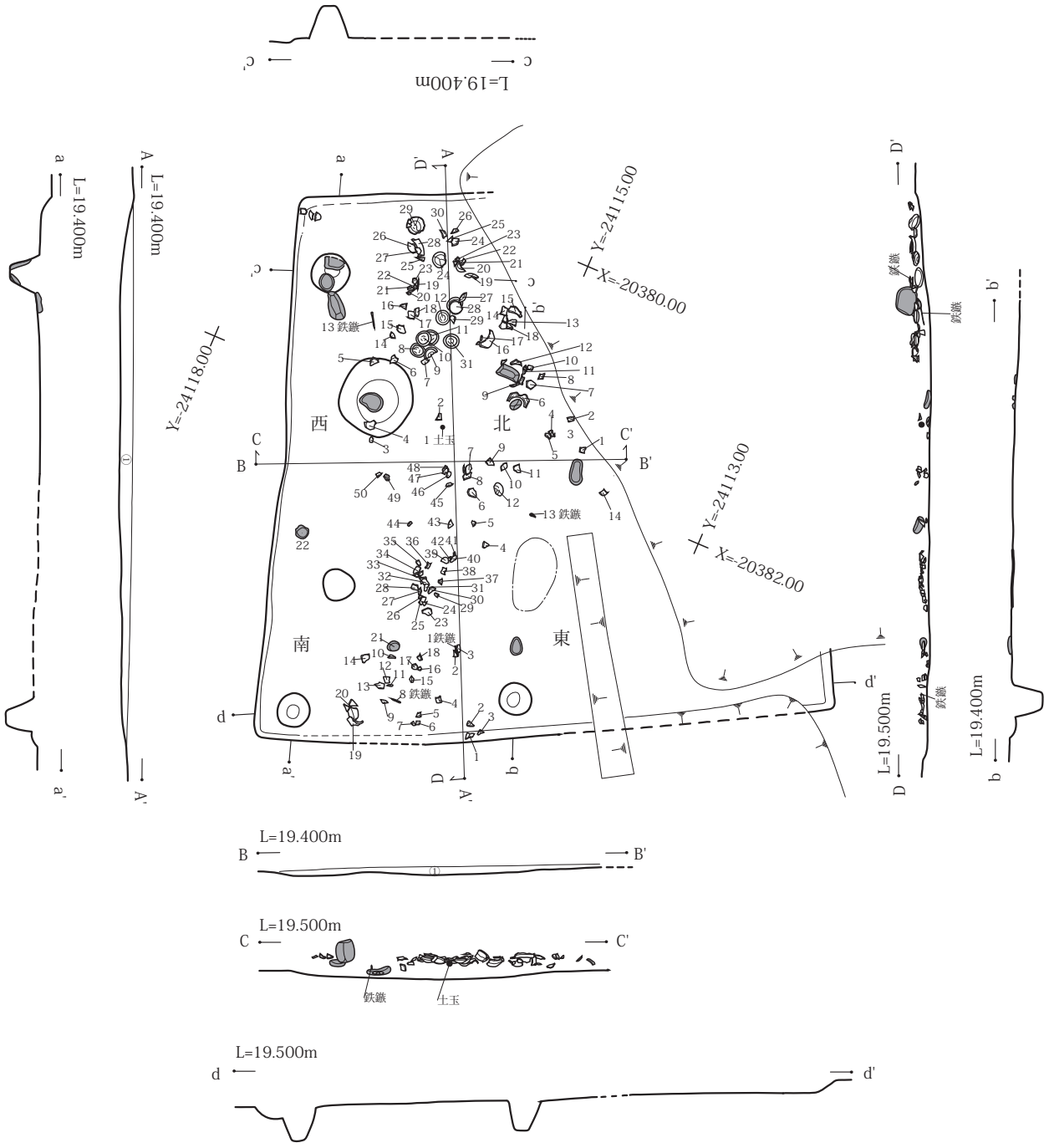
S028（竪穴住居）

D2 グリッドに位置し、撹乱土壙に切られた竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、主柱穴 3 基が検出され、硬化面が形成されている。

法量は、5.5m × 5.2m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

主柱穴は、3 基が確認され、直径は 30cm、深さは 25cm ～ 35cm を測る。北西主柱穴底部には礎石が据え置かれており、砂が混入していた。



S028
①黒褐色砂質土(10YR3/2)、やわらかくサラサラしている。
遺物は、東西南北のブロック別に取り上げ。

図 25　S028 遺構実測図

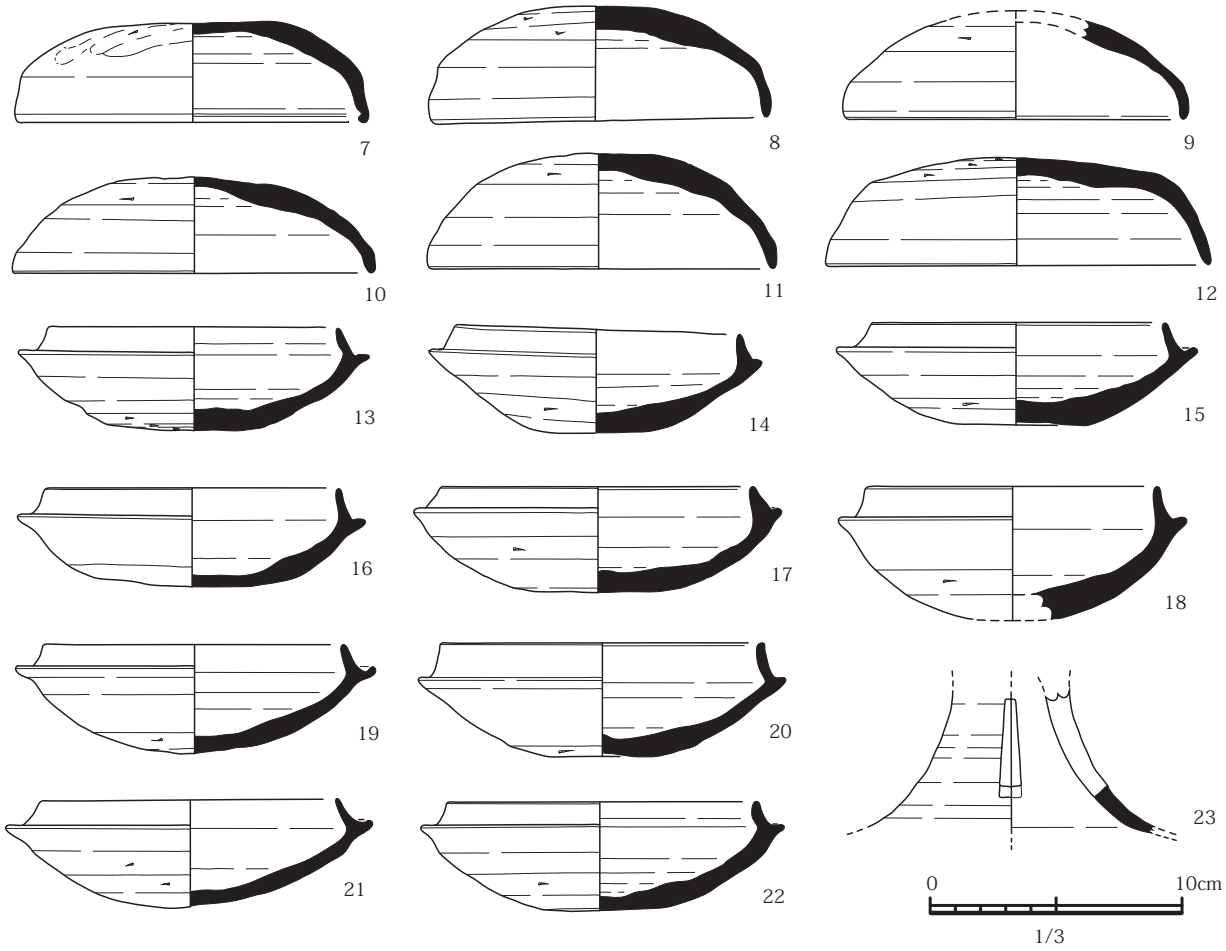


図 26　S028 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

硬化面は、南東主柱穴付近に 0.7m × 0.4m の楕円形を呈するものが検出された。

住居の北西部には直径 0.7m、深さ 7cm のボウル状に掘りくぼめられたピットが検出された。焼土等は検出されていないため、炉とは判断していない。

土器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、須恵器の蓋 6 点（RP7 ～ 12）、坏 10 点（RP13 ～ 22）、高坏 1 点（RP23）、土師器の高坏 1 点（RP25）、甕 31 点（RP26 ～ 56）、土製品の土玉 1 点（RP24）、合計 50 点を図示した。Ⅱ群は、須恵器の蓋 2 点（RP57、58）、高坏 4 点（RP59 ～ 62）、提瓶 1 点（RP63）、土師器の坏 1 点（RP66）、須恵器模倣坏 2 点（RP64、65）、甕 18 点（RP67 ～ 84）、甑 1 点（RP85）、土製品の移動式竈 1 点（RP86）、合計 30 点を図示した。

石器は、台石 1 点（RQ3）、磨石 1 点（RQ2）、敲石 1 点（RQ1）、合計 3 点を図示した。

鉄器は、鉄鏃 5 点（RM1、2、4 ～ 6）、不明 1 点（RM3）、刀子 1 点（RM7）、合計 7 点を図示した。

RM1 は、長さ 15.1cm、幅 0.7cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 8.6g を量る、端片刃箭式長茎鏃である。RM2 は、長さ 8.3cm、幅 0.5cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 11.5g を量る、関無片刃丸造（棘篦被）鑿箭式長茎鏃である。RM3 は、長さ 8.5cm、幅 0.5cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 6.0g を量る、長茎鏃の茎である。RM4 は、長さ 7.0cm、幅 2.6cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 10.8g を量る、方刀広根斧箭式有茎鏃である。RM5 は、長さ 3.5cm、幅 3.4cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 3.0g を量る、変形広根定角式有茎鏃である。RM6 は、端部に環をそなえた棒状鉄片である。環の孔はパンチングされたように滑らかで、棒部は断面正方形を呈した不明品である。RM7 は、長さ 10.3cm、幅 1.4cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 9.7g を量る、刀

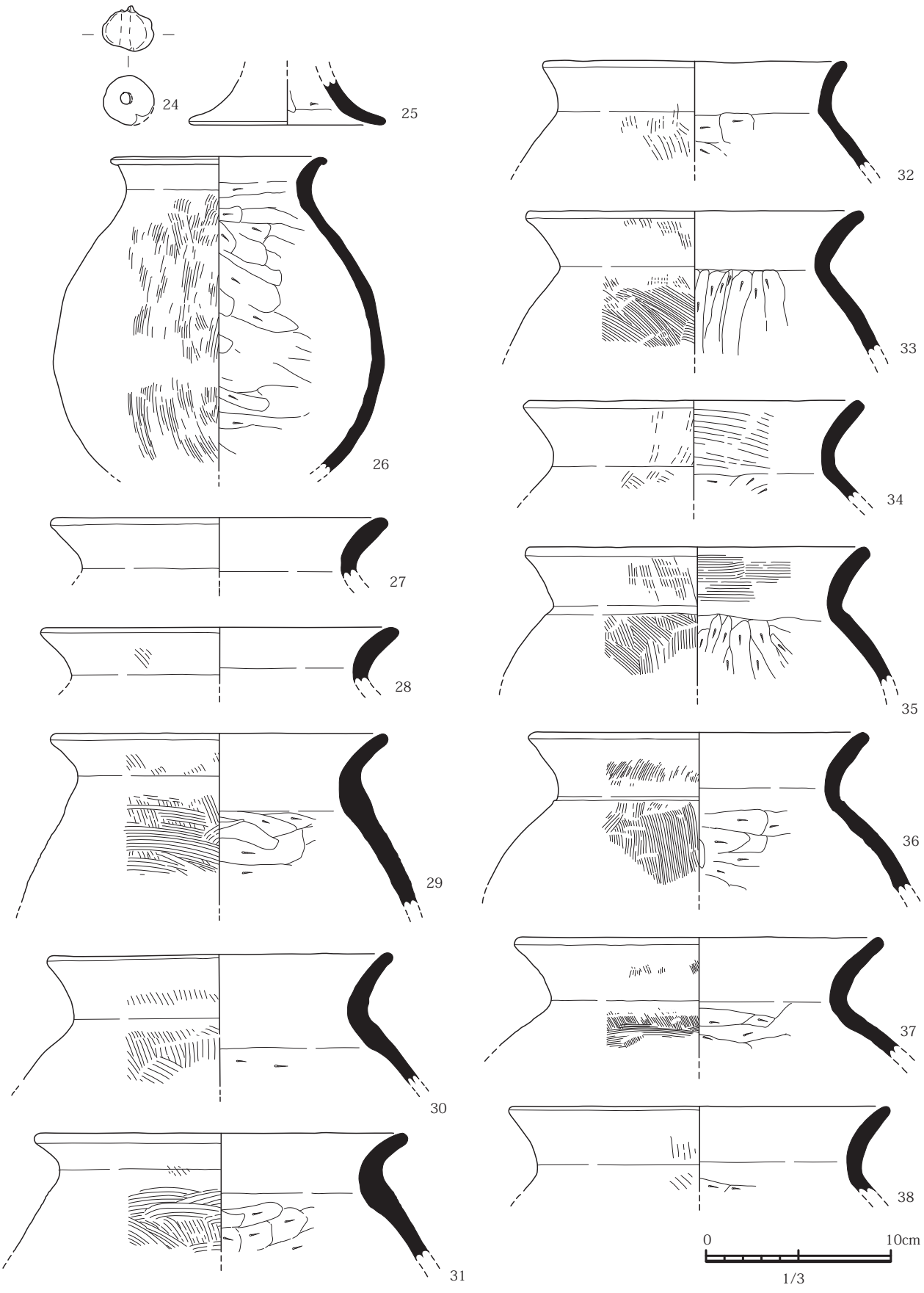


図 27　S028 出土土器（RP）実測図（ I 群）

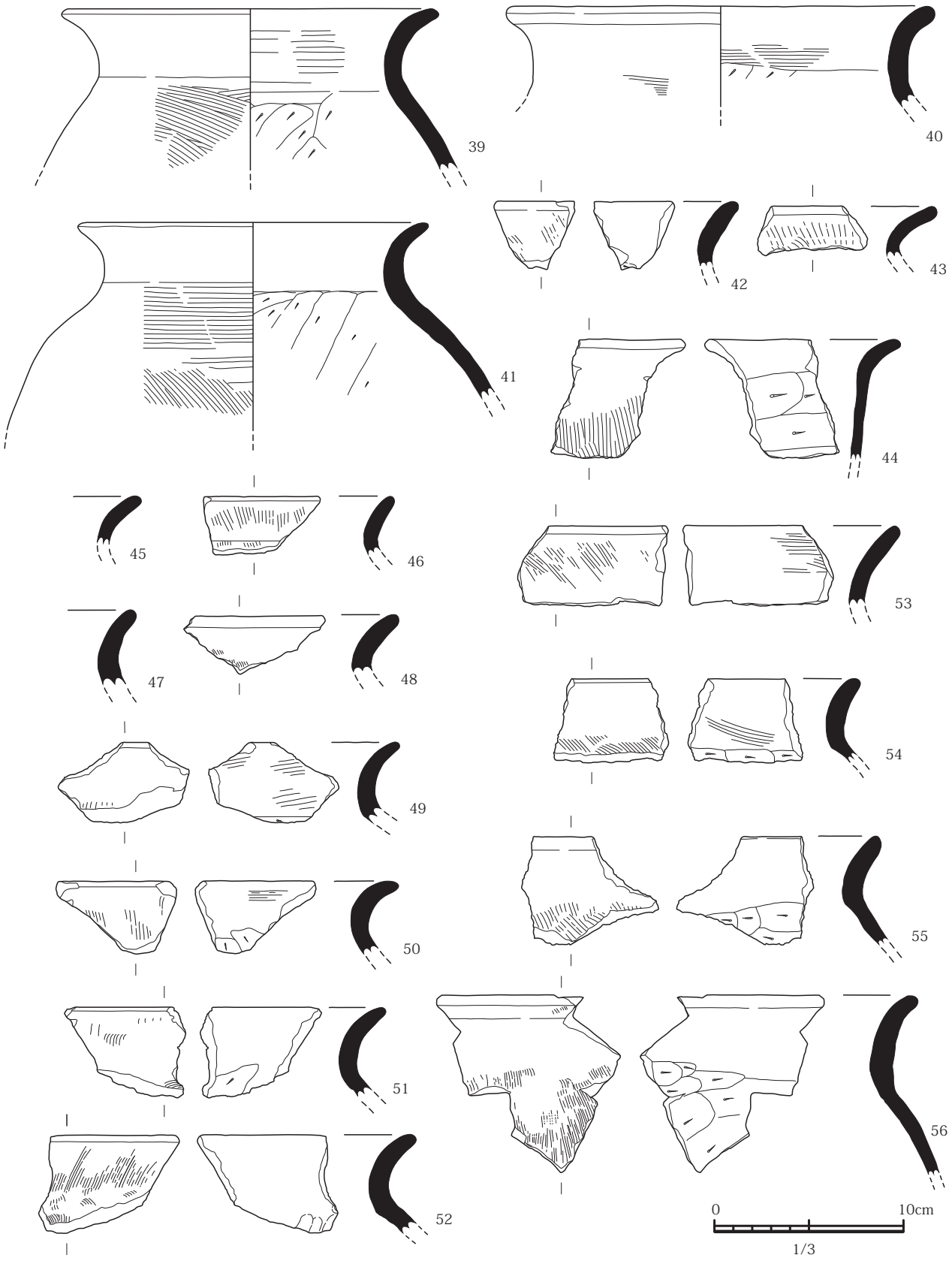


図 28　S028 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

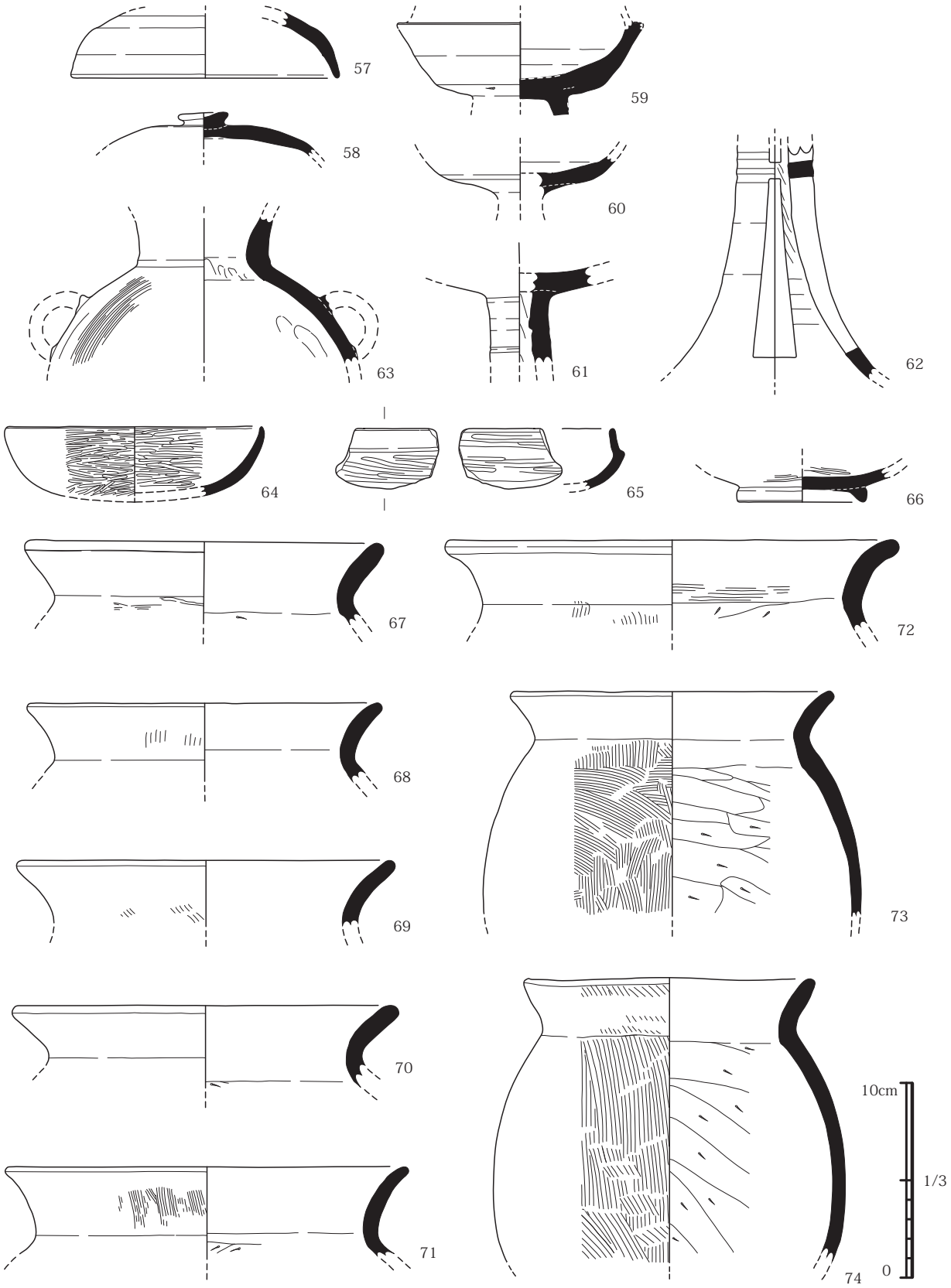


図 29　S028 出土土器（RP）実測図（II 群）

図 30　S028 出土土器（RP）実測図（II 群）

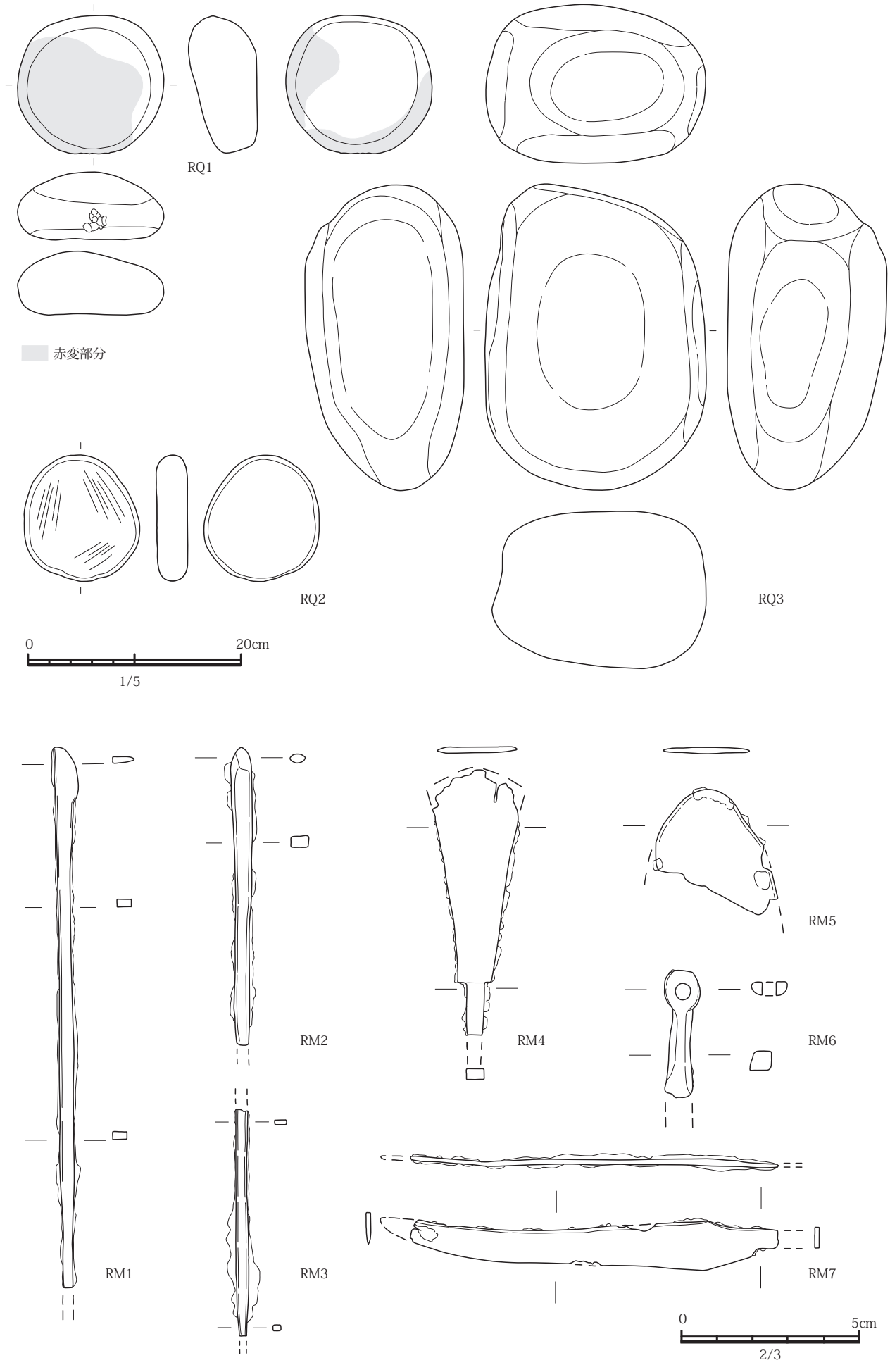


図 31　S028 出土遺物（RQ、RM）実測図

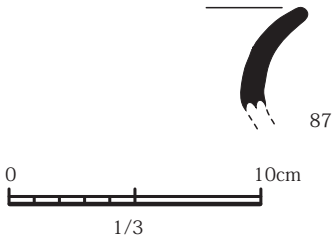


図 32　S029 出土土器（RP）実測図

子である。なで関をそなえ、棟は凹彎した棟の反り具合から、刃先は上方に返るものと推定できる。茎部は欠損している。

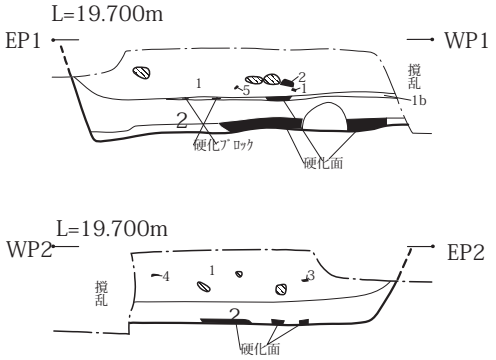
S029（竪穴住居）

８月２４日付け調査日誌に「プラン確認作業」を実施した「住居」であり、9月４日付け調査日誌には「硬化面の確認作業」がなされた記録がある遺構である。しかし、図面による記録を確認できない。

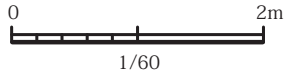
土器は、土師器の甕１点（RP87）を図示した。

S030（硬化面）

８月２３日、２５日、９月１７日付け調査日誌に記録された硬化面である。実測図は断面図のみが記録され平面図を欠いているため、その位置、形態、規模等、



1；黒褐色砂質土(10YR2/3)、少しカーボンを含む。
1b；暗褐色砂質土(10YR3/3)
2；黒褐色砂質土(10YR2/2)、1層よりやや暗い。



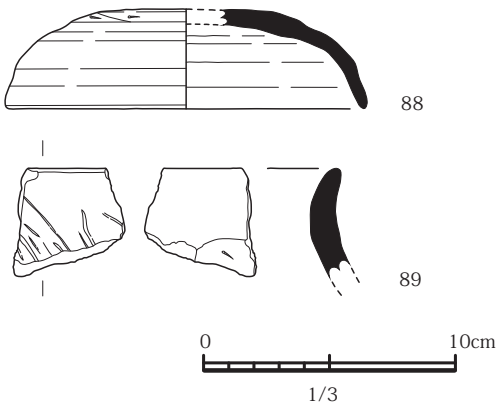
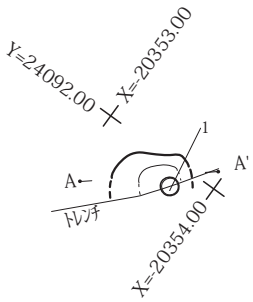
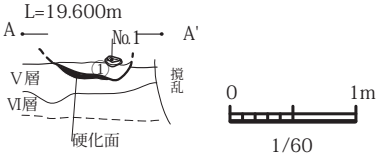


図 33　S030 土層断面及び出土土器（RP）実測図





S031
①暗褐色土
Ⅴ層；黒褐色土(10YR2/2)粘質性なし。
Ⅵ層；褐色土、やや砂質。Ⅴ層より砂質が強い。

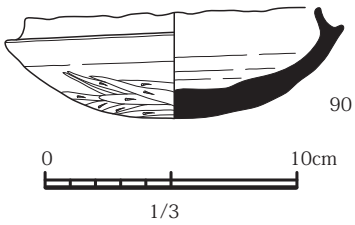


図 34　S031 遺構及び出土土器（RP）実測図

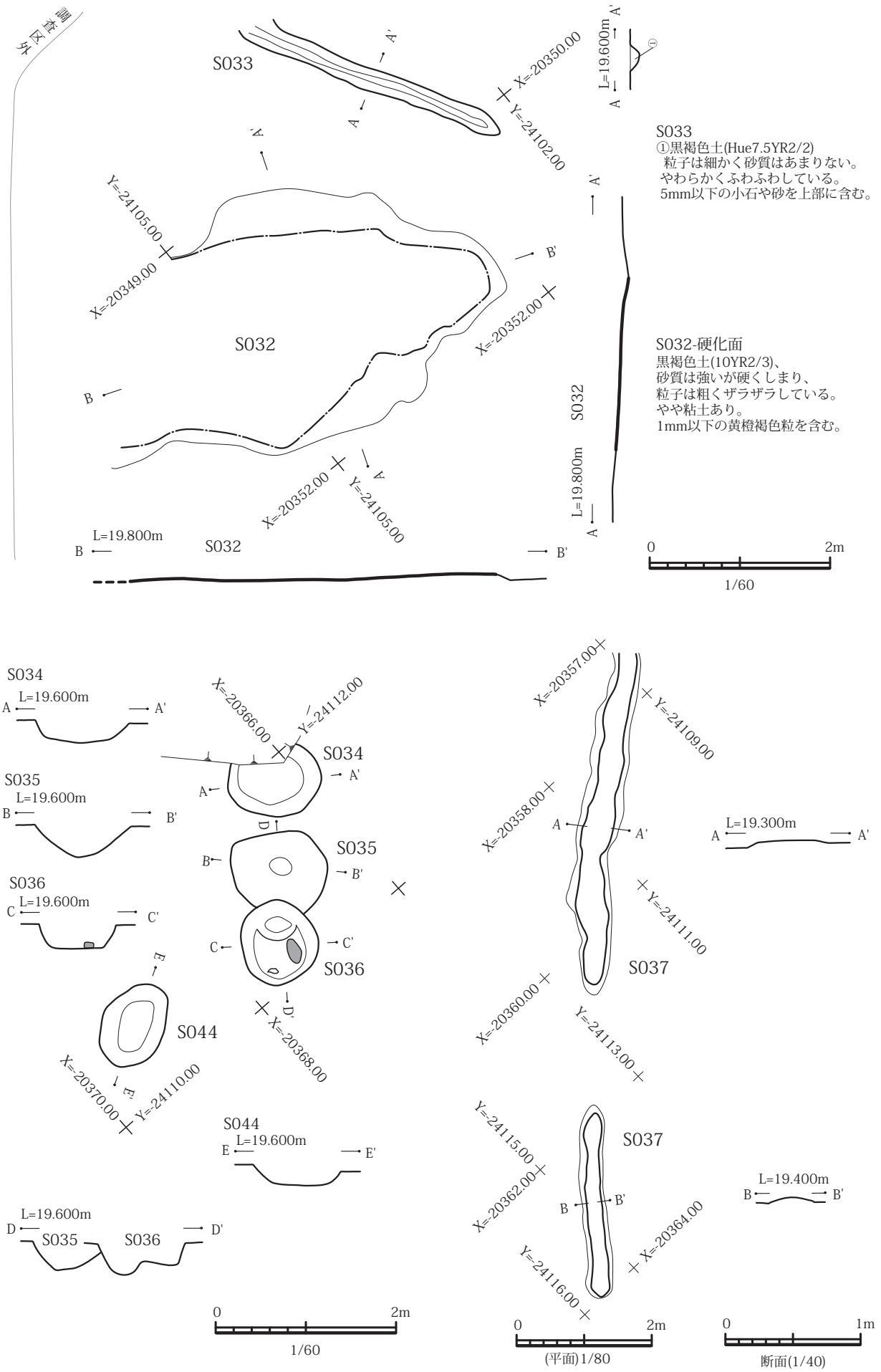


図 35　S032 ～ S037、S044 実測図

詳細は不明である。

硬化面は、遺構検出面からの深さ 65cm の位置で検出された。

土器は、須恵器の蓋 1 点（RP88）、土師器の甕 1 点（RP89）、合計 2 点を図示した。

S031（土壙）

J7 グリッドに位置し、南西部が撹乱により切られている土壙である。

平面形態は不明で、法量は現存長で、0.6m × 0.3m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

実測可能な土器は、須恵器の坏（RP90）が出土している。

S032（道路）

J5 グリッドに位置し、北西部分は調査区外に位置する道路である。

北西から南東へ走向し、法量（現存長）は全長 4.8m、幅 2.9m、遺構検出面からの高さ 3cm を測り、全体に硬化面が発達している。

S033（溝）

J5 グリッドに位置し、北端は調査区外に位置する溝である。

北西から南東に走向し、法量は全長 3.1m、幅 0.3m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

S034（芋穴）

G3 グリッドに位置し、撹乱土壙により切られている芋穴である。

平面形態は円形を呈し、法量（現存長）は 1.10m × 0.80m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

S035（芋穴）

G3 グリッドに位置し、S036（芋穴）に切られている芋穴である。

平面形態は円形を呈し、法量は 1.10m × 0.90m、遺構検出面からの深さ 35cm を測る。

S036（芋穴）

G3 グリッドに位置し、S035（芋穴）を切っている芋穴である。

平面形態は円形を呈し、法量は 0.85m × 0.90m、遺構検出面からの深さ 35cm を測る。

S037（道路）

H3、I3 及び I4 グリッドに位置し、両端が撹乱土壙により切られている道路である。

北東から南西に走向し、法量（現存長）は、北東部分では長さ 2.8m、幅 0.4m、高さ 8cm、南西部分では長さ 5.1m、幅 0.68 m、高さ 8cm を測り、全長 9.5m となる。

S038（竪穴住居）

E2 グリッドに位置し、南西部は調査区外に位置する竪穴住居である。

平面形態は正方形を呈し、2 × 2 の 4 本柱建て、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。

法量は、5.0m × 4.7m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

主柱穴は、2 × 2 の 4 基が確認され、南に片寄った配置である。主柱穴の直径は 25cm ～ 45cm、深さは 15cm ～ 25cm を測る。3 基の主柱穴の底部に礎石が確認された。

竈は、北東壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却され、袖部分のみが残存していた。その法量（現存長）は、幅 100cm、奥行 65cm、高さ 15cm を測る。焚出口には土器片が凝集し、竈の左手前には礫が凝集していた。煙道は検出されなかった。

硬化面は、主柱穴に囲まれた内陣の範囲内に形成されている。その範囲は、3.45m × 2.5m を測る。

土器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、須恵器の坏 9 点（RP91 ～ 99）、高坏 1 点（RP100）、皿 1 点（RP101）、鉢 1 点（RP102）、瓶 2 点（RP103、104）、提瓶 1 点（RP105）、甕 1 点（RP106）、土師器の坏 2 点（RP113、114）、須恵器模倣坏 6 点（RP107 ～ 112）、高坏 5 点（RP117 ～ 121）、鉢 1 点（RP122）、壺 1 点（RP115）、甕 19 点（RP116、123 ～ 140）、甑 5 点（RP141

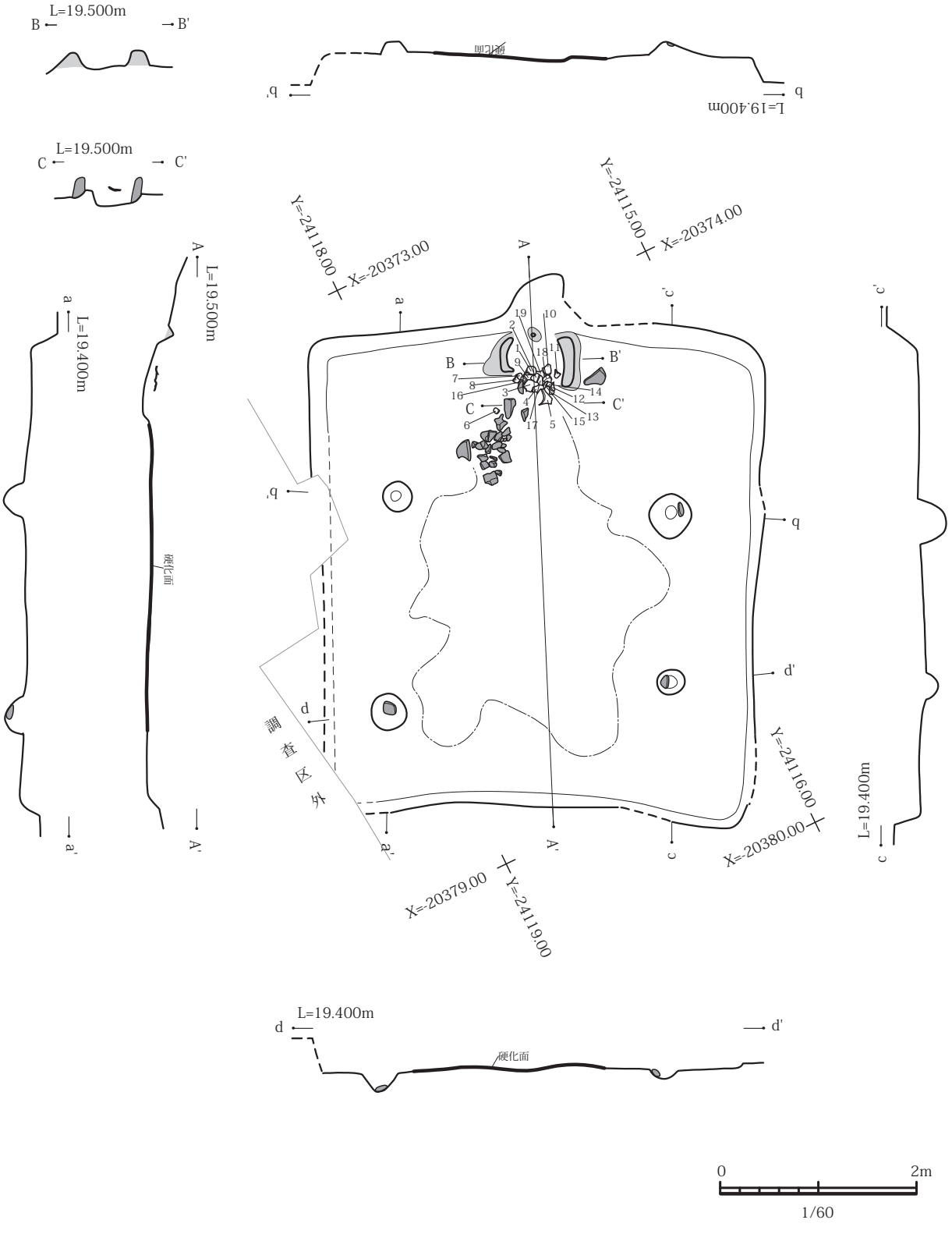


図 36　S038 遺構実測図

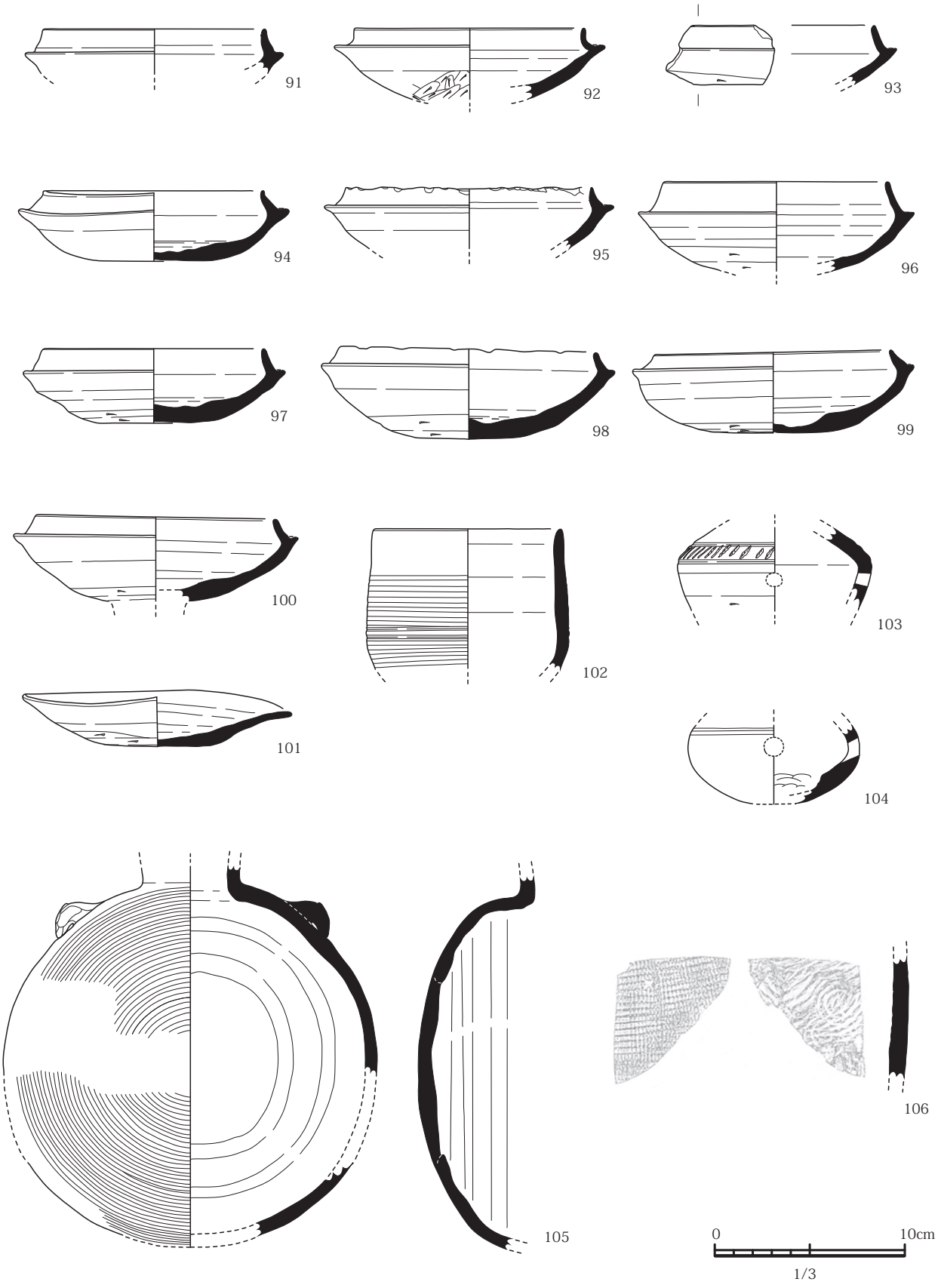


図 37　S038 出土土器（RP）実測図（ I 群）

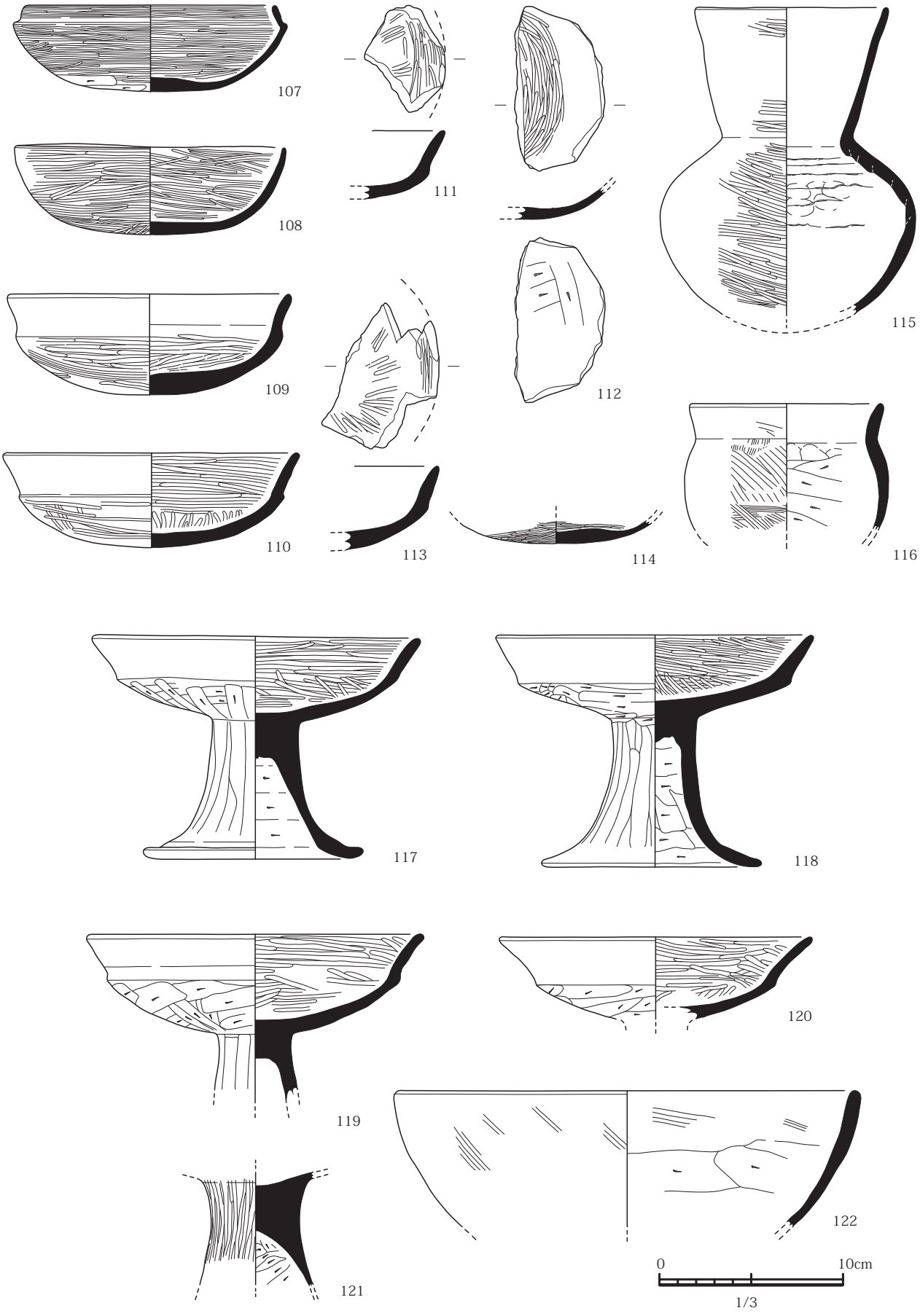


図 38　S038 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

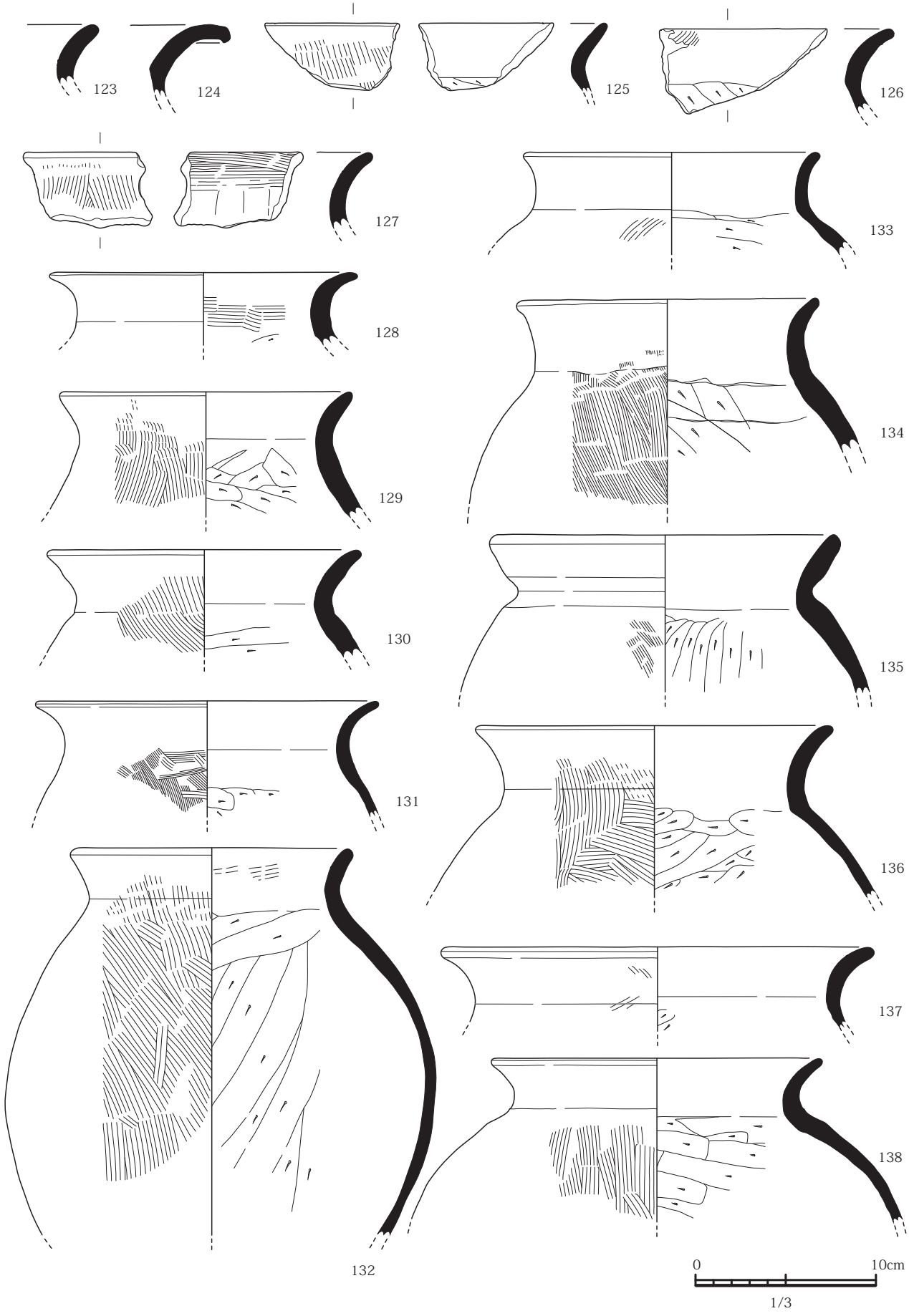


図 39　S038 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

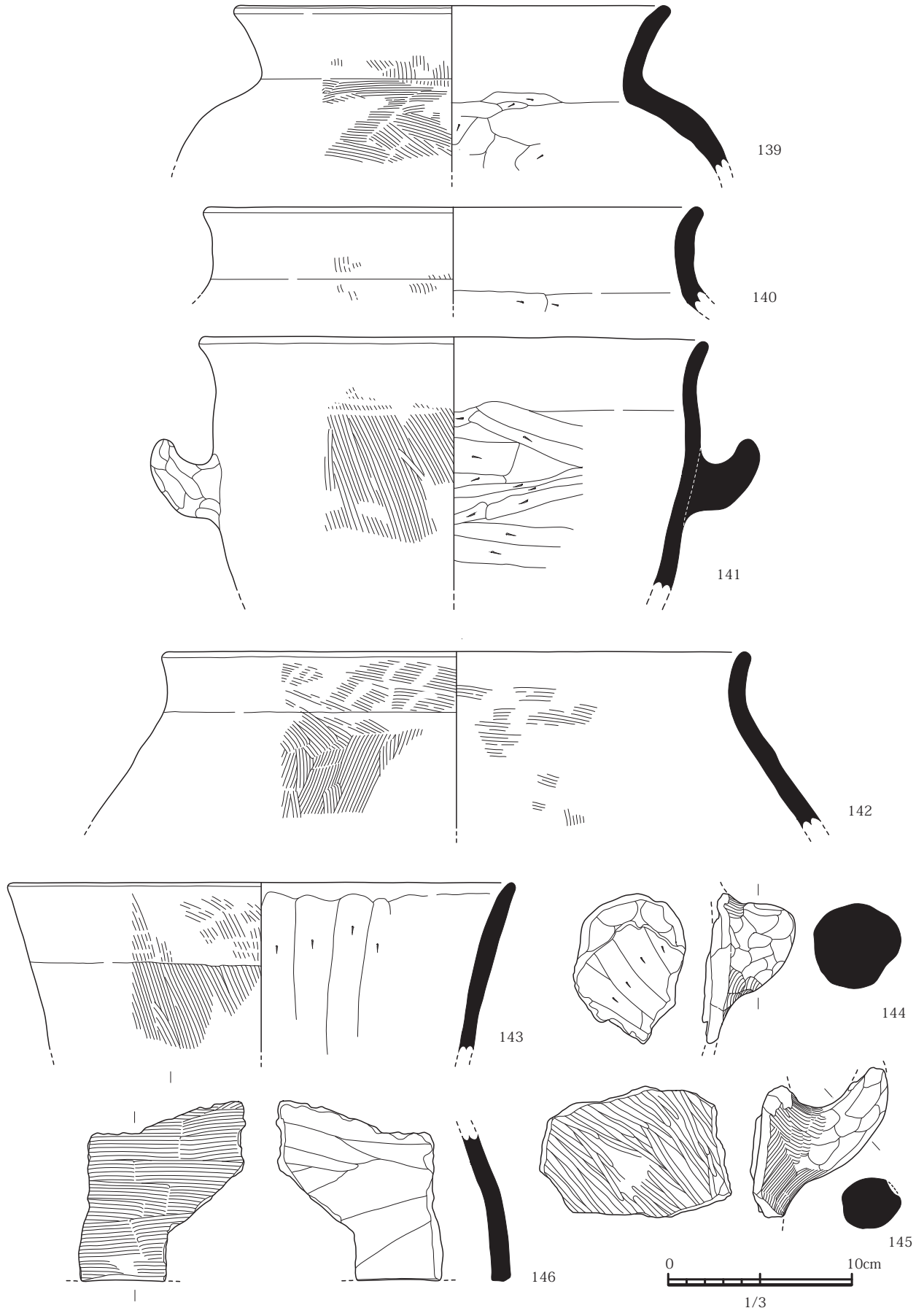


図 40　S038 出土土器（RP）実測図（ I 群）

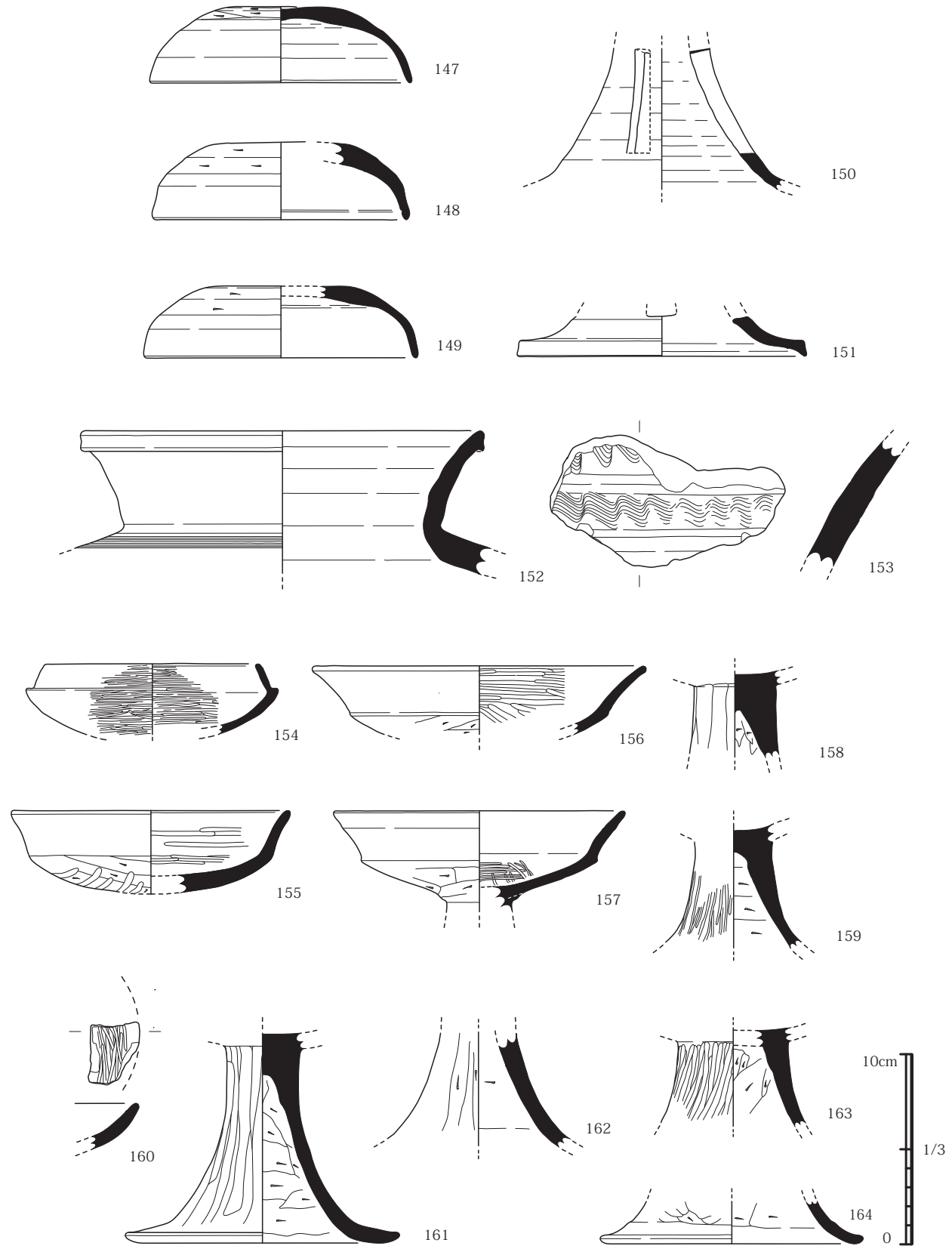


図 41　S038 出土土器（RP）実測図（II 群）

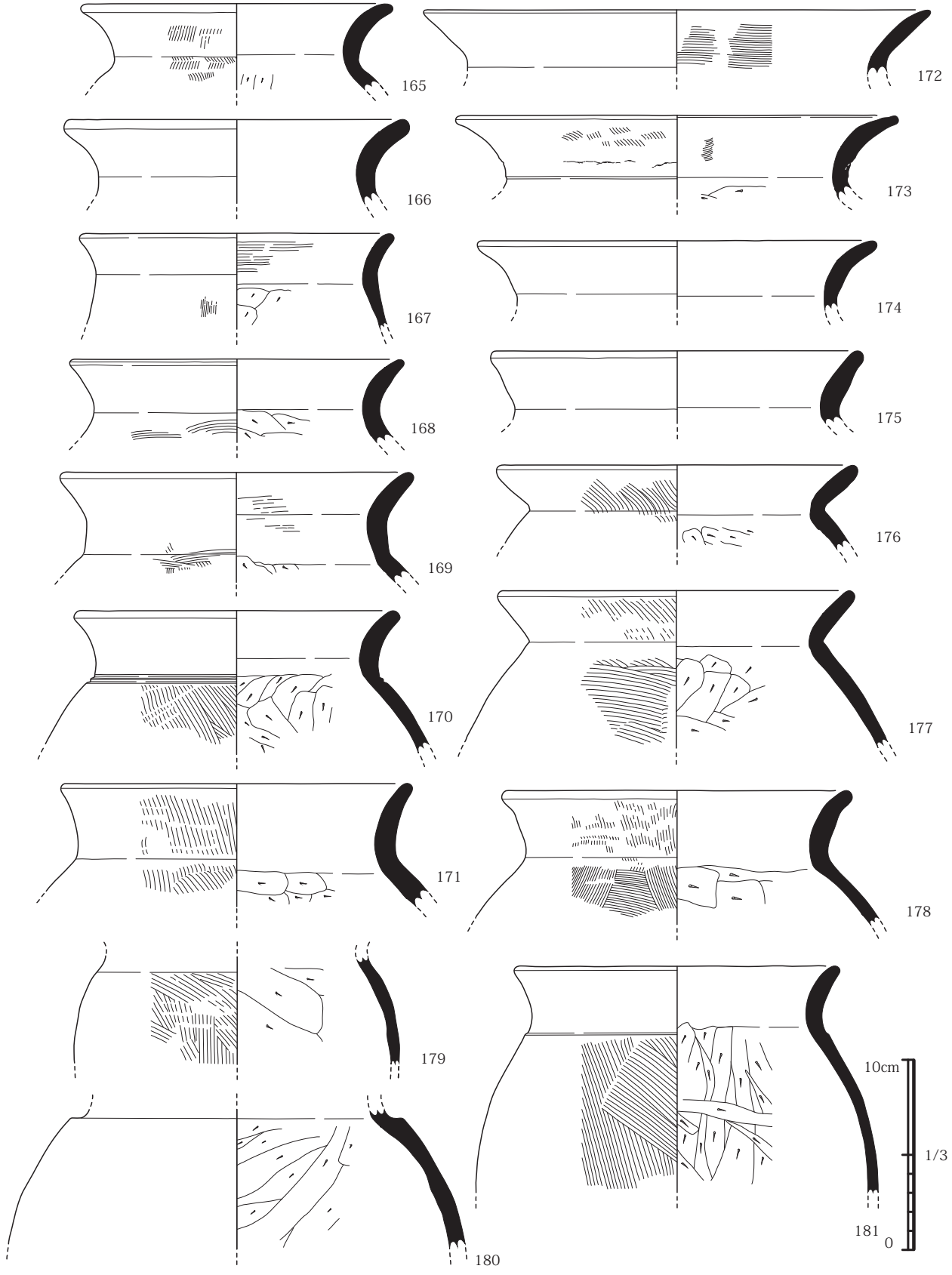


図 42　S038 出土土器（RP）実測図（II 群）

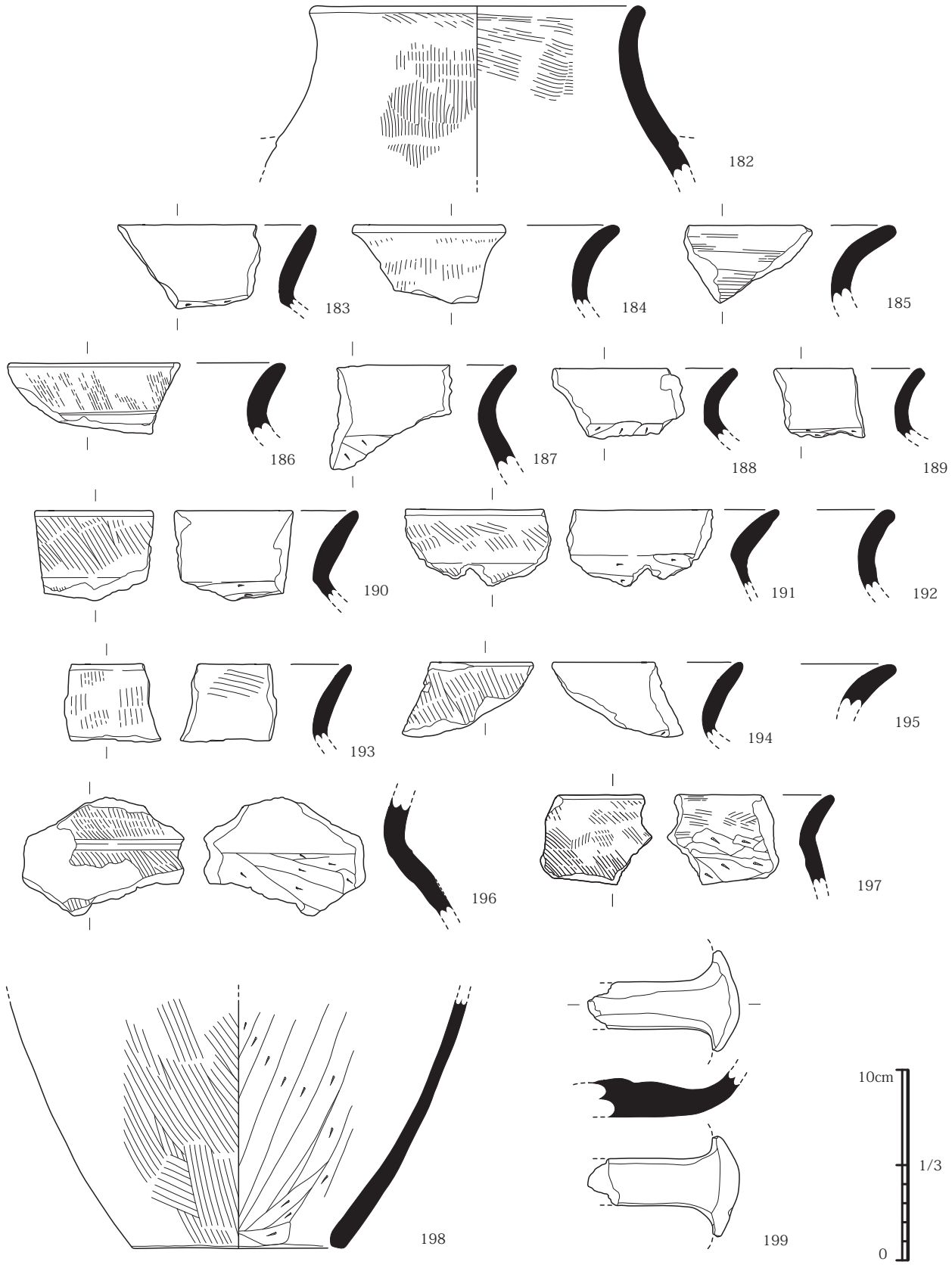


図 43　S038 出土土器（RP）実測図（II 群）

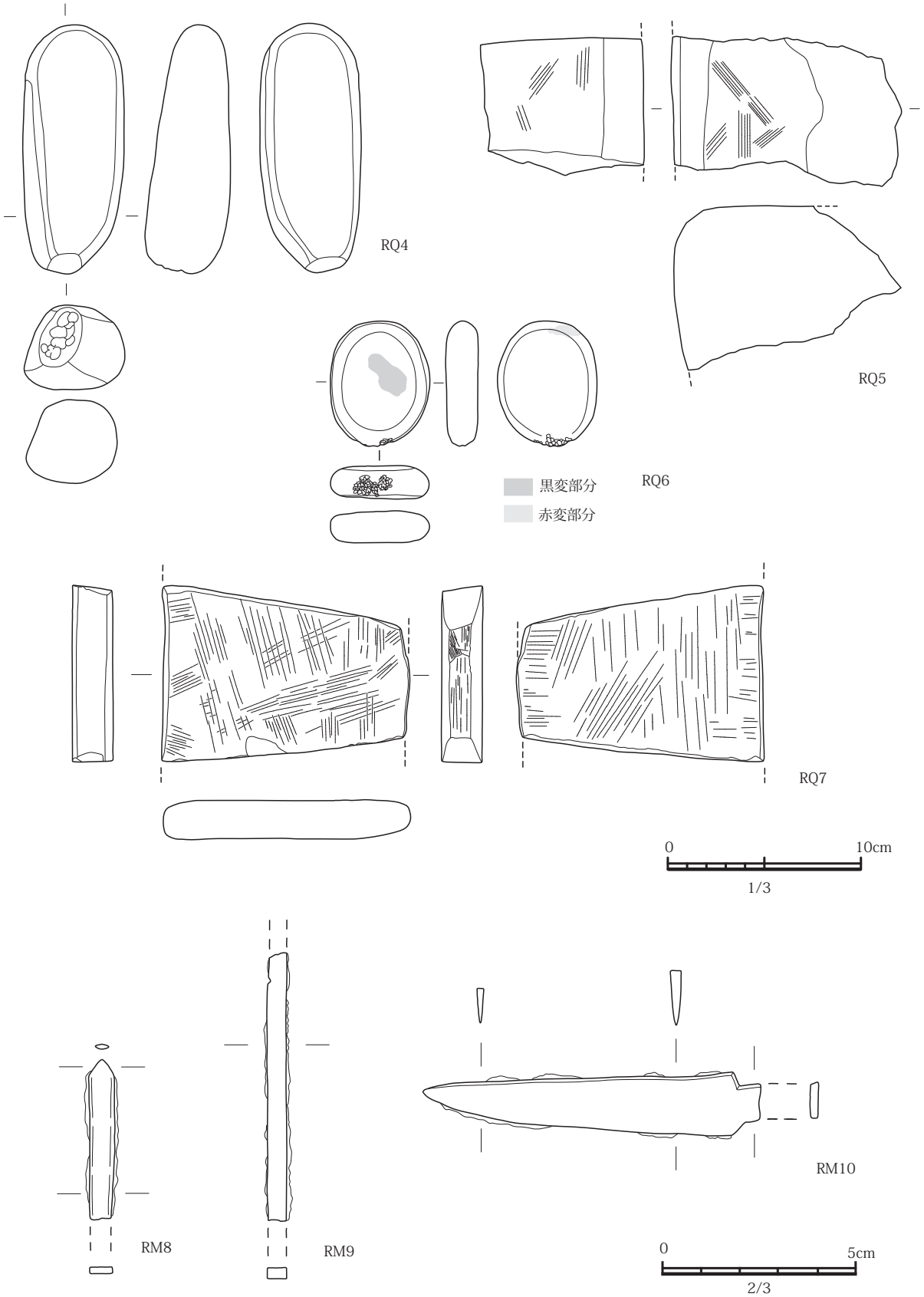


図 44　S038 出土遺物（RQ、RM）実測図

図 45　S038 遺物出土状況実測図（Ⅰ群）

図 46　S038 遺物出土状況実測図（II 群）

図 47　S040 遺構実測図

～ 145)、土製品の移動式竈 1 点（RP146)、合計 56 点を図示した。Ⅱ群は、須恵器の蓋 3 点（RP147 ～ 149)、高坏 2 点（RP150、151)、甕 2 点（RP152、153)、土師器の坏 1 点（RP155)、須恵器模倣坏 1 点（RP154)、高坏 9 点（RP156 ～ 164)、甕 32 点（RP165 ～ 181、183 ～ 197)、 甑 3 点（RP182、198、199)、合計 53 点を図示した。

石器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、敲石 1 点(RQ4)、砥石 1 点（RQ7)、合計 2 点を図示した。Ⅱ群は、石皿 1 点(RQ5)、磨石 1 点(RQ6)、合計 2 点を図示した。

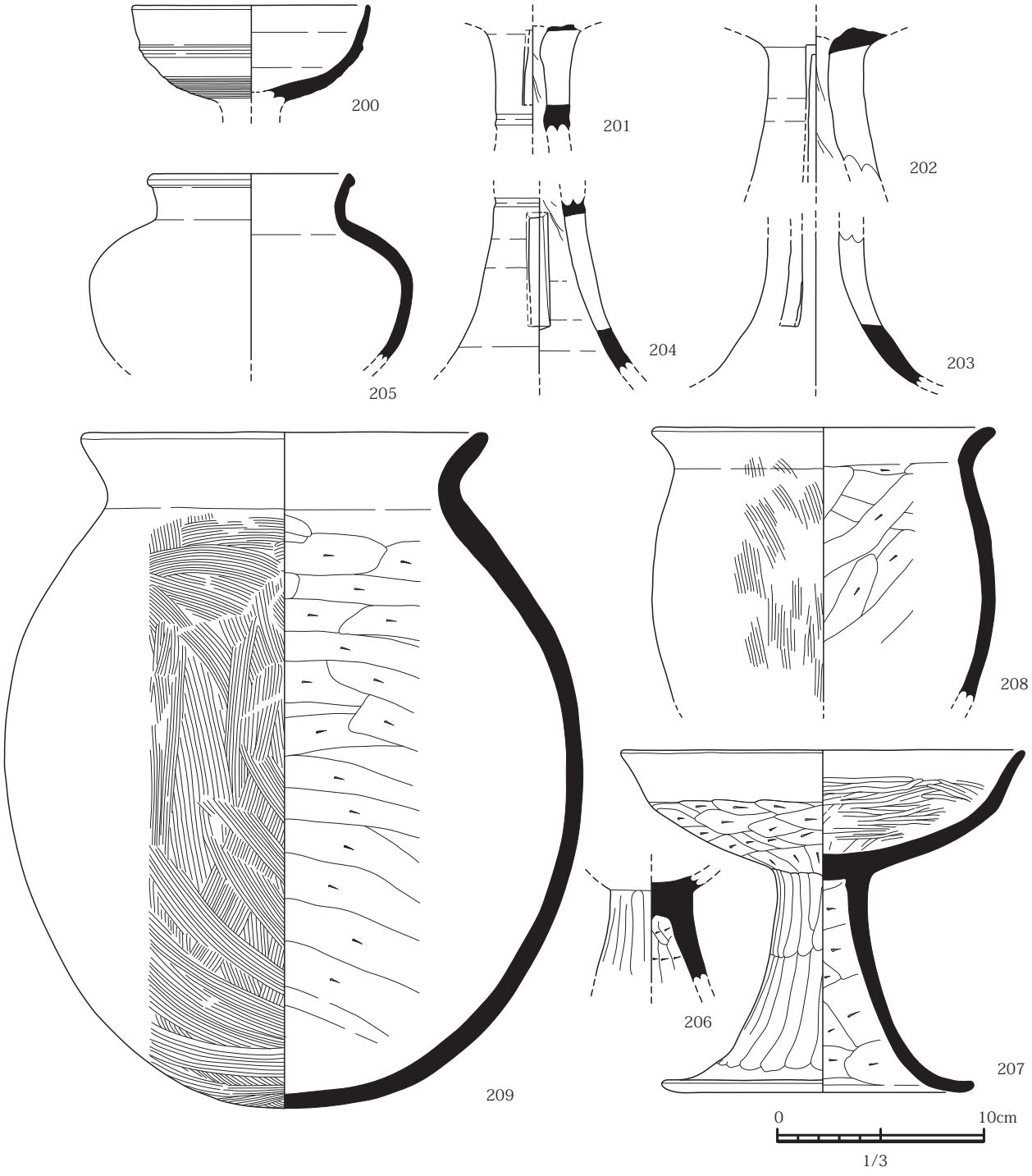


図 48　S040 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

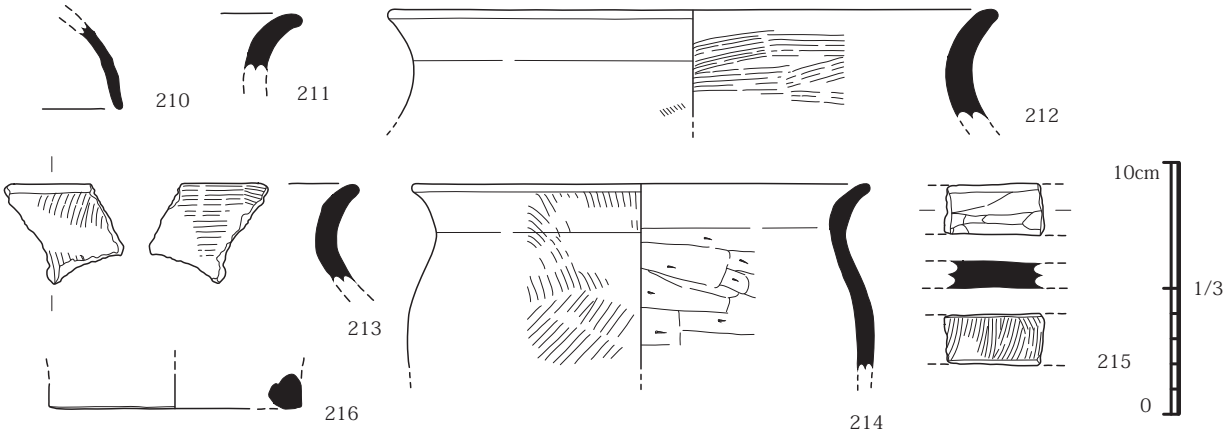


図 49　S040 出土土器（RP）実測図（Ⅱ群）

鉄器は、2 群で構成される。I 群は刀子 1 点（RM10）、合計 1 点を図示した。Ⅱ群は鉄鏃 1 点（RM8）、棒状鉄器 1 点（RM9）、合計 2 点を図示した。

RM8、9 は、鉄製の棒である。RM8 は端刃棘箆被鑿箭式有茎鏃の刃部である可能性があるが出土層位、形態とも決め手を欠く。RM9 は、不明である。RM10 は、長さ 8.7cm、幅 1.5cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 3.4g を量る、刀子である。棟関は斜関、刃関は角関となった両関をそなえ、棟が鋒付近で刃部側に折れて諸刃状を呈している。茎部は欠損している。

S039（畝溝）

2 区で検出された溝の集合体で、畝溝である。

畝溝の法量は、幅 40cm 前後、遺構確認面からの深さ約 20cm である。このことから「畝」の法量（残存長）は幅 90cm 前後、高さ約 20cm となる。

S040（竪穴住居）

K8 グリッドに位置し、住居内中央部に撹乱部分が存在し、北西部は調査区外に位置する竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。主柱穴 1 基を検出した。

法量（現存長）は、5.6m × 5.0m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

主柱穴は、東隅主柱穴 1 基のみを確認した。その法量は直径 21cm、深さ 31cm を測る。他の主柱穴 3 基は撹乱又は調査区外に位置する、と考えることができる。そのため、4 本柱建ての構造をもつ住居である、と考えてよい。

竈は、北東壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却され、左袖部分のみが残存していた。竈奥壁は住居内に収まっており、本来、側壁に切り込ませることなく設置された竈であろう。法量（現存長）は幅 100cm 、奥行 80cm、高さ 22cm を測る。火床中央部には、高坏が割れ倒れた状態で検出された。左袖尖端部及び右袖尖端部の想定位置には円礫各 1 点が

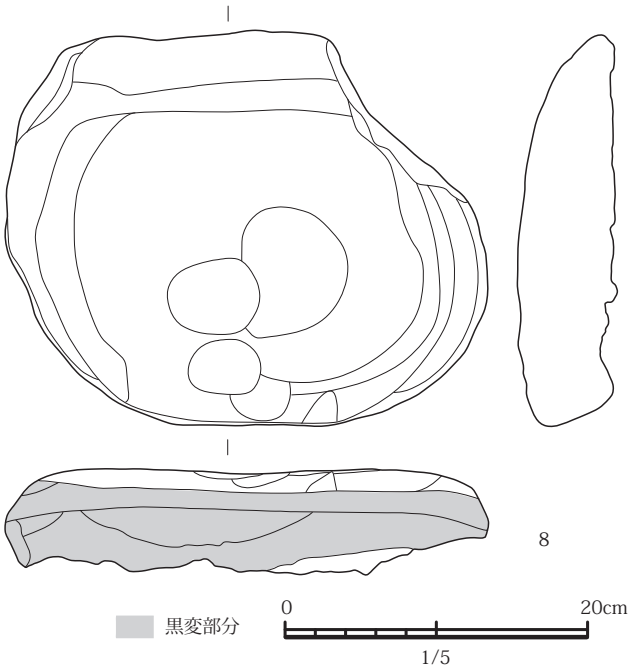


図 50　S040 出土石器（RQ）実測図

図 51　S042 遺構実測図

据え置かれていた。竈の右手前には、角柱状の砂岩3点が埋固め置かれ、竈右袖脇には完形の土師器甕（RP209）が据え置かれていた。煙道は検出されなかった。竈奥壁粘土塊の後背部に存在する切り込み部分が煙道にあたる可能性がある。

竈の火床中央部で検出された高坏について、調査者は支脚に転用された高坏と考えている。しかし、報告者は破却された竈の火床に伏せ置かれた高坏の一例である、と考える。

硬化面は、遺構の中央部、竈の南側に発達している。撹乱によって二面に分割され、破壊されたものと推測される。硬化面全体の法量は 3.8m × 1.2m を測る。

土器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、須恵器の高坏 5 点（RP200 ～ 204）、壺 1 点（RP205）、土師器は、高坏 2 点（RP206、207）、甕 2 点（RP208、209）、合計 10 点を図示した。Ⅱ群は、須恵器の蓋 1 点（RP210）、土師器の甕 4 点（RP211 ～ 214）、甑 2 点（RP215、216）、合計 7 点を図示した。

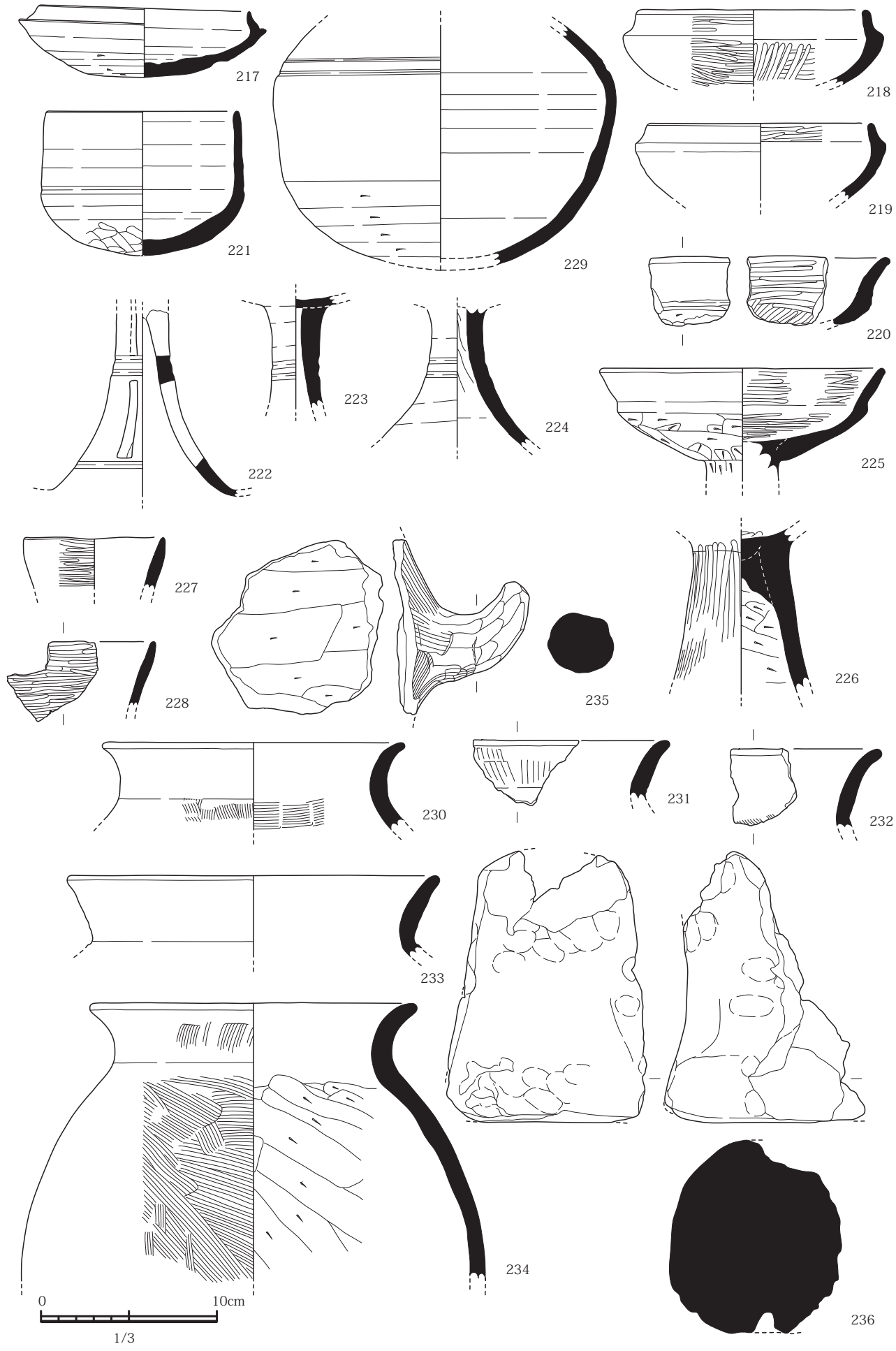


図 52　S042 出土土器（RP）実測図

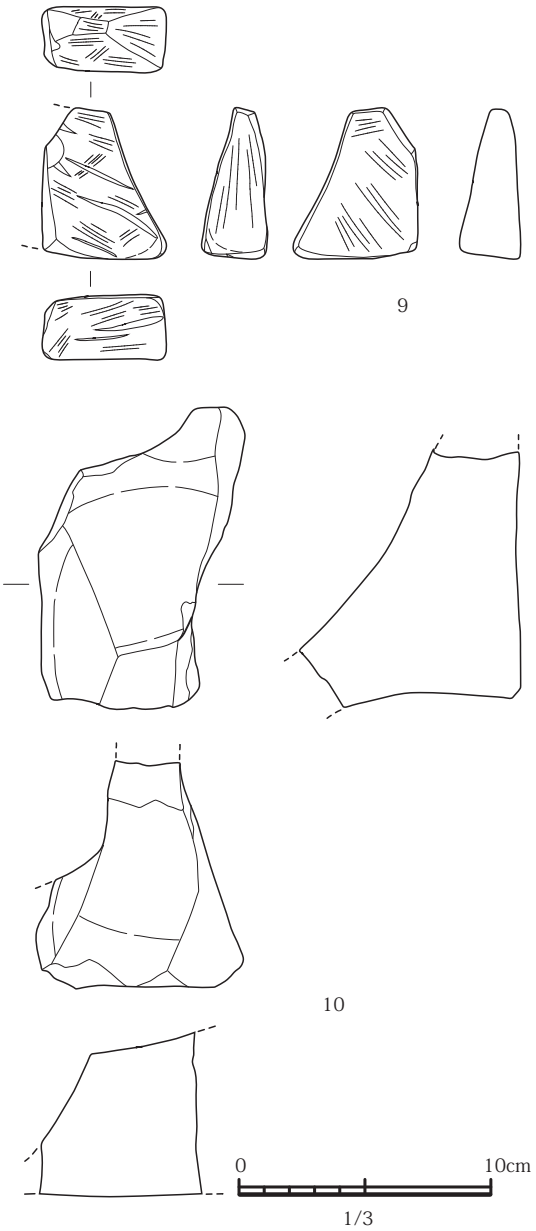


図 53　S042 出土石器（RQ）実測図

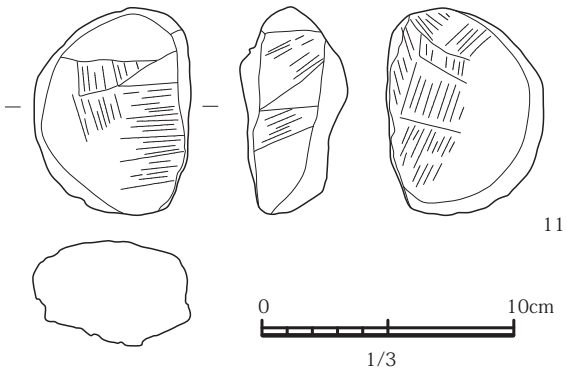


図 54　S043 出土石器（RQ）実測図

石器は、台石 1 点（RQ8）を図示した。

S041（竪穴住居）

10 月 4 日付け調査日誌に「S040 との新旧確認」作業、「立ち上がり確認」作業がなされた「住居（古墳時代後期～終末）」であるが、図面を確認できない。

S041 は、「S040 より低い位置に硬化面」がある。

S042（竪穴住居）

D4 グリッドに位置し、撹乱土壙に切られ、東部分は調査区外に位置する竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、竈 1 基を備える。主柱穴は検出されていない。

法量（現存長）は、4.3m × 5.5m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

竈は、北東壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されている。竈は半分が調査区外に位置しているため、左半部のみが調査されている。その法量（現存長）は、幅 50cm、奥行 80cm、高さ 23cm を測る。燃焼部から石製支脚が検出され、竈の左手前には角柱状の砂岩が散在していた。煙道は検出されなかった。

土器は、須恵器の坏 1 点（RP217）、高坏 3 点（RP222 ～ 224）、鉢 1 点（RP221）、瓶 1 点（RP229）。土師器の坏 2 点（RP219、220）、須恵器模倣坏 1 点（RP218）、高坏 2 点（RP225、226）、壺 2 点（RP227、228）、甕 5 点（RP230 ～ 234）、甑 1 点（RP235）、土製品の支脚 1 点（RP236）、合計 20 点を図示した。

石器は、砥石 2 点（RQ9、10）を図示した。

S043（竪穴住居）

C3 グリッドに位置し、S048（竪穴住居）を切り、S028（竪穴住居）、撹乱土壙に切られ、東部分は調査区外に位置する竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。主柱穴は検出されていない。

法量は、6.5 m × 5.4m、遺構検出面からの深さ 25cm を測る。

竈は、北壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却され、大部分が滅失している。その法量（現存長）は幅 15cm、奥行 35cm、高さ 10cm を測る。竈の左

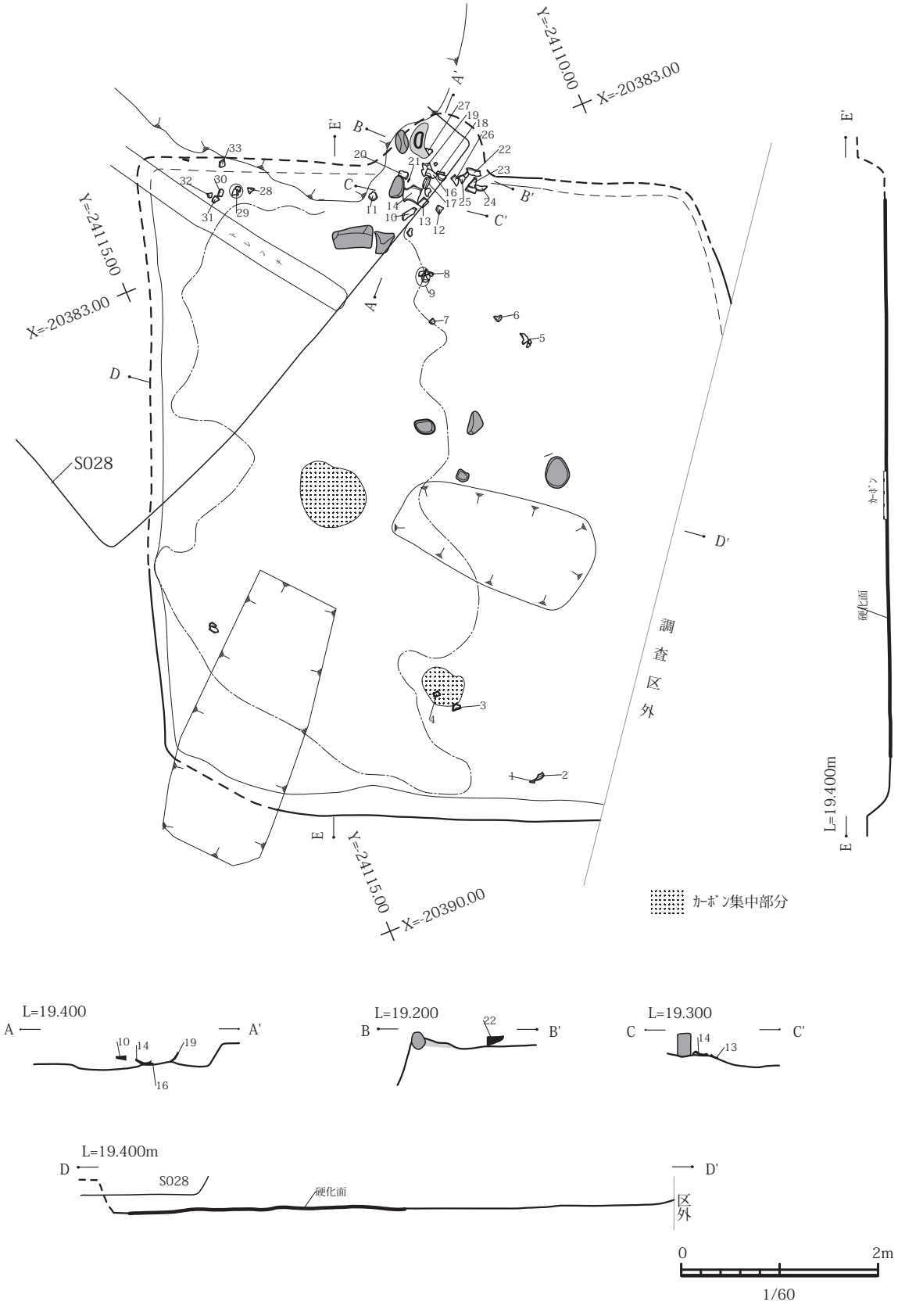


図 55　S043 遺構実測図

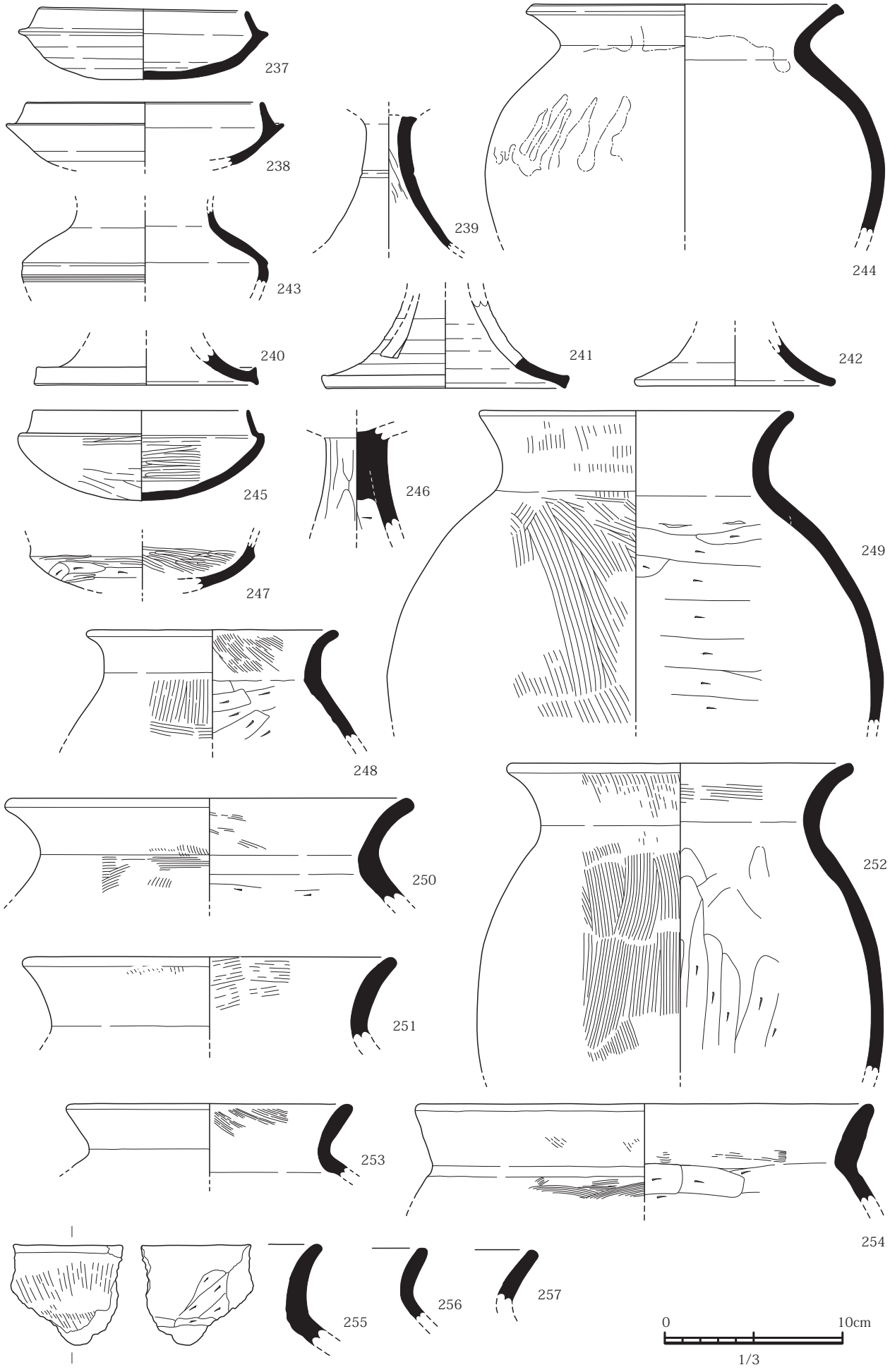


図 56　S043 出土土器（RP）実測図

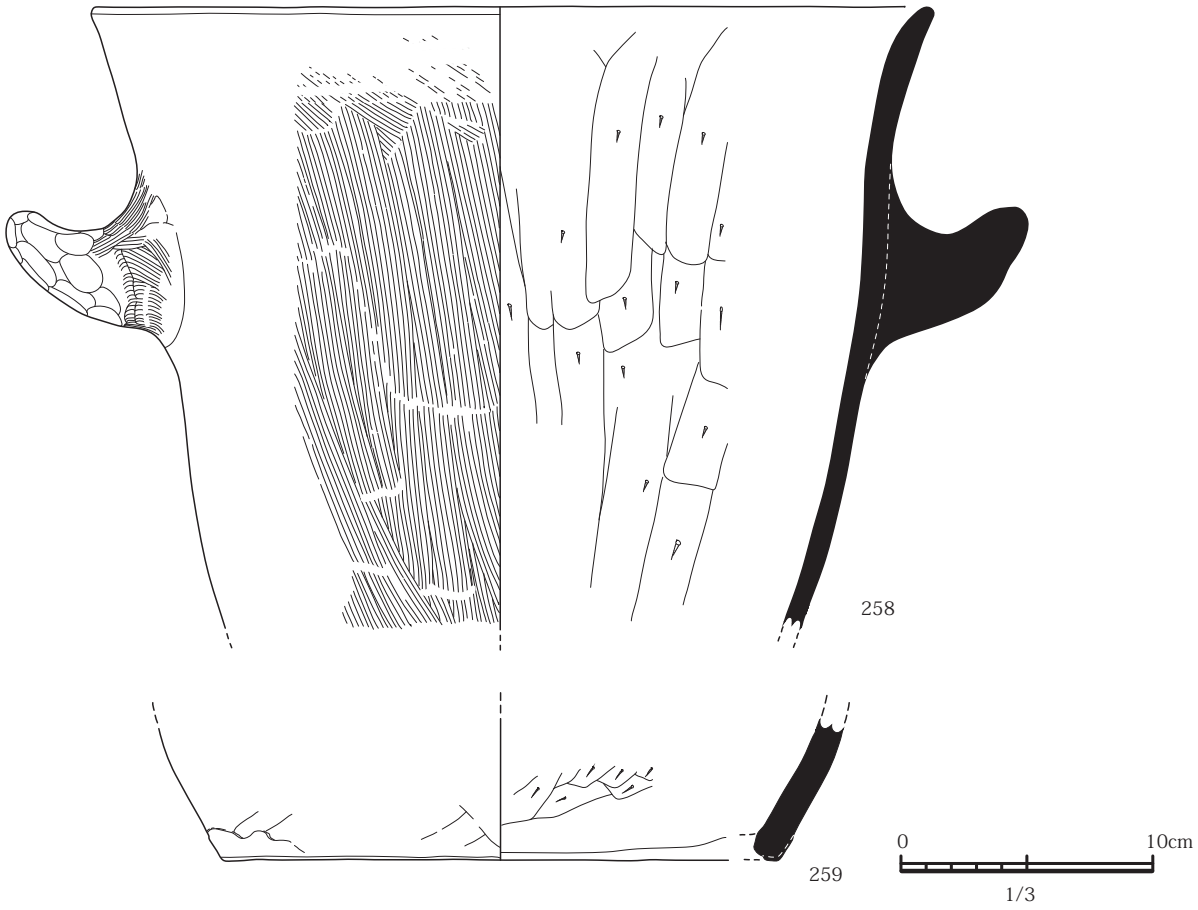
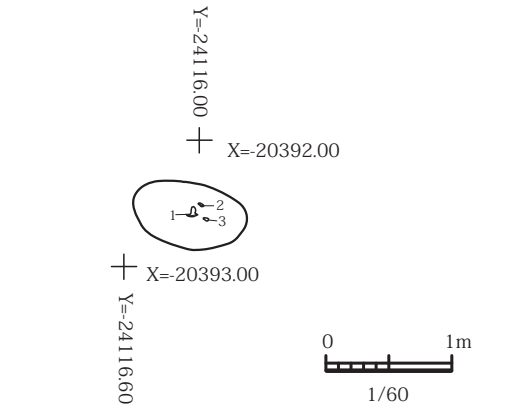


図 57　S043 出土土器（RP）実測図



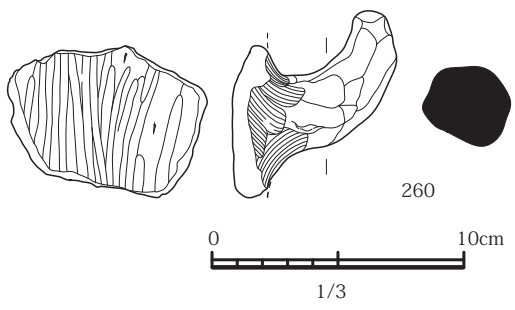


図 58　S045 遺構及び出土土器（RP）実測図

手前には角柱状の砂岩 2 点が固め置かれ、焚出口には土器片が散在していた。煙道は検出されなかった。

住居中央部と住居南側にはカーボンの集中部分が確認された。

硬化面は住居西側半分を覆っており、法量は 5.8m × 3.3m である。

土器は、須恵器の坏 2 点（RP237、238）、高坏 4 点（RP239 ～ 242）、壺 1 点（RP243）、甕 1 点（RP244）、土師器の須恵器模倣坏 1 点（RP245）、高坏 2 点（RP246、247）、甕 10 点（RP248 ～ 257）、甑 2 点（RP258、259）、合計 23 点を図示した。

石器は、石製品の浮子 1 点（RQ11）を図示した。

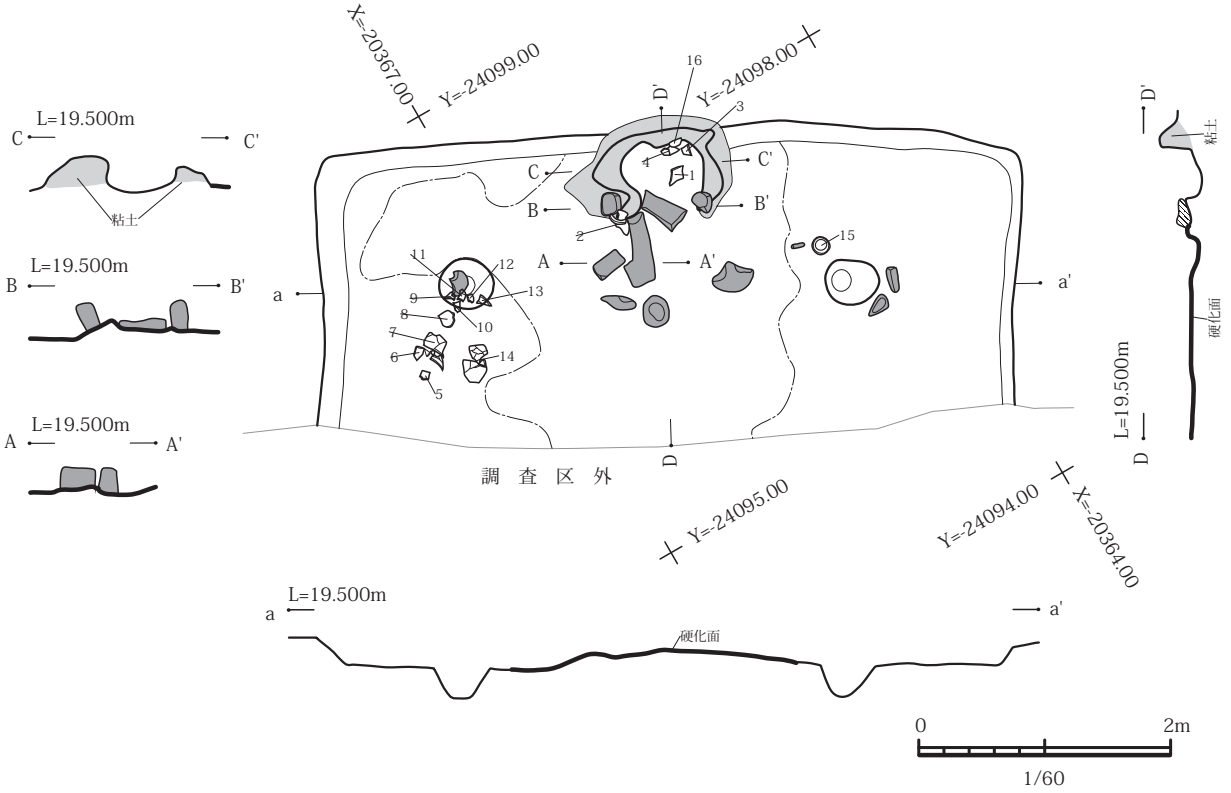
S044（土壙）

G3 グリッドに位置し、S021 溝に切られている土壙である。

平面形態は円形を呈し、法量は 0.7m × 1.0m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

S045（土壙）

B2 グリッドに位置する土壙である。



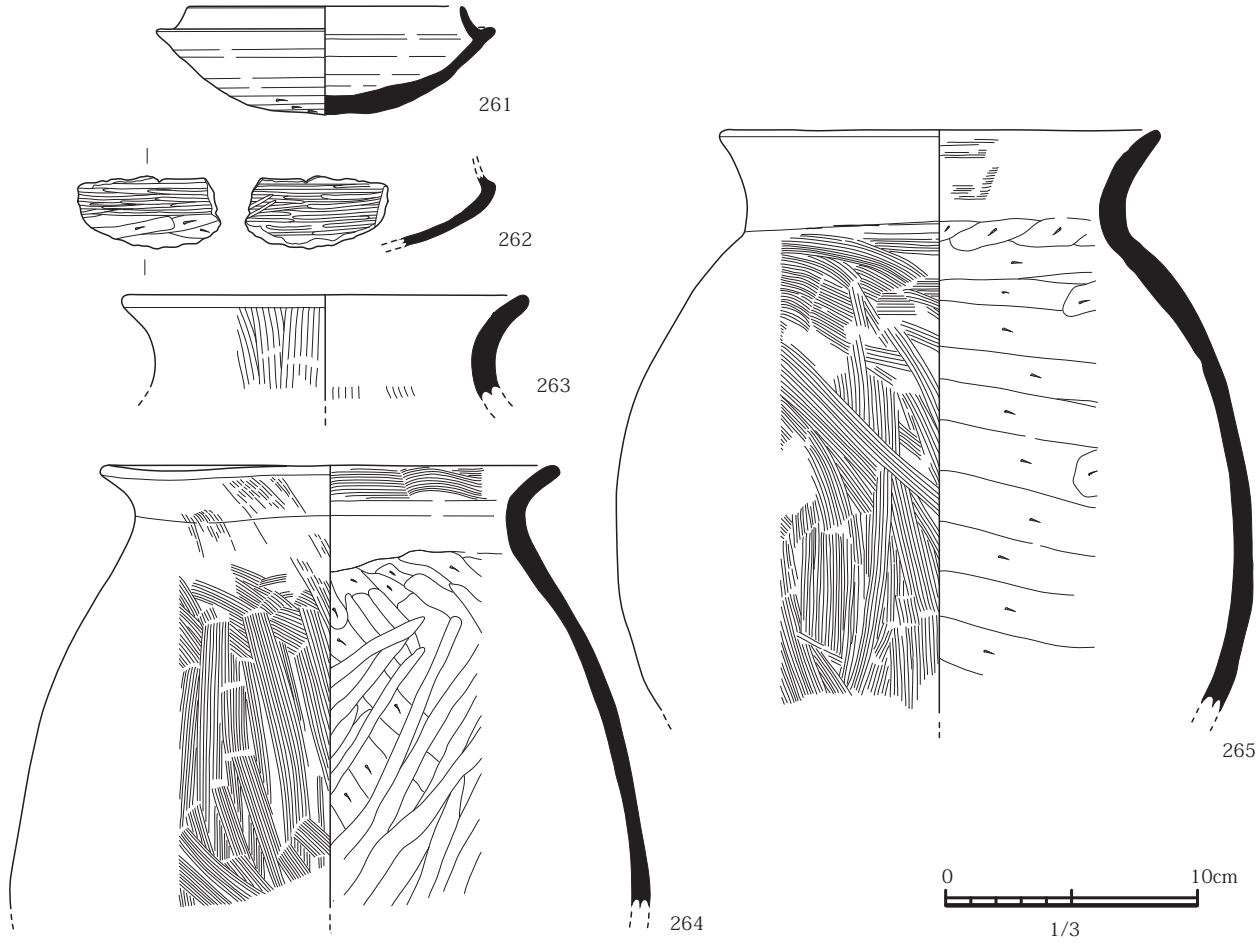


図 59　S046 遺構及び出土土器（RP）実測図

図 60　S047 遺構実測図

平面形態は円形を呈し、法量は 0.5m × 0.9m を測る。遺構検出面からの深さは不明である。

実測可能な土器は、土師器の甑 1 点（RP260）が出土している。

S046（竪穴住居）

G6 グリッドに位置し、南東部は調査区外に位置する竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、主柱穴 2 基、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。

法量（現存長）は、5.5m × 2.5m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

主柱穴は、2 基が検出され、直径 40cm ～ 45cm、深さ 20cm ～ 25cm を測る。なお、南側主柱穴底部から礫が検出され、その上位には土器片が散在していた。調査者はこの礫を礎石であると判断している。

竈は、北西壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量は、幅 135cm、奥行 80cm、高さ 22cm を測る。両袖先端には角礫が据え置かれ、竈手前から焚出口にかけて角礫が散在し、燃焼部からは土器片が検出された。煙道は検出されなかった。

硬化面は、竈周辺に形成されている。法量（現存長）は 3.4m × 2.4m を測る。

土器は、須恵器の坏 1 点（RP261）、土師器の須恵器模倣坏 1 点（RP262）、甕 3 点（RP263 ～ 265）、合計 5 点を図示した。

S047（竪穴住居）

E4 グリッドに位置し、S051（竪穴住居）を切り、S022（溝）、撹乱土壙、井戸により切られている竪穴住居である。

平面形態は、方形を呈し、主柱穴 2 基、竈 1 基を備え、硬化面が形成されている。

法量は、4.7m × 6.7m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

主柱穴は、2 基が検出され、直径 30cm ～ 35cm、深さ 10cm ～ 17cm を測る。

竈は、東壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量（現存長）は、幅 95cm、

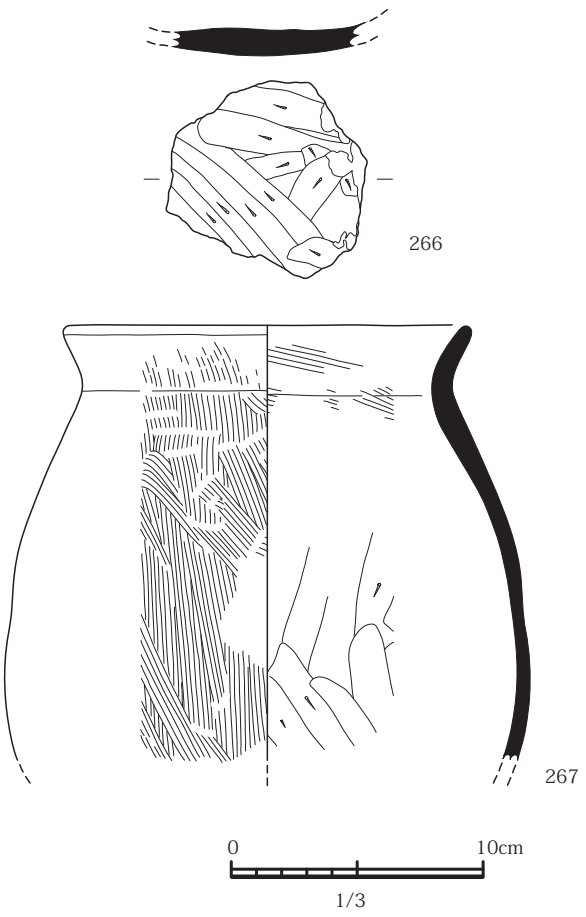


図 61　S047 出土土器（RP）実測図

奥行 115cm、高さ 14cm を測る。燃焼部には角柱状の砂岩片と土器片が散在していた。煙道は検出されなかった。

硬化面は、竈から住居中央にかけて形成されている。法量（現存長）は 4.5m × 1.6m を測る。

住居内西部に直径 85cm の井戸が検出されている。これは、後代（近代以降）の井戸である。

土器は、土師器の坏（RP266）と甕（RP267）が 1 点ずつ出土している。

S048（竪穴住居）

B2 グリッドに位置し、S043（竪穴住居）に切られ、南半部は調査区外に位置する竪穴住居である。

平面形態は正方形を呈し、竈 1 基を備え、床に硬化面が形成されている。主柱穴は検出していない。

法量は、4.8m × 4.9m、遺構検出面からの深さ

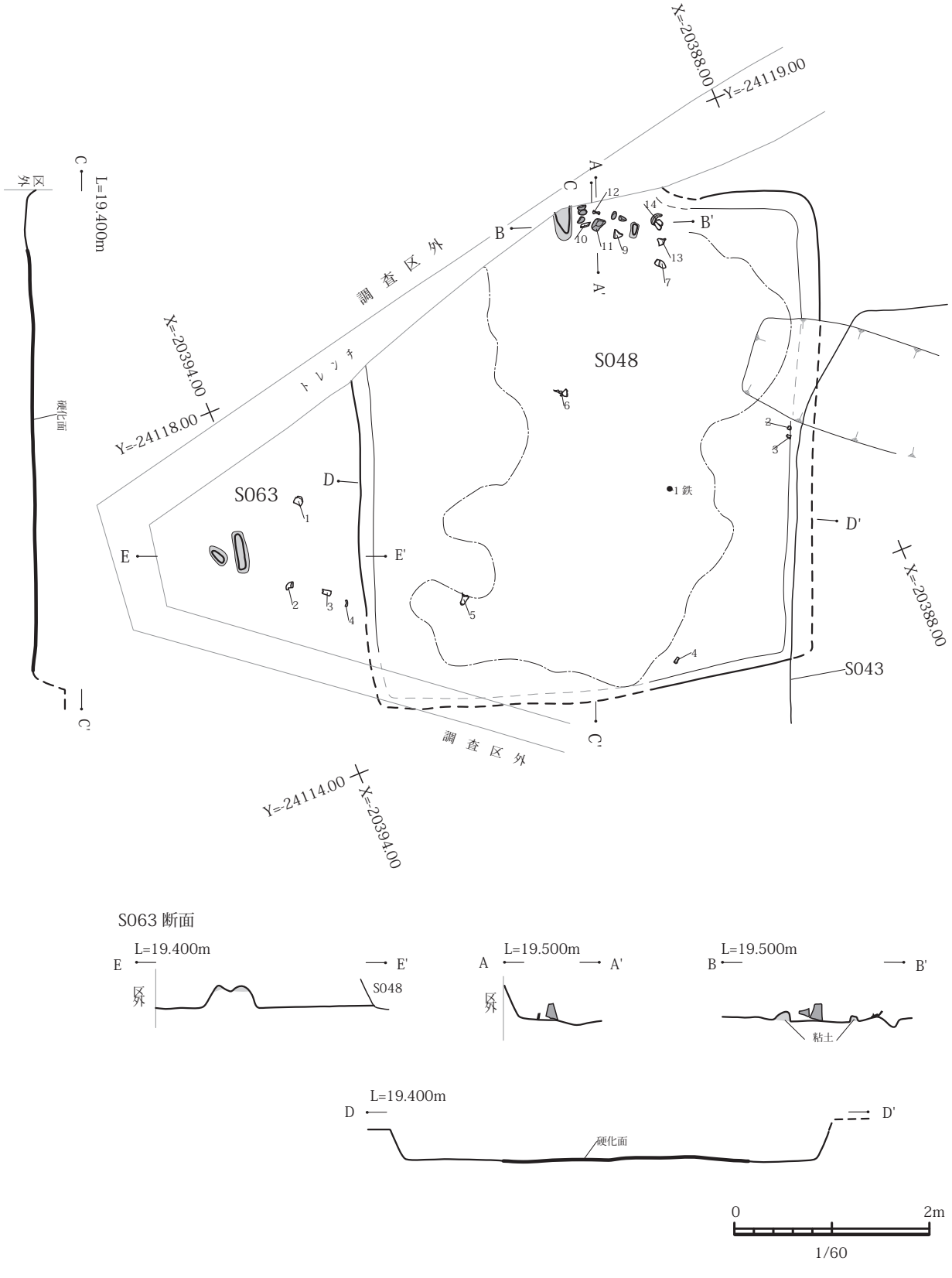


図 62　S048、S063 遺構実測図

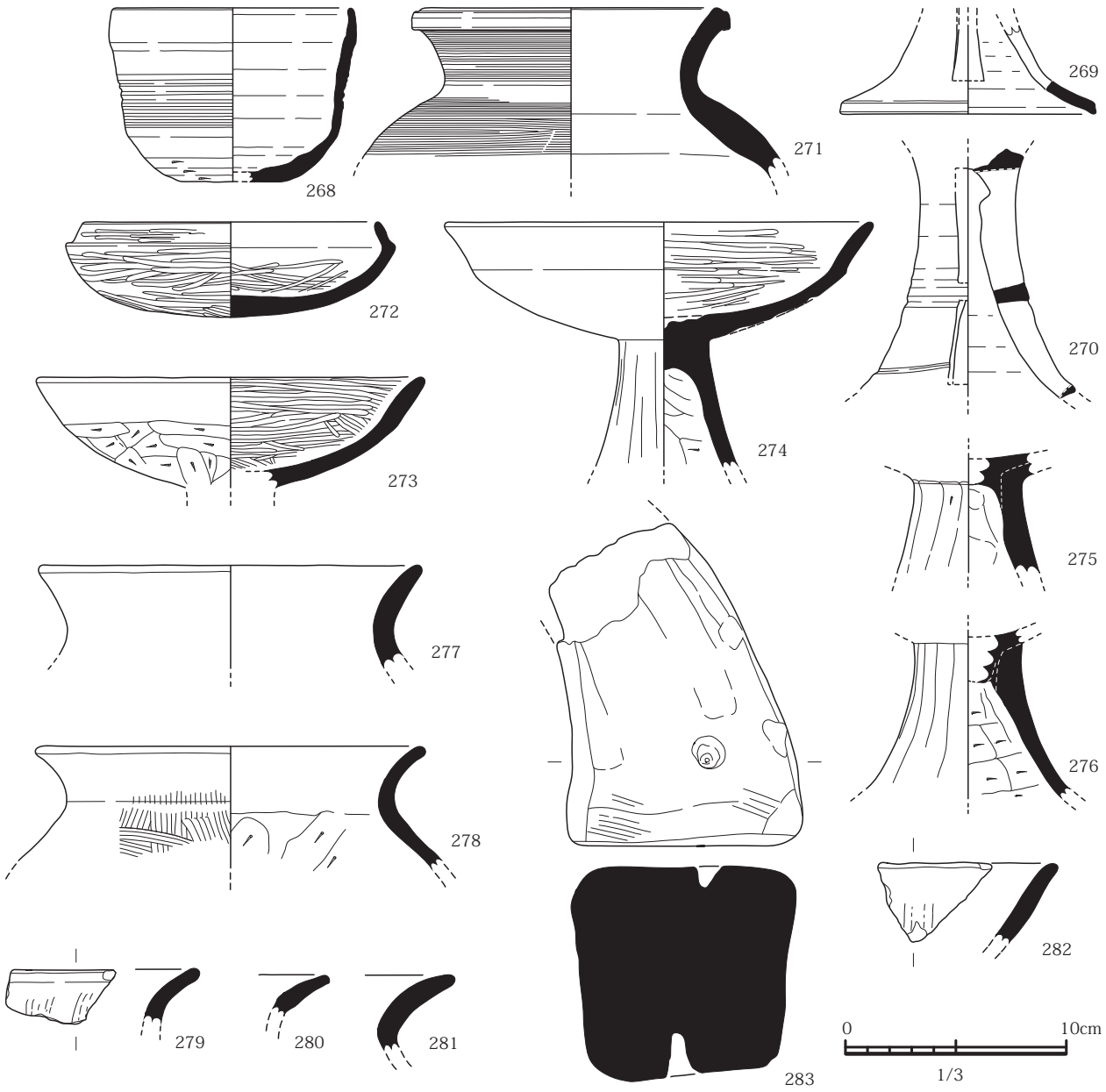


図 63　S048 出土遺物（RP）実測図

30cm を測る。

竈は、西壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却され、左袖の一部のみが残存していた。その法量（現存長）は、幅 85cm、奥行 35cm、高さ 10cm を測る。燃焼部には礫と土器片が散在していた。煙道は検出されなかった。

硬化面は、住居全体に形成されている。法量は、4.7m × 2.8m を測る。

土器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、須恵器の高坏 2 点（RP269、270）、鉢 1 点（RP268）、甕 1 点（RP271）、土師器の須恵器模倣坏 1 点（RP272）、高坏 4 点（RP273 ～ 276）、鉢 1 点（RP282）、甕 5 点（RP277 ～ 281）、土製品の支脚 1 点（RP283）、合計 16 点を図示した。Ⅱ群は、須恵器の高坏 2 点（RP284、285）、土師器の高坏 1 点（RP286）、甕 1 点（RP287）、竈 2 点（RP288、289）、合計 6 点を図示した。

鉄器（RM11）は、鉄鏃 1 点を図示した。

RM11 は、長さ 4.7cm、幅 0.9cm、厚さ 0.2cm を測り、

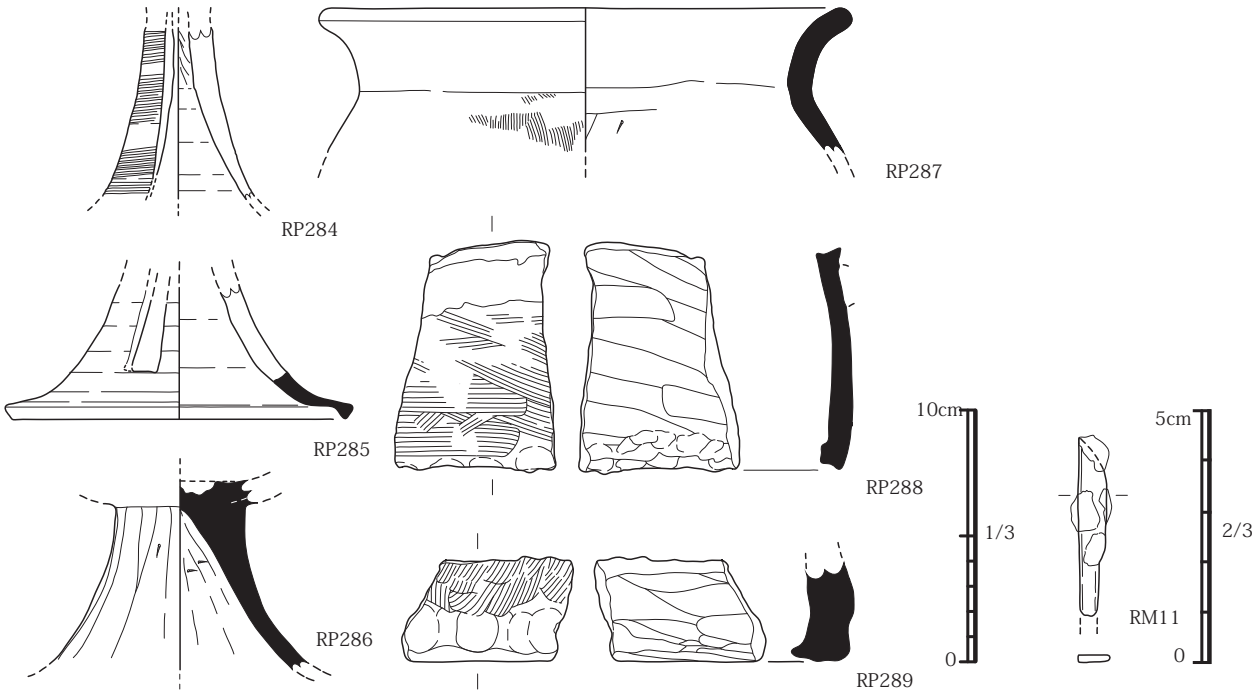


図 64　S048 出土遺物（RP、RM）実測図

重さ 3.4g を量る、片小爪片抉（棘篦被）鑿箭式長茎鏃である。

S049（竪穴住居）

G5 グリッドに位置し、S050（竪穴住居）、S051（竪穴住居）に切られ、竈とその周辺部分のみが確認された竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。主柱穴は検出されていない。

法量（現存長）は、3.6m × 4.2m、遺構検出面からの深さ 3cm を測る。

竈は、西壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量は、幅 95cm、奥行 90cm、高さ 30cm を測る。燃焼部には下半部を欠く土師器甕（RP294）が正置され、焚口には円礫 2 点が固め置かれ、竈右袖脇には砂岩が埋置されていた。煙道は検出されなかった。

硬化面は、竈前庭部より南部に形成されている。法量（現存長）は、1.6m × 1.7m を測る。

土器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、須恵器の坏 1 点（RP290）、土師器の甕 4 点（RP291 ～ 294）、合計 5 点を図示した。Ⅱ群は、土師器の甕 2 点（RP295、296）、竈 1 点（RP297）、合計 3 点を図示した。

S050（竪穴住居）

H5 グリッドに位置し、撹乱土壙に切られた竪穴住居である。

平面形態は長方形を呈し、主柱穴 5 基、竈 1 基を備える。

法量は、7.5m × 6.7m、遺構検出面からの深さ 25cm を測る。

主柱穴は、5 基が確認され、直径 25cm ～ 35cm、深さ 20cm ～ 50cm で、それぞれ住居の壁に平行に配置されている。

竈は、北東壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量は、幅 120cm、奥行 120cm、高さ 25cm を測る。燃焼部と焚出部の間には、角柱状の砂岩 4 点が一列に埋置されていた。燃焼部と竈周辺には土器片が散在していた。煙道は、直径 10cm を測り、竈奥壁から 20cm 程度奥に伸張した後、上方に向かっている。

土器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、須恵器の高

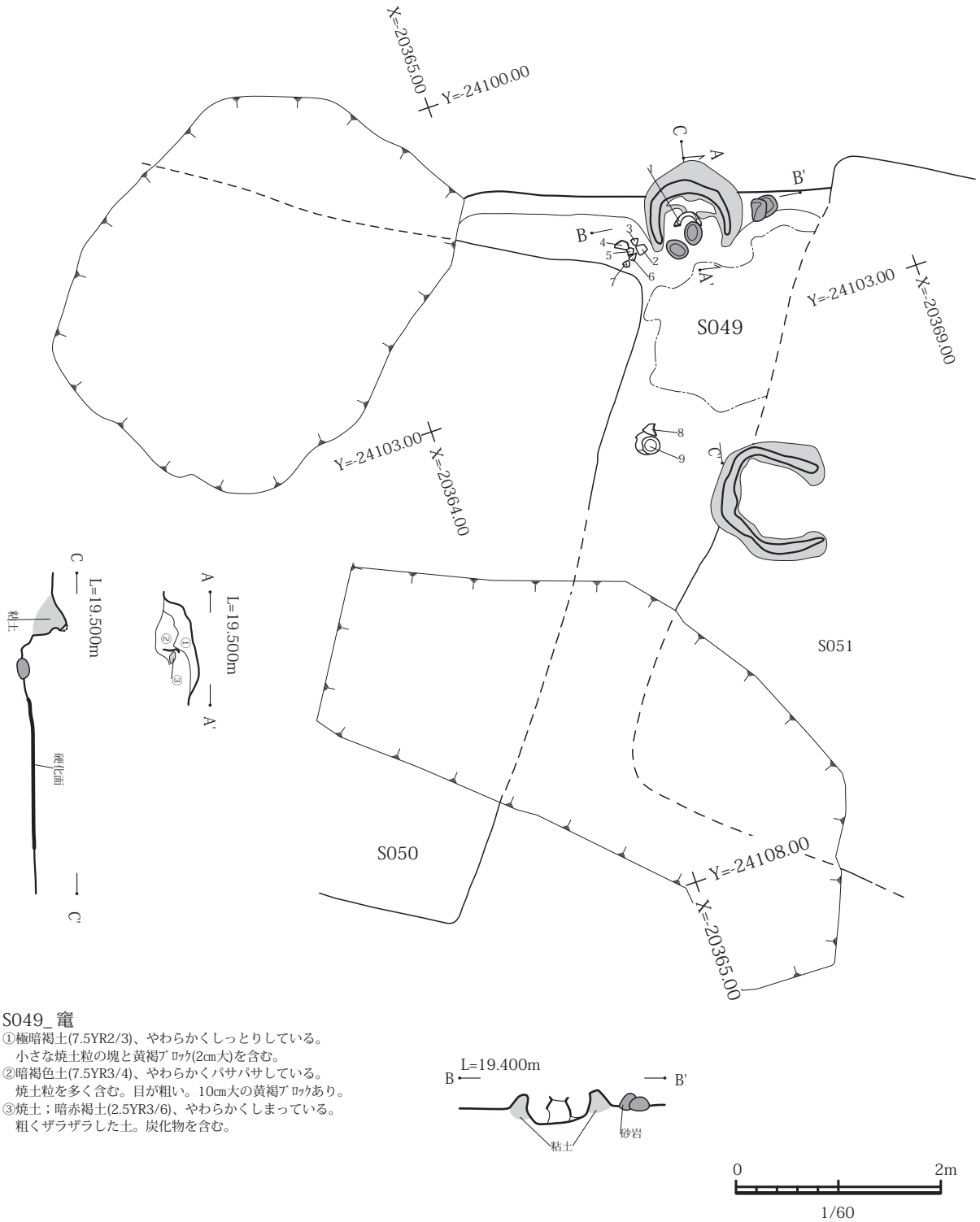


図 65　S049 遺構実測図

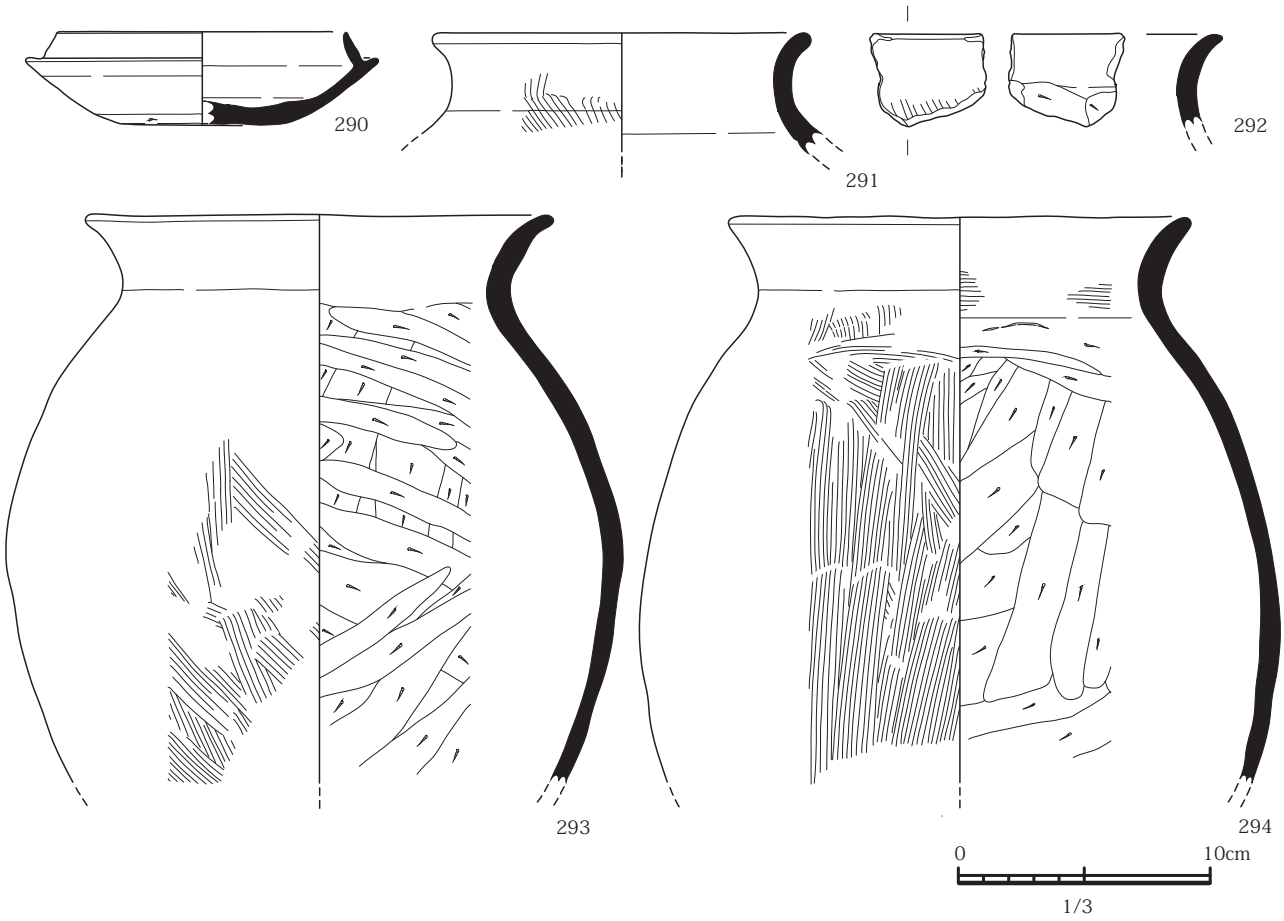


図 66　S049 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

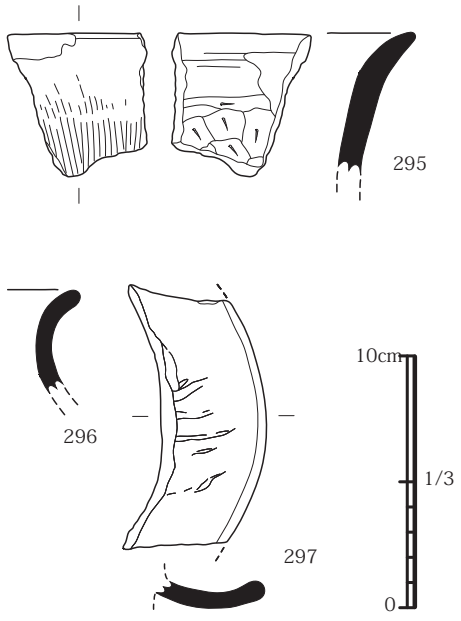


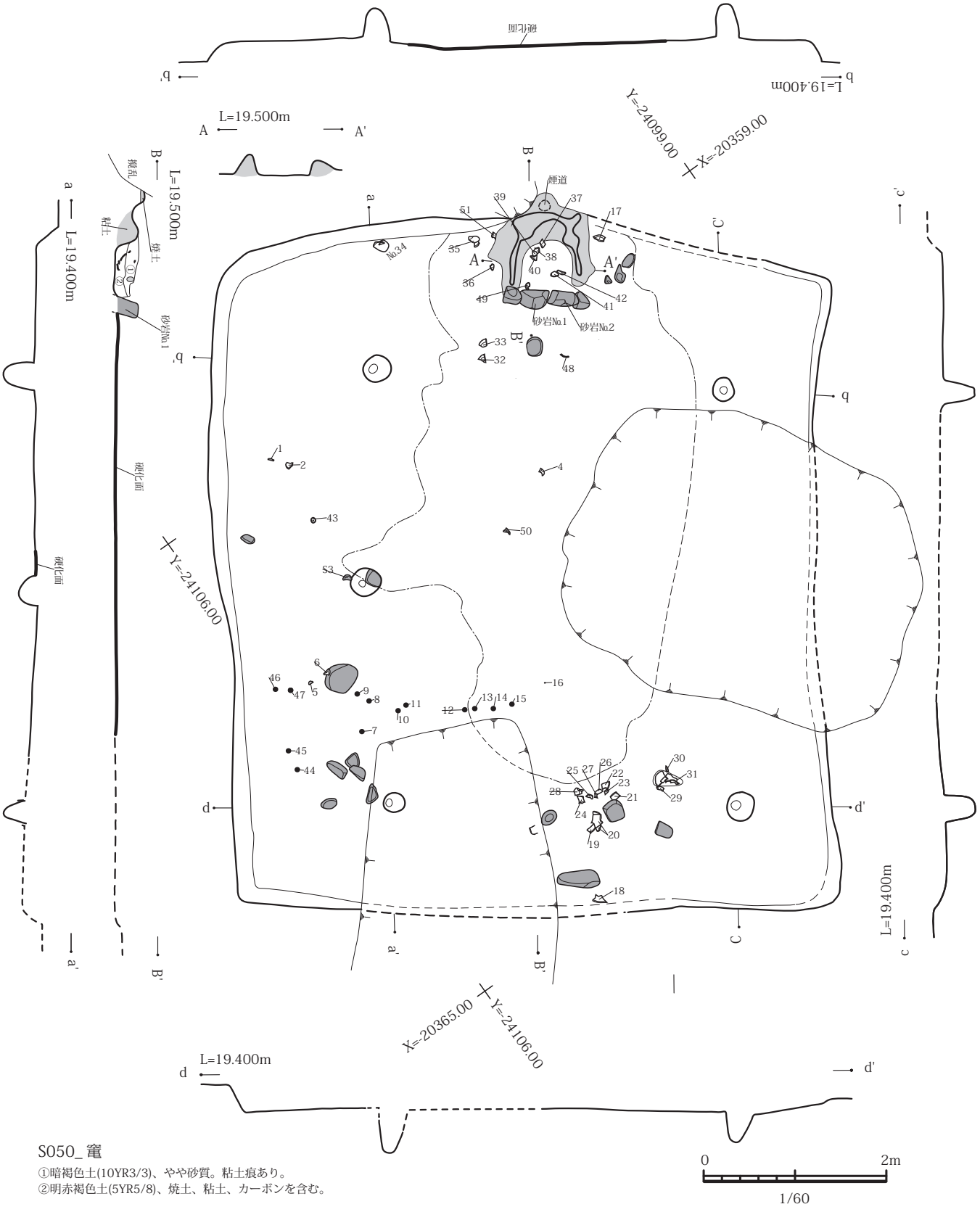
図 67　S049 出土土器（RP）実測図（Ⅱ群）

坏 2 点（RP298、299）、土師器の須恵器模倣坏 3 点（RP300 ～ 302）、高坏 3 点（RP303 ～ 305）、甕 7 点（RP306 ～ 310、314、315）、甑 2 点（RP316、317）、製塩土器 3 点（RP311 ～ 313）、合計 20 点を図示した。Ⅱ群は、土師器の甕 2 点（RP318、319）、甑 1 点（RP320）、合計 3 点を図示した。

石器は、2 群で構成される。Ⅰ群は、紡錘車 1 点（RQ12）、磨石 1 点（RQ13）、合計 2 点を図示した。Ⅱ群は、敲石 1 点（RQ14）を図示した。

鉄器は、刀子 1 点（RM12）を図示した。

RM12 は、長さ 6.5cm、幅 1.0cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 4.8g を量る、刀子である。刀身半ばから鋒の部分を欠き、棟関はわずかに斜関で、刃関は角関となった両関をそなえている。刃部は内湾し、茎部は欠損している。



S050_ 竈

①暗褐色土(10YR3/3)、やや砂質。粘土痕あり。
②明赤褐色土(5YR5/8)、焼土、粘土、カーボンを含む。

図 68　S050 遺構実測図

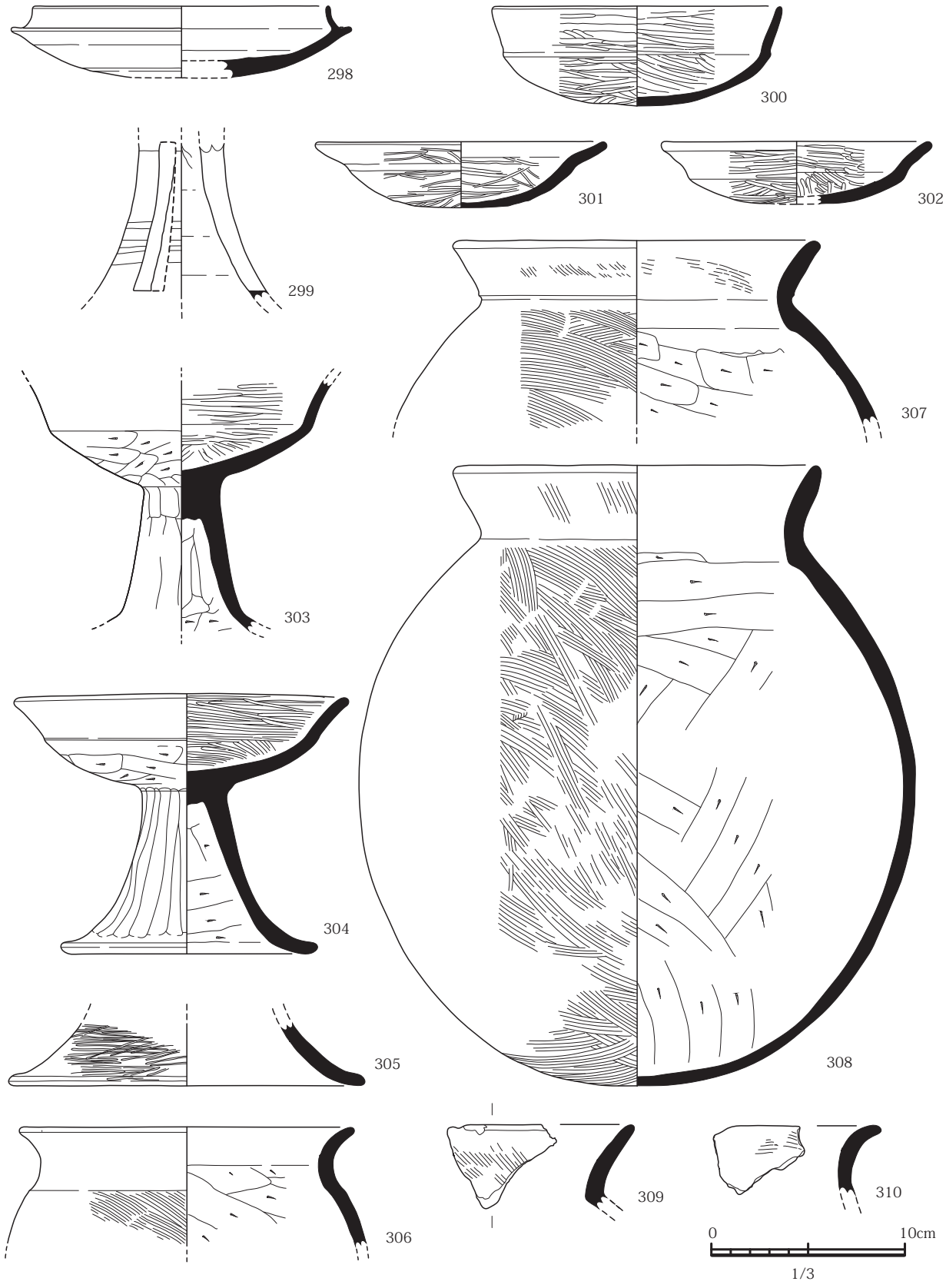


図 69　S050 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

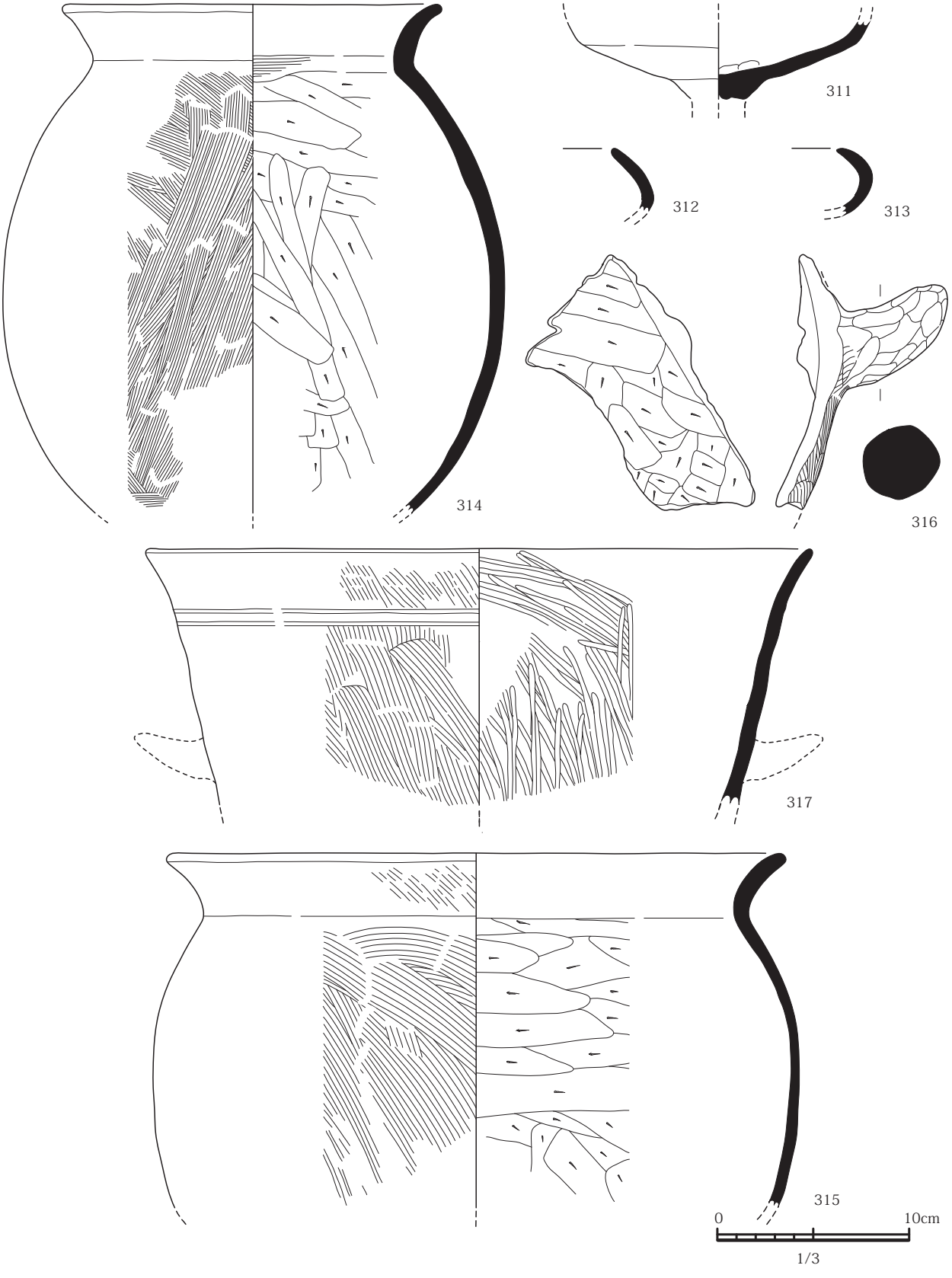


図 70　S050 出土土器（RP）実測図（Ⅰ群）

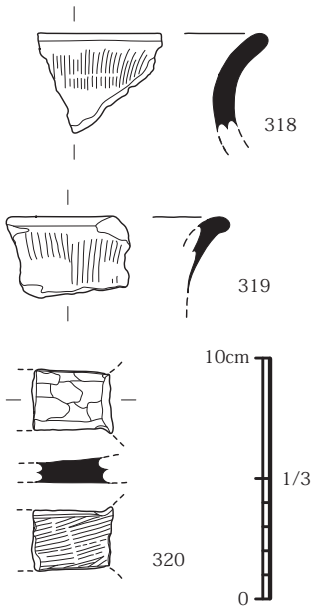


図 71　S050 出土土器（RP）実測図（II 群）

S051（竪穴住居）

G4 グリッドに位置し、S047（竪穴住居）に切られ、S049（竪穴住居）を切っている竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、ピット 2 基、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。

法量は、6.6m × 7.0m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

主柱穴は確認されていないが、住居西部に直径 20cm のピットが 2 基検出されている。

竈は、北東壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量は、幅 120cm、奥行 115cm、高さ 27cm を測る。燃焼部には下半部を欠く土師器甕（RP330）が据え置かれていた。燃焼部と竈周辺には円礫が散在し、焚出口の手前では竈壁体の破片が検出された。煙道は検出されなかった。

硬化面は、竈から住居中央部に向かって広がる。法量は、5.2m × 4.2m を測る。

土器は、2 群で構成される。I 群は、須恵器の蓋 3 点（RP321 ～ 323）、坏 2 点（RP324、325）、高坏 1 点（RP326）、土師器の高坏 2 点（RP327、328）、甕 5 点（RP329 ～ 333）、甑 3 点（RP334 ～ 336）、土製品の竈 1 点（RP337）、合計 17 点を図示した。

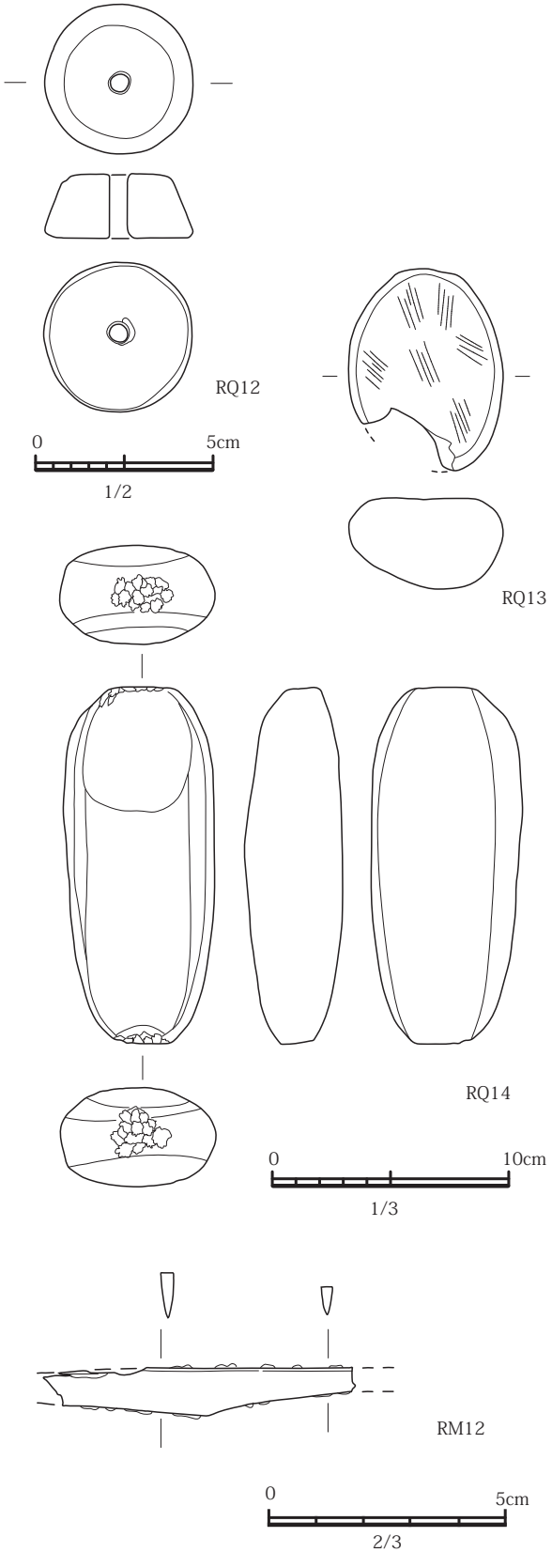


図 72　S050 出土遺物（RQ、RM）実測図

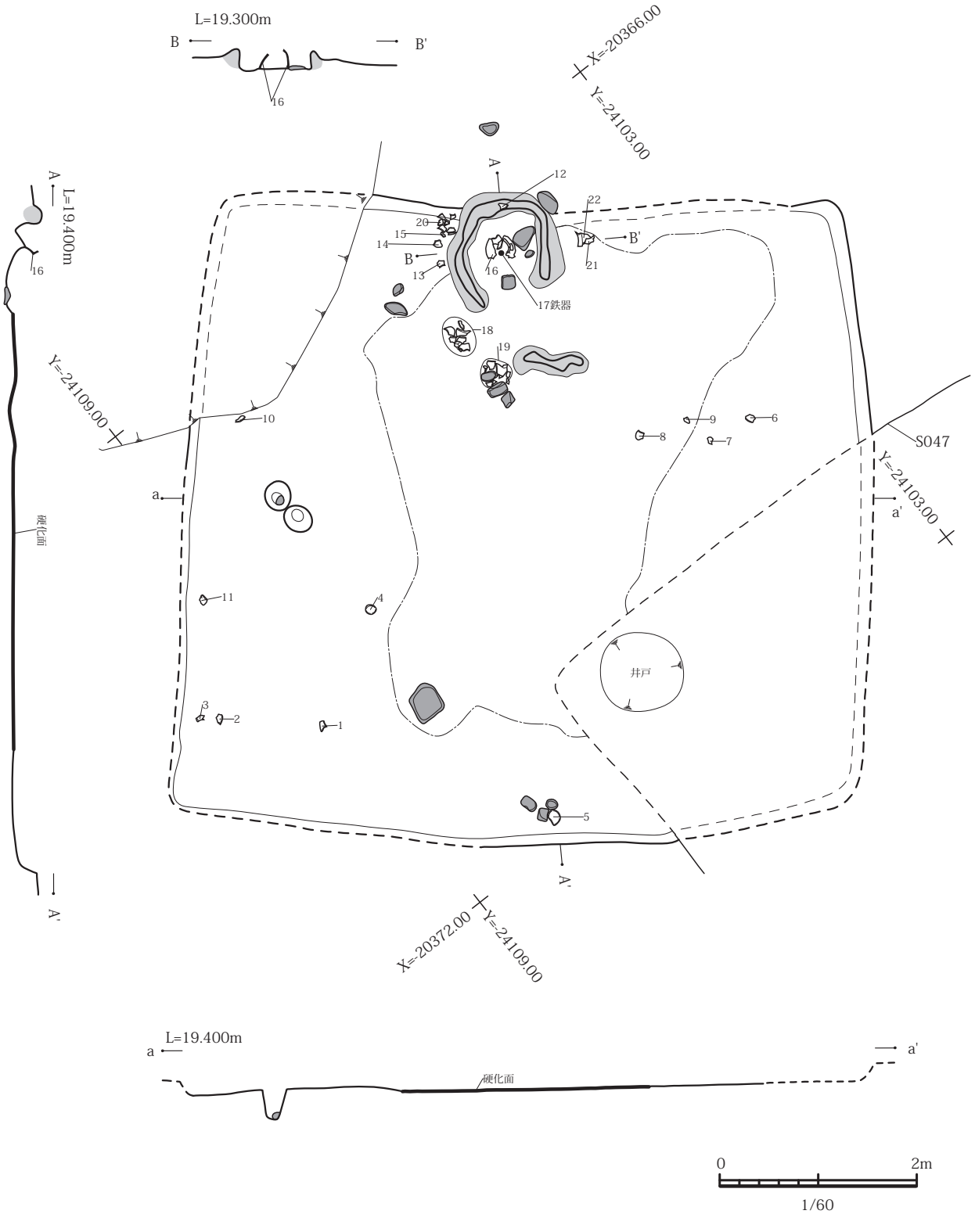


図 73　S051 遺構実測図

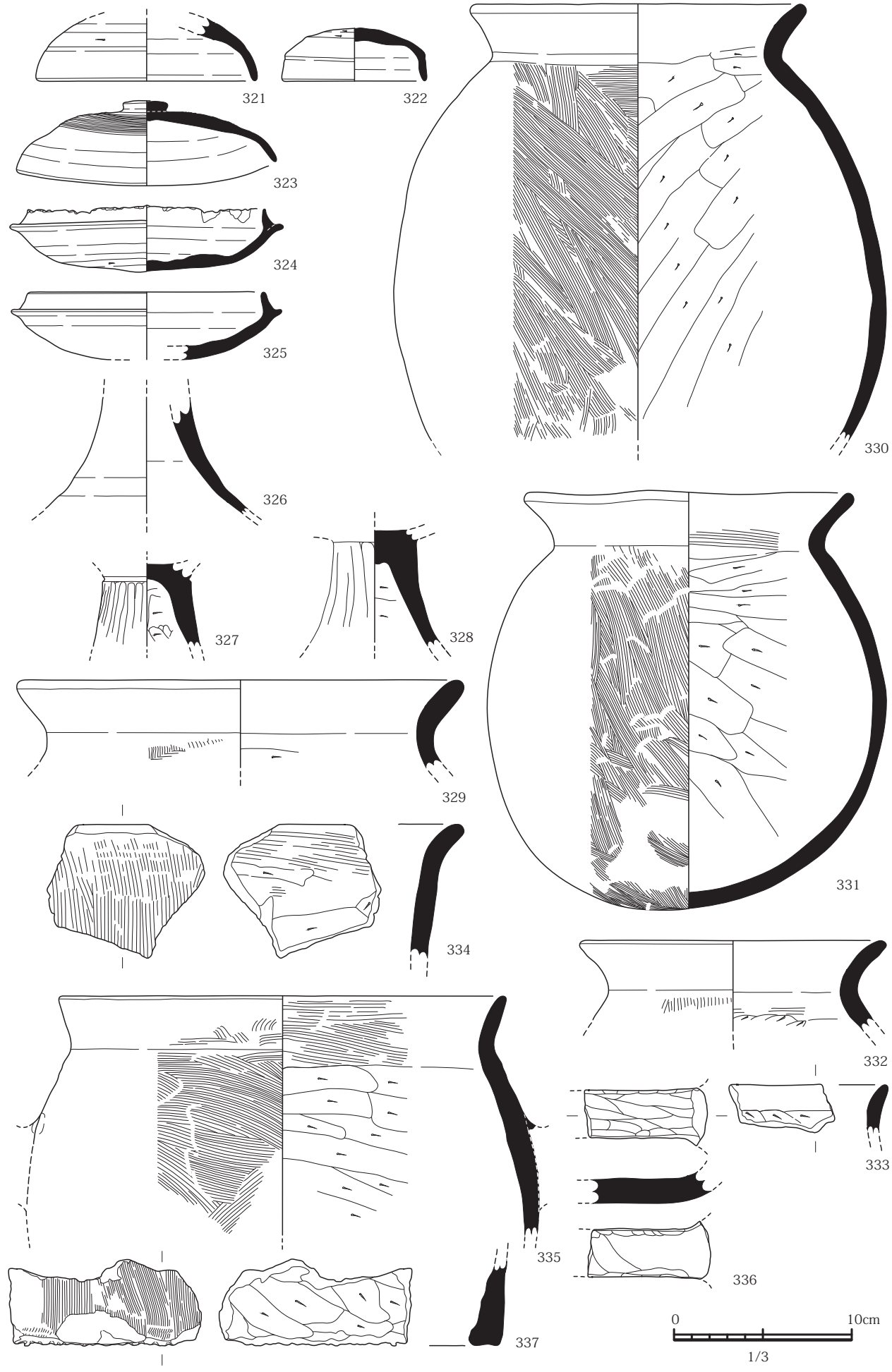


図 74　S051 出土土器（RP）実測図（ I 群）

Ⅱ群は、須恵器の坏 1 点（RP338）、土師器の坏 1 点（RP340）、甕 4 点（RP339、341 ～ 343）、合計 6 点を図示した。

石器は、台石 1 点（RQ15）、磨石 1 点（RQ16）、合計 2 点を図示した。

S052（土壙）

I7 グリッドに位置し、北西部は撹乱により切られ、南東部は調査区外に位置する土壙である。

平面形態は、楕円形を呈し、法量は 1.2m × 0.8m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

実測可能な土器は、須恵器は、坏 1 点（RP344）。土師器は、甕 2 点（RP345、346）、竈 2 点（RP347、348）、計 5 点を図示した。

S053（土壙）

I7 グリッドに位置し、撹乱により切られている土壙である。

平面形態は、楕円形を呈し、法量は 0.8m × 1.2m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

S054（竪穴住居）

G3 グリッドに位置し、S021 及び S022（溝）、S062（竪穴住居）、撹乱土壙に切られた竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、主柱穴 2 基、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。

法量（現存長）は、3.5m × 5.0m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

主柱穴は、2 基が検出され、直径 30cm ～ 45cm、

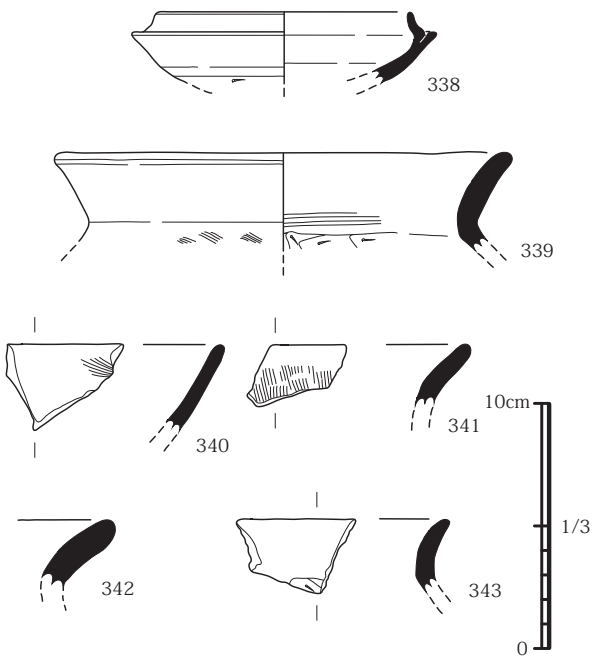


図 75　S051 出土土器（RP）実測図（Ⅱ群）

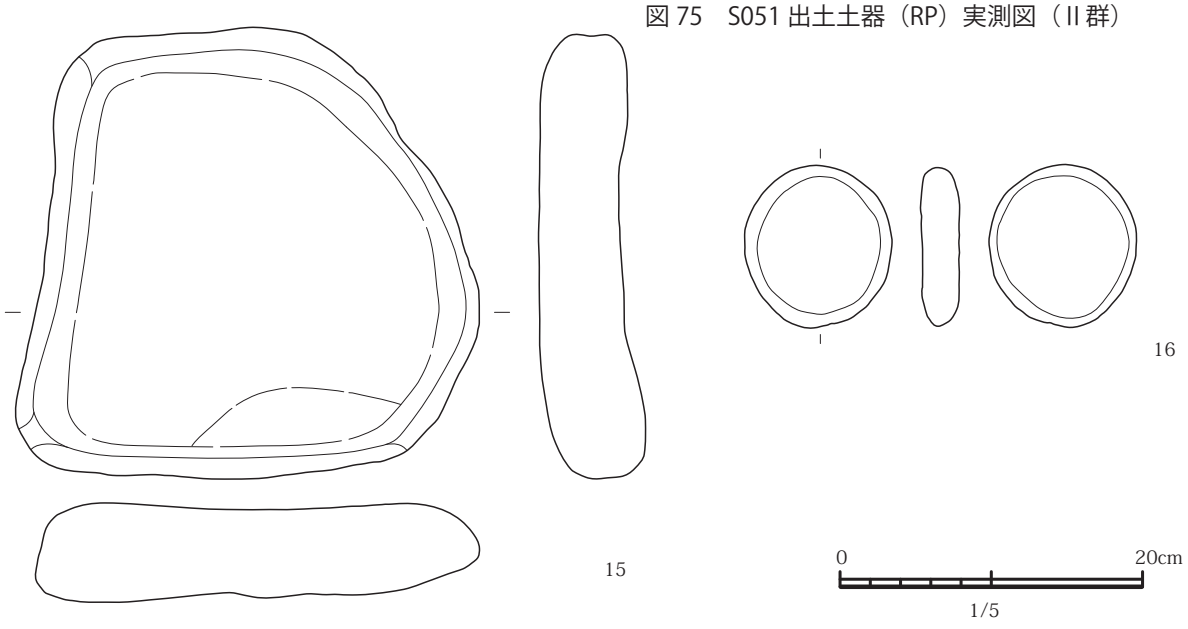


図 76　S051 出土石器（RQ）実測図

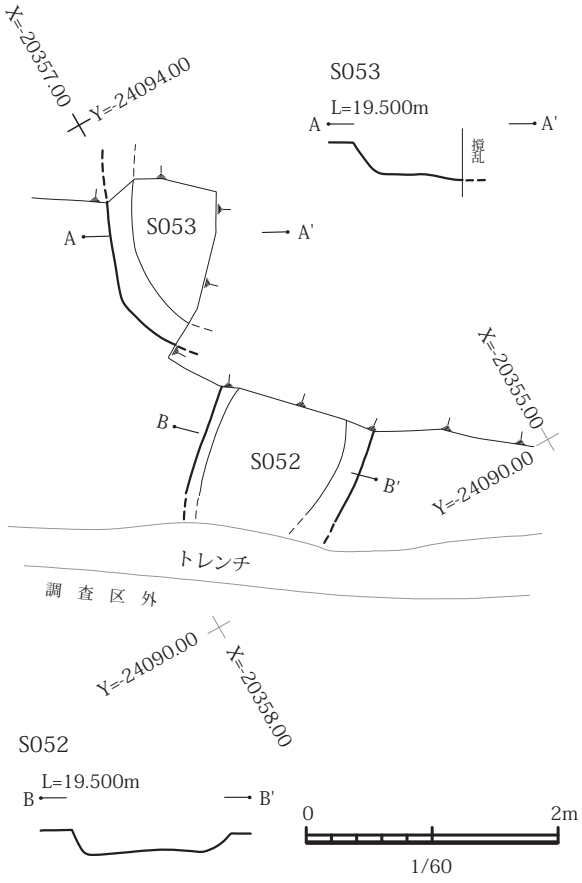


図 77　S052、S053 実測図

深さ 20cm ～ 26cm を測る。南東の主柱穴底部からは礎石が検出された。

竈は、北西壁に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量は、幅 95cm、奥行 100cm、高さ 53cm を測る。左袖先端には円礫が据え置かれていた。煙道は検出されていない。

硬化面は、住居中央の撹乱によって一部壊れているものの、竈から、東側壁に向かって広がっている。法量（現存長）は、4.4m × 2.0m を測る。

土器は、土師器の坏 1 点（RP349）、甕 1 点（RP350）、計 2 点を図示した。

石器は、台石 1 点（RQ17）を図示した。

S055（不明）

実測図、調査日誌等に記録されていない遺構である。配置図には F3 グリッド付近に記述があるが、位置、

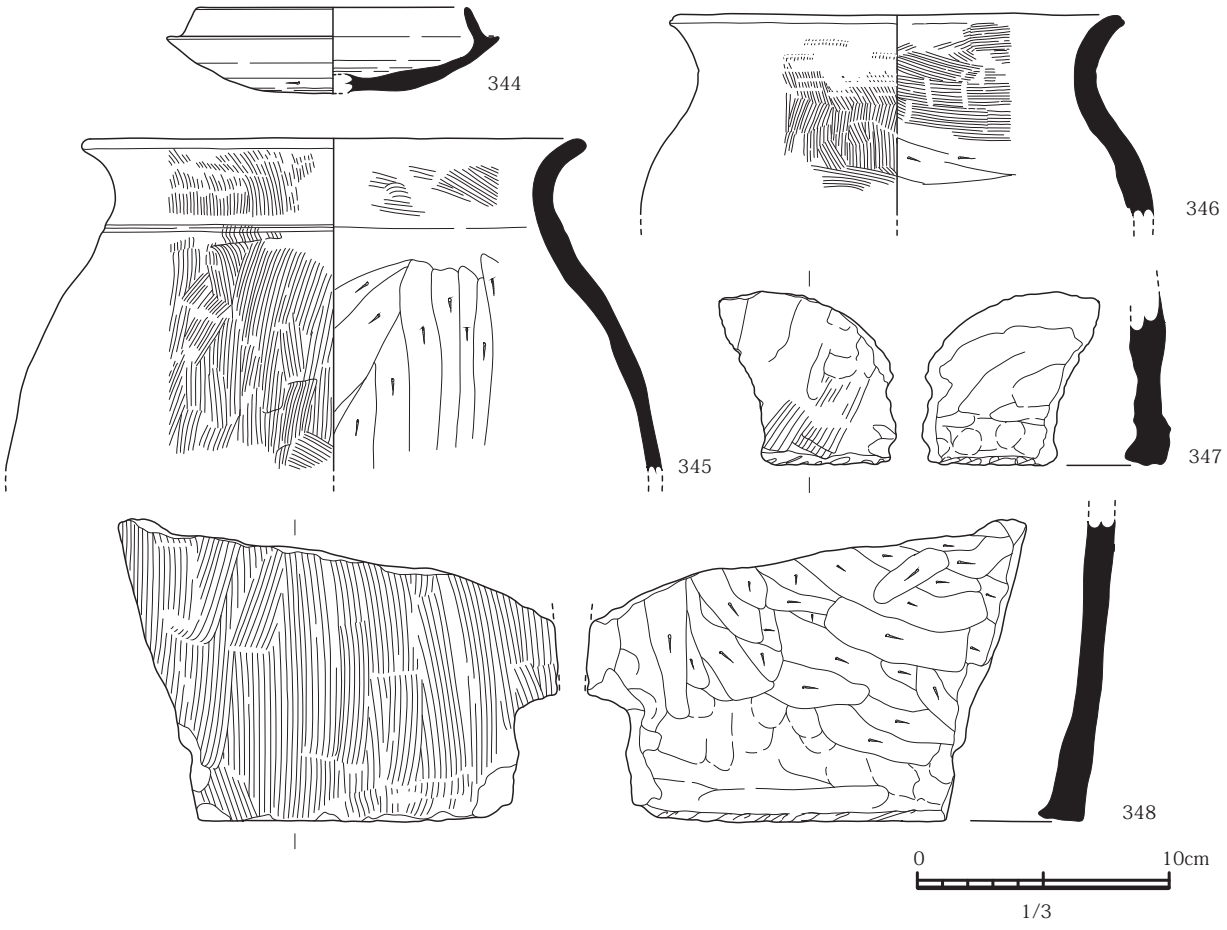


図 78　S052 出土土器（RP）実測図

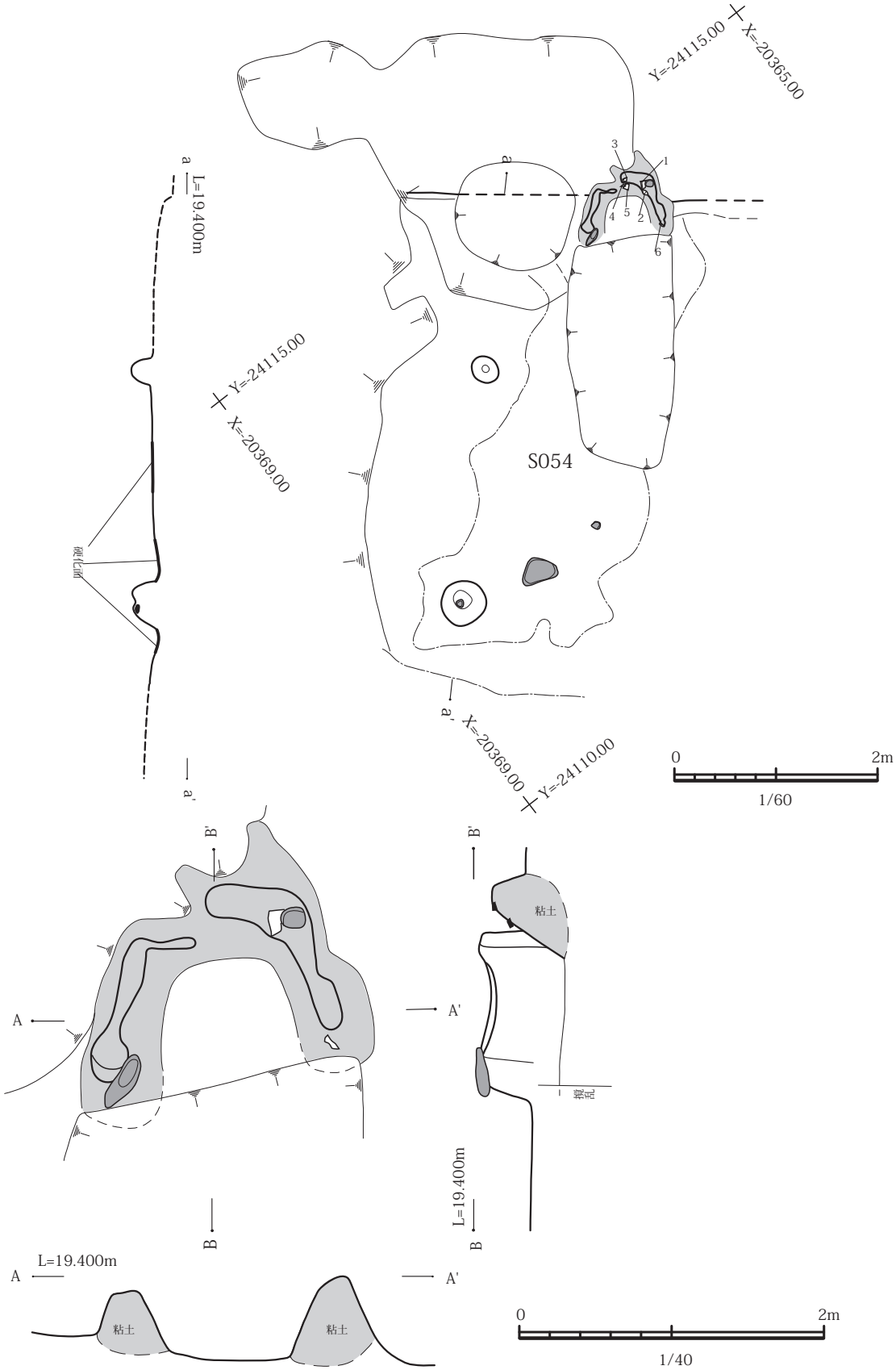


図 79　S054 遺構実測図

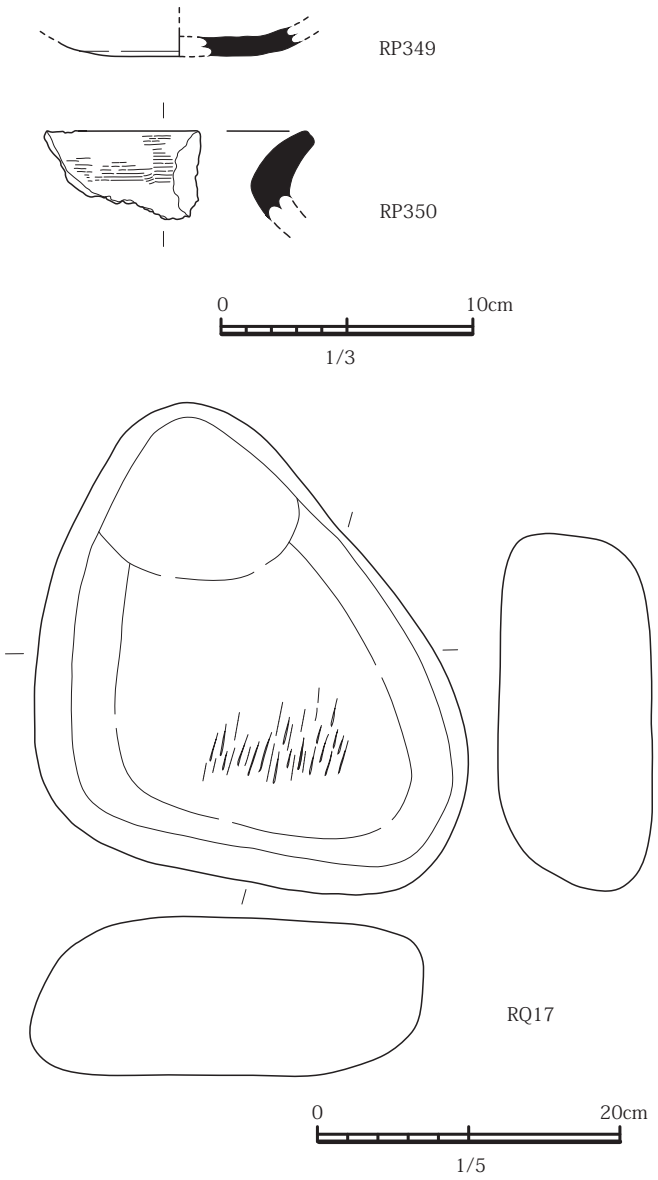


図 80　S054 出土遺物（RP、RQ）実測図

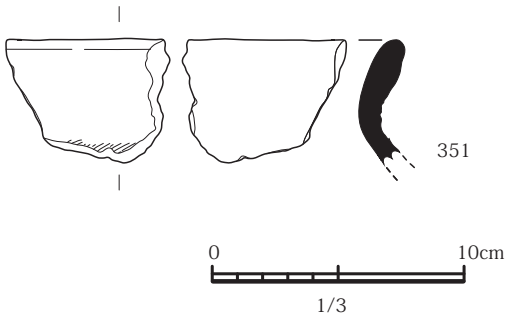


図 81　S055 出土土器（RP）実測図

形態、規模等、詳細は不明である。

土器は、土師器の甕 1 点（RP351）を図示した。

S056（竪穴住居）

H6 グリッドに位置し、S050（竪穴住居）、撹乱土壙に切られている竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、竈 1 基を備える。主柱穴は検出されていない。

法量は、5.3m × 5.4m、遺構検出面からの深さ 20cm を測る。

竈は、北東壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却され、奥壁から右袖基部のみが現存していた。その法量（現存長）は、幅 50cm、奥行 40cm、高さ 20cm を測る。煙道は検出されなかった。

硬化面は、竈の前庭部分に広がっており、撹乱に切られているが、現存長で 0.7m × 0.4m を測る。

土器は、須恵器の蓋 1 点（RP352）、土師器の高坏 2 点（RP353、354）、甕 1 点（RP355）、製塩土器 1 点（RP356）、合計 5 点を図示した。

石器は、紡錘車 1 点（RQ18）を図示した。

S057（竪穴住居）

I7 グリッドに位置し、S056（竪穴住居）、S058（竪穴住居）、撹乱土壙に切られている竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、竈 1 基を備え、床には硬化面が形成されている。主柱穴は検出されていない。

法量（現存長）は、3.7m × 4.0m、遺構検出面からの深さ 10cm を測る。

竈は、西壁中央部に造り付け、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量は、幅 80cm、奥行 50cm、高さ 13cm を測る。燃焼部からは石製支脚（RQ20）が検出され、焚出口の手前には角柱状の砂岩と角礫が散在していた。煙道は検出されなかった。

硬化面は、竈の周辺に発達し、1.5m × 0.5m を測る。

土器は、土師器の甕 1 点（RP357）、製塩土器 1 点（RP358）、合計 2 点を図示した。

石器は、砥石 1 点（RQ19）、石製品の支脚 1 点（RQ20）、合計 2 点を図示した。

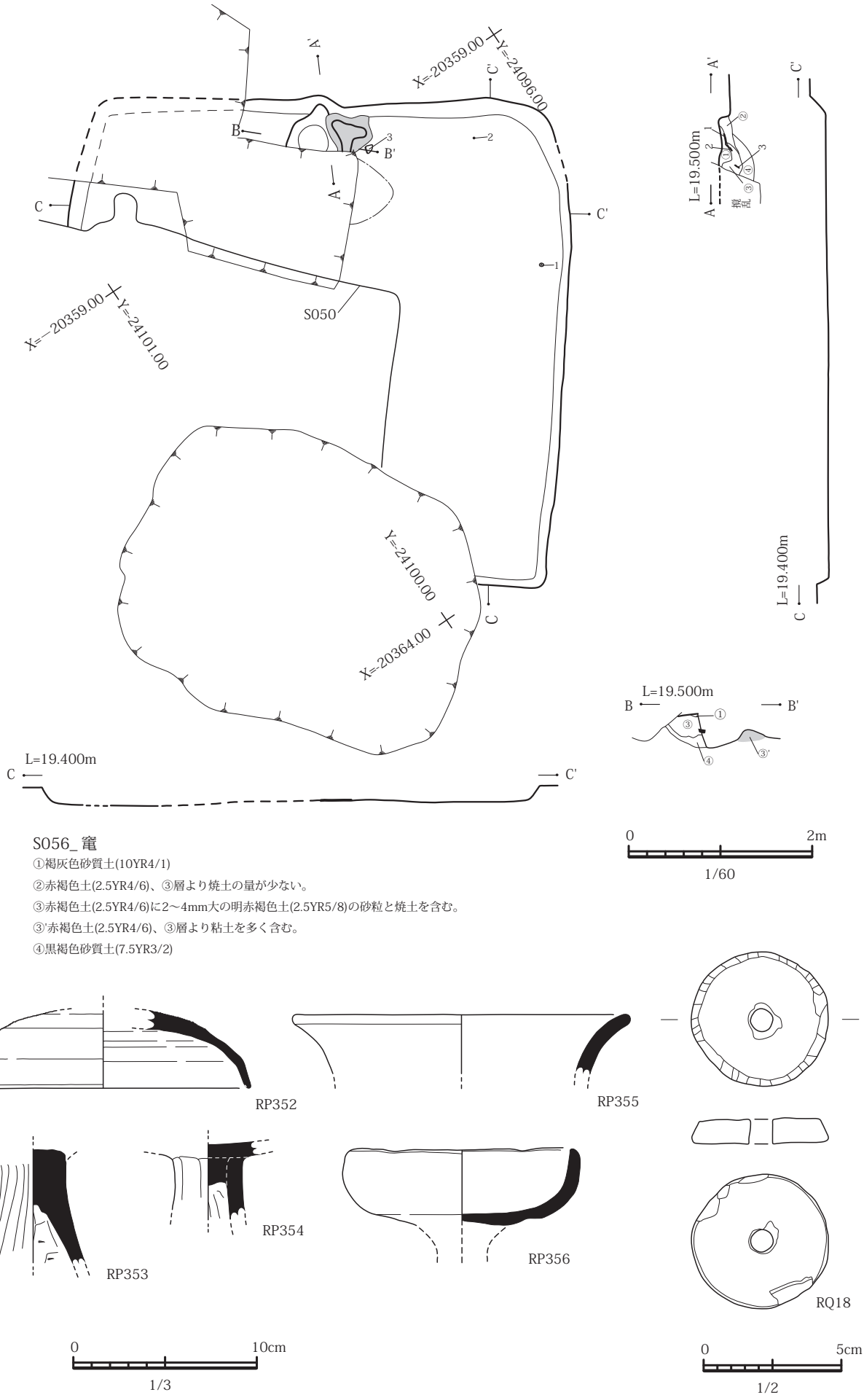


図 82　S056 実測図及び出土遺物（RP、RQ）実測図

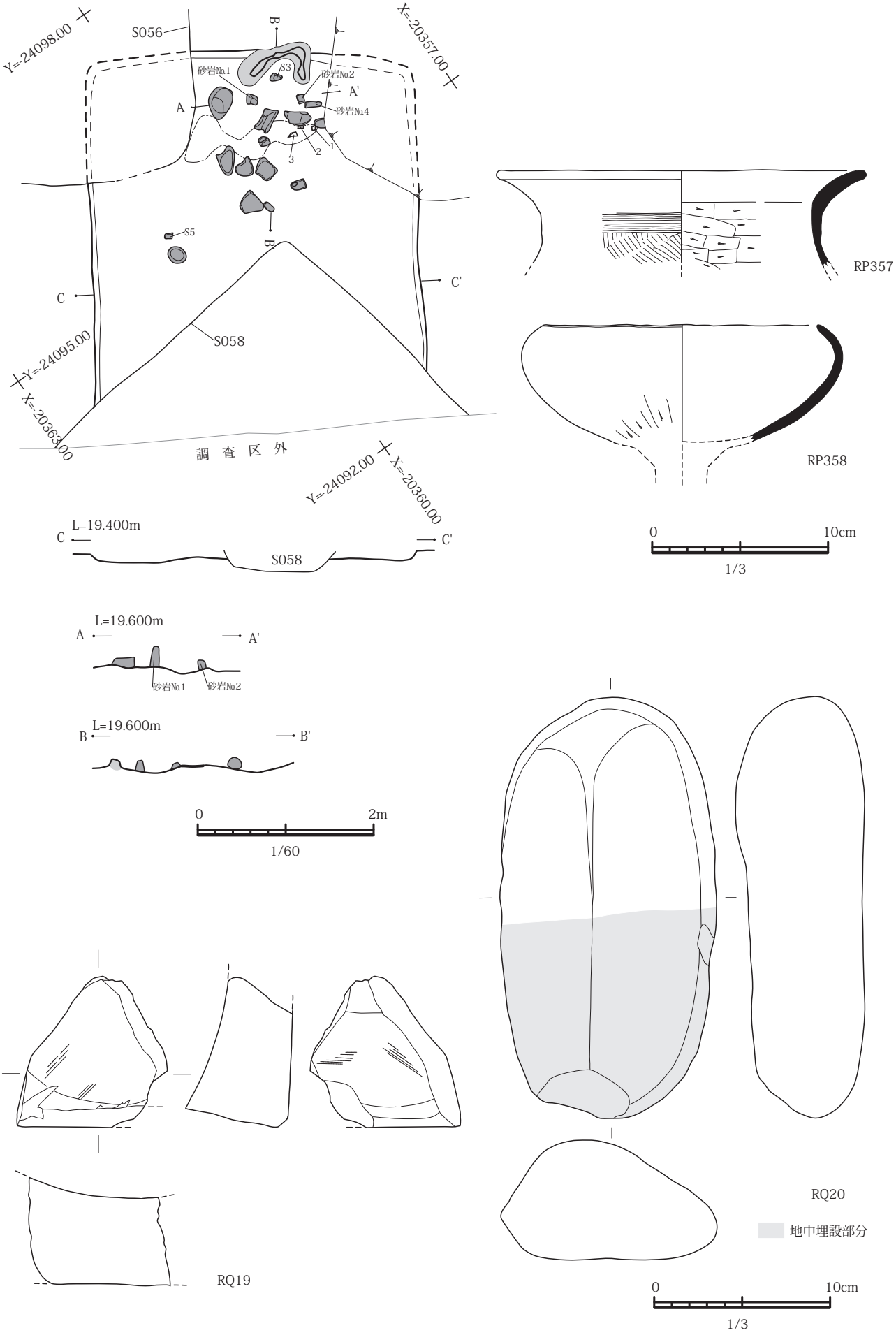


図 83　S057 実測図及び出土遺物（RP、RQ）実測図

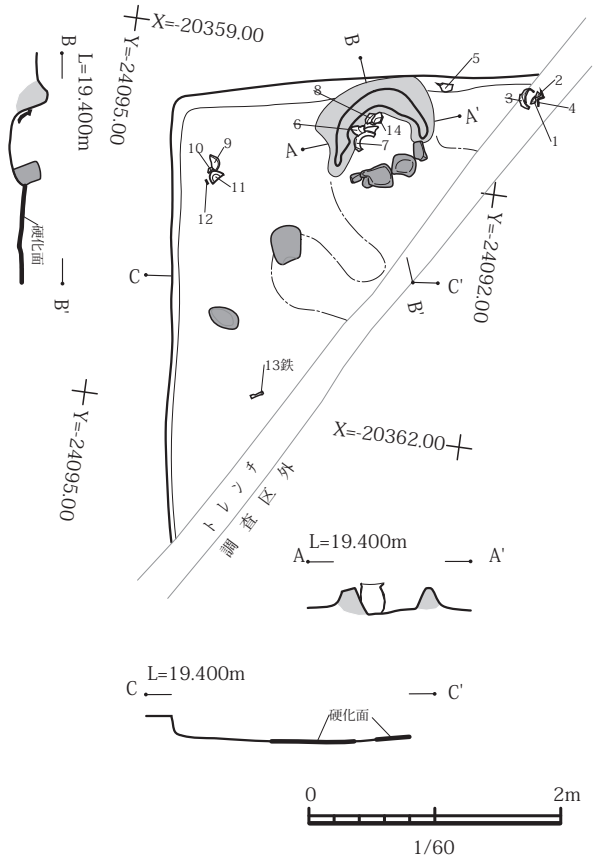


図 84　S058 遺構実測図

S058（竪穴住居）

H7 グリッドに位置し、S057（竪穴住居）を切り、東側が調査区外に位置する竪穴住居である。

平面形態は方形を呈し、竈を備え、硬化面が形成されている。主柱穴は検出されていない。

法量（現存長）は、3.5m × 2.9m、遺構検出面からの深さ 15cm を測る。

竈は、北壁中央部に造り付けられ、住居廃棄に伴い破却されていた。その法量は、幅 95cm、奥行 75cm、高さ 20cm を測る。燃焼部には土師器甕（RP366）が正置され、燃焼部と焚出部の間には角柱状の砂岩 5 点が横一列に埋置されていた。煙道は検出されなかった。

硬化面は、竈の南側に広がり、現存長で 1.2m × 1.2m を測る。

土器は、須恵器の蓋 1 点（RP359）、坏 1 点（RP360）、瓶 1 点（RP361）、土師器の甕 8 点（RP362 ～ 369）、合計 11 点を図示した。

鉄器は、摘鎌 1 点（RM13）を図示した。

RM13 は、長さ 11.2cm、幅 2.6cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 17.3g を量る、摘鎌である。細長い身に弧背、弧刃をそなえ、その両端は折り返し、袋部を形成している。袋部の刃側端部は敲打によるツブシ加工がほどこされている。刃部中央部の屈曲部分は、錆化により欠損した部分であり、砥ぎ減りではない。

S059（硬化面）

1 区中央部の G3 グリッドに位置する硬化面である。撹乱土壙によって切られている。

平面形態は不定形な硬化面である。主柱穴等、付帯する設備は検出されていない。

硬化面の法量は、1.9m × 2.9m、深さ 3.0cm を測る。

硬化面の南東部には「焼土」と記載された設備が検出されている。

土器は、須恵器の蓋 1 点（RP370）、坏 2 点（RP371、372）、高坏 1 点（RP374）土師器の坏 1 点（RP375）、須恵器模倣坏 1 点（RP373）、高坏 2 点（RP376、377）、甕 1 点（RP378）、甑 1 点（RP379）、合計 10 点を図示した。

S060（不明）

図面、日誌等に記載がない遺構である。

土器は、土師器の坏 2 点（RP380、381）、高坏 1 点（RP382）を図示した。

S061（不明）

実測図、調査日誌等に記録されていない遺構である。欠番との記述も一切なされていない。

S062（硬化面）

H3 グリッドに位置する硬化面である。

平面形態は不明で、S052（土壙）との切り合いも不明である。S054（竪穴住居）の平面図中に、S062 が S054 を切るとの記載がある。主柱穴等、付帯する設備は検出されていない。

硬化面の法量は、2.5m × 3.8m、深さ 1.0cm を測る。

硬化面には竈壁体破片、土器片、角礫等が散在して

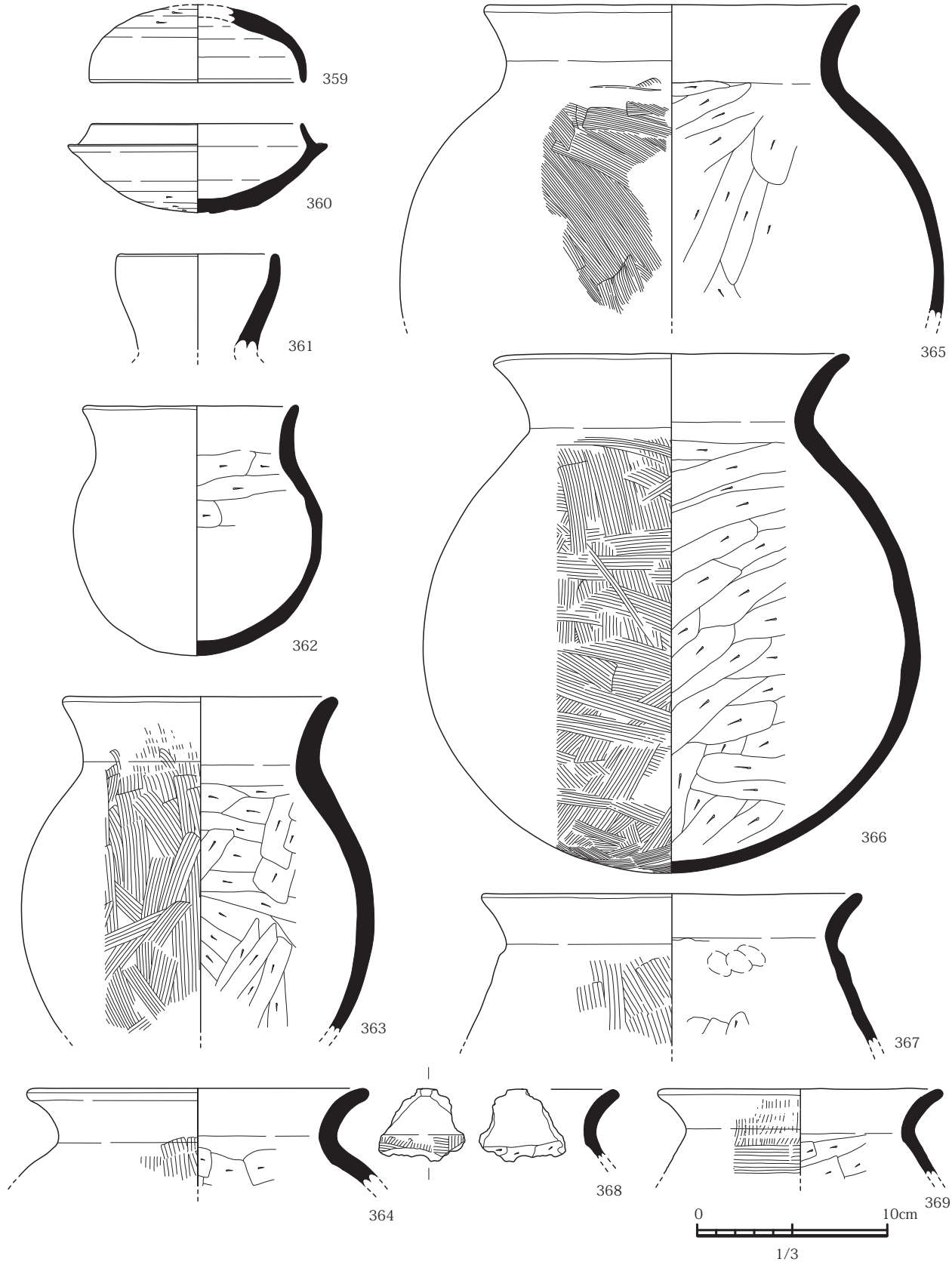


図 85　S058 出土土器（RP）実測図

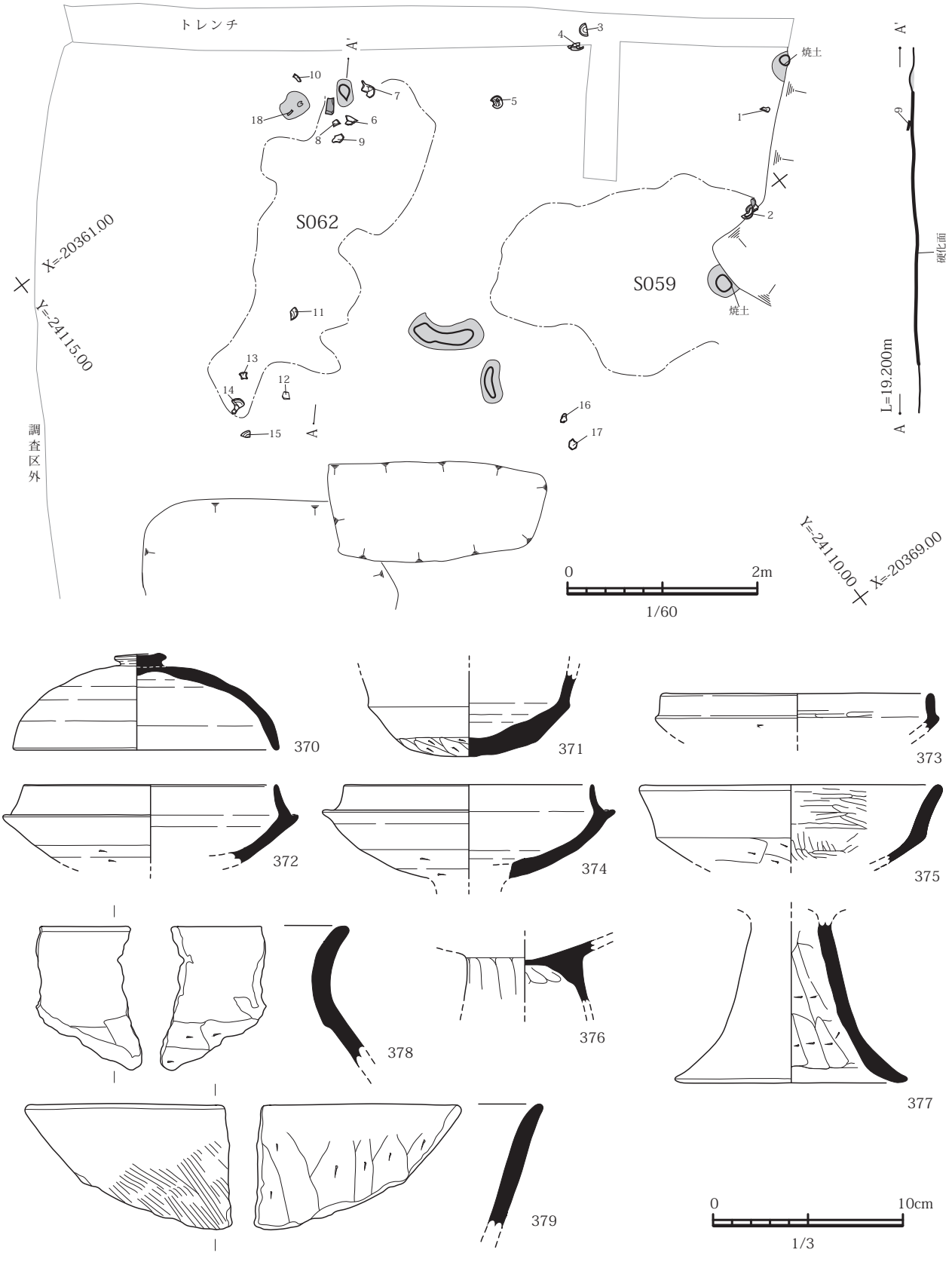


図 86　S059・S062 硬化面範囲及び出土土器（RP）実測図

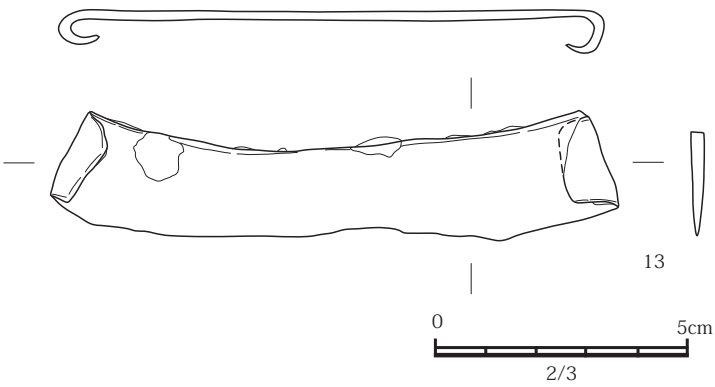


図 87　S058 出土鉄器（RM）実測図

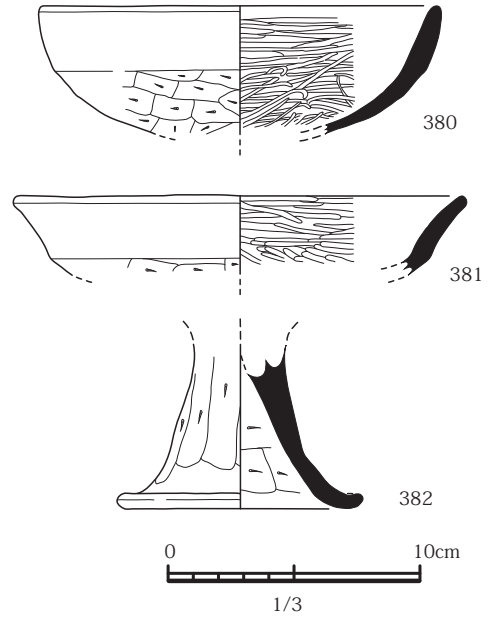


図 88　S060 出土土器（RP）実測図

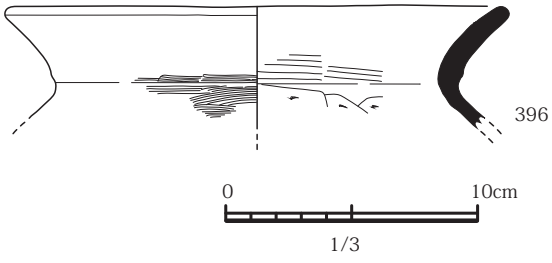


図 89　S063 出土土器（RP）実測図

いた。

土器は、須恵器の蓋 2 点（RP383、384）、坏 1 点（RP385）、高坏 1 点（RP386）、土師器の高坏 4 点（RP387 ～ 390）、甕 5 点（RP391 ～ 395）、合計 13 点を図示した。

S063（不明）

B2 グリッドに位置し、S048（竪穴住居）に切られ、大部分が調査区外に位置する遺構である。

平面形態は不明である。造り付け竈の壁体破片が検出されているが、竈本体の痕跡、硬化面、主柱穴等、竪穴住居に伴う設備は検出されていない。

土器は、土師器の甕 1 点（RP396）を図示した。

S064（竪穴住居）

G4 グリッドに位置し、S051（竪穴住居）、S059（竪穴住居）、S034（土壙）、S035（土壙）、S036（土壙）、撹乱土壙に切られている竪穴住居である。

平面形態は方形を呈している。硬化面、主柱穴等、竪穴住居に伴う設備は検出されていない。

法量（現存長）は、4.7m × 4.8m、遺構検出面からの深さ 15cm を測る。住居西部に他の住居の輪郭の可能性がある立ち上がりが検出されたが、詳細は不明である。

住居内には造り付け竈の壁体破片が散在し、焼土も検出されている。しかし、竈本体は検出されていない。

土器は、須恵器の高坏 1 点（RP397）、土師器の甕 4 点（RP398 ～ 401）、合計 5 点を図示した。

石器は、凹石 1 点（RQ21）を図示した。

S065（畝溝）

調査区 3 区で検出された溝の集合体で、畝溝である。調査区 3 区では、全域に畝溝が分布していた。

畝溝の法量は、幅 50cm 前後、遺構確認面からの深さ約 10cm である。このことから「畝」の法量（現存長）は幅 80cm 前後、高さ約 10cm となる。

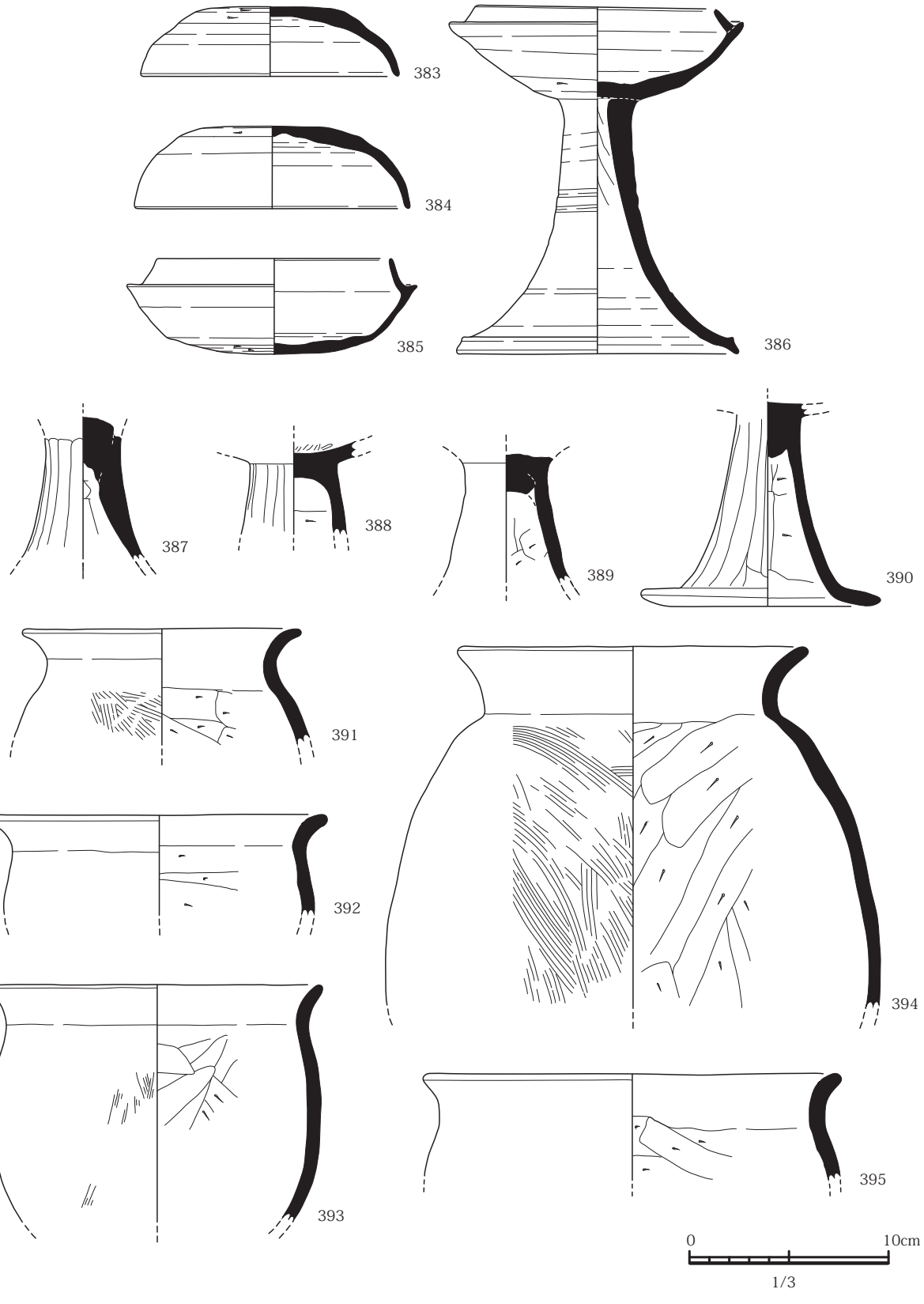


図 90　S062 出土土器（RP）実測図

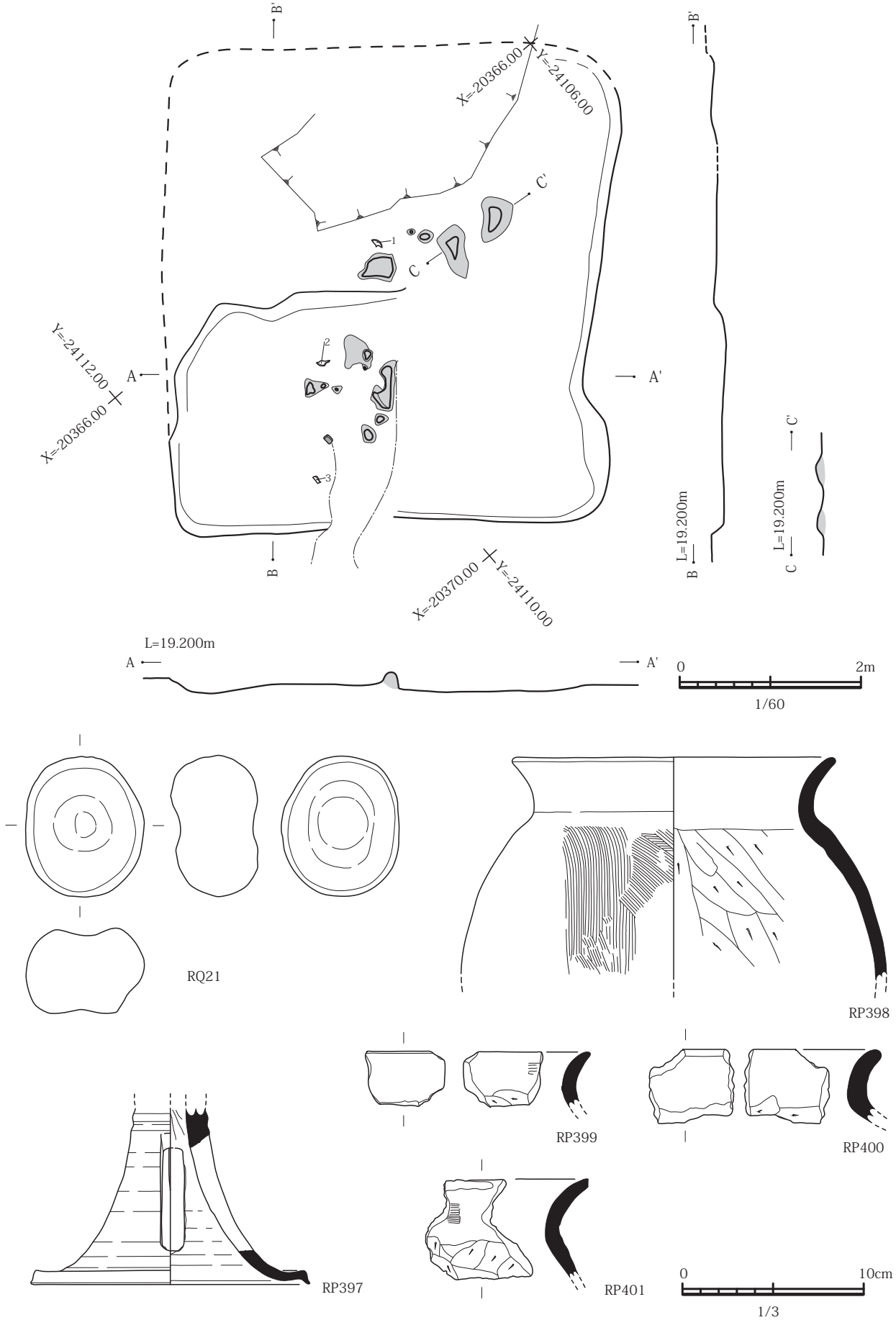


図 91　S064 遺構及び出土遺物（RP、RQ）実測図

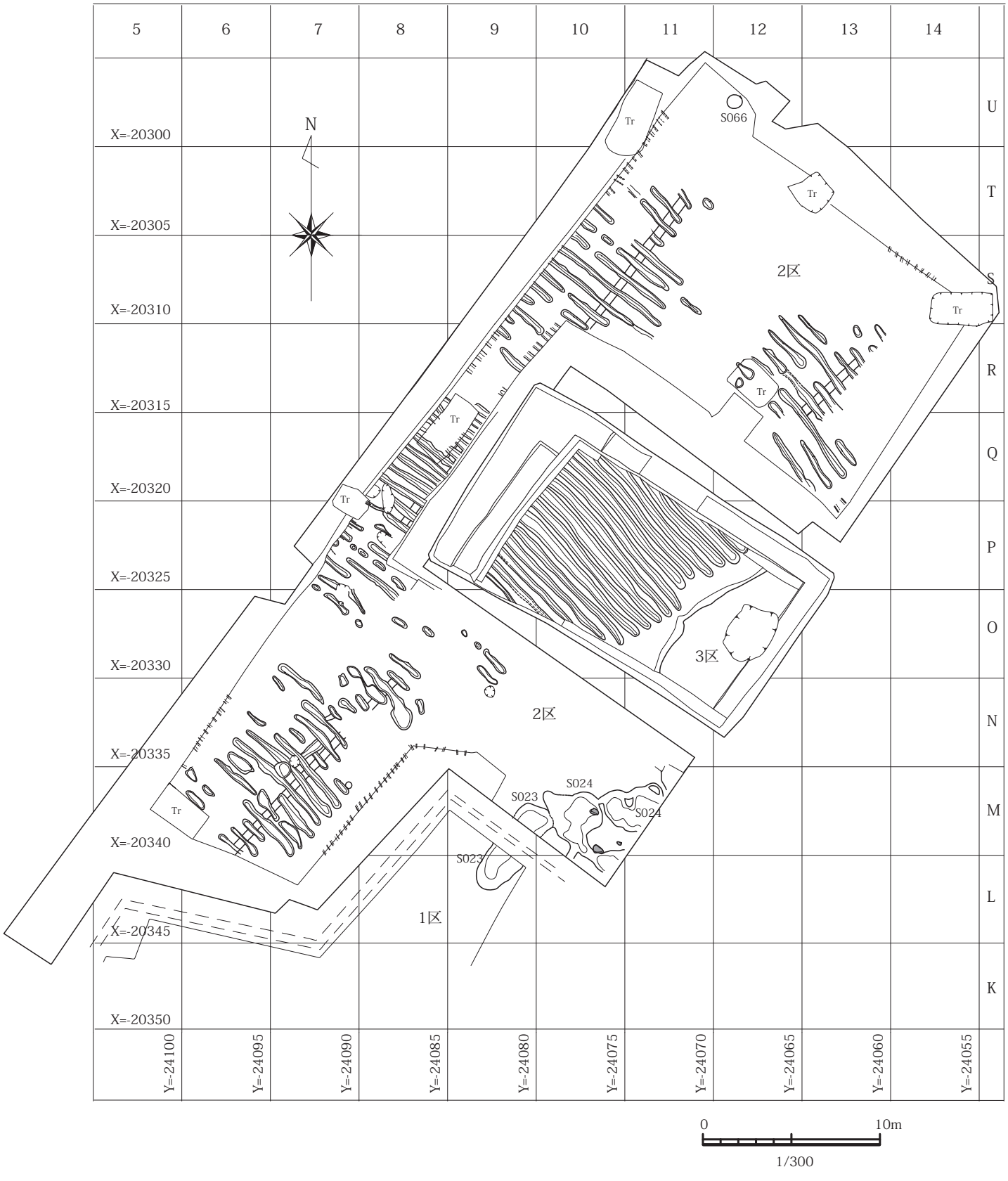


図 92　2 区及び 3 区 遺構配置図

2-2　包含層出土遺物

包含層から出土した遺物のうち、土器 79 点（RP403 ～ 481）、石器 1 点（RQ22）、金属器 4 点（RM14 ～ 17）、合計 84 点を図示した。

2-2-1　土器（RP403 ～ 481）

RP403 ～ 427 は須恵器、428 ～ 481 は土師器である。RP403 は把手付杯、404 ～ 411 は坏、412 ～ 420 は高坏、421 は鉢、422 は小型壺、423 ～ 427 は脚付鉢である。428 は轆轤成形による坏、429 ～ 438 は須恵器模倣坏、439 ～ 440、442 ～ 443 は皿、441 は埦、444 ～ 459 は高坏、460 ～ 464 は甕、465 は壺、466 は製塩土器、467 ～ 475 は甑、476 ～ 480 は移動式竈である。以上の土器は古墳時代後期に所属する土器である。481 は縄紋土器であり、黒色磨研様式に分類される。

2-2-2　石器（RQ22）

RQ22 は砥石である。砂岩を素材とした砥石の破片であり、砥面には擦痕ともに金属刃があたった線状痕が残る。

2-2-3　金属器（RM14 ～ 17）

RM14、15 は鉄鏃、16 はスチール缶、17 は蹄鉄である。

RM14 は、茎部を欠損しているが有茎である。鏃身と茎は同じ厚さで、茎基部には両関がそなわる。鏃身は細身であり、刃先から基部に向け厚みを増す斧箭である。長さ 3.7cm、幅 2.0cm を量り、重さ 4.8g を量る方頭細根斧箭式有茎鏃に分類されよう。RM15 は、茎部が折り曲げられた、と考えることができる鉄鏃である。茎が著しく長く、茎端部から 9.5cm の部分に棘篦被がそなわる。鏃身は長さ 2cm に満たないが、両丸造りであり、刃先から基部に向け厚みを増す鑿箭である。長さ 22.3cm、幅 1.0cm を測り、重さ 17.1g を量る両丸造棘篦被鑿箭式有茎鏃に分類されよう。以上のとおり、RM14 は方頭細根斧箭式有茎鏃、RM15 は両丸造棘篦被鑿箭式有茎鏃であり、古墳時代後期に属する遺物である。

RM16 はスチール缶の缶体と蓋である。蓋は、その縁辺部は滑らかな直線数条で構成されている。缶体は胴部両端を重ねて折り曲げ圧着している。蓋中央部にはプルトップに近似した破断痕がある。3 ピース缶となろう。RM17 は蹄鉄であり、単体で発掘されているため廃棄された蹄鉄であろう。左に接地面、右に接蹄面を図示した。鉄頭は腐食欠損し鉄唇は確認できない。鉄側には方孔の釘眼が両鉄枝に各 3 孔、合計 6 孔が穿たれている。第 2 鉄枝幅が広く、形態が細長いため、右後肢に装蹄された蹄鉄と推し量ることもできよう。なお、RM16、17 は近代以降に属する出土品である。

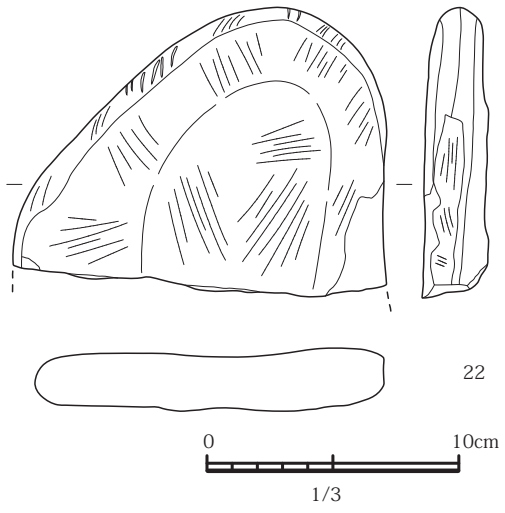


図 93　包含層 出土石器（RQ）実測図

（参考文献）

後藤守一、1939、「上古時代鉄鏃の年代研究」、『人類学雑誌』54-4、東京人類学会、東京。

競走馬事故防止対策委員会、1991、『兼用蹄鉄図鑑』、日本中央競馬会、東京。

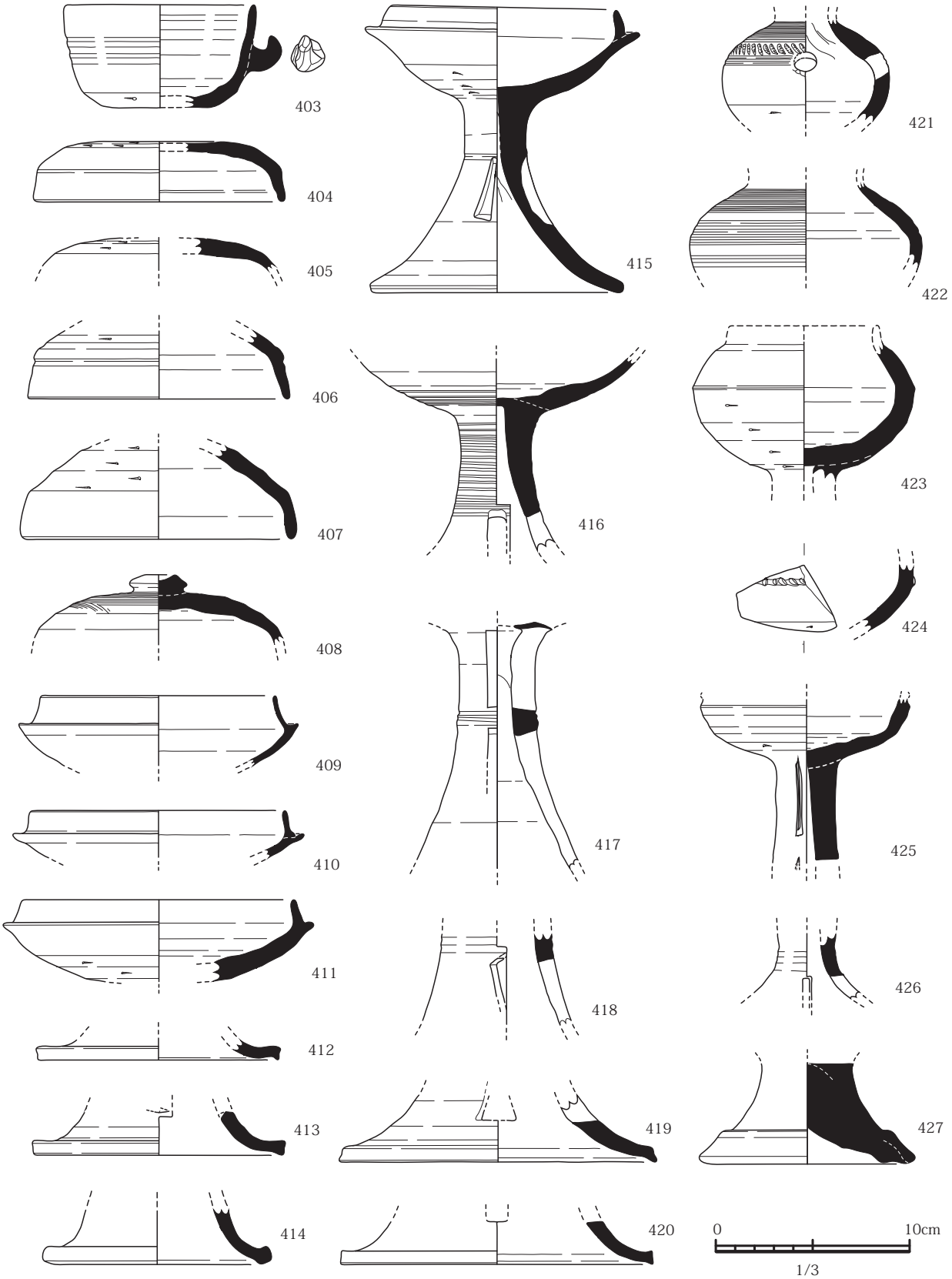


図 94　包含層 出土土器（RP）実測図

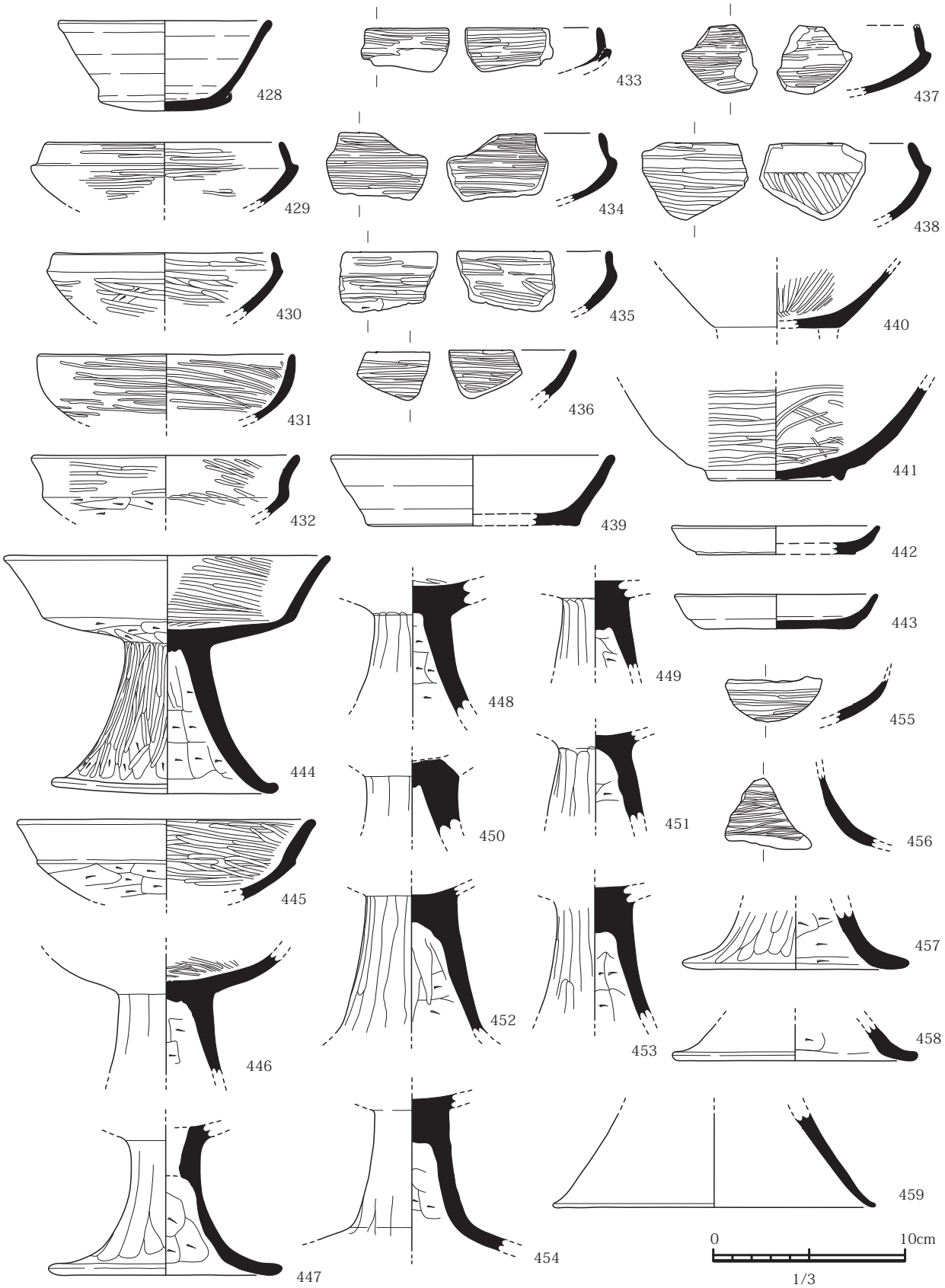


図 95　包含層 出土土器（RP）実測図

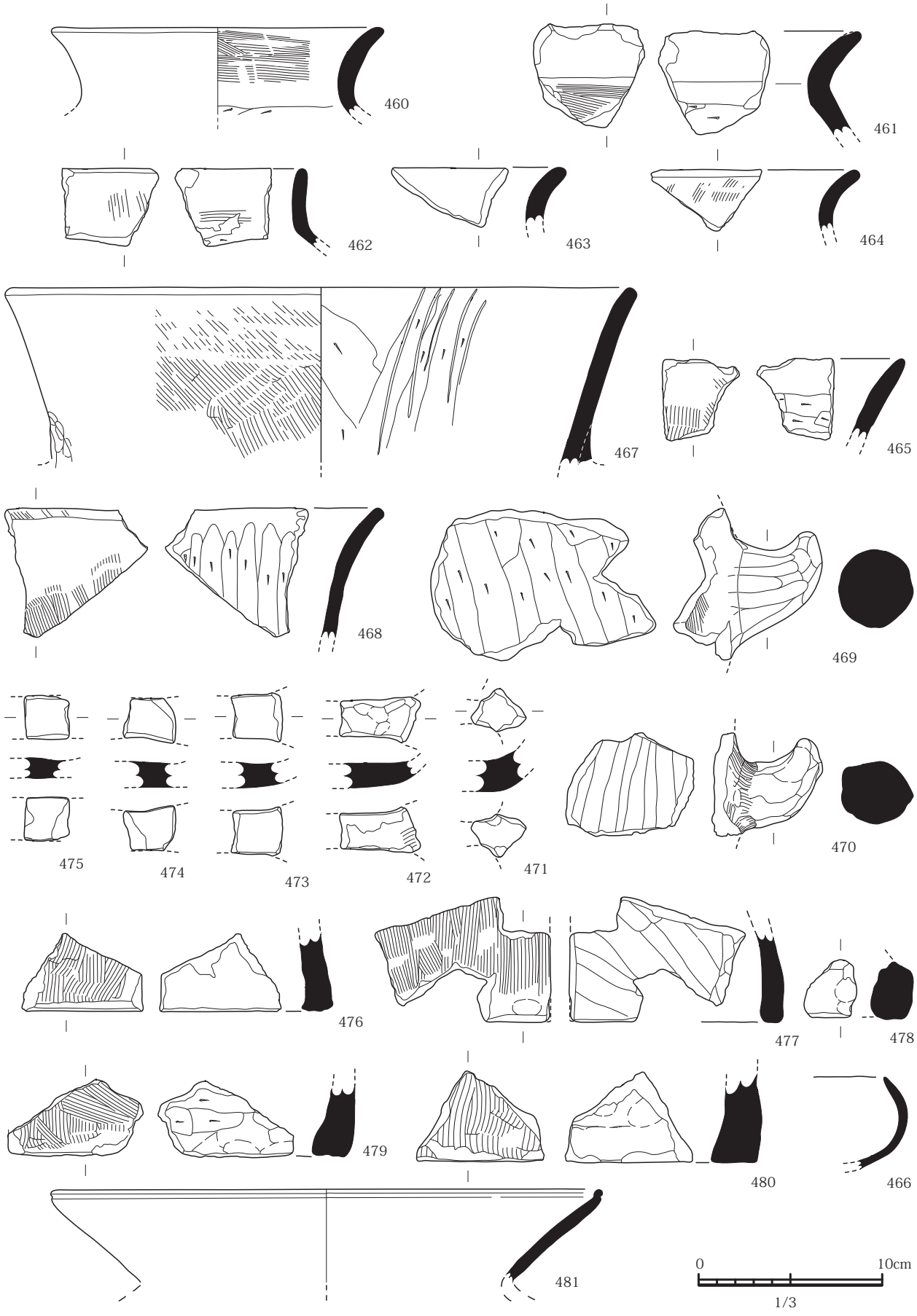


図 96　包含層 出土土器（RP）実測図

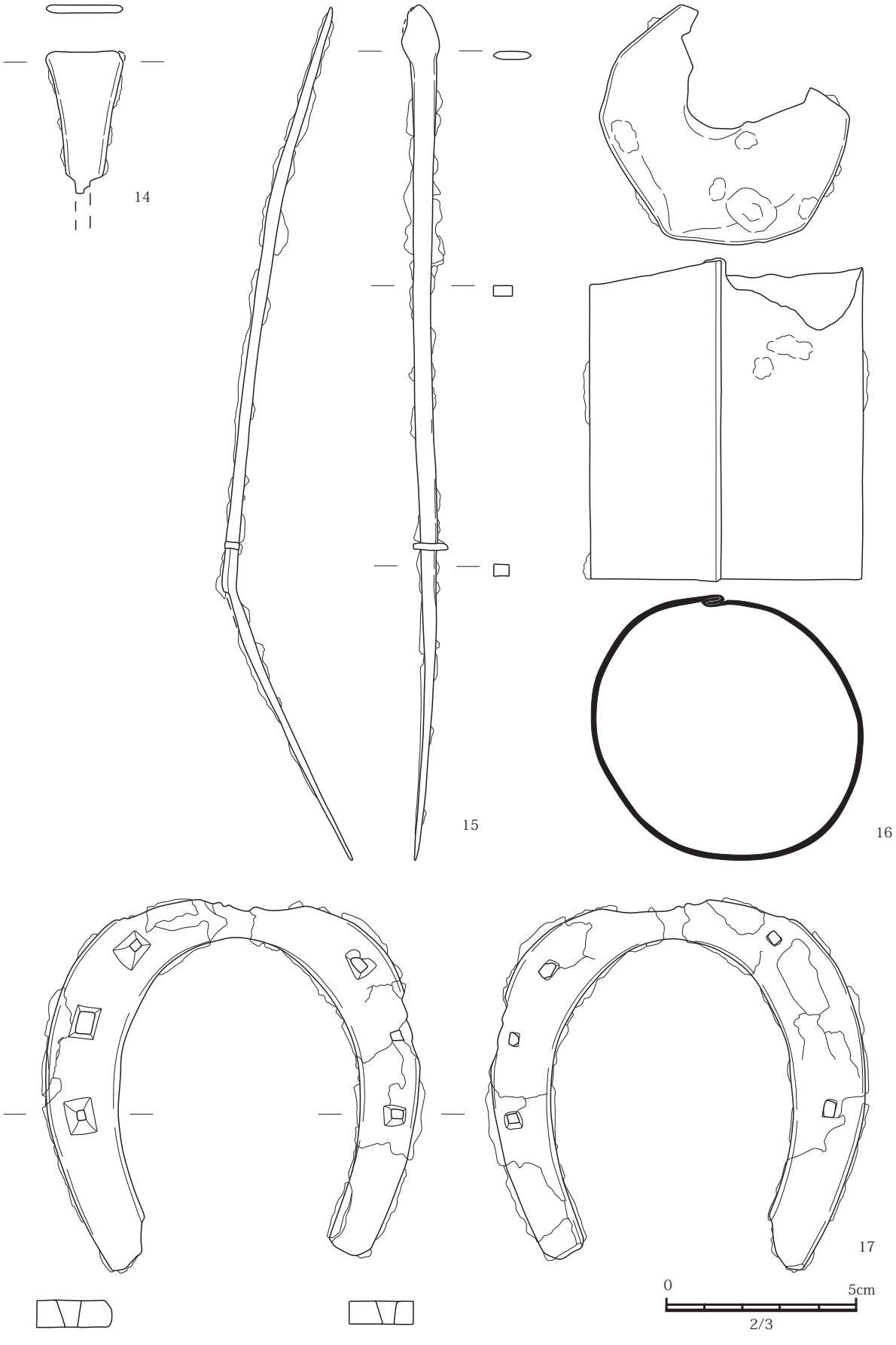


図 97　包含層 出土鉄器（RM）実測図

2-3　遺物観察表

土器観察表、石器観察表、鉄器観察表を掲載する。

2-3-1　土器（RP）観察表

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
1	土師器	甕	S005	3層ミゾ	−	−	4.2	10YR7/4	7.5YR7/6	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ	
2	土師器	甕	S005	3層ミゾ	−	−	2.8	10YR7/6	10YR7/4	ヨコナデ	板ナデ	
3	土師器	甕	S008	2	−	−	3.1	2.5YR4/6	7.5YR5/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	外面に赤彩
4	土師器	須恵器模倣坏	S021	一括ミゾ	−	−	3.0	10YR4/1	10YR5/2	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、内面一部剥離
5	須恵器	壺	S022	上層一括	−	−	3.8	5Y5/2	5Y6/3	回転ナデ、カキメ	回転ナデ	胴部径(14.0)cm、反転復元
6	須恵器	甕	S022	下層ミゾ	−	−	5.1	10BG2/1	2.5Y3/1	回転ナデ、櫛描波状紋	回転ナデ	歪みあり、外面に自然釉
7	須恵器	蓋	S028	北(28)	14.1	天井径5.6	4.0	7.5YR6/6	7.5YR6/6	回転ナデ、ヘラキリ、ヨコナデ、ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	
8	須恵器	蓋	S028	西(12)	13.5	天井径3.0	4.6	2.5Y8/1	2.5Y7/2	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	天井部外面に十字の線刻
9	須恵器	蓋	S028	北(27)北側床面一括	13.0	−	3.9	2.5Y6/2	2.5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ	反転復元
10	須恵器	蓋	S028	西(24)	14.4	天井径6.5	3.8	5Y5/2	2.5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ/ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	外面に降灰、天井部外面に線刻1本あり
11	須恵器	蓋	S028	西(4)一括	13.8	−	4.6	7.5YR7/4	10YR7/4	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	反転復元
12	須恵器	蓋	S028	北(31)西床一括	15.3	天井径3.9	4.2	2.5Y6/2	2.5Y7/2	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ/回転ナデ、ヨコナデ	外面に交差した2本の線刻
13	須恵器	坏	S028	北(31)	11.6	5.5	4.2	5Y6/3	5Y5/3	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	底部外面に黒斑、受部径14.0cm
14	須恵器	坏	S028	西(8)	11.3	4.1	4.3	5Y6/3	N4/	回転ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	全体に歪みあり、受部径13.2cm
15	須恵器	坏	S028	西(11)	11.8	5.0	4.1	2.5YR6/3	2.5YR6/3	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	受部径14.3cm
16	須恵器	坏	S028	西(10)	11.8	4.3	3.9	5YR4/6	7.5YR6/6	回転ナデ、ヨコナデ/ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	外面に4mm程の幼葉痕あり、受部径13.8cm
17	須恵器	坏	S028	東(12)	12.6	5.0	4.2	5Y6/1	5Y5/1	回転ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(14.6)cm、口縁部は磨滅、反転復元
18	須恵器	坏	S028	29	10.7	−	5.3	5B4/1	5GY5/1	回転ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(13.8)cm、反転復元
19	須恵器	坏	S028	19北側床面一括北最下層	12.0	3.0	4.3	5Y6/1	5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、天井部内面に線刻1本あり、受部径14.3cm
20	須恵器	坏	S028	北(20)北床面一括	12.9	4.4	4.5	2.5YR6/3	2.5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(14.6)cm、反転復元
21	須恵器	坏	S028	北(29)	12.0	2.9	4.3	2.5Y6/2	5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	底部内面に線刻1本、受部径14.6cm
22	須恵器	坏	S028	西(9)西床一括	12.4	4.6	4.3	10YR6/4	10YR6/4	回転ナデ、ヨコナデ/回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ナデ	受部径14.4cm
23	須恵器	高坏	S028	一括	−	−	5.5	7.5YR3/1	5Y4/1	回転ナデ	回転ナデ	内面に降灰、透孔3孔の内2孔残存、反転復元
24	土製品	土玉	S028	西(1)	高さ2.4	幅2.7	孔径0.6	5YR5/6	5YR5/6	−	−	穿孔あり
25	土師器	高坏	S028	南(5)	−	10.6	2.5	10YR5/3	10YR5/3	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
26	土師器	甕	S028	西(2)西最下層	11.7	−	17.0	10YR5/3	10YR5/2	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、胴部径(17.9)cm、反転復元
27	土師器	甕	S028	北(26)	18.2	−	3.2	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
28	土師器	甕	S028	西(30)	19.3	−	3.0	10YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、工具痕	外面にスス付着、反転復元
29	土師器	甕	S028	南(20)	18.2	−	11.3	7.5YR6/6	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、頸部内面に粘土つなぎ痕あり、外面一部にスス付着、反転復元
30	土師器	甕	S028	北(6)	18.6	−	7.1	7.5YR7/6	10YR7/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
31	土師器	甕	S028	南(19)	20.2	−	6.9	10YR6/4	10YR6/3	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	内外面ともに一部スス付着、反転復元
32	土師器	甕	S028	南(15、35)	16.4	−	5.8	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	口縁部外面にスス付着、反転復元
33	土師器	甕	S028	北(12)一括北側床面一括	18.3	−	8.7	7.5YR6/4	5YR6/6	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元内外面ともにスス僅かに付着

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
34	土師器	甕	S028	西(18)	18.4	−	5.4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	反転復元
35	土師器	甕	S028	北(9、11)	18.6	−	7.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	反転復元
36	土師器	甕	S028	東最下層	18.4	−	8.6	7.5YR6/6	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、内外面ともに口縁部から頸部にかけて薄くスス付着、反転復元
37	土師器	甕	S028	西(25、28)	19.9	−	6.5	7.5YR6/4	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、口縁部に歪みあり、内面に薄く黒斑、反転復元
38	土師器	甕	S028	西(7)西一括	20.6	−	4.6	7.5YR5/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、外面一部にスス付着、反転復元
39	土師器	甕	S028	西(23)	19.9	−	8.4	10YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	口縁部外面にスス付着、反転復元
40	土師器	甕	S028	南(2)	22.6	−	5.3	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	反転復元
41	土師器	甕	S028	北(14、15、16、18)	18.5	−	10.7	2.5Y7/3	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	口縁部外面一部に黒斑、頸部外面を一周するようにスス付着
42	土師器	甕	S028	西最下層	−	−	3.4	10YR7/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	
43	土師器	甕	S028	北最下層	−	−	2.6	10YR6/3	10YR6/3	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	
44	土師器	甕	S028	東(1)	−	−	6.3	10YR7/4	10YR5/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	口縁部外面磨滅し、頸部外面にスス付着、
45	土師器	甕	S028	南(10)	−	−	2.6	10YR6/3	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	
46	土師器	甕	S028	南床面一括	−	−	3.1	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ、沈線	ヨコナデ	
47	土師器	甕	S028	北(5)	−	−	3.9	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	
48	土師器	甕	S028	北(3)	−	−	3.0	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	
49	土師器	甕	S028	東(5)	−	−	4.2	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	
50	土師器	甕	S028	東最下層	−	−	3.9	7.5YR5/4	7.5YR5/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	外面の一部にスス付着
51	土師器	甕	S028	北(8)	−	−	4.8	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
52	土師器	甕	S028	西(28)	−	−	5.2	10YR5/2	10YR5/3	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ、ケズリ	口縁部内面に黒斑
53	土師器	甕	S028	東(14)	−	−	4.1	10YR7/4	10YR7/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	包含層出土遺物と接合
54	土師器	甕	S028	南(4)	−	−	4.4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	
55	土師器	甕	S028	西(6)	−	−	5.7	7.5YR7/6	7.5YR7/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
56	土師器	甕	S028	北(22、23)北最下層北側床面一括	−	−	9.3	7.5YR6/6	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
57	須恵器	蓋	S028-2	上層C-2(21)	13.8	−	2.4	5Y6/2	5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ	反転復元
58	須恵器	蓋	S028-2	上層D-2(9)	−	−	2.2	2.5Y3/1	2.5Y5/2	回転ナデ、ツマミ部貼付	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、全体に歪みあり、反転復元
59	須恵器	高坏	S028-2	C-2(19)D-3(93)	−	−	3.9	5Y6/2	5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ	反転復元
60	須恵器	高坏	S028-2	上層D-3(91)	−	−	2.2	N3/	2.5Y7/3	回転ケズリ、回転ナデ	回転ナデ、ナデ	坏部内面に降灰、反転復元
61	須恵器	高坏	S028-2	上層D-2(7)	−	−	4.8	N4/	2.5Y4/1	回転ナデ、沈線	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、坏部上面と脚部外面に降灰、内面にシボリ痕、反転復元
62	須恵器	高坏	S028-2	カベカクラン	−	−	11.9	7.5Y4/1	7.5Y5/2	回転ナデ、沈線	回転ナデ	透孔(方形)2段2ヵ所の内2段1ヵ所の一部残存、内面にシボリ痕、反転復元
63	須恵器	提瓶	S028-2	上層E-2(16)	頸部径5.5	−	7.4	2.5Y5/2	2.5Y5/1	回転ナデ、カキメ	回転ナデ、ナデ、オサエ	外面に薄く降灰、把手の欠損痕2ヵ所、反転復元
64	土師器	須恵器模倣坏	S028-2	上層(7)	13.4	−	3.6	2.5Y6/3 2.5Y3/1	2.5Y6/2 2.5Y3/1	ミガキ	ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、反転復元
65	土師器	須恵器模倣坏	S028-2	カベカクラン	−	−	3.1	10YR5/2	10YR7/3	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、外面にスス付着
66	土師器	高台付坏	S028-2	上層E-2	−	6.6	1.7	10YR7/4	10YR7/4	ケズリ/高台貼付、ヨコナデ	ナデ、ミガキ	高台部外面にスス付着
67	土師器	甕	S028-2	上層D-3(85)	16.2	−	4.5	10YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	反転復元
68	土師器	甕	S028-2	上層E-2(123)	16.4	−	3.7	10YR7/4	10YR7/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
69	土師器	甕	S028-2	上層D、E-2(35)	18.4	−	4.2	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
70	土師器	甕	S028-2	カベカクラン	18.2	−	4.0	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	反転復元
71	土師器	甕	S028-2	上層D-2(56)	19.4	−	3.4	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	反転復元
72	土師器	甕	S028-2	上層D-3(82)	19.8	−	4.2	10YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元口縁部外面にスス付着
73	土師器	甕	S028-2	上層D-3(78)	20.7	−	4.7	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元、口縁部外面にスス付着
74	土師器	甕	S028-2	4層、下、西	21.6	−	7.1	5YR6/6	5YR5/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元、口縁部外面にスス付着

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
75	土師器	甕	S028-2	D-3(84)	16.6	−	11.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
76	土師器	甕	S028-2	上層	14.9	−	14.7	10YR6/4	10YR6/3	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元、外面は全体にスス付着
77	土師器	甕	S028-2	上層 D-2(48)	23.2	−	4.6	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具痕、ハケメ	外面の一部にスス付着、反転復元
78	土師器	甕	S028-2	上層 D-2(63)	−	−	3.6	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	
79	土師器	甕	S028-2	上層D、E-2(37)	−	−	4.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
80	土師器	甕	S028-2	上層 D-3(94)	−	−	4.0	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	内外面スス付着
81	土師器	甕	S028-2	上層 D-2(48)	−	−	4.8	7.5YR6/4	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、口縁部外面にスス付着
82	土師器	甕	S028-2	上層 E-2(108)	−	−	4.2	10YR6/3	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ、ケズリ	外面に剥離あり
83	土師器	甕	S028-2	D-2、3(75)	−	−	9.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	外面の一部にスス付着
84	土師器	甕	S028-2	上層 D-3(86)	−	−	6.9	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ	ヘラナデ	外面に黒斑
85	土師器	甑	S028-2	上層E-2(119)	−	−	12.2	10YR7/4	10YR6/4	ハケメ、把手貼付、オサエ、ナデ	ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元、外面にスス付着、把手1個残存
86	土製品	竈	S028-2	上層 C-2(24)	−	−	5.0	10YR6/4	10YR6/4	オサエ、ハケメ	ヘラナデ	
87	土師器	甕	S029	一括	−	−	4.1	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	
88	須恵器	蓋	S030	1層(2)	14.4	−	4.0	5Y5/1	5Y5/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	反転復元
89	土師器	甕	S030	1層(4)	−	−	4.3	10YR4/1	7.5YR6/4	ヨコナデ、工具痕	ヨコナデ、ケズリ	外面にスス付着
90	須恵器	坏	S031	②層	11.7	2.6	4.4	2.5Y7/3	2.5Y7/3	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	口縁部に打ち欠きの痕が見られる、受部径(13.4)cm
91	須恵器	坏	S038	一括	11.7	−	2.3	2.5Y6/2	2.5Y6/2	回転ナデ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(13.6)cm、反転復元
92	須恵器	坏	S038	33	12.2	−	3.8	10YR6/1	10YR5/3	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ナデ	受部径(14.4)cm、受部に重ね焼き痕あり、外面に降灰あり、反転復元
93	須恵器	坏	S038	北(21)	−	−	3.1	2.5Y6/2	2.5Y6/2	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	
94	須恵器	坏	S038	下層床直上(78)	11.6	7.4	3.7	N5/	N5/	回転ナデ	回転ナデ、ナデ	外面に降灰あり、受部径(14.2)cm、反転復元
95	須恵器	坏	S038	北側一括	13.0	−	3.2	N5/	N4/	回転ナデ	回転ナデ	受部径(15.2)cm、反転復元、口縁に打ち欠きの痕が見られる、外面に降灰、重ね焼き痕あり
96	須恵器	坏	S038	床直上(105)一括	11.9	−	4.7	2.5Y7/3	2.5Y7/3	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(14.5)cm、反転復元
97	須恵器	坏	S038	71一括	11.7	6.5	3.9	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径13.8cm
98	須恵器	坏	S038	29床直上(95、96)	13.6	6.0	4.9	5Y5/1	2.5Y6/2	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ	受部径15.4cm、口縁に打ち欠きの痕が見られる
99	須恵器	坏	S038	28、32	12.5	6.8	4.3	2.5Y7/3	2.5Y6/2	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ	受部径14.8cm
100	須恵器	高坏	S038	北側一括	12.6	−	4.5	N5/	7.5Y5/2	回転ナデ、回転ケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径15.0cm
101	須恵器	皿	S038	40	14.2	5.6	2.9	7.5Y6/1	7.5Y6/1	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、全体に歪みあり
102	須恵器	鉢	S038	15	10.0	−	7.4	2.5Y5/2	2.5Y5/2	回転ナデ、沈線	回転ナデ	反転復元
103	須恵器	瓶	S038	トレンチ	−	−	4.4	2.5YR6/3	2.5YR6/3	回転ナデ、回転ケズリ、沈線、刺突紋	回転ナデ	胴部径(10.2)cm、反転復元
104	須恵器	瓶	S038	37	−	−	4.1	10Y5/1	10Y5/1	回転ナデ、ナデ、カキメ	回転ナデ、オサエ	胴部径(9.0)cm、胴部中位に穿孔、反転復元
105	須恵器	提瓶	S038	30一括	頸部径5.1	−	19.3	7.5Y5/1	5Y6/1	回転ナデ、カキメ(同心円状)	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、把手1個残存、胴部内面にロクロ成形時の充填痕あり、外面に降灰あり
106	須恵器	甕	S038	カマド周辺	−	−	6.4	7.5Y5/1	5Y6/1	格子状タタキ痕	同心円状当具痕	
107	土師器	須恵器模倣坏	S038	下層床直上(77、80)カマド内周辺	13.5	4.0	4.7	7.5YR5/3	7.5YR6/3	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	受部径14.9cm、口縁部外面に黒斑あり、須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、
108	土師器	須恵器模倣坏	S038	床直上(101、102)西下層一括	14.7	4.6	4.9	7.5YR3/2	7.5YR3/2	ケズリ、ミガキ	ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
109	土師器	須恵器模倣坏	S038	カマド(8、14、16)	15.4	4.0	5.5	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ヘラナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、口縁部歪みあり
110	土師器	須恵器模倣坏	S038	下層床直上(84)一括	16.1	4.0	5.1	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ミガキ	包含層出土遺物と接合、須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、栗囲式と鬼高式の併行期
111	土師器	須恵器模倣坏	S038	床直上(99)	−	−	3.7	10YR4/2	10YR4/2	ヨコナデ、ナデ	ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、外面磨滅

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
112	土師器	須恵器模倣坏	S038	51	−	−	1.8	7.5YR4/4	10YR4/2	ヘラナデ	ナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、外面には赤色顔料が見られる
113	土師器	坏	S038	一括	−	−	4.6	10YR5/4	7.5YR5/4	ヨコナデ	ミガキ	内外面ともに磨滅
114	土師器	坏	S038	南下層	−	3.0	1.2	2.5YR6/4	2.5YR6/4	ミガキ	ミガキ	内外面ともに丁寧なミガキが施されている、反転復元
115	土師器	壺	S038	4,20一括	10.5	−	16.7	2.5YR5/6	7.5YR6/4	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、オサエ、ナデ	包含層出土遺物と接合、内外面に赤彩あり、外面磨滅
116	土師器	甕	S038	トレンチ一括	10.6	−	6.9	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、オサエ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、胴部径(11.1)cm、反転復元内外面の一部に縦方向に赤彩あり
117	土師器	高坏	S038	25,26,31床直上(91,92,93,94)	17.8	12.0	12.2	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ケズリ/ヘラナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、廃棄に焼けたと思われる黒変あり
118	土師器	高坏	S038	35,41,43一括	17.3	12.0	12.6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ケズリ/ヘラナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ミガキ/ケズリ	包含層出土遺物と接合
119	土師器	高坏	S038	76一括	18.3	−	9.2	7.5YR7/6	7.5YR7/6	ヨコナデ、ケズリ/ヘラナデ	ヨコナデ、ミガキ/ヘラナデ	包含層出土遺物と接合、外面の口縁部から坏部にかけてスス付着
120	土師器	高坏	S038	7	17.0	−	4.4	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ	包含層出土遺物と接合、反転復元
121	土師器	高坏	S038	39	−	−	6.1	2.5Y4/1	10YR6/3	ミガキ	ミガキ/ケズリ	脚部外面にスス付着
122	土師器	鉢	S038	60	25.0	−	7.4	10YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、外面磨滅、反転復元
123	土師器	甕	S038	一括	−	−	3.2	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ	ヨコナデ	
124	土師器	甕	S038	55	−	−	3.9	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
125	土師器	甕	S038	西下層	−	−	3.7	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
126	土師器	甕	S038	59	−	−	4.7	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ、ケズリ	
127	土師器	甕	S038	63	−	−	4.2	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ヘラナデ	
128	土師器	甕	S038	12	17.0	−	4.0	7.5YR7/4	5YR7/6	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	反転復元
129	土師器	甕	S038	38	16.2	−	6.9	7.5YR6/6	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
130	土師器	甕	S038	40	17.4	−	5.9	7.5YR7/4	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
131	土師器	甕	S038	一括	19.0	−	6.4	7.5YR7/4	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	口縁部外面にスス付着、反転復元
132	土師器	甕	S038	2,3カマド(3,4,5,15,17,18,19,20)カマド一括	15.6	−	21.4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	胴部径23.8cm、胴部外面に黒斑
133	土師器	甕	S038	10	16.4	−	5.7	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
134	土師器	甕	S038	45	16.7	−	11.3	7.5YR5/4	5YR5/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、内面の一部に黒斑、外面のほぼ全面にスス付着
135	土師器	甕	S038	47	19.4	−	8.7	7.5YR6/4	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、外面磨滅、スス付着、反転復元
136	土師器	甕	S038	床直上(97,98)	19.8	−	9.5	10YR5/3	10YR5/3	ヨコナデ、ハケメ(9条)	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
137	土師器	甕	S038	4層下	24.0	−	4.6	7.5YR6/4	5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、外面にスス付着、反転復元
138	土師器	甕	S038	24	18.4	−	9.1	5YR6/6	5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
139	土師器	甕	S038	52床直上(104)	23.8	−	9.0	10YR5/4	7.5YR5/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
140	土師器	甕	S038	54	27.2	−	5.7	7.5YR6/4	7.5YR5/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
141	土師器	甑	S038	3,6,46,66下層床直上(83,87)一括	27.8	−	13.8	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ、オサエ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、外面磨滅、内外面共に全体にスス付着、把手2個のうち1個の先端部欠損
142	土師器	甑	S038	74一括	32.0	−	9.6	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ヘラナデ	内外面に黒斑あり、反転復元
143	土師器	甑	S038	4層(65)	27.6	−	9.2	7.5YR7/6	7.5YR7/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
144	土師器	甑	S038	82	−	−	8.2	7.5YR6/4	7.5YR6/4	オサエ、ハケメ	ケズリ	
145	土師器	甑	S038	18	−	−	8.2	2.5Y5/2	10YR7/4	オサエ、ハケメ	ケズリ、ミガキ	廃棄後に焼けたと思われる黒変あり
146	土製品	竈	S038	65	−	−	9.0	10YR6/4	7.5YR6/6	ハケメ	ヘラナデ	包含層出土遺物と接合
147	須恵器	蓋	S038-2	4層(55)西上層一括	13.8	天井径5.7	4.0	5Y5/2	5Y5/2	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元、天井部に火襷まがい確認
148	須恵器	蓋	S038-2	4層(30)ベルト上層	13.5	−	4.0	2.5Y7/4	2.5Y7/4	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	ヨコナデ、回転ナデ	口縁内面に沈線1条、反転復元
149	須恵器	蓋	S038-2	ベルト上層	14.4	天井径8.0	3.8	2.5Y6/3	2.5Y7/3	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
150	須恵器	高坏	S038-2	4層(72)	−	−	7.5	2.5Y4/1	5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	透孔(方形)3孔の内2孔残存、外面に降灰あり、反転復元

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
151	須恵器	高坏	S038-2	4層(97)	−	15.2	2.1	N5/	7.5Y5/1	回転ナデ	回転ナデ	透孔(方形)1孔残存、反転復元 内面に降灰、外面に自然釉付着
152	須恵器	甕	S038-2	4層(78)	21.2	−	7.6	5Y6/1	2.5Y6/2	回転ナデ、カキメ	回転ナデ、ナデ	反転復元
153	須恵器	甕	S038-2	4層(51)	−	−	7.0	2.5Y6/2	2.5Y6/2	回転ナデ、ヨコナデ、櫛描波状紋	回転ナデ	内外面ともに剥離、磨滅している
154	土師器	須恵器模倣坏	S038-2	4層(59)	11.2	−	3.7	10YR7/3	10YR7/3	ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	包含層出土遺物と接合、受部径(13.2)cm、須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、外面の一部に黒斑あり、反転復元
155	土師器	坏	S038-2	4層(23、26)一括	14.6	−	4.3	10YR6/4	10YR6/4	回転ナデ、ヨコナデ、ケズリ	回転ナデ、ヨコナデ、ミガキ	内外面の一部に黒斑、反転復元
156	土師器	高坏	S038-2	北上層	17.6	−	3.6	5YR7/6	5YR7/6	ヨコナデ、ケズリ	ミガキ	包含層出土遺物と接合、反転復元
157	土師器	高坏	S038-2	ベルト上層	15.2	−	5.3	7.5YR6/6	5YR5/8	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ	脚部の貼り付け部分の痕跡が僅かに認められる、反転復元
158	土師器	高坏	S038-2	4層(83)	−	−	4.6	10YR6/4	10YR6/4	ヘラナデ	ミガキ/ケズリ	
159	土師器	高坏	S038-2	4層(76)	−	−	6.5	5YR6/6	7.5YR7/4	ミガキ	ミガキ/ヘラナデ、ケズリ	坏部内面と脚部外面に赤彩あり、反転復元
160	土師器	高坏	S038-2	4層下	−	−	2.4	7.5YR7/4	5YR5/6	ヨコナデ	ミガキ	内面に赤色顔料塗布
161	土師器	高坏	S038-2	4層(86)	−	14.4	11.0	10YR6/3	10YR6/3	ヘラナデ、ヨコナデ	ミガキ/ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元、内外面全体にスス付着
162	土師器	高坏	S038-2	ベルト一括	−	−	5.9	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヘラナデ	ケズリ	包含層出土遺物と接合、内面磨滅、反転復元
163	土師器	高坏	S038-2	4層一括	−	−	6.2	7.5YR6/3	7.5YR6/3	ミガキ	ミガキ/ケズリ	外面にスス付着、反転復元
164	土師器	高坏	S038-2	北上層	−	13.8	2.7	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
165	土師器	甕	S038-2	4層(50)	16.4	−	4.5	5YR6/4	5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	外面にスス付着、反転復元
166	土師器	甕	S038-2	4層(41)	18.2	−	4.4	7.5YR5/6	7.5YR5/6	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
167	土師器	甕	S038-2	北上層、一括	16.5	−	5.0	5YR7/6	2.5Y6/6	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	反転復元
168	土師器	甕	S038-2	4層一括	17.5	−	4.4	10YR6/3	10YR7/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	口縁部外面にスス付着、反転復元
169	土師器	甕	S038-2	4層(39、58)北上層	18.6	−	5.8	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
170	土師器	甕	S038-2	4層(5、8)4層	17.1	−	7.5	7.5YR5/4	7.5YR5/4	ヨコナデ、沈線、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
171	土師器	甕	S038-2	北上層ベルト上層トレンチ一括	18.4	−	6.4	10YR6/3	10YR6/3	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、内外面ともにスス付着、反転復元
172	土師器	甕	S038-2	西上層一括西上層	26.6	−	3.3	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	包含層出土遺物と接合、口唇部は内外面ともに磨滅し、外面にスス付着、反転復元
173	土師器	甕	S038-2	4層(10)	23.2	−	4.4	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	反転復元
174	土師器	甕	S038-2	南上層	21.0	−	3.6	7.5YR7/4	7.5YR7/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	反転復元
175	土師器	甕	S038-2	4層(70)4層	19.6	−	3.8	5YR6/4	5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	包含層出土遺物と接合、外面にスス付着、反転復元
176	土師器	甕	S038-2	4層(12)	19.0	−	4.4	5YR8/4	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
177	土師器	甕	S038-2	西上層一括	18.8	−	8.3	7.5YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元、胴部外面の一部にスス付着
178	土師器	甕	S038-2	4層(100)	18.4	−	7.0	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
179	土師器	甕	S038-2	4層(36)	−	−	5.7	7.5YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ケズリ	反転復元
180	土師器	甕	S038-2	4層(71)東下層一括南下層一括	−	−	7.3	5YR7/4	5YR7/6	ヨコナデ、ナデ	ケズリ	外面の一部にスス付着、反転復元
181	土師器	甕	S038-2	4層(3、4、6)4層一括	17.2	−	11.9	7.5YR6/4	10YR6/3	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、口縁部外面に黒斑、胴部外面にスス付着、胴部径(21.1)cm、反転復元
182	土師器	甕	S038-2	北上層	17.6	−	8.9	7.5YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ	胴部外面のハガレ部分は把手が付いていたと思われる、、内面にスス付着、反転復元
183	土師器	甕	S038-2	4層(49)	−	−	4.4	7.5YR6/6	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
184	土師器	甕	S038-2	4層(53)	−	−	3.6	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	
185	土師器	甕	S038-2	4層(96)	−	−	4.0	5YR6/4	5YR6/6	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	
186	土師器	甕	S038-2	4層(73)	−	−	3.7	7.5YR6/4	7.5YR6/6	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	
187	土師器	甕	S038-2	北上層	−	−	5.5	10YR4/3	10YR5/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	外面にスス付着
188	土師器	甕	S038-2	南上層	−	−	3.7	7.5YR5/4	7.5YR5/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
189	土師器	甕	S038-2	4層(99)	−	−	3.6	10YR4/3	10YR5/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
190	土師器	甕	S038-2	4層(80)	−	−	4.7	2.5Y5/3	2.5Y5/3	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
191	土師器	甕	S038-2	4層(17)	−	−	4.0	7.5YR7/4	10YR8/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
192	土師器	甕	S038-2	4層(9)	−	−	4.2	5YR7/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部外面にスス付着
193	土師器	甕	S038-2	南上層	−	−	4.0	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	
194	土師器	甕	S038-2	4層(67)	−	−	3.9	10YR6/4	5YR5/6	ハケメ、ヨコナデ	ヘラナデ、ヨコナデ、ケズリ	

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
195	土師器	甕	S038-2	ベルト上層	−	−	2.2	5YR7/4	5YR7/6	ヨコナデ	ヨコナデ	
196	土師器	甕	S038-2	西上層一括	−	−	6.2	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
197	土師器	甕	S038-2	4層(77)	−	−	4.7	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	
198	土師器	甑	S038-2	4層(94)ベルト上層北上層	−	11.2	13.0	7.5YR5/6	7.5YR5/6	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
199	土師器	甑	S038-2	ベルト上層	−	−	2.4	10YR6/4	10YR6/4	ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ	
200	須恵器	高坏	S040	カマド	11.5	−	4.7	10YR4/2	2.5YR5/2	回転ナデ、カキメ	回転ナデ	反転復元
201	須恵器	高坏	S040		−	−	5.2	7.5YR6/3	7.5YR6/4	回転ナデ	シボリ痕	透孔(方形)2孔、反転復元
202	須恵器	高坏	S040	一括	−	−	7.5	5Y6/1	2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ、シボリ痕	透孔(方形)3孔のうち2孔残存、反転復元
203	須恵器	高坏	S040	一括	−	−	7.4	2.5Y7/2	2.5Y7/2	回転ナデ	回転ナデ	透孔(方形)3孔のうち2孔残存、反転復元
204	須恵器	高坏	S040	一括	8.5	−	−	7.5YR6/1	7.5YR6/1	回転ナデ	回転ナデ、シボリ痕	包含層出土遺物と接合、透孔(方形)2孔、反転復元
205	須恵器	壺	S040	一括	9.8	−	9.0	2.5YR7/3	2.5YR7/3	回転ナデ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
206	土師器	高坏	S040	カマド周辺	−	−	5.2	7.5YR7/4	7.5YR7/4	ヘラナデ	ミガキ、ヨコナデ	
207	土師器	高坏	S040	1、3、4、5	19.5	15.1	14.5	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ケズリ、ヘラナデ	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、外面に黒斑有
208	土師器	甕	S040	一括	16.6	−	13.2	5YR6/4	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具痕、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
209	土師器	甕	S040	1	19.6	丸底	32.6	7.5YR7/6	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具痕、ケズリ	胴部径(27.9)cm、外面の一部にスス付着、黒斑有
210	須恵器	蓋	S040-2	4層	−	−	3.4	2.5Y5/2	2.5Y5/2	回転ナデ	回転ナデ	
211	土師器	甕	S040-2	4層	−	−	2.2	7.5YR5/2	5YR4/1	ヨコナデ	ヨコナデ	
212	土師器	甕	S040-2	4層上層	24.2	−	4.3	5YR6/6	5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	包含層出土遺物と接合、反転復元、外面の一部にスス付着
213	土師器	甕	S040-2	4層一括	−	−	3.8	7.5YR6/4	10YR5/3	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	
214	土師器	甕	S040-2	4層溝	18.3	−	7.3	5YR6/4	10YR4/1	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	内面に黒斑、反転復元
215	土師器	甑	S040-2	4層一括	−	−	2.1	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ	ヘラナデ	
216	土師器	甑	S040-2	4層一括	−	10.0	1.0	7.5YR6/4	2.5Y7/3	ナデ	ナデ	反転復元
217	須恵器	坏	S042	28	12.0	6.0	4.1	7.5Y5/1	7.5Y5/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	外面の底部に火襷まがい確認、S042、S048、包含層出土遺物と接合、受部径(14.0)cm
218	土師器	須恵器模倣坏	S042	下層	13.2	−	4.7	10YR6/3	10YR5/3	ミガキ	回転ナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、内面にスス付着、反転復元
219	土師器	坏	S042	上層	12.8	−	4.3	10YR6/3	10YR6/3	回転ナデ、ケズリ	ミガキ、ヨコナデ	包含層出土遺物と接合反転復元
220	土師器	坏	S042	一括	−	−	3.8	5YR6/6	7.5YR6/4	回転ナデ、ケズリ	ミガキ	
221	須恵器	鉢	S042	23、25、28	11.0	−	8.2	7.5Y6/1	7.5Y7/1	回転ナデ、ヘラナデ	回転ナデ、ナデ	S043と接合、反転復元
222	須恵器	高坏	S042	下層	−	−	10.6	N3/	N3/	回転ナデ	回転ナデ	S051包含層出土遺物と接合、透孔(方形)3孔のうち2孔残存、底部歪み、反転復元
223	須恵器	高坏	S042	上層(2)	−	−	6.3	N5/	7.5Y5/1	回転ナデ	回転ナデ、シボリ痕	外面に自然釉付着
224	須恵器	高坏	S042	6下層	−	−	7.7	7.5Y5/1	7.5Y5/1	回転ナデ	回転ナデ、シボリ痕	
225	土師器	高坏	S042	152層、一括	16.2	−	6.4	7.5YR7/6	7.5YR7/6	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ	包含層出土遺物と接合反転復元
226	土師器	高坏	S042	上層(3)	−	−	9.3	10YR4/2	10YR6/4	ミガキ、ナデ	ミガキ、ヨコナデ、ケズリ	反転復元
227	土師器	壺	S042	下層	8.0	−	2.8	2.5YR5/6	5YR6/6	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ	外面に赤彩、S051と接合、反転復元
228	土師器	壺	S042	下層	−	−	3.5	2.5YR4/6	5YR6/6	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ	包含層出土遺物と接合、外面赤彩
229	須恵器	瓶	S042	上層	−	−	13.6	2.5YR6/1	2.5YR6/1	回転ナデ、沈線、回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、外面に降灰、自然釉付着、重焼き痕あり
230	土師器	甕	S042	下層一括、北一括	17.2	−	4.9	10YR6/4	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	反転復元
231	土師器	甕	S042	上層	−	−	3.7	7.5YR7/6	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	
232	土師器	甕	S042	上層	−	−	4.4	10YR6/3	10YR5/2	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	内面に黒斑
233	土師器	甕	S042	カマド内外	21.2	−	4.6	5YR6/6	7.5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	反転復元
234	土師器	甕	S042	12、17、22	18.6	−	15.3	7.5YR7/6	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	胴部径(26.4)cm、反転復元
235	土師器	甑	S042	5	−	−	9.9	10YR7/4	10YR7/4	オサエ、ハケメ	ケズリ	
236	土製品	支脚	S042		全長15.4	幅11.4	厚さ11.0	7.5Y6/4	−	オサエ、ナデ	ナデ	
237	須恵器	坏	S043	26、28	11.8	4.7	4.1	7.5Y6/1	7.5Y4/1	回転ナデ、ケズリ/ケズリ	回転ナデ、ナデ	受部径14.0cm
238	須恵器	坏	S043	下層南下層	13.4	−	3.6	2.5Y6/2	10YR6/3	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	受部径(15.6)cm、反転復元
239	須恵器	高坏	S043	南一括	−	−	7.4	5Y6/1	2.5Y6/2	回転ナデ、沈線	回転ナデ	内面上位にシボリ痕、反転復元
240	須恵器	高坏	S043	一括	−	12.6	2.6	2.5Y6/1	2.5Y6/2	回転ナデ	回転ナデ	反転復元
241	須恵器	高坏	S043	下層	−	13.9	4.9	7.5Y6/1	7.5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元、透孔(方形)3孔の内2孔残存、歪みあり
242	須恵器	高坏	S043	南下層	−	11.3	2.8	5Y8/1	5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	歪みあり、反転復元
243	須恵器	壺	S043	トレンチ一括	−	−	4.0	7.5YR6/4	7.5YR6/6	回転ナデ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
244	須恵器	甕	S043	下層	17.9	−	12.9	N4/	N5/	回転ナデ、沈線	回転ナデ、当て具痕	包含層出土遺物と接合、反転復元、胴部径(22.3)cm、内外面ともに自然釉付着
245	土師器	須恵器模倣坏	S043	一括	12.0	4.3	5.1	2.5Y4/1	10YR7/3	ヘラミガキ、指オサエ、板ナデ	指オサエ、ヘラミガキ	包含層出土遺物と接合、受部径(13.8)cm、、須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、外面にスス付着、反転復元
246	土師器	高坏	S043	下層	−	−	5.7	10YR4/1	10YR5/2	ヘラナデ	ナデ、ケズリ	外面にスス付着、反転復元
247	土師器	高坏	S043	上層	−	−	2.7	5YR5/6	5YR5/6	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	反転復元
248	土師器	甕	S043	1.2下層	14.2	−	6.0	7.5YR6/4	10YR3/2	ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、ケズリ	内面全体に黒斑、反転復元
249	土師器	甕	S043	9、17、23、24一括カマド内	17.7	−	17.5	7.5YR7/6	10YR7/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合
250	土師器	甕	S043	西一括	23.0	−	5.8	7.5YR5/3	7.5YR5/3	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
251	土師器	甕	S043	3	21.0	−	4.6	7.5YR7/4	7.5YR7/6	ナデ	板ナデ	外面磨滅、反転復元
252	土師器	甕	S043	14、24東下層	19.4	−	17.3	7.5YR5/2	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ナデ、ケズリ	胴部径(22.8)cm、反転復元内面上部に接合痕が見られる
253	土師器	甕	S043	西住居内上層	16.1	−	4.0	10YR6/4	10YR6/4	ナデ	板ナデ、ハケメ	反転復元
254	土師器	甕	S043	下層	25.8	−	6.3	7.5YR6/6	10YR7/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、歪みあり、外面にスス付着、反転復元
255	土師器	甕	S043	南下層	−	−	5.7	7.5YR7/4	7.5YR6/3	ナデ、ハケメ	ケズリ、ナデ	
256	土師器	甕	S043	下層	−	−	4.0	10YR7/4	10YR6/3	ナデ	ナデ、板ナデ	
257	土師器	甕	S043	下層	−	−	3.0	7.5YR7/4	7.5YR7/4	ナデ	ナデ	外面の一部にスス付着
258	土師器	甑	S043	5、10、12、13、16、18、19、20、22、25、26カマド内一括一括	32.4	−	24.6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ハケメ、ヨコナデ、把手貼付、オサエ	ヨコナデ、ケズリ	把手2個残存、反転復元
259	土師器	甑	S043	トレンチ一括	−	22.0	5.6	10YR6/3	7.5YR5/3	ナデ、ヘラナデ	ナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元、外面に黒斑、内面にスス付着
260	土師器	甑	S045	1	−	−	7.4	10YR6/3	2.5Y4/1	オサエ、ケズリ、ナデ	ケズリ、ミガキ	
261	須恵器	坏	S046	15	11.0	6.0	4.3	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	受部径(13.5)cm
262	土師器	須恵器模倣坏	S046	南上層	−	−	2.8	5YR6/4	7.5YR6/4	ミガキ、ケズリ	ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
263	土師器	甕	S046	北下層	16.2	−	4.2	7.5YR7/6	7.5YR7/4	回転ナデ、ハケメ	回転ナデ、板ナデ、ハケメ	反転復元
264	土師器	甕	S046	1、2、4カマド一括	18.2	−	17.6	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ、ヘラナデ	外面にスス付着、胴部径(25.2)cm、反転復元
265	土師器	甕	S046	6、7、8、9、10、11	17.5	−	23.0	10YR7/4	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ、ヘラナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	内外面にスス付着、胴部径(25.2)cm
266	土師器	坏	S047	一括	−	−	1.3	2.5Y4/1	2.5Y7/3	ケズリ	ナデ	二次加工した跡が見られるが詳細は不明である、外面にスス付着
267	土師器	甕	S047	5、6カマド周辺カマド内北一括	16.2	−	17.2	10YR7/3	10YR7/3	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ、ヘラナデ	胴部径(20.8)cm、反転復元
268	須恵器	鉢	S048	南下層一括	11.0	5.0	7.8	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ、沈線/回転ケズリ	回転ナデ	S048上層と接合、反転復元
269	須恵器	高坏	S048	北下層	−	−	4.0	10YR6/3	7.5YR6/4	回転ナデ	回転ナデ	透孔(方形または三角形)1孔のみ残存、反転復元
270	須恵器	高坏	S048	5	−	−	11.1	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ、沈線	回転ナデ	内面にシボリ痕と降灰、反転復元、上下2段に透孔(方形)2孔残存
271	須恵器	甕	S048	下層一括	14.4	−	7.7	2.5Y6/3	2.5Y6/3	回転ナデ	回転ナデ、ヘラナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
272	土師器	須恵器模倣坏	S048	14	13.4	5.0	4.3	10YR5/2	10YR6/3	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	受部径14.9cm、須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
273	土師器	高坏	S048	一括	17.6	−	5.0	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ	反転復元
274	土師器	高坏	S048	9、13一括住居内下層	19.4	−	11.0	7.5YR6/6	7.5YR7/4	ヨコナデ、ケズリ、ヘラナデ	ヨコナデ、ミガキ/ケズリ、ナデ	内外面ともに剥離が激しい
275	土師器	高坏	S048	一括	−	−	5.4	10YR5/2	10YR6/3	ヘラナデ	ミガキ/オサエ、ヘラナデ	外面にスス付着、反転復元
276	土師器	高坏	S048	南下層	−	−	7.6	10YR6/3	7.5YR7/4	ヘラナデ	ナデ/ケズリ	外面磨滅、反転復元
277	土師器	甕	S048	12	17.4	−	4.6	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	反転復元
278	土師器	甕	S048	一括	17.6	−	5.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
279	土師器	甕	S048	3	−	−	2.4	7.5YR6/4	7.5YR6/6	ヨコナデ	ヨコナデ	
280	土師器	甕	S048	一括	−	−	1.8	10YR5/2	10YR5/2	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	内面磨滅
281	土師器	甕	S048	一括	−	−	3.4	10YR6/6	10YR6/6	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
282	土師器	鉢	S048	一括	−	−	3.6	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	外面磨滅
283	土製品	支脚	S048	11	全長14.6	幅11.5	厚さ9.7	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヘラナデ/ナデ	ハケメ、ナデ	穿孔2孔あり
284	須恵器	高坏	S048-2	上層	−	−	6.8	10Y6/1	10Y6/1	回転ナデ	回転ナデ、シボリ痕	外面に自然釉、内面に降灰、反転復元、透孔(方形)2孔の内1孔残存

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
285	須恵器	高坏	S048-2	上層	−	−	5.4	7.5Y5/1	7.5Y4/1	回転ナデ	回転ナデ	内面に降灰あり、反転復元透孔(方形または三角形)3孔の内2孔残存
286	土師器	高坏	S048-2	上層	−	−	7.5	10YR6/3	10YR6/3	ヘラナデ	ケズリ	包含層出土遺物と接合、内外面ともに磨滅、外面にスス付着
287	土師器	甕	S048-2	上層 D-2(4,55)	21.2	−	5.7	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ、ケズリ	外面の一部にスス付着、反転復元
288	土製品	竈	S048-2	上層	−	−	6.4	7.5YR6/6	10YR6/4	ハケメ、ナデ	ヘラナデ	
289	土製品	竈	S048-2	北上層	−	−	4.2	10YR6/4	10YR6/4	ナデ、オサエ、ハケメ	ナデ、ヘラナデ	
290	須恵器	坏	S049	下層	11.5	6.5	3.7	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ、回転ナデ	回転ナデ、ナデ	S051、包含層出土遺物と接合、受部径(14.0)cm、反転復元
291	土師器	甕	S049	一括	15.0	−	4.7	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具痕、ケズリ	反転復元
292	土師器	甕	S049	一括	−	−	3.7	10YR5/3	10YR4/2	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	
293	土師器	甕	S049	8,9	18.6	−	22.5	10YR5/3	10YR5/3	ヨコナデ、オサエ、ハケメ、ヘラナデ	ヨコナデ、ケズリ	外面の一部に黒斑、スス付着、胴部径(24.5)cm
294	土師器	甕	S049	1	18.4	−	22.4	10YR5/4	10YR5/4	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	胴部径(25.5)cm、外面の一部に黒斑、口縁部から肩部にスス付着、反転復元
295	土師器	甕	S049-2	北上層	−	−	5.7	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	
296	土師器	甕	S049-2	上層	−	−	4.1	10YR4/1	7.5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	外面の一部にスス付着
297	土製品	竈	S049-2	北上層	−	−	1.4	7.5YR6/4	2.5Y6/3	ヨコナデ	ヨコナデ	内面に黒斑
298	須恵器	高坏	S050	一括	17.6	−	3.7	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ、工具痕、回転ケズリ、ナデ	回転ナデ	S051上層と接合、反転復元受部径(15.4)cm、受部歪み有
299	須恵器	高坏	S050	カマド内一括	−	−	8.0	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	透孔(方形)3孔のうち2孔残存、反転復元
300	土師器	須恵器模倣坏	S050	17、36カマド周辺	15.0	5.6	5.2	7.5YR2/1 7.5YR5/4	5YR5/4 7.5YR3/1	ミガキ	ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、反転復元
301	土師器	須恵器模倣坏	S050	32、33北下層	15.0	4.8	3.4	7.5YR5/4 7.5YR3/1	10YR6/3 7.5YR3/1	回転ナデ、ケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、反転復元
302	土師器	須恵器模倣坏	S050	一括	14.0	−	3.2	2.5YR7/4	2.5YR7/4	ミガキ	ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、包含層出土遺物と接合、内面の一部に黒斑、反転復元
303	土師器	高坏	S050	10、11、	−	−	12.9	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ケズリ、ヘラナデ	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ、ヘラナデ	S009、包含層出土遺物と接合
304	土師器	高坏	S050	28、一括、中央不明カマド周辺	17.3	13.3	13.4	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ケズリ、ヘラナデ	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	包含層出土遺物と接合
305	土師器	高坏	S050	7	−	18.4	3.2	2.5YR6/6	7.5YR7/6	ミガキ、ヘラナデ	ナデ	内外面に赤彩、反転復元
306	土師器	甕	S050	50	17.3	−	6.1	7.5YR5/3	10YR5/2	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	反転復元
307	土師器	甕	S050	下層	19.0	−	9.4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	反転復元
308	土師器	甕	S050	11、19、20、21、24、25、27、28、31、37、38、40、42、.下層、カマド内、一括	19.0	丸底	32.0	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	胴部径(28.6)cm、外面の一部に黒斑、スス付着
309	土師器	甕	S050	北下層一括	−	−	4.3	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	
310	土師器	甕	S050	5	−	−	3.5	7.5YR5/4	7.5YR5/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	
311	土師器	製塩土器	S050	35	−	−	4.0	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ナデ	ナデ、指オサエ	外面磨滅、反転復元
312	土師器	製塩土器	S050	一括	−	−	3.2	10YR7/3	7.5YR7/6	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	内外面ともに磨滅
313	土師器	製塩土器	S050	一括	−	−	3.5	10YR6/3	7.5YR7/4	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	内外面ともに磨滅
314	土師器	甕	S050	12、13、15、下層	19.8	−	26.5	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ(12条)	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	胴部径(26.1)cm、外面の一部にスス付着
315	土師器	甕	S050	34	32.4	−	18.4	7.5YR7/6	7.5YR7/6	ハケメ(9条)、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、胴部径(33.8)cm、歪みあり、反転復元
316	土師器	甑	S050	カマド内一括、北下層一括	−	−	13.3	7.5YR6/4	7.5YR6/4	オサエ、ハケメ	ケズリ	
317	土師器	甑	S050	18、カマド、一括	34.8	−	13.3	7.5YR7/4	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	外面の一部に黒斑、反転復元
318	土師器	甕	S050-2	南上層	−	−	4.1	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	外面にスス付着
319	土師器	甕	S050-2	南上層	−	−	3.4	5YR5/4	5YR5/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	
320	土師器	甑	S050-2	南上層	−	−	2.7	7.5YR6/4	10YR7/4	ハケメ	ヘラナデ	
321	須恵器	蓋	S051	下層	12.4	−	3.5	5YR5/3	10YR5/3	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	反転復元
322	須恵器	蓋	S051	4	8.2	天井径1.1	3.3	7.5Y6/1	7.5Y6/1	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	全体に歪みあり
323	須恵器	蓋	S051	5	14.6	ツマミ径2.5	4.8	5Y6/1	5Y6/2	回転ナデ/ツマミ貼付、ヨコナデ	回転ナデ、ナデ	全体に歪みあり、天井部内面に線刻
324	須恵器	坏	S051	一括	13.4	6.7	3.6	N4/	N5/	回転ナデ、回転ケズリ/回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(15.4)cm、口縁に打ち欠きの痕が見られる、受部に重ね焼き痕あり、底部外面に線刻、反転復元

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
325	須恵器	坏	S051	7	13.4	−	3.8	2.5Y5/2	2.5Y5/2	回転ナデ、ケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	底部外面破断部に線刻、受部径(15.2)cm、反転復元
326	須恵器	高坏	S051	トレンチ一括	−	−	6.6	5Y8/1	5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
327	土師器	高坏	S051	カマド周辺	−	−	4.6	10YR4/2	10YR6/4	ミガキ	ミガキ/ケズリ	外面にスス付着、反転復元
328	土師器	高坏	S051	一括	−	−	6.5	10YR6/4	10YR6/4	ヘラナデ	ナデ/ケズリ	坏部底面が磨滅、反転復元
329	土師器	甕	S051	101	25.2	−	4.9	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	外面にスス付着、反転復元
330	土師器	甕	S051	16	18.9	−	24.5	7.5YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	胴部径(27.7)cm、胴部外面にスス付着、反転復元
331	土師器	甕	S051	14、15、17、18、19、20カマド床直下	18.6	丸底	23.5	7.5YR5/4	7.5YR5/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	口縁部に歪みあり、胴部外面にスス付着、底部外面に磨滅あり
332	土師器	甕	S051	6	17.2	−	5.1	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	反転復元
333	土師器	甕	S051	下層一括	−	−	2.7	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
334	土師器	甑	S051	8	−	−	7.5	10YR7/4	7.5YR7/6	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	
335	土師器	甑	S051	22一括	25.2	−	13.4	10YR7/4	10YR7/4	ハケメ、ヨコナデ、把手貼付、オサエ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	把手貼付部一部残存、反転復元
336	土師器	甑	S051	下層	−	−	1.3	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ	
337	土製品	竈	S051	9上層	−	−	4.9	10YR6/3	10YR6/3	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	
338	須恵器	坏	S051-2	上層	10.4	−	2.9	2.5Y7/2	2.5Y7/2	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	受部径(12.4)cm、反転復元
339	土師器	甕	S051-2	上層	18.6	−	4.0	7.5YR5/4	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	外面にスス付着、反転復元
340	土師器	坏	S051-2	上層	−	−	3.5	5YR5/6	5YR5/6	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	
341	土師器	甕	S051-2	上層	−	−	2.5	7.5YR5/6	7.5YR5/6	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	
342	土師器	甕	S051-2	上層	−	−	2.9	10YR6/4	2.5Y4/1	ヨコナデ	ヨコナデ	内面にスス付着
343	土師器	甕	S051-2	上層	−	−	3.0	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	
344	須恵器	坏	S052	上層	10.9	5.8	3.4	5Y7/1	5Y7/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(13.2)cm、反転復元
345	土師器	甕	S052	上層	20.0	−	13.1	7.5YR6/4	7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	外面にスス付着、反転復元 S052、包含層出土遺物と接合
346	土師器	甕	S052	上層	20.0	−	8.0	10YR5/4	7.5YR5/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	外面にスス付着、反転復元
347	土製品	竈	S052	上層	−	−	6.9	2.5Y6/2	10YR6/4	ヘラナデ、ハケメ、ナデ	ヘラナデ、オサエ、ナデ	外面に黒斑
348	土製品	竈	S052	上層	−	−	12.0	7.5YR6/4	10YR6/3	ナデ、ハケメ	オサエ、ナデ、ケズリ	
349	土師器	坏	S054	一括	−	−	1.1	2.5Y7/3	2.5Y7/3	ケズリ、回転ナデ	回転ナデ	反転復元
350	土師器	甕	S054	一括	−	−	3.5	5YR5/6	5YR5/6	ハケメ、ヨコナデ	板ナデ	
351	土師器	甕	S055	一括	−	−	4.9	10YR5/3	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ、工具痕	ヨコナデ	外面にスス付着
352	須恵器	蓋	S056	上層	16.1	−	4.2	5Y8/1	5Y8/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	反転復元
353	土師器	高坏	S056	3	−	−	6.2	7.5YR4/2	7.5YR5/3	ヘラナデ	ケズリ	外面にスス付着
354	土師器	高坏	S056	上層	−	−	4.3	10YR7/3	10YR7/3	ヘラナデ、ナデ	ミガキ、ケズリ	
355	土師器	甕	S056	上層	14.4	−	3.2	10YR6/4	10YR7/4	ヨコナデ、板ナデ	板ナデ、ナデ	反転復元
356	土師器	製塩土器	S056	2	12.7	5.5	4.1	7.5YR7/6	7.5YR7/6	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ナデ	S049一括と接合、全体に歪み、外面磨滅
357	土師器	甕	S057	一括	21.0	−	5.5	10YR5/3	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	胴部径(18.2)cm、反転復元
358	土師器	製塩土器	S057	一括	15.4	−	6.6	5YR7/6	5YR7/6	ナデ、ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	内外面ともに磨滅、反転復元
359	須恵器	蓋	S058	カマド	11.4	−	4.0	2.5YR4/1	2.5YR6/3	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
360	須恵器	坏	S058	9	11.1	6.4	4.7	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	
361	須恵器	瓶	S058	2	8.5	−	5.0	7.5YR7/1	7.5YR7/1	回転ナデ	回転ナデ	外面に自然釉付着、反転復元
362	土師器	甕	S058	14	11.4	丸底	13.1	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	胴部径13.1cm、底部にスス付着
363	土師器	甕	S058	1、3、4	14.5	−	17.6	10YR6/6	10YR6/6	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	胴部径(18.5)cm
364	土師器	甕	S058	上層	18.0	−	5.1	7.5YR7/6	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	反転復元
365	土師器	甕	S058	一括、	19.8	−	16.4	10YR5/4	10YR5/4	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	S051、包含層出土遺物と接合、外面全体にスス付着、胴部径(28.6)cm、反転復元
366	土師器	甕	S058	5、6、7、8、14カマド内	18.7	丸底	27.3	10YR5/3	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	外面の一部にスス付着
367	土師器	甕	S058	上層(2)	20.0	−	7.9	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	外面の一部にスス付着、反転復元
368	土師器	甕	S058	一括	−	−	3.6	7.5YR6/6	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
369	土師器	甕	S058	一括	15.0	−	4.5	10YR5/3	10YR6/6	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	外面の一部にスス付着、反転復元
370	須恵器	蓋	S059	カマド一括	14.0	−	5.1	5Y7/2	5Y6/2	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	S012、S050出土遺物と接合、ツマミ部径(2.8)cm
371	須恵器	坏	S059	一括	−	3.4	4.5	2.5Y6/2	2.5Y6/2	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合
372	須恵器	坏	S059	トレンチ北	13.4	−	4.1	5Y6/2	5Y6/2	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	受部径(15.6)cm、反転復元
373	土師器	須恵器模倣坏	S059	一括	14.4	−	2.0	10YR6/3	10YR6/4	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、反転復元
374	須恵器	高坏	S059	一括	13.2	−	4.9	5Y5/1	10YR6/3	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	包含層出土遺物と接合、受部径(15.4)cm、反転復元
375	土師器	坏	S059	カマド周辺一括	16.0	−	4.1	7.5YR7/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ケズリ	ミガキ、ヨコナデ	反転復元
376	土師器	高坏	S059	一括	−	−	3.3	10YR6/4	7.5YR7/4	ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	
377	土師器	高坏	S059	一括	−	12.2	8.5	5YR6/6	5YR6/6	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ケズリ	包含層出土遺物と接合、反転復元
378	土師器	甕	S059	一括	−	−	7.5	5YR7/6	5YR6/6	ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	外面に黒斑
379	土師器	甑	S059	一括	−	−	6.6	7.5YR6/4	10YR6/3	ハケメ、ヨコナデヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	S062出土遺物と接合

RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
380	土師器	坏	S060	カマド周辺	16.0	−	5.1	7.5YR7/6	7.5YR6/6	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、ミガキ	外面にスス付着、反転復元
381	土師器	坏	S060	カマド周辺	18.0	−	3.1	10YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ケズリ	ミガキ	内外面にスス付着、反転復元
382	土師器	高坏	S060	カマド周辺	−	9.8	6.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ナデ、ヘラナデ	ケズリ、ヨコナデ	S050、S058、包含層出土遺物と接合
383	須恵器	蓋	S062	17	12.9	天井径6.0	3.5	2.5Y7/2	2.5Y7/2	回転ナデ、回転ケズリ、切り離し	回転ナデ、ナデ	内、外口唇部にスス付着、S059一括と接合、反転復元
384	須恵器	蓋	S062	2	13.8	−	4.1	5Y5/1	5Y5/1	回転ナデ、回転ケズリ、切り離し	回転ナデ、ナデ	外面に自然釉
385	須恵器	坏	S062	3、4	11.7	6.0	4.8	5Y5/1	5Y5/1	回転ナデ、回転ケズリ、切り離し	回転ナデ、ナデ	
386	須恵器	高坏	S062	3、13、14、15	12.2	14.2	17.5	5Y7/1	5Y6/2	回転ナデ、回転ケズリ、ナデ、沈線	回転ナデ、シボリ痕、ナデ	包含層出土遺物と接合、、受部径14.8cm
387	土師器	高坏	S062	16	−	−	7.1	10YR6/4	2.5Y4/1	ヘラナデ	ケズリ	
388	土師器	高坏	S062	一括	−	−	4.6	10YR6/3	10YR6/3	ナデ、ヘラナデ	ミガキ、ヘラナデ、ケズリ	
389	土師器	高坏	S062	一括	−	−	6.4	5YR6/6	10YR6/3	ナデ	ケズリ、ヘラナデ、ナデ	
390	土師器	高坏	S062	5	−	12.0	10.2	10YR4/2	10YR6/4	ヘラナデ	ミガキ、ケズリ、ヨコナデ	内、外にスス付着、包含層出土遺物と接合
391	土師器	甕	S062	一括	14.0	−	5.8	7.5YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	内面にスス付着、反転復元
392	土師器	甕	S062	一括	17.0	−	5.0	7.5YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、板ナデ	包含層出土遺物と接合、反転復元
393	土師器	甕	S062	一括	16.6	−	11.9	10YR5/3	10YR5/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ、ケズリ	胴部径(16.4)cm、反転復元
394	土師器	甕	S062	6、7、8、9、10	17.6	−	18.1	7.5YR6/3	7.5YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	内、外にスス付着、外面に黒斑、胴部径(24.8)cm
395	土師器	甕	S062	一括	21.0	−	5.3	5YR5/4	10YR6/3	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ	内面にスス付着
396	土師器	甕	S063	3	20.0	−	4.8	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	反転復元
397	須恵器	高坏	S064	1	−	15.4	9.7	N5/	N5/	沈線、回転ナデ	シボリ痕、回転ナデ	2孔の透孔、S051、包含層出土遺物と接合、反転復元
398	土師器	甕	S064	2	17.8	−	12.2	10YR6/3	10YR6/3	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	S062一括と接合、反転復元
399	土師器	甕	S064	−	−	−	3.0	7.5YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	
400	土師器	甕	S064	一括	−	−	4.0	2.5YR5/6	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	
401	土師器	甕	S064	一括	−	−	5.4	5YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	
402	須恵器	擂鉢	S024	一括	−	−	4.2	7.5YR7/6	7.5YR5/4	回転ナデ	回転ナデ、オサエ	内外面に施釉
403	須恵器	把手付杯	F−2	128	9.8	6.0	5.3	7.5YR7/6	7.5YR7/6	回転ナデ、把手貼付、ナデ/ヘラキリ、ケズリ	回転ナデ、ケズリ	把手1個あり、胴部の一部に黒斑あり、反転復元
404	須恵器	蓋	J−7	4層②	13.0	−	3.1	7.5YR6/4	7.5YR5/6	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ	反転復元
405	須恵器	蓋	M−10	165	−	−	1.7	5Y6/2	5Y6/2	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ナデ	天井部にヘラ記号、反転復元
406	須恵器	蓋		ウ層	11.4	−	3.5	N6/	7.5Y5/1	回転ナデ、沈線、回転ケズリ	回転ナデ	反転復元
407	須恵器	蓋	J−8	4層②	12.2	−	4.8	2.5Y3/3	2.5Y5/2	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	反転復元
408	須恵器	蓋	アパート東	1	−	−	3.6	5Y4/1	5Y4/1	回転ナデ、カキメ、切り離し	回転ナデ	ツマミ部直径3.0cm
409	須恵器	坏		一括	12.0	−	3.6	5Y7/1	5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	受部径(14.4)cm、反転復元
410	須恵器	坏		一括	13.3	−	2.4	N4/	7.5Y7/1	ヨコナデ、回転ナデ	ヨコナデ、回転ナデ	反転復元
411	須恵器	坏		表土ハギ	14.0	−	4.2	7.5Y4/1	7.5Y5/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	反転復元
412	須恵器	高坏		1層一括	−	12.6	1.0	2.5Y4/1	2.5Y7/3	回転ナデ	回転ナデ	内面に降灰あり、反転復元
413	須恵器	高坏	H−3	3、4層	−	12.8	2.2	10Y2/1	7.5Y4/1	回転ナデ	回転ナデ	透孔の痕跡あり、反転復元
414	須恵器	高坏	C−2	トレンチ上	−	11.8	2.8	7.5Y5/1	7.5Y5/1	回転ナデ、ヨコナデ	回転ナデ、ヨコナデ	裾部内外面にスス付着、反転復元
415	須恵器	高坏		表土ハギ	11.7	13.0	14.8	10YR5/2	10YR6/3	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ、ナデ/回転ナデ、シボリ痕	受部径14.2cm、透孔(方形)未貫通3孔あり、反転復元
416	須恵器	高坏	I、J−4、5	カクラン	−	−	9.9	2.5Y8/1	2.5Y8/3	回転ナデ、カキメ	回転ナデ、ナデ/回転ナデ、ヘラナデ	透孔(方形)3孔の内2孔残存、反転復元
417	須恵器	高坏	I−7	4層	−	−	12.4	2.5Y6/2	2.5Y7/3	回転ナデ、沈線	回転ナデ、シボリ痕	2段2ヵ所の透孔あり、反転復元
418	須恵器	高坏	B−2	トレンチ一括	−	−	4.7	7.5Y2/1	7.5Y4/1	回転ナデ	回転ナデ	透孔3孔の内1孔残存、反転復元
419	須恵器	高坏		一括	−	16.4	3.5	10YR7/4	10YR7/4	回転ナデ	回転ナデ	透孔(方形または三角形)2〜3孔の内1孔残存、反転復元
420	須恵器	高坏		ウ層	−	16.1	2.2	7.5Y4/1	7.5Y5/1	回転ナデ	回転ナデ	透孔あり、反転復元
421	須恵器	壺	K−7L−8	3層4層下	−	−	5.1	2.5Y5/2	2.5Y5/2	回転ナデ、回転ケズリ、カキメ、刺突紋、沈線	回転ナデ、シボリ痕	胴部径(8.6)cm、胴部中位に穿孔、反転復元
422	須恵器	壺	J−8	4層②	−	−	4.6	10YR5/3	10YR5/3	回転ナデ、カキメ、沈線	回転ナデ	胴部径(12.0)cm、反転復元
423	須恵器	台付鉢(蓋付)	F−3F−4	3層一括4層	−	−	6.7	N7/	N6/	回転ナデ、ケズリ	回転ケズリ、回転ナデ	反転復元
424	須恵器	台付鉢	G−2	2層	−	−	3.4	7.5Y5/1	7.5Y5/1	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	外面に巻貝と思われる圧痕あり
425	須恵器	台付鉢	G−2	2層	−	−	7.8	5Y5/2	5Y6/2	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ、回転ケズリ/シボリ痕	脚部に2段3ヵ所の未貫通の透かしあり、反転復元
426	須恵器	台付鉢	J−7J−8	ベルト4層4層	−	−	3.4	5Y6/1	5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	透孔(方形)3孔の内2孔残存、反転復元
427	須恵器	台付鉢	L−8	4層	−	11.2	5.2	N3/	2.5GY4/1	回転ナデ、ヨコナデ	ナデ	反転復元
428	土師器	坏	H−3	3層4層下層	11.1	6.9	4.7	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、回転ナデ/ナデ	回転ナデ、ナデ	反転復元
429	土師器	須恵器模倣坏	C−2	5層下	12.4	−	3.2	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	受部径(13.9)cm、、反転復元須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
430	土師器	須恵器模倣坏	I−5	3、4層4層	11.6	−	3.2	10YR4/1	10YR4/1	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	受部径(12.3)cm、、反転復元須恵器模倣坏、ミガキが丁寧

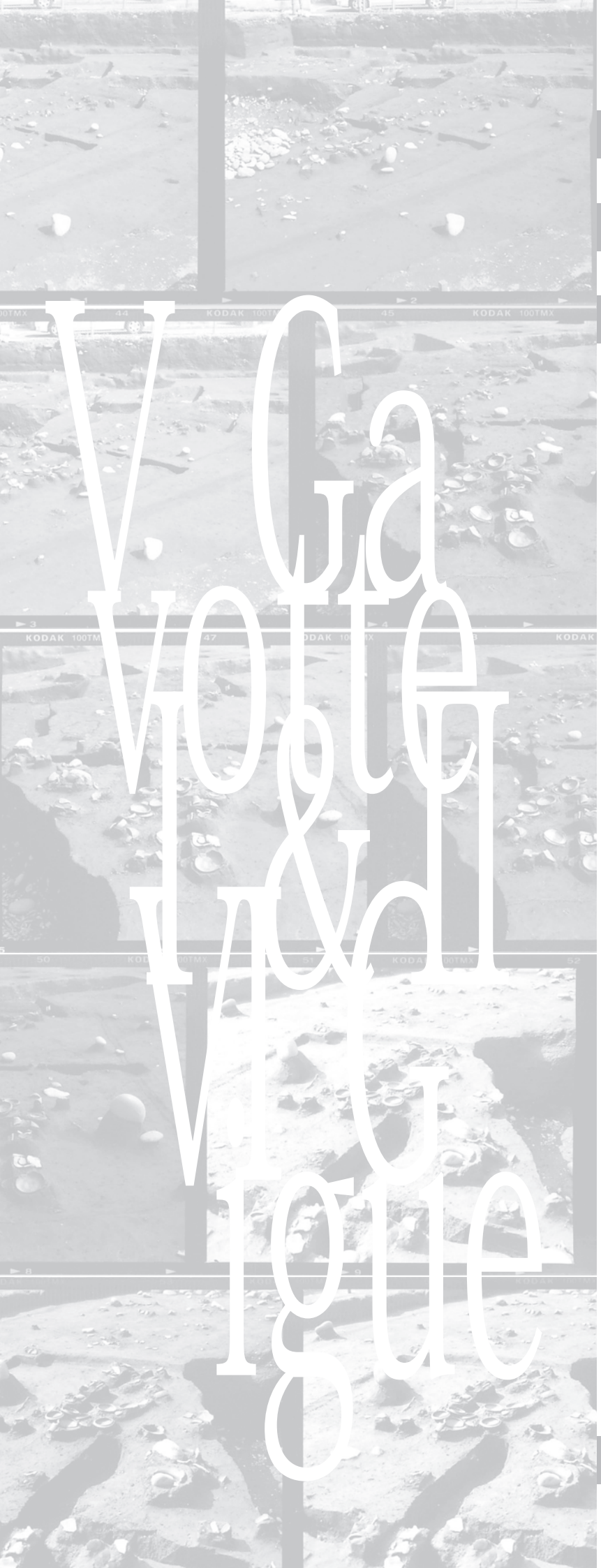
RP	種類	形式	出土地点	取上げ番号、層	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調(外)	色調(内)	調整(外)	調整(内)	備考
431	土師器	須恵器模倣坏	IJ-4、5	カクラン一括	13.4	−	3.5	10YR6/2	10YR6/2	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、外面に黒斑、反転復元
432	土師器	須恵器模倣坏	B-2	トレンチ一括上	14.0	−	3.2	7.5YR5/2	7.5YR5/2	回転ナデ、ミガキ、ケズリ	回転ナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧、反転復元
433	土師器	須恵器模倣坏	D-4	4層	−	−	2.8	10YR4/1	10YR4/2	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
434	土師器	須恵器模倣坏	G-6	トレンチ	−	−	3.5	7.5YR4/2	7.5YR4/2	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
435	土師器	須恵器模倣坏	E-2	4層	−	−	3.1	10YR4/1	10YR6/3	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
436	土師器	須恵器模倣坏	G-3	5層	−	−	2.5	2.5YR5/6	2.5YR5/6	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	内外面に赤彩
437	土師器	須恵器模倣坏	E-2	4層	−	−	3.6	2.5Y5/1	2.5Y5/2	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	須恵器模倣坏、ミガキが丁寧
438	土師器	須恵器模倣坏	K-7	3層	−	−	4.0	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	
439	土師器	皿	ウネ	一括	14.8	11.2	3.7	10YR6/4	10YR6/4	回転ナデ、回転糸切	回転ナデ	反転復元
440	土師器	皿	E-2	3層	−	6.5	3.1	10YR6/6	10YR3/1	回転ナデ、ナデ	ミガキ	黒色土器(内黒)、反転復元
441	土師器	埦	J-6	一括	−	7.0	4.8	2.5Y8/2	2.5Y7/2	ミガキ/高台貼付、回転ナデ	ナデ、ミガキ	反転復元
442	土師器	皿	ウネ	−	10.8	8.3	1.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	回転ナデ、回転糸切	回転ナデ	反転復元
443	土師器	皿	アパート東	4	10.6	7.8	1.8	10YR7/4	10YR7/4	回転ナデ、回転糸切	回転ナデ、ナデ	反転復元
444	土師器	高坏	K-7	4層表土ハギ	17.0	11.9	12.4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ/ケズリ	反転復元
445	土師器	高坏	N-10	5層(160)	15.6	−	4.2	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ケズリ	ミガキ	反転復元
446	土師器	高坏	C-2	4層トレンチ上一括	−	−	6.3	7.5YR6/4	7.5YR7/4	ミガキ、ヘラナデ	ミガキ/ケズリ	外面磨滅、内外面に赤彩、反転復元
447	土師器	高坏	D-2	4層	−	12.2	7.8	7.5YR7/4	7.5YR7/4	ヨコナデ、ヘラナデ	ナデ/ケズリ、ヨコナデ	外面磨滅、反転復元
448	土師器	高坏	F-4	4層下	−	−	7.1	10YR7/4	10YR7/4	ナデ、ヘラナデ	ミガキ/ヘラナデ、ケズリ	外面磨滅、反転復元
449	土師器	高坏	E-2	トレンチ4層	−	−	4.5	7.5YR6/4	10YR6/4	ヘラナデ	ケズリ	坏部底面剥離、反転復元
450	土師器	高坏	B-2	トレンチ一括	−	−	4.1	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヘラナデ	ケズリ	反転復元
451	土師器	高坏	G-5	4層(143)	−	−	4.7	10YR5/2	10YR6/4	ミガキ、ヘラナデ	ミガキ/ヘラナデ、ケズリ	内外面にスス付着、反転復元
452	土師器	高坏	C-2	4層下(158)	−	−	7.6	7.5YR6/4	10YR6/3	ヘラナデ	ミガキ/ケズリ、ヘラナデ	外面にスス付着、反転復元
453	土師器	高坏	E-4	北5層	−	−	7.0	10YR6/3	10YR6/3	ヘラナデ	ミガキ/ナデ、ケズリ	反転復元
454	土師器	高坏	I-4	4層	−	−	8.2	10YR7/4	10YR7/4	ヨコナデ、ヘラナデ	ナデ/ケズリ、ヘラナデ	坏部底面、脚部外面ともに磨滅
455	土師器	高坏	G-2	3、4層	−	−	2.3	2.5YR5/6	5YR6/6	ミガキ	ヨコナデ	外面に赤彩
456	土師器	高坏	E-1、2	トレンチ一括	−	−	3.7	5YR5/6	5YR6/6	ミガキ	ナデ、ヨコナデ	外面に赤彩
457	土師器	高坏	E-2	4層	−	11.8	3.0	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ヘラナデ	ケズリ、ヨコナデ	反転復元
458	土師器	高坏	F-2G-3	4層一括	−	12.8	1.9	5YR6/6	10YR6/4	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ	外面全体に赤彩、反転復元
459	土師器	高坏	I-4	4層	−	16.8	4.9	10YR6/4	10YR6/4	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ	外面に黒斑、反転復元
460	土師器	甕	G-6H-6	トレンチ東ベルト4層下	18.0	−	4.7	10YR6/3	10YR4/1	ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	内外面にスス付着、反転復元
461	土師器	甕		西トレンチ	−	−	5.6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
462	土師器	甕		西トレンチ	−	−	4.2	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	内面にスス付着
463	土師器	甕	I-7	一括	−	−	3.0	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	外面にスス付着
464	土師器	甕	E-2	4層一括	−	−	3.3	7.5YR5/4	7.5YR5/4	ハケメ、ヨコナデ	ヨコナデ	
465	土師器	壺	ウネ	一括	−	−	4.4	10YR6/4	10YR6/4	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	
466	土師器	製塩土器	K-8	5層下	−	−	5.1	7.5YR6/6	10YR6/4	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	内外面ともに磨滅
467	土師器	甑	F-5	4層	34.4	−	9.5	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ヨコナデ、把手貼付、オサエ	ヨコナデ、ケズリ	外面の一部に黒斑、反転復元
468	土師器	甑	M-11	5層(168)	−	−	7.0	7.5YR6/6	7.5YR6/6	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	
469	土師器	甑	F-4G-4	4層4層	−	−	8.3	10YR6/4	2.5Y5/2	ハケメ、オサエ、ナデ	ケズリ	外面磨滅
470	土師器	甑	M-11	5層(170)	−	−	5.7	7.5YR5/4	7.5YR5/4	ハケメ、オサエ、ナデ	ヘラナデ	
471	土師器	甑	F-4	4層	−	−	2.3	10YR6/4	10YR6/4	ナデ	ヘラナデ	
472	土師器	甑	B-2	3層4層	−	−	1.5	7.5YR6/4	7.5YR6/4	ヘラナデ、ナデ、ハケメ	ヘラナデ	
473	土師器	甑	B-2	4層下～5層上一括	−	−	1.4	10YR6/4	10YR6/4	ナデ	ヘラナデ	
474	土師器	甑	E-2	4層	−	−	1.5	10YR6/4	10YR6/4	ハケメ、ナデ	ヘラナデ	
475	土師器	甑	D-4	4層	−	−	1.1	10YR6/4	10YR6/4	ヘラナデ、ハケメ	ヘラナデ	
476	土製品	移動式竈		西トレンチ	−	−	4.2	7.5YR6/4	10YR6/4	ハケメ	ヘラナデ	
477	土製品	移動式竈	O-2	4層	−	−	6.8	10YR6/4	10YR6/4	オサエ、ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	外面の一部に黒斑
478	土製品	移動式竈	B-2	トレンチ一括	−	−	3.2	10YR6/3	10YR6/3	オサエ、ナデ	−	
479	土製品	移動式竈	E-2	4層	−	−	4.0	2.5Y6/2	2.5Y6/2	ナデ、ケズリ、ハケメ	ケズリ、ヘラナデ	
480	土製品	移動式竈	L-9	4層	−	−	4.9	10YR6/3	10YR6/3	ナデ、ハケメ	ナデ、オサエ、ヘラナデ	
481	縄文土器	深鉢	H-①②	カクラン一括	30.0	−	5.0	2.5Y7/2	2.5Y7/2	ヨコナデ、沈線、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	内外ともに一部黒変あり、反転復元

2-3-2　石器（RQ）観察表

RQ	形式	石材	出土地点	出土層	群	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
1	敲石	輝石安山岩	S028		1 群	12.9	13.4	6.4	1,591	No. 22、被熱により赤く変色している
2	磨石	安山岩	S028		1 群	11.8	10.8	2.9	644	表面がツルツルしている
3	台石	安山岩	S028		1 群	28.8	20.7	14.9	14,200	4 面使用、側面の 2 面では、2 ～ 3.5mm の凹あり
4	敲石	安山岩	S038		1 群	12.9	5.2	4.9	439	1 面に敲痕あり
5	砥石	泥岩	S038		1 群	9.1	12.8	2.1	479	仕上げ砥、4 面使用、割れた後に廃棄
6	磨石	安山岩	S038	上層	2 群	6.5	5.1	1.7	97	一部分に赤変、黒変部分あり、全体的にツルツルである 前面に敲打痕あり
7	石皿	砂岩	S038		2 群	7.7	11.9	8.5	1,104	2 面の使用面あり、うち 1 面は磨り痕がはっきりしている
8	台石	安山岩	S040		1 群	26.0	32.0	7.0	8,200	No. 8、前面に被熱による黒変あり、表面の一部に凹みあり
9	砥石	砂岩	S042	上層	1 群	6.0	4.9	2.6	91	5 面使用、鎌等、湾曲した刃を研いだ痕あり
10	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ	S042	下層	1 群	12.0	8.1	9.0	703	天草砥石、仕上げ砥、5 面使用、1 面は欠損
11	浮子	軽石	S043	下層		8.2	6.2	4.2	49	表裏に磨り痕あり
12	紡錘車	滑石	S050		1 群	4.2	4.2	1.8	50	No. 43、穿孔（径 0.6cm）
13	磨石	安山岩	S050		1 群	8.5	6.5	3.8	253	No. 49、表面に磨り痕あり
14	敲石	砂岩	S050		2 群	15.1	6.3	4.2	548	2 面に敲打痕あり
15	磨石	安山岩	S051		1 群	10.7	9.7	2.4	424	
16	台石	安山岩	S051		1 群	29.9	30.6	7.1	10,250	No. 23、藁叩き用
17	台石	安山岩	S054			26.2	35.1	10.6	14,600	No. 1、藁叩き用　一部に敲き痕あり
18	紡錘車	滑石	S056			4.9	5.0	0.9	39	No. 1、穿孔（径 0.8cm）
19	砥石	砂岩	S057			8.6	8.5	6.8	455	2 面使用　仕上げ砥
20	支脚	安山岩	S057			23.8	12.3	7.3	3,296	埋設痕と被熱痕あり
21	凹石	安山岩	S064			7.8	6.5	4.8	345	
22	砥石	砂岩	G4	4		11.5	14.8	2.5	609	刃をあてた痕あり
	台石	凝灰岩	S057		1 群	22.5	20.0	6.0	3,170	No. 6、写真のみ（遺物番号 24）
	台石	安山岩	F2	4		25.0	13.5	7.5	3,764	写真のみ（遺物番号 26）
	支脚	砂岩	S050		1 群	34.0	20.0	17.5	10,100	No. 1、写真のみ（遺物番号 27）
	支脚	砂岩	S050		1 群	24.0	21.5	16.0	5,750	No. 2、写真のみ（遺物番号 28）
	支脚	砂岩	S057		1 群	32.0	10.0	8.5	2,166	No. 2、No. 4、写真のみ（遺物番号 29）
	支脚	砂岩	S057		1 群	25.0	11.0	9.3	2,720	No. 1、写真のみ（遺物番号 30）

2-3-3　鉄器（RM）観察表

RM	形式	出土地点	取上げ番号、層	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
1	鏃	S028		15.1	0.7	0.2	8.6	
2	鏃	S028	南 1	8.3	0.5	0.3	11.5	
3	棒状鉄器	S028	南 8	8.5	0.5	0.2	6.0	
4	鏃	S028	東 13	7.0	2.6	0.3	10.8	
5	鏃	S028	東	3.5	3.4	0.2	3.0	
6	鏃	S028	北 17	3.6	1.0	0.6	5.3	
7	刀子	S028	西 19	10.3	1.4	0.2	9.7	
8	鏃	S038-2	4 層 102	4.1	0.6	0.2	1.8	
9	棒状鉄器	S038-2	4 層	6.8	0.7	0.3	4.2	
10	刀子	S038	1	8.7	1.5	0.2	14.9	
11	鉄鏃	S048	1	4.7	0.9	0.2	3.4	
12	刀子	S050	北 1	6.5	1.0	0.3	4.8	
13	摘鎌	S058	13	11.2	2.6	0.3	17.3	
14	鏃	G-4	4 層	3.7	2.0	0.2	4.8	
15	鏃	D-3	2	22.3	1.0	0.3	17.1	
16	缶	E-2	17	8.4	7.1	0.2	61.4	
17	蹄鉄		一括	10.0	10.0	0.7	87.8	右肢蹄鉄



3　分析

新南部遺跡群では竪穴住居 16 軒が発掘され、白川左岸に形成された低平な沖積地に立地する古墳時代後期集落の一端をとらえることができる成果を得た。

平成 16 年度の発掘では、竪穴住居及び畝溝から検出された炭化物を試料として放射性炭素年代測定、種実同定を外部に委託した。これらの科学分析にあたり、発掘担当者は、試料採取作業を実施し、採取試料をフィルムケースに梱包し、受託者パリノ・サーヴェイ株式会社に引き渡している。受託者は、測定、同定作業を実施し、その結果を 3-1 に記すとおり報告している。

なお、この 3-1 報告は、句読点等、表記法に係る部分以外は、すべて原文のとおり掲載している。遺構の種別、その年代観等は、すべて平成 16 年度の発掘中の認識に基づいて記述されている。

また、新南部遺跡群では熊本地方の土器製塩に用いられた天草式製塩土器が出土している。この天草式製塩土器について大坂亜矢子さんに分析をお願いし、3-2 に掲載する玉稿を寄せていただいた。

おって、新南部遺跡群は低平な沖積地に立地し、竪穴住居の竈には特有の構造が認められた。これらの遺構とその集合体である遺跡について、周辺の遺跡、類似する遺跡との比較分析を尾方禎莉さんにお願いし、3-3 に掲載する玉稿を寄せていただいた。

両賢の御力添えに衷心より感謝申し上げる。

3-1　新南部遺跡群から出土した種実遺体
パリノ・サーヴェイ株式会社
3-2　新南部遺跡群から出土した製塩土器
大坂亜矢子
3-3　低平な沖積地に点在する古墳時代後期の集 落
尾方禎莉
3-4　西日本における竈破却の一二相
宮崎敬士

3-1　新南部遺跡群から出土した種実遺体

パリノ・サーヴェイ株式会社
辻本崇夫、北脇達也、松元美由紀、高橋敦

はじめに
1　試料
2　分析方法
　2-1　放射性炭素年代測定
　2-2　種実同定
3　結果
　3-1　放射性炭素年代測定
　3-2　種実同定
4　考察

はじめに

熊本県熊本市渡鹿に所在する新南部遺跡群は、白川下流の左岸の段丘上に立地する。今回の発掘調査により、古墳時代末と想定される住居跡が検出され、須恵器、土師器、鉄器、紡錘車等の遺物が出土している。また、平安時代末～鎌倉時代初頭と想定される畑の畝跡等が確認されている。今回の分析調査では、住居跡や畝跡から出土した炭化種実と炭化材を対象に、放射性炭素年代測定と種実同定を実施する。

1　試料

試料は、古墳時代末（7 世紀前半）の住居跡から検出された種実遺体 52 試料（試料番号 1 ～ 52）と、平安時代末～鎌倉時代初頭（12 世紀後半）の畑の畝跡とされる遺構から検出された種実遺体 39 試料（試料番号 53 ～ 91）の計 91 試料について実施する。各試料はフィルムケースに入っており、1 試料中には複数点が確認される。この内、5 点（試料番号 2、3、33、54、76）を対象に放射性炭素年代測定、全点を対象に種実同定を実施する。各試料の詳細は、結果とともに表 3 に示す。

2　分析方法

2-1　放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS 法により行った。なお、放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0（Copyright1986 – 2005M Stuiver and PJ Reimer）を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。なお、炭化材については、実体顕微鏡による観察で同定を実施する。

2-2　種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察して種実を抽出し、形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川 1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか 2000）等と比較して種類を同定し、個数を数える。

分析後の種実遺体は、種類毎にビンに入れ、種実以外の分析残試料は、フィルムケースに戻して保管する。

表 1　放射性炭素年代測定結果

試料番号	出土遺構			試料の質	種類	補正年代 BP	δ13C（‰）	測定年代 BP	Code.No.
2	S-042	カマド左	北東	炭化種実	イネ胚乳	1210±40	-23.82±0.68	1190±40	IAAA-42077
3	S-048	カマド内	北西	炭化材	針葉樹	1300±40	-23.39±0.68	1270±40	IAAA-42078
33	S-047	カマド内	東	炭化材	広葉樹	1230±40	-28.25±0.74	1280±40	IAAA-42079
54	畝No.2			炭化種実	ムギ類	590±40	-25.13±0.61	590±40	IAAA-42080
76	畝No.24			炭化種実	コムギ	620±40	-24.48±0.67	610±40	IAAA-42081

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

表２　暦年較正結果

試料番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代（cal）											相対比	Code No.
2	1212 ± 40	cal	AD	772	－	cal	AD	882	cal	BP	1,178	－ 1,068	1.000	IAAA-42077
3	1299 ± 40	cal	AD	666	－	cal	AD	717	cal	BP	1,284	－ 1,233	0.668	IAAA-42078
		cal	AD	743	－	cal	AD	768	cal	BP	1,207	－ 1,182	0.332	
33	1225 ± 40	cal	AD	719	－	cal	AD	742	cal	BP	1,231	－ 1,208	0.181	IAAA-42079
		cal	AD	769	－	cal	AD	870	cal	BP	1,181	－ 1,080	0.819	
54	585 ± 37	cal	AD	1,312	－	cal	AD	1,358	cal	BP	638	－ 592	0.708	IAAA-42080
		cal	AD	1,387	－	cal	AD	1,407	cal	BP	563	－ 543	0.292	
76	616 ± 38	cal	AD	1,298	－	cal	AD	1,327	cal	BP	652	－ 623	0.406	IAAA-42081
		cal	AD	1,342	－	cal	AD	1,370	cal	BP	608	－ 580	0.389	
		cal	AD	1,379	－	cal	AD	1,395	cal	BP	571	－ 555	0.205	

1）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

なお、試料番号２のイネ７個、試料番号 54 のムギ類８個、試料番号 76 のコムギ６個、計 21 個の種実と、試料番号３、33 の炭化材は、前述の年代測定対象試料とした。

3　結果

3-1　放射性炭素年代測定

結果を表 1、2 に示す。試料の測定年代（補正年代）は、住居跡出土炭化種実（試料番号 3）と炭化材（試料番号 3、33）が 1300 ～ 1210BP の７～８世紀頃、畝跡出土炭化種実（試料番号 54、76）が 620 ～ 590BP の 14 世紀頃に相当する値を示す。なお、炭化材の樹種は針葉樹と広葉樹に同定された。

今後は、同一遺構・同一層準から出土した炭化物等の測定点数を増やすことにより、さらに詳細な年代資料が得られると思われる。

3-2　種実同定

種実同定結果を表３に、出土種実遺体分類群一覧を表 4 に示す。被子植物 21 分類群の種実が、998 個同定された。その他に、スギの葉や花、炭化材、部位・種類不明の植物片や炭化物、土などが確認された。

古墳時代末の住居跡（試料番号 1 ～ 52）からは、木本 1 分類群（センダン）1 個、草本 13 分類群（イネ、アワ - ヒエ、キビ近似種、ムギ類、オヒシバ、イネ科、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、マメ類、ヤブジラミ、イヌコウジュ属）614 個、不明種実３個の計 618 個が検出され、栽培植物はイネ 73 個、アワ - ヒエ 1 個、キビ近似種 1 個、ムギ類５個、マメ類８個が確認された。

平安時代末～鎌倉時代初頭の畑の畝跡（試料番号 53 ～ 91）からは、木本２分類群（イヌシデ、カラスザンショウ）２個、草本 11 分類群（オオムギやコムギを含むムギ類、オヒシバ、イネ科、イボクサ、タデ属、アカザ科、カタバミ属、エノキグサ、ヤブジラミ、キク科）377 個、不明種実 1 個の計 380 個が検出され、栽培植物はオオムギ 17 個、コムギ 26 個、ムギ類 98 個が確認された。

検出された種実遺体は、栽培植物のイネ、アワ - ヒエ、キビ近似種、オオムギやコムギなどのムギ類、マメ類は炭化しているのに対し、他の分類群は炭化していず、毛が残存するなど状態が極めて良好な個体がみられる。以下に、今回得られた種実遺体の形態的特徴などを、炭化種実、炭化していない種実の順に記す。

＜炭化種実＞

・イネ（Oryza sativa L.）　イネ科イネ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。長楕円形でやや偏平。長さ 4 ～ 6mm、幅 2.5mm、厚さ 1.5mm 程度。一端に胚が脱落した凹部がある。表面はやや平滑で、2 ～ 3 本の縦溝がみられる。

・アワ - ヒエ（Setaria itarica（L.）P.Beauv. - Echinochloa utilis Ohwi et Yabuno）　イネ科

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。広楕円体でやや偏平。径 1.5mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。表面には内外穎が付着している個体がみられた。アワ、ヒエの区別は、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察により可能である（松谷 1980、2000 など）。本遺跡で検出された個体も、遺存状態が良好なものに限り、走査型電子顕微鏡下の観察で種類が特定される可能性がある。

・キビ近似種（Panicum cf. miliaceum L.）　イネ科

表４　出土種実分類群一覧

	科名	属名		分類群	学名	部位	状態
木本	カバノキ科	クマシデ属		イヌシデ	*Carpinus Tschonoskii* Maxim.	果実	
	ミカン科	イヌザンショウ属		カラスザンショウ	*Fagara ailanthoides* (Sieb. et Zucc.) Engler	核	
	センダン科	センダン属		センダン	*Melia Azedarach* L. var. subtripinnata Miquel	核	
草本	イネ科	イネ属	●	イネ	*Oryza sativa* L.	胚乳	炭化
			●	アワ－ヒエ	*Setaria itarica* (L.) P.Beauv.- Echinochloa utilis Ohwi et Yabuno	胚乳	炭化
		キビ属	●	キビ近似種	*Panicum cf. miliaceum* L.	果実	炭化
		オオムギ属	●	オオムギ	*Hordeum valgale* L.	胚乳	炭化
		コムギ属	●	コムギ	*Triticum aestivum* L.	胚乳	炭化
		オヒシバ属		オヒシバ	*Eleusine indica* (L.) Gaertner	種子	
				イネ科	Gramineae	果実	
	ツユクサ科	イボクサ属		イボクサ	*Aneilema keisak* Hassk.	種子	
	タデ科	ギシギシ属		ギシギシ属	*Rumex*	果実	
		タデ属		タデ属	*Polygonum*	果実	
	アカザ科			アカザ科	Chenopodiaceae	種子	
	ナデシコ科			ナデシコ科	Caryophyllaceae	種子	
	マメ科		●	マメ類	Leguminosae	種子	炭化
	カタバミ科	カタバミ属		カタバミ属	*Oxalis*	種子	
	トウダイグサ科	エノキグサ属		エノキグサ	*Acalypha australis* L.	種子	
	セリ科	ヤブジラミ属		ヤブジラミ	*Torilis japonica* (Houtt.) DC.	果実	
	シソ科	イヌコウジュ属		イヌコウジュ属	*Mosla*	果実	
	キク科			キク科	Compositae	果実	

注）●は、栽培種を示す

キビ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。広楕円体でやや偏平。径 3mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部には胚の凹みがある。上述のアワ - ヒエよりも大型でキビに似る。アワ、ヒエ、キビの区別は、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察により可能である（松谷 1980、2000 など）が、検出された胚乳は遺存状態が悪く、穎の付着は認められなかった。

・オオムギ（Hordeum valgale L.）　イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。紡錘状長楕円体で頂部や基部がやや尖る。長さ 5mm、径 2.5 ～ 3mm 程度。腹面は 1 本のやや太く深い縦溝があり、背面基部には胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ（Triticum aestivum L.）　イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。楕円体でオオムギよりも丸みを帯びている。長さ 4mm、径 2.5mm 程度。腹面には 1 本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり、丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど状態が悪く、オオムギとの判別が難しい個体を、ムギ類とした。

・マメ類（Leguminosae）　マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色を呈す。長楕円体で長さ 4mm、径 2.5mm 程度。焼け膨れ、表面が崩れている等状態は悪いが、腹面中央の子葉の合わせ目上に長楕円形状で隆起する臍がある、ササゲ属（Vigna）と思われる個体もみられる。2 枚からなる子葉の合わせ目から半分に割れた 1 片もみられるが、合わせ目にある臍を欠損する。割れ目の表面の状態は悪く、幼痕や初生葉は確認できない。種皮表面はやや平滑で光沢がある。遺跡出土の炭化マメ類について、子葉内面の幼痕や初生葉の形態から、ササゲ、アズキ、リョクトウなどを判別する試みが行われている（吉崎 1992）。一方、野生種との雑種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいとも考えられている（南木 1991、南木・中川 2000 など）。最近では、DNA 分析による判別が開発されつつある（矢野 2002）。今回検出されたマメ類は、遺存状態が悪いため、現時点では形態のみによる種類の特定は控え、今後の資料の蓄積を待ち検討したいと考える。

＜炭化していない種実遺体＞

・イヌシデ（Carpinus Tschonoskii Maxim.）　カバノキ科クマシデ属

果実の破片が検出された。灰褐色、完形ならば長さ 4mm、幅 3mm、厚さ 1.5mm 程度の広卵形、側面は広皮針形で先端は尖る。破片の大きさは 3mm 程度。果皮表面は平滑で、両面にはそれぞれ 6 本程度の縦隆条が配列する。

・カラスザンショウ（Fagara ailanthoides（Sieb. et Zucc.）Engler）　ミカン科イヌザンショウ属

核（内果皮）の破片が検出された。黒褐色、完形ならば長さ 4 ～ 4.5mm、幅 3.5mm、厚さ 2.5mm 程度の非対称広倒卵体でやや偏平。破片の大きさ 2.5mm 程度。片方の側面に核の長さの半分以上に達する深く広い臍がある。内果皮は厚く硬く、表面にやや深く大き

な網目模様がある。

・センダン（Melia Azedarach L. var. subtripinnata Miquel）　センダン科センダン属
核が検出された。灰褐色、完形ならば楕円体、上面観は中央部に孔が開いた星形で、浅く広い５～６個の縦溝と縦隆条が交互に配列する。14mm、径 10mm 程度。表面はやや平滑。

・オヒシバ（Eleusine indica（L.）Gaertner）　イネ科オヒシバ属
種子が検出された。暗赤褐色、狭倒卵形状鈍三稜形。長さ 1.2mm、幅 0.7mm 程度。20 数個の細い隆条が放射状に伸び、ひだ状をなす。

・イネ科（Gramineae）
果実が検出された。形態上差異のある複数の種を一括した。淡褐色、線状楕円体～半卵体でやや偏平。長さ 3.5mm、径 1.5mm 程度。穎は薄く柔らかくて弾力がある。表面には微細な網目模様が縦列し、毛が密生する個体もみられる。

・イボクサ（Aneilema keisak Hassk.）　ツユクサ科イボクサ属
種子が検出された。青みがかった灰褐色で半横長楕円形。径 2.5mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。臍は線形で腹面の正中線上にあり、胚は一側面の浅い円形の凹みに存在する。種皮は柔らかく、表面は円形の小孔が多数存在する。

・ギシギシ属（Rumex）　タデ科
果実が検出された。暗褐色、広楕円状三稜形。長さ 2.5mm、径 1.5mm 程度。三稜は鋭く明瞭で、両端は急に尖る。果実を取り巻く内花被片が発達しており、花被は心円形、径 3mm 程度で網目模様をなす。縁には歯牙があり、中肋は瘤状に膨れる。
・タデ属（Polygonum）　タデ科
果実が検出された。形態上差異のある複数の種を一括した。黒色、広卵体でやや偏平。径 1.5mm 程度。表面には微細な網目模様がある。

・アカザ科（Chenopodiaceae）
種子が検出された。黒色、円盤状でやや偏平。径 1mm 程度。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が同心円状に配列し、光沢が強い。

・ナデシコ科（Caryophyllaceae）
種子が多量検出された。茶褐色、腎状円形でやや偏平。径 0.8mm 程度。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く柔らかい。種皮表面には、臍を取り囲むように瘤状突起が同心円状に配列する。

・カタバミ属（Oxalis）　カタバミ科
種子が検出された。黒褐色、卵形で偏平。長さ 1.3mm、幅 0.9mm 程度。先端は尖る。種皮は薄く柔らかく、縦方向に裂けやすい。表面には４～７列の肋骨状横隆条が並び、わらじ状を呈す。

・エノキグサ（Acalypha australis L.）　トウダイグサ科エノキグサ属
種子が検出された。黒褐色、倒卵体で長さ 1.5mm、径 1mm 程度。基部はやや尖り、Ｙ字状の筋がある。種皮は薄く硬く、表面は細かな粒状の窪みが配列しざらつく。

・ヤブジラミ（Torilis japonica（Houtt.）DC.）　セリ科ヤブジラミ属
果実が検出された。黄褐色、完形ならば狭卵形でやや偏平。長さ 3.2mm、幅 1.8mm 程度。両端は尖る。背面に３個の隆条が配列し、それらの間に油管が配列する。表面には 0.5mm 程度の鉤状の剛毛が密生する。

・イヌコウジュ属（Mosla）　シソ科
果実が検出された。淡～茶褐色、倒広卵体。径 1.4mm 程度。下端は舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には大きく不規則な網目模様がある。
・キク科（Compositae）
果実が検出された。淡褐色、狭倒皮針体で腹面方向へ湾曲する。長さ 2mm、径 0.9mm 程度。頂部は切形

で円形の臍がある。果皮表面には数本の縦隆条が配列する。

4　考察

新南部遺跡群からは、栽培植物のイネ、アワ‐ヒエ、キビ近似種、オオムギやコムギなどのムギ類、マメ類の炭化種実が確認された。古墳時代末の住居跡からは、イネ 73 個、アワ‐ヒエ 1 個、キビ近似種 1 個、ムギ類 5 個、マメ類 8 個が確認された。これらの穀類の可食部である種実が、住居跡のカマドなどから炭化した状態で検出された状況から、当該期の住居内に持ち込まれ、植物質食糧として利用していたことが推定される。平安時代末～鎌倉時代初頭の畑の畝跡からは、オオムギ 17 個、コムギ 26 個、ムギ類 98 個の計 141 個が確認され、上述のイネ、アワ‐ヒエ、キビ近似種、マメ類は確認されない。当該期の畑では、オオムギ、コムギなどのムギ類が栽培されていた可能性があるため、今後植物珪酸体分析を併用することによって、当該期の畑利用について総合的に検証することがのぞまれる。

一方、炭化種実とともに検出された炭化していない種実遺体分類群は、木本 3 分類群（イヌシデ、カラスザンショウ、センダン）3 個、草本 12 分類群（オヒシバ、イネ科、イボクサ、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、カタバミ属、エノキグサ、ヤブジラミ、イヌコウジュ属、キク科）762 個、不明 4 個の計 769 個から構成される。木本類は、暖温帯に分布する落葉広葉樹で、伐採地や崩壊地などに先駆的に侵入する種類を含むことから、遺跡周辺の森林のエッジ（縁）環境などに生育していたものに由来すると思われる。草本類の多くは、人里近くに開けた草地を形成する、いわゆる「人里植物」に属する種類で、調査区付近の明るく開けた場所に生育していたものに由来すると思われる。しかし、本遺跡の立地や出土状況を考慮すると、炭化していない種実が堆積物中に長期間残るとは考え難い。さらに、遺存状態が極めて良好な種実が含まれることを考慮すると、炭化していない種実は後代に混入した種実である可能性がある。遺跡から出土する種実の取り扱いに関して、低湿地以外から出土した未炭化の種実は、後代に混入した可能性が高いため、炭化物と同様に扱うのは避けるよう指摘されている（吉崎 1992 など）。以上のことから、本報では、炭化していない種実を炭化種実と同様に評価することを避け、解析から除外した。

（引用文献）

石川茂雄、1994、『原色日本植物種子写真図鑑』、p328、石川茂雄図鑑刊行委員会、新潟。

松谷暁子、1980、「十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について」、『浦幌町郷土博物館報告』16、pp203 ～ 211、浦幌町、北海道。

松谷暁子、2000、「植物遺残の識別と保存について」、『Ouroboros 東京大学総合研究博物館ニュース』5-1、pp8 ～ 10、東京大学、東京。

南木睦彦・中川治美、2000、「大型植物遺体」、『粟津湖底遺跡Ⅲ自然流路』琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 3-2、pp49 ～ 112、滋賀県教育委員会、滋賀。

中山至大・井之口希秀・南谷忠志、2000、『日本植物種子図鑑』、p642、東北大学出版会、仙台。

矢野梓、2002、「 遺跡から出土した小型豆の DNA 分析」、『DNA 考古学ニュースレター』3、DNA 考古学研究会、京都。

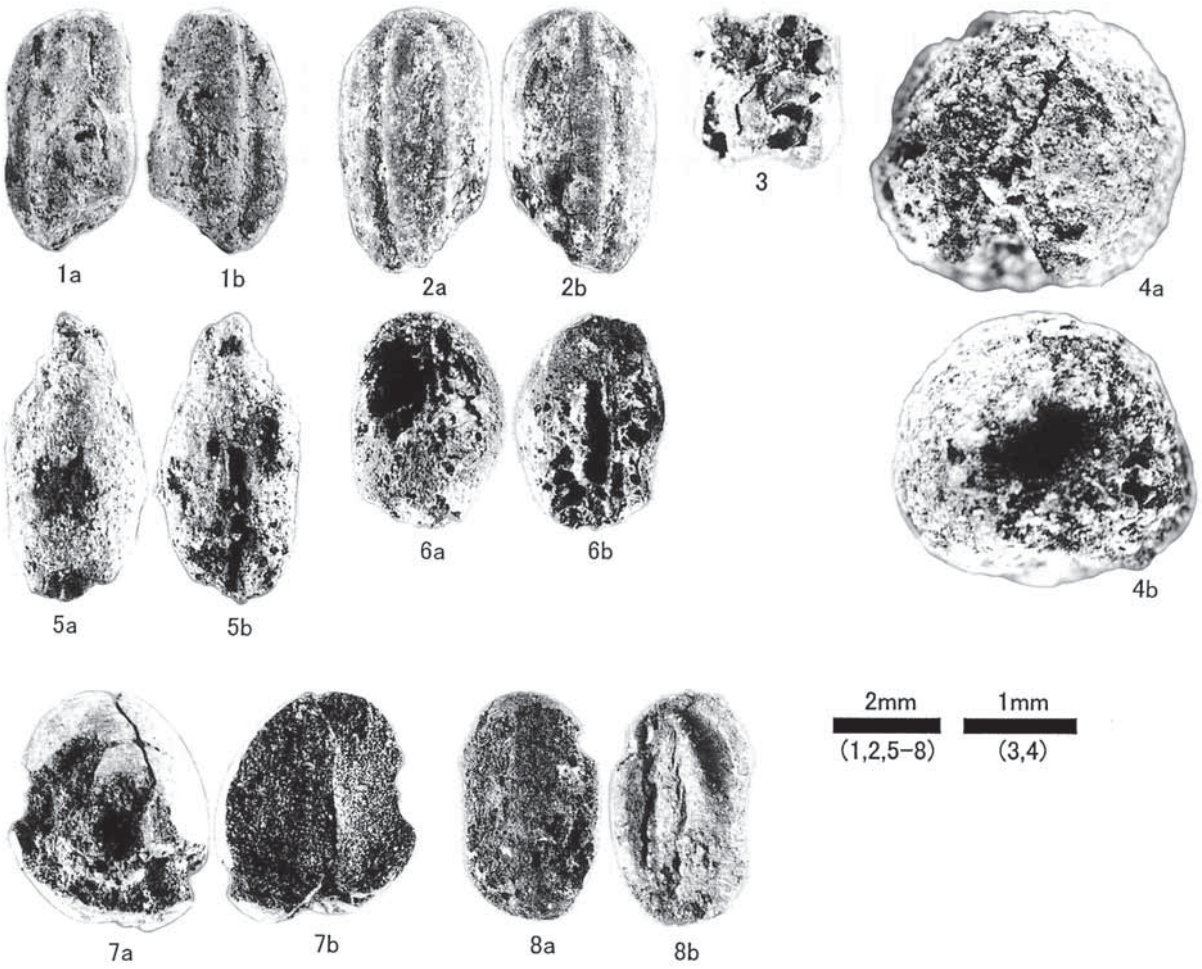
吉崎昌一、1992、「古代雑穀の検出」、『月刊考古学ジャーナル』355、pp2 ～ 14、ニュー・サイエンス社、東京。

表3 種実同定結果

試料名			カマドの向き	分類群	炭化種実							炭化していない種実																備考
					イネ	アワーヒエ	キビ近似種	オオムギ	コムギ	ムギ類	マメ類	イヌシデ	カラスザンショウ	センダン	オヒシバ	イネ科	イボクサ	ギシギシ属	タデ属	アカザ科	ナデシコ科	カタバミ属	エノキグサ	ヤブジラミ	イヌコウジュ属	キク科	不明種実	
				部位	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	種子	果実	核	核	種子	果実	種子	果実	果実	種子	種子	種子	種子	果実	果実	果実		
1	S-043	カマド炭化物 右下隅集中区下層	北東		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
2	S-042	カマド左	北東		61	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	年代測定対象(7個)
3	S-048	カマド内	北西		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
4	S-055	カマド内			−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
5	S-056	カマド内	北東		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
6	S-057	カマドのみ	北西		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	45	−	−	−	−	−	−	−	
7	S-058	カマド内	北		−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
8	S-058	カマド外	北		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
9	S-059	カマド			−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	
10	S-060	カマド内			−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
11	S-064	カマド中央			4	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
12	東側	炭化物集中区下層			−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
13	S-028	杯の下土(北)			1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
14	S-028	杯の下土(西側)			−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
15	S-038	カマド底面	北		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
16	S-038	カマド外(右)	北		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
17	S-038	カマド内	北		1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
18	S-040	カマド外(右下)	北東		−	−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
19	S-040	カマド内	北東		1	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
20	S-040	カマド(右上)	北東		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
21	S-040	カマド外(左上)	北東		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
22	S-040	カマド外	北東		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	
23	S-042	カマド足元	北東		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
24	S-042	カマド内	北東		−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
25	S-042	カマド内外周辺土	北東		−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
26	S-043	カマド内	北東		−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	8	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	3	
27	S-043	カマド外	北東		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
28	S-046	カマド周辺土(ベルト下層部)	北西		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	1	356	−	−	−	−	−	−	
29	S-046	カマド内	北西		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず
30	S-046	カマド内土	北西		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	

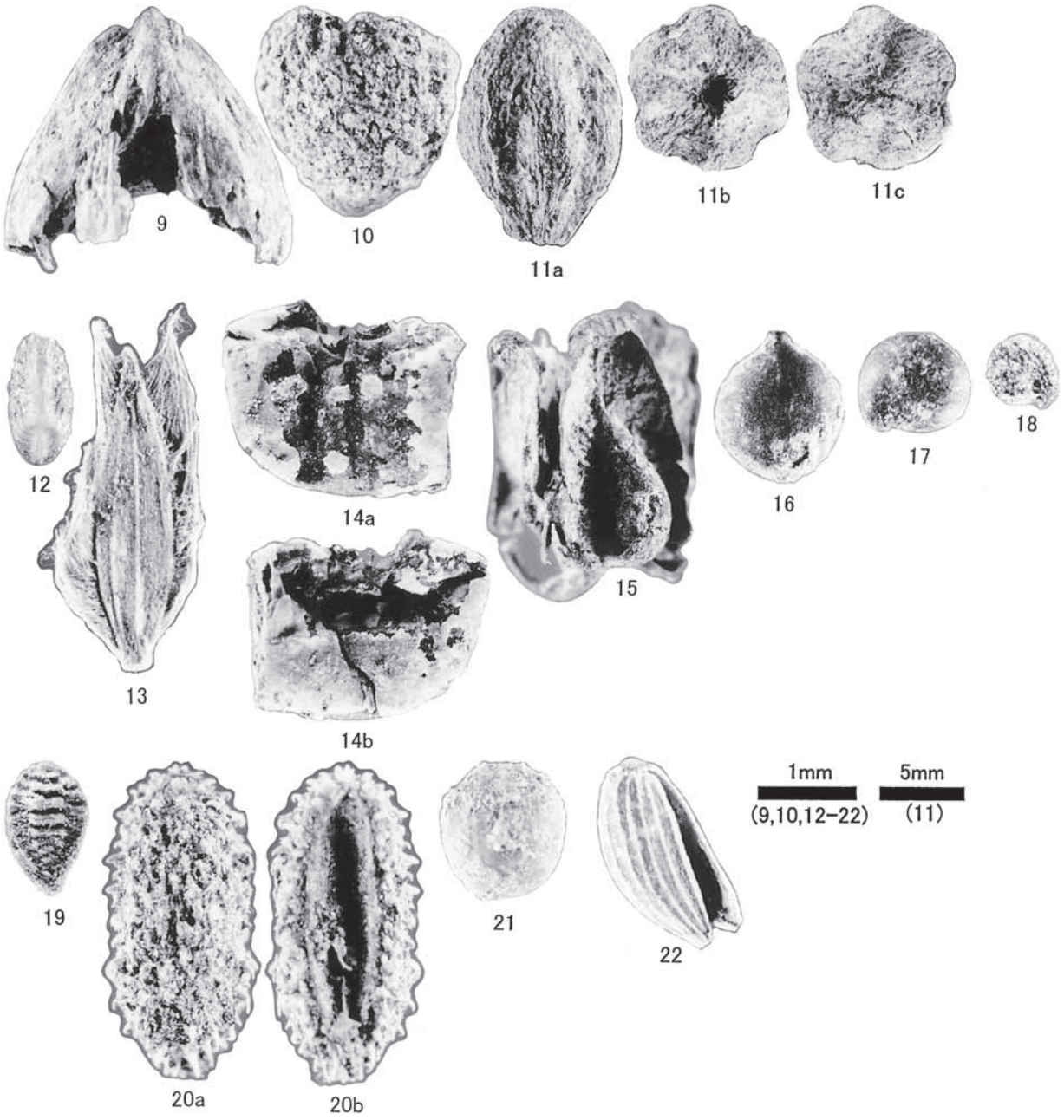
試料名			カマドの向き	分類群	炭化種実							炭化していない種実																備考
					イネ	アワ－ヒエ	キビ近似種	オオムギ	コムギ	ムギ類	マメ類	イヌシデ	カラスザンショウ	センダン	オヒシバ	イネ科	イボクサ	ギシギシ属	タデ属	アカザ科	ナデシコ科	カタバミ属	エノキグサ	ヤブジラミ	イヌコウジュ属	キク科	不明種実	
				部位	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	種子	果実	核	核	種子	果実	種子	果実	果実	種子	種子	種子	種子	果実	果実	果実		
31	S-046	カマド外土	北西		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
32	S-047	カマド外	東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	
33	S-047	カマド内	東		1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	12	－	－	－	－	－	－	－	
34	S-048	カマド外	北西		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
35	S-049	カマド内	東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
36	S-049	カマド内(南)	東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
37	S-049	カマド内(北)	東		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
38	S-049	カマド外(右)	東		－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
39	S-049	カマド外(左)	東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
40	S-050	カマド外(左)	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
41	S-050	カマド外	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	種実検出されず
42	S-050	カマド外(右)	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	種実検出されず
43	S-050	カマド内	北東		1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
44	S-050	カマド外	北東		－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
45	S-050	カマド前	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
46	S-050	カマド内正面	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
47	S-051	カマド外	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
48	S-051	カマド外(右)	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
49	S-051	カマド内(右)	北東		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	
50	S-051	カマド内	北東		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
51	S-054	カマド外	北西		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	4	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	
52	S-054	カマド内	北西		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	種実検出されず
53	畝No.1				－	－	－	－	－	6	－	－	－	－	－	9	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	
54	畝No.2				－	－	－	2	－	13	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	年代測定対象(ムギ類8個)
55	畝No.3				－	－	－	1	－	4	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
56	畝No.4				－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
57	畝No.5				－	－	－	－	－	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
58	畝No.6				－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	9	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	
59	畝No.7				－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	47	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	
60	畝No.8				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

試料名			カマドの向き	分類群	炭化種実							炭化していない種実																備考
					イネ	アワーヒエ	キビ近似種	オオムギ	コムギ	ムギ類	マメ類	イヌシデ	カラスザンショウ	センダン	オヒシバ	イネ科	イボクサ	ギシギシ属	タデ属	アカザ科	ナデシコ科	カタバミ属	エノキグサ	ヤブジラミ	イヌコウジュ属	キク科	不明種実	
				部位	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	種子	果実	核	核	種子	果実	種子	果実	果実	種子	種子	種子	種子	果実	果実	果実		
61	畝No.9				−	−	−	1	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
62	畝No.10				−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
63	畝No.11				−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
64	畝No.12				−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
65	畝No.13				−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	10	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−		
66	畝No.14				−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	7	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
67	畝No.15				−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	9	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
68	畝No.16				−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
69	畝No.17				−	−	−	1	1	1	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
70	畝No.18				−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	1	57	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
71	畝No.19				−	−	−	1	1	1	−	−	−	−	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
72	畝No.20				−	−	−	2	−	5	−	−	−	−	−	9	−	−	2	1	−	−	−	−	−	−	−		
73	畝No.21				−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
74	畝No.22				−	−	−	−	2	2	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
75	畝No.23				−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	−	−	−	−	−	−	−	−		
76	畝No.24				−	−	−	5	9	8	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	年代測定対象(コムギ6個)	
77	畝No.25				−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−		
78	畝No.26				−	−	−	−	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
79	畝No.27				−	−	−	−	1	3	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
80	畝No.28				−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
81	畝No.29				−	−	−	1	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−		
82	畝No.30				−	−	−	−	1	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−		
83	畝No.31				−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−		
84	畝No.32				−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
85	畝No.33				−	−	−	−	2	3	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−		
86	畝No.34				−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
87	畝No.35				−	−	−	−	1	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
88	畝No.36				−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	2	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−		
89	畝No.37				−	−	−	1	−	4	−	−	−	−	−	6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		
90	畝No.38				−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−		
91	畝No.39				−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	種実検出されず	



1．イネ 胚乳(2;S-042 カマド左)
2．イネ 胚乳(17;S-038 カマド内)
3．アワーヒエ 胚乳(24;S-042 カマド内)
4．キビ近似種 胚乳(44;S-050 カマド外)
5．オオムギ 胚乳(54;畝No.2)
6．コムギ 胚乳(76;畝No.24)
7．マメ類 種子(18;S-040 カマド外(右下))
8．マメ類 種子(25;S-042 カマド内外周辺土)

図版１　炭化種実



9．イヌシデ 果実(59;畝No.7)
10．カラスザンショウ 核(58;畝No.6)
11．センダン 核(35;S-049 カマド内)
12．オヒシバ 種子(51;S-054 カマド外)
13．イネ科 果実(70;畝No.18)
14．イボクサ 種子(79;畝No.27)
15．ギシギシ属 果実(11;S-064 カマド中央)
16．タデ属 果実(49;S-051 カマド内(右))
17．アカザ科 種子(6;S-057 カマドのみ)
18．ナデシコ科 種子(28;S-046 カマド周辺土(ベルト下層部))
19．カタバミ属 種子(58;畝No.6)
20．ヤブジラミ 果実(51;S-054 カマド外)
21．イヌコウジュ属 果実(22;S-040 カマド外)
22．キク科 果実(65;畝No.13)

図版２　種実遺体

3-2　新南部遺跡群から出土した製塩土器

大坂亜矢子

はじめに
1　天草式製塩土器の形態部類と時期比定
2　新南部遺跡群出土資料の検討

はじめに

ここで取り扱う製塩土器とは、宇土半島や天草諸島の沿岸部で行われた土器製塩で使用された「天草式製塩土器」（近藤 1974）である。大きく内湾する広口の埦形で細長い脚部がついており、シャンパングラス（ソーサー型）に近似した形態を呈する。完形品の出土はなく、生産地では脚部、内陸の集落遺跡等、消費地では埦部が多く出土するため、土器製塩後、脚部を打ち欠いて塩の入った埦部が各地にもたらされたと考えている。

新南部遺跡群で出土した天草式製塩土器は、近接する３棟の竪穴住居 S050（3 点）、S056（1 点）、S057（1 点）、及び調査グリット（1 点）から出土した合計 6 点である。これらの天草式製塩土器について、形態を分類し、時期を比定する。

1　天草式製塩土器の形態分類と時期比定

天草式製塩土器の分類には、藤本貴仁氏が提示した天草式製塩土器碗部の編年（藤本 2009）がある。

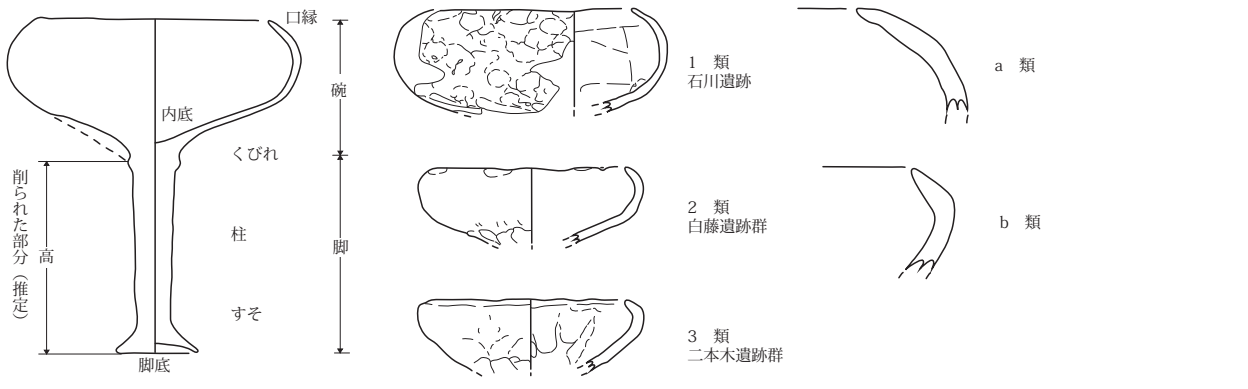
藤本は、製塩土器の埦部を口縁端部の形態、口縁部から底部にいたるプロポーションを、次のとおり 3 類に分類した。

1 類：底部から口縁部にかけては、円弧状に緩やかにカーブを描き、全体的に丸みを帯びており、口縁部が大きく内湾する。碗中央部が最大径で、碗部高にくらべて碗部径がかなり大きいことから、全体的なプロポーションは、ひしゃげた球形状を呈する。口縁端部は a 類である。典型的な天草式製塩土器の碗部として知られている。

2 類：底部から中央部にかけては、やや斜め上方に直線的に開いており、上半部は緩やかに内湾する。口縁端部は、a 類のものもあるが、多くは b 類である。碗部最大径は中央より上部に位置する。

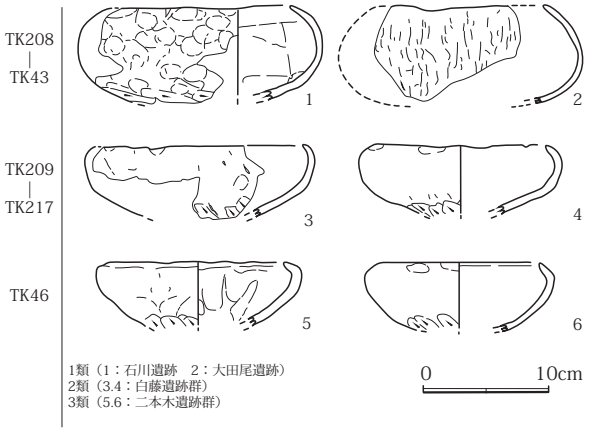
3 類：底部から中央部にかけては 1・2 類よりも斜め上方（45°前後）に向かって直線的に開き、口縁部に近い碗上部を内側に折り曲げることで内湾させる。碗部全体のプロポーションは、口縁部が内湾した鉢形土器状を呈する。口縁端部は b 類である。

（藤本 2009）



天草式製塩土器模式図（一部改変）　天草式製塩土器の碗部の分類（一部改変）　口縁部形態の分類　（すべて藤本 2009 から引用）

Fig.3-2-1　天草式製塩土器の形態



（藤本 2009 から引用）

Fig.3-2-2　天草式製塩土器の碗部の編年

なお、藤本は編年観を共伴遺物との関係から埦部と脚部の時期を検討し、対応関係から位置付けている。

また、藤本は、口縁端部を碗中央部から口縁端部にかけて緩やかに内湾する a 類と口縁端部を内側に折り曲げる b 類（藤本 2009）に分類し、碗部最大径の法量変化も併せて検討し、形態は a 類(古相)から b 類(新相)、法量は大（古相）から小（新相）へと変化する傾向が存在することを指摘している（藤本 2011）。

2　新南部遺跡群出土資料の検討

2-1　形態分類

新南部遺跡群から出土した製塩土器を、藤本分類に準拠して、以下のとおり分類する。

RP311、312、313 は、いずれも S050 から出土したものである。RP311 は、中央部から口縁部にかけて欠損しており全体の形状は不明であるが、底部から中央部にかけて斜め上方に直線的に開くことから、2 類に位置付ける。RP312 は、体部の上部付近で口縁部が内側に角度をつけて折れ曲がっている。これらの特徴から、2 b 類に位置付ける。RP313 は全体的に内湾する形状ではあるが、RP312 と同じく体部の上部付近で口縁部が内側に角度をつけて折れ曲がっており、2 b 類に位置付ける。

RP356 は、S056 から出土したものである。底部から水平方向に直線的に開き、口縁部にかけて立ち上がる。2 類に相当すると位置付ける。

RP358 は、S057 から出土したものである。底部から中央部にかけて、斜め上に開いており、上半部は緩やかに内湾する。口縁部は a 類の様相をもつ。よって 2 a 類に位置付けることができる。

RP466 は、竪穴住居が集中する G グリットから出土した。底部から口縁部にかけて円弧状に緩やかにカーブを描き全体的に丸みを帯び、口縁部が大きく内湾する。2 a 類に位置付ける。

以上のとおり、新南部遺跡群から出土した天草式製塩土器は、2 a 類 4 点、2 b 類 1 点、不明 1 点と分類できた。製塩土器の時期は、各製塩土器と共伴する須恵器により TK10 型式、MT85 型式及び TK43 型式の 3 型式に分類され、それぞれ 6 世紀第 2 四半期、6 世紀第 3 四半期及び 6 世紀第 4 四半期の時期に比定される。この時期は、藤本が提示した天草式製塩土器碗部 2 類の時期「TK209 型式～ TK217 型式期」（7 世紀以降）より古いこととなる。

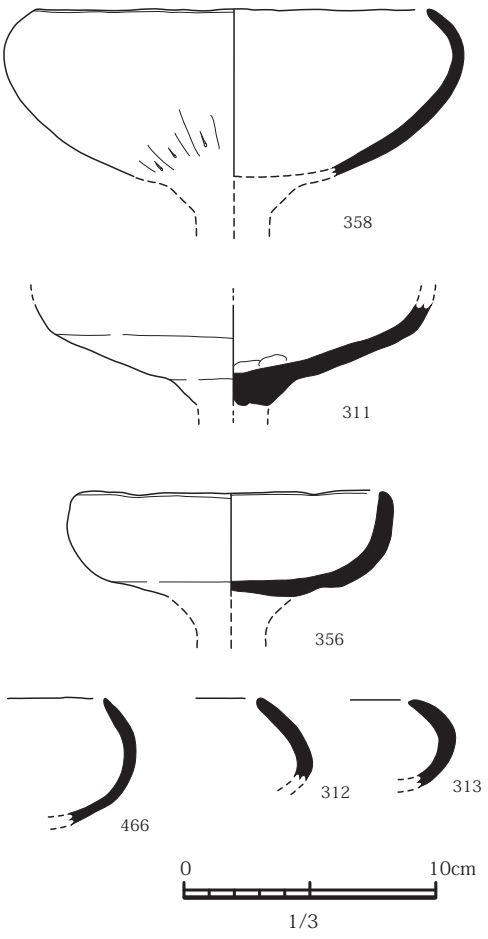


Fig.3-2-3　新南部遺跡群の製塩土器 (RP)

2-2　時期比定

次に、新南部遺跡群群出土資料を藤本編年の標識資料と比較し、その形態変遷観と対照することから上記の時期比定について検討を加える。

新南部遺跡群から出土した天草式製塩土器は藤本分類２類に分類されるものであるが、その形態は丸みを帯び、法量は大きい。いずれの資料も明確な口縁端部の屈曲は見られず、体部上部から口縁部を内側に曲げることで内湾させる特徴がある。これら新南部遺跡群と同様の形態的特徴を示しているのは、玉名平野条里跡（古閑前地区）、白藤遺跡群の２遺跡出土資料である。

Tab.3-2-1　天草式製塩土器の埦部最大径

分類	遺跡(群)	出土位置	最大径(cm)	備考
1類	沖ノ原	B1区第Ⅲ層	17.5	
	沖ノ原	B1区第Ⅲ層	19.3	
	大田尾	表面採集	19.4	
	石川	10区7号住	17.3	
	石川	13区16号住	19.1	
	玉名平野条里跡	2区17号住	20	古閑前地区
			平均18.8	
2類	白藤	23号土坑	16.1	3次調査
	白藤	23号土坑	18.1	3次調査
	上代町	包含層	16.2	1次調査
	上代町	包含層	17.2	1次調査
	新南部	1区S057	18.2	
			平均17.2	
3類	二本木	A40号溝	16.3	13次調査
	二本木	A40号溝	16.6	13次調査
	二本木	A40号溝	14.9	13次調査
	二本木	A40号溝	14.9	13次調査
			平均15.7	

（藤本2009を一部変更）

玉名平野条里跡（古閑前地区）

玉名平野条里跡（古閑前地区）竪穴建物 SI017・SI018 出土の天草式製塩土器は、その形態は全体的に丸みを帯びた体部であり、その埦部最大径は約 20㎝を測り（76）1 類の最大径平均値（18.5㎝）を上回るといった 1 類の特徴を示している。しかし、口縁部にむけて屈曲する特徴をもつｂ類の様相を示し、同じ SI017 から出土した脚部との接合点であった底部 1 点が斜め上方に直線的に開く 2 類の特徴を持つ。これらの特徴から、玉名平野条里跡（古閑前地区）から出土した天草式製塩土器は、藤本編年における 1 類から２類及びａ類からｂ類への変遷過程に位置している、と考えてよい。その時期は「TK43 ～ TK209 期相当」（長谷部 2010）と報告されているが、共伴した須恵器は丸みを帯び、坏蓋（71、72）はいずれも口縁が最大径であり口唇部内面にわずかに稜を有する。坏身（75）も短い立ち上がりに受部は短く上を向いている。これらの特徴からMT85型式に比定できる、と考える。これは新南部遺跡群出土資料よりも古時期に位置づけられる資料である。

白藤遺跡群（第 3 次調査）

次に、白藤遺跡群 3 次 23 号土坑から出土した天草式製塩土器の特徴は、体部上部から口縁部を内側に曲げることで内湾させており、新南部遺跡群出土の天草

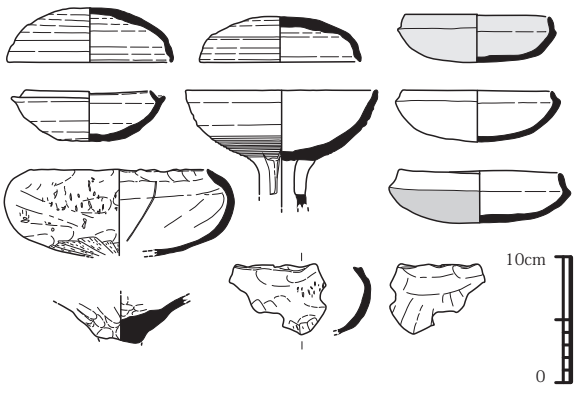


Fig.3-2-4　玉名平野条里跡出土土器

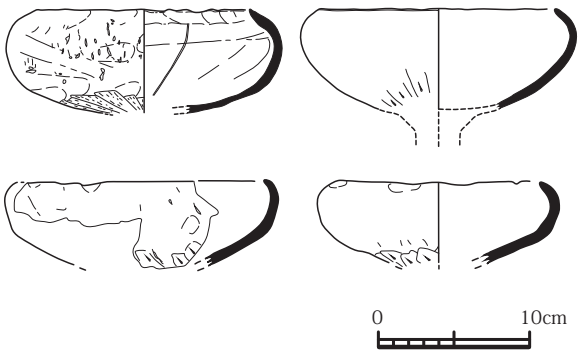


Fig.3-2-5　白藤遺跡群出土製塩土器

式製塩土器によく似ているが、底部から中央部にかけて斜めに直線的に立ち上がる。また、新南部遺跡群出土資料の埦部最大径約 18㎝に対して、埦部最大径約 17㎝と法量が小さくなる。共伴した須恵器から「TK209 型式～ TK217 型式期に相当」(藤本 2009)し、新南部遺跡群よりも新時期に比定される。

上記 2 遺跡と新南部遺跡群との出土資料の比較の結果、玉名平野条里跡（古閑前地区）出土資料、新南部遺跡群出土資料、白藤遺跡群 3 次出土資料は、藤本分類における 1 類から 2 類への変遷過程を示す資料群であり、それぞれ MT85 型式、TK43 型式、TK209 型式～ TK217 型式の各型式に分類され、6 世紀第 3 四半期、6 世紀第 4 四半期、6 世紀末～ 7 世紀前半と位置付けることができよう。この結果は、藤本が指摘した口縁部形態 a 類（古）から b 類（新）の形態変化、及び法量の大（古）から小（新）への容量変化の傾向とも合致したものである。

(引用文献)

近藤義郎、1974、「天草式製塩土器」、『日本塩業の研究』15、日本塩業研究会、東京。
長谷部善一、2011、『玉名平野条里跡（古閑前地区）九州新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』熊本県文化財調査報告 261、熊本県教育委員会、熊本。
藤本貴仁、2009、「天草式製塩土器の形態変遷試論」、『八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の発達過程に関する基礎研究』、熊本大学、熊本。
藤本貴仁、2014、「消費地出土の天草式製塩土器」、『有明海・八代海沿岸地域における古墳時代首長墓の展開と在地墓制の相関関係の研究』、熊本大学、熊本。

3-3　低平な沖積地に点在する古墳時代後期の集落

尾方禎莉

はじめに
1　周辺の遺跡
　1-1　古墳
　1-2　横穴墓群
2　類似した遺跡
　2-1　白川流域
　2-2　緑川流域
　2-3　大野川流域
3　分析

はじめに

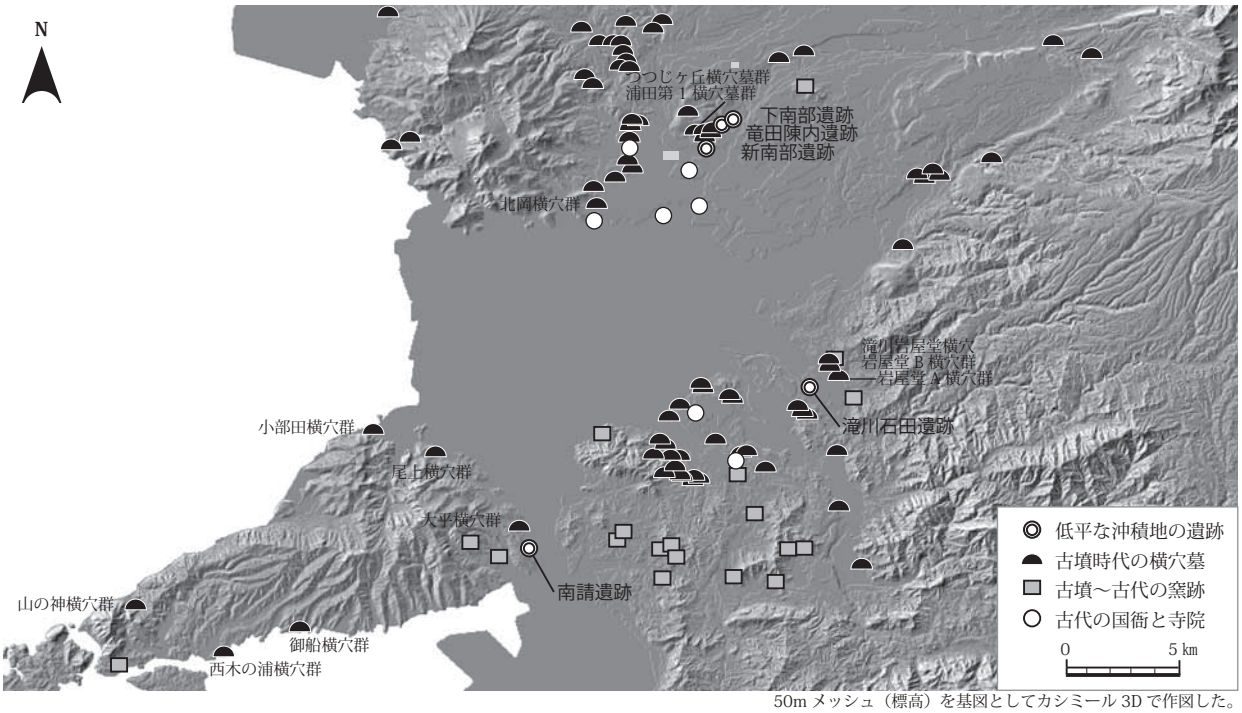
新南部遺跡群は、白川中流域と下流域の境界、白川左岸の沖積地に位置する遺跡群である。

古墳時代後期（5 世紀後半～ 6 世紀後半）の竪穴住居が 16 棟検出され記録された。うち 15 棟には竈が造り付けられ、5 棟から移動式竈が検出された。造り付け竈と移動式竈とが共伴した竪穴住居は 4 棟である。なお、竪穴住居からは、須恵器及び土師器、砥石、紡錘車等の石器、摘鎌、鉄鏃、刀子等の金属器が出土した。なかでも、須恵器模倣坏が 16 棟のうち 7 棟から合計 16 点出土しており、6 世紀の遺構と遺物、集落の特徴をよくそなえた遺跡である。

以下では、新南部遺跡群と、周辺に位置する遺跡、類似した遺跡とを比較し、新南部遺跡群に固有の特徴を抽出することとしたい。比較対象は、周辺の遺跡では新南部遺跡群の対岸に位置する古墳、横穴墓群、そして類似した遺跡では熊本平野の沖積地に分布する遺跡とした。

1　周辺の遺跡

新南部遺跡群の対岸には古墳 5 基、横穴墓群 8 群 170 余基が位置している。以下にその概要を記す。なお、「遺跡名（所在地）遺跡番号」を付した。この遺跡番号は、図 2「新南部遺跡群と周辺遺跡」に用いた遺跡番号と同一である。



50m メッシュ（標高）を基図としてカシミール 3D で作図した。

Fig.3-3-1　周辺の遺跡 分布図

1-1　古墳

宇留毛神社古墳（熊本市中央区黒髪）316

宇留毛神社境内に位置し、もとは円墳３基あったとされるが、現在は円墳２基が確認されている。いずれも横穴式石室であったと考えられる。出土遺物は確認されておらず、築造時期は不明である。

長薫寺古墳（熊本市中央区黒髪）313

長薫寺境内の西側に位置する円墳１基である。過去に破壊されているが、横穴式石室の一部が残存している。鉄鏃、須恵器が出土している。築造時期は７世紀前半と考えられる。

立田山南麓古墳（熊本市中央区黒髪）

宇留毛神社境内より北側の斜面に位置した円墳２基である。２古墳とも横穴式石室であり、上方の古墳からは、盗掘を受けながらも、須恵器、鉄鏃、刀片や鍔、耳環等、多くの遺物が出土している。上方の古墳の築造時期は７世紀初頭と考えられる。下方の古墳は、須恵器片、鉄鏃が出土しているが、築造時期は不明である。

1-2　横穴墓群

宇留毛小磧橋際横穴墓群（熊本市中央区黒髪）314

白川の右岸、立田山の南斜面下方に位置し、隣接するつつじヶ丘横穴墓群と連続していたと考えられる。総数は 40 余基、うち調査数は６基である。出土遺物は、須恵器、土師器、鉄器、馬具、耳環、玉類等である。築造時期は６世紀末～７世紀前半と考えられる。

つつじヶ丘横穴墓群（熊本市中央区黒髪）315

白川の右岸、立田山の南斜面下方に位置している。もとは宇留毛小磧橋際横穴墓群と連続していたと考えられる。総数は 48 基、うち調査数は 19 基である。出土遺物は、須恵器、土師器、鉄器、馬具、耳環、玉類等である。築造時期は６世紀後半～７世紀中頃と考えられる。

浦山第１横穴墓群（熊本市中央区黒髪）311

白川の右岸、立田山南麓丘陵の南斜面に位置している。総数は 18 基で、すべてが調査されている。出土遺物は、須恵器、土師器であるが、少量である。築造時期は７世紀後半と考えられる。

浦山第２横穴墓群（熊本市中央区黒髪）310

浦山第１横穴墓群に連続する南西向き斜面に位置している。総数は９余基、うち調査数は６基である。出土遺物は、須恵器、土師器であるが、少量である。築造時期は６世紀末～７世紀前半と考えられる。

女瀬平横穴墓群（熊本市北区龍田町）312

長薫寺横穴墓群の東側に位置している。多数の横穴があったとされるが、うち１基が調査された。遺物は確認されず、築造時期は不明である。

長薫寺横穴墓群（熊本市中央区黒髪）

長薫寺境内の北側、南東向き斜面に位置している。多くが破壊されており、20 基あったとされるが、うち２基が調査された。須恵器の坏、横瓶が出土している。築造時期は不明である。

弓削小坂横穴墓群（熊本市北区龍田町）

白川の右岸、新南部遺跡群から約 5㎞上流の詫麻台地の南側斜面に位置している。総数は 50 基、新編市史編纂に際し現状調査がなされた。出土遺物は、須恵器、土師器があり、うち、須恵器１点は台付鳥形瓶であり、土師器２点は「歳成」墨書土器であった。築造時期は６世紀後半～８世紀前半と考えられる。

今石横穴墓群（菊池郡菊陽町）

白川の右岸、弓削小坂横穴墓群より約 1㎞上流に位置している。明治時代、県道開通の際に９基が発見されたが、現在は２基が残存している。築造時期は古墳時代後期と考えられる。

以上の古墳、横穴墓群は、すべて新南部遺跡群の対岸である白川右岸に位置している。うち、新南部遺跡より 5㎞ほど上流である白川中流域半ばに位置する弓削小坂横穴墓群と今石横穴墓群の供用期間は６世紀

後半～8世紀前半であり、その供用期間の前半部分が新南部遺跡群の存続期間と重なっている。なお、新南部遺跡群に近い立田山山麓に凝集した古墳と横穴墓群の供用期間は6世紀後半～7世紀前半であり、新南部遺跡群の存続期間と一致している。

2　類似した遺跡

新南部遺跡群は、低平な沖積地に位置しており、洪水の影響を直接受ける立地をとっている。このように低平な沖積地に集落を形成する例は、熊本平野とその縁辺部では白川流域の竜田陳内遺跡、下南部遺跡、緑川水系御船川流域の滝川石田遺跡、大野川流域の南請遺跡の小計4遺跡であり、新南部遺跡群とあわせて合計5遺跡を確認することができる。

なお、緑川、白川は一級水系であり、菊池川、矢部川、筑後川、嘉瀬川、六角川の各一級水系とその流域が連接して有明海東半を囲繞するように形成した沖積平野の連続地帯の南端を構成している。

以下に遺跡の概要を記し、各遺跡の竪穴住居の内容をTab.3-3-1に集成した。

2-1　白川流域

竜田陳内遺跡（熊本市北区龍田町）305

立田山東麓端から白川中流域右岸の沖積地にかけて位置する遺跡である。古墳時代の竈を備える竪穴住居2棟が検出されている。

第1号住居からは、須恵器、土師器が出土し、うち須恵器模倣坏が3点確認された。

第2号住居の竈は、その前面に被熱痕をもつ砂岩の切り石4点が横一列に埋置され、火床には土師器甕破片が散在していた。竈右袖の右側には完形の土師器甕が埋設されていた。その他の出土遺物は少なく、須恵器は出土していない。

下南部遺跡（熊本市東区下南部町）323

白川が大きく蛇行してつくられた中流域左岸突出部の沖積地に位置する遺跡である。弥生時代の竪穴住居8棟、古墳時代の竪穴住居4棟が検出された。うち、竈をそなえる竪穴住居1棟（9号）、埋土に焼土、粘土が含まれた竪穴住居は3棟（2、5、13号）である。

9号の竈の火床からは、土師器高坏が倒置状態で検出された。

なお、5号の焼土からは、須恵器有蓋高坏が正置状態で検出された。

出土遺物は、土師器、須恵器であり、箆記号をもつ須恵器坏1点、土鈴1点の他、石器、金属器等が出土している。

出土遺物から、5号は6世紀中葉、2号、9号は6世紀後半、13号は6世紀末に位置づけられている。

2-2　緑川流域

滝川石田遺跡（上益城郡御船町）

緑川水系御船川の下流域右岸の低平な沖積地に位置する遺跡である。古墳時代の竪穴住居49棟、中世～近世の「掘立柱住居」6棟が検出された。竪穴住居33棟には竈が造り付けられ、うち造り付け竈と移動式竈が共伴した竪穴住居5棟、長い煙道を備えた竪穴住居5棟が確認できる。なお、焼土のみが認められた竪穴住居6棟が検出された。

出土遺物は、須恵器、土師器であり、うち須恵器模倣坏63点が竪穴住居22棟から出土した。この他、箆記号をもつ土師器坏4点、須恵器坏8点、合計12点、鞴羽口、手捏ね土器、石器、金属器が出土している。

古墳時代の竪穴住居は、5世紀末1棟、6世紀初頭～前半9棟、6世紀中頃～後半9棟、6世紀後半～7世紀初頭17棟の4段階にわたり変遷すると報告された。

2-3　大野川流域

南請遺跡（宇城市不知火町）

宇土半島基部の狭隘で低平な沖積地に位置する遺跡である。古墳時代の竪穴住居18棟、古代の掘立柱住居1棟が検出された。造り付け竈は検出されず、竪穴住居1棟から移動式竈1点が検出された。

出土遺物は、須恵器、土師器、石器等であり、うち須恵器模倣坏2点、箆記号をもつ須恵器1点が含まれる。

出土遺物から、古墳時代後期の集落と位置づけられている。

Tab.3-3-1　低平な沖積地に展開する遺跡 一覧表

番号	遺跡名	遺構名	竈の概略	竈種類	焚口構造	火床状態	出土遺物	須恵器模倣坏	ヘラ記号	製塩土器	遺物年代
1	新南部遺跡群	S028		2			須恵器24点、土師器57点、石器3点、金属器7点	2	5		MT15～MT85
2	新南部遺跡群	S038	焚口に土器片、周辺に礫が凝集。	3	柱状礫破却		須恵器23点、土師器87点、石器4点、金属器3点	7			MT15～MT85
3	新南部遺跡群	S040	焚口に砂岩を横一列に並べた痕跡。両袖端から円礫各1点が出土。火床から高坏が横位状態で出土。竈の右側に甕を設置。	1	柱状礫破却	高坏伏置	須恵器7点、土師器10点、石器1点				MT85
4	新南部遺跡群	S042	火床から石製支脚が出土。周辺には砂岩が散在。	1	柱状礫破却		須恵器6点、土師器14点、石器2点	1			MT15～MT85
5	新南部遺跡群	S043	焚口に砂岩を並べた痕跡。火床に土器片が散在。	1	柱状礫破却		須恵器7点、土師器16点、石器1点	1			MT15～MT85
6	新南部遺跡群	S046	焚口を塞ぐように砂岩が散在。両袖端から円礫各1点が出土。火床に土器片が散在。	1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器4点	1			MT15
7	新南部遺跡群	S047	火床に角礫、土器片が散在。	1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器1点、				
8	新南部遺跡群	S048	礫、土器片が散在。	3	柱状礫破却		須恵器6点、土師器16点、金属器1点	1			MT85
9	新南部遺跡群	S049	火床から砂岩、欠損甕が出土。	3	柱状礫破却	甕設置	須恵器1点、土師器7点				TK10
10	新南部遺跡群	S050	焚口に砂岩4点を横一列に設置。火床・周辺には土器片が散在。煙道と思われる穴を確認	1	柱状礫埋設		須恵器2点、土師器20点、石器3点、金属器1点	3		3	TK10～MT85
11	新南部遺跡群	S051	火床から甕、鉄器が出土。	3	柱状礫破却	甕設置	須恵器7点、土師器16点、石器2点		3		TK47～MT85
12	新南部遺跡群	S054		1	柱状礫破却		土師器2点、石器1点				
13	新南部遺跡群	S056		1			須恵器1点、土師器4点、石器1点			1	MT85
14	新南部遺跡群	S057	火床から石製支脚が出土。周辺に砂岩が散在。	1	柱状礫破却		土師器2点、石器2点			1	
15	新南部遺跡群	S058	焚口に角礫数点を横一列に設置。火床に半分が欠損した甕と土器片を検出。	1	柱状礫埋設	甕設置	須恵器3点、土師器8点、金属器1点				MT15～MT85
16	新南部遺跡群	S059		1			須恵器4点、土師器6点	1			TK47～MT85
17	新南部遺跡群	S062		1			須恵器4点、土師器9点				MT85
18	新南部遺跡群	S063		1			土師器1点				
19	新南部遺跡群	S064		1			須恵器1点、土師器4点、石器1点				MT85
20	竜田陣内遺跡	1号	火床から石製支脚が出土。	1			須恵器2点、土師器6点	3			MT15
21	竜田陣内遺跡	2号	焚口に砂岩切石4点を横一列に設置。竈右側に甕を埋設。	1	柱状礫埋設	甕設置	土師器2点				
22	下南部遺跡	2号		4			土師器2点、金属器1点				
23	下南部遺跡	5号	粘土粒、炭化物堆積範囲に有蓋高坏を正位設置。	4			須恵器6点、土師器1点、土鈴				TK47～MT85
24	下南部遺跡	9号	袖部に砂岩2点を埋設。火床に高坏を伏せ置く。	1		高坏伏置	土師器4点、須恵器1点、石器1点				
25	下南部遺跡	13号		4			須恵器7点、土師器2点、		1		MT85
26	滝川石田遺跡	1号	両袖端から礫各1点を検出。	4			須恵器1点、土師器15点、石器2点	1			TK47
27	滝川石田遺跡	2号		4			須恵器7点、土師器16点、金属器2点	3	1		MT15～TK15
28	滝川石田遺跡	3号	床面に突き刺さった砂岩を検出。	1	柱状礫破却		土師器2点、石器2点				
29	滝川石田遺跡	4号		2			須恵器6点、土師器21点	7			MT15～TK15
30	滝川石田遺跡	5号	袖石痕跡（土壙）を検出。	1			土師器10点				
31	滝川石田遺跡	6号		4			須恵器2点、土師器3点、金属器1点		1		MT85
32	滝川石田遺跡	1区7号	石製支脚となる礫が出土	3			須恵器2点、土師器27点、手捏ね土器1点、石器1点		1		TK47～MT15
33	滝川石田遺跡	1区9号		4			須恵器3点、土師器1点				TK47～TK10

番号	遺跡名	遺構名	竈の概略	竈種類	焚口構造	火床状態	出土遺物	須恵器模倣坏	ヘラ記号	製塩土器	遺物年代
34	滝川石田遺跡	1区11号		1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器5点		1		MT15
35	滝川石田遺跡	1区12号	焚口に細長い川原石がコの字形に倒れていた。火床から甕破片が出土。	1	柱状礫埋設	甕設置	須恵器1点、土師器4点				
36	滝川石田遺跡	1区13号		4			須恵器5点、土師器19点、金属器2点	2			TK43～TK209
37	滝川石田遺跡	1区14号	火床から甕破片が出土。	3		甕設置	須恵器19点、土師器16点、金属器2点	5	2		MT85～TK43
38	滝川石田遺跡	1区15号	周辺に砂岩が散在。	1	柱状礫破却		須恵器3点、土師器2点、石器1点				TK43
39	滝川石田遺跡	1区16号		4			須恵器1点				TK10
40	滝川石田遺跡	1区17号		4			土師器7点	4			TK10を模倣
41	滝川石田遺跡	1区18号		2			須恵器6点、土師器13点、金属器1点		1		TK10～TK43
42	滝川石田遺跡	3区1号		1			土師器1点				
43	滝川石田遺跡	3区2号	火床から石製支脚が出土。	1			須恵器20点、土師器23点、手捏ね土器1点	7	2		TK10
44	滝川石田遺跡	3区3号	火床に高坏を伏せ置く。凝灰岩が出土。	1		高坏伏置	須恵器2点、土師器7点、金属器1点	2			MT85～TK43
45	滝川石田遺跡	3区4号		1			土師器3点				
46	滝川石田遺跡	3区5号		1			須恵器2点、土師器4点	2	1		TK10
47	滝川石田遺跡	3区6号	火床から石製支脚が出土。	3			須恵器1点、土師器6点、金属器1点	2	1		MT85
48	滝川石田遺跡	3区7号	火床に高坏を伏せ置く。	1		高坏伏置	須恵器2点、土師器11点				TK47
49	滝川石田遺跡	3区8号	両袖部から礫各1点が出土。	1			須恵器2点、土師器5点、手捏ね土器1点、金属器1点				MT85
50	滝川石田遺跡	3区9号		1			土師器1点、手捏ね土器7点				
51	滝川石田遺跡	3区10号	火床付近から礫2点が出土。	1	柱状礫破却		須恵器10点、土師器18点、手捏ね土器11点				MT15～TK10
52	滝川石田遺跡	3区11号	火床に高坏を伏せ置く。	1		高坏伏置	須恵器1点、土師器6点	1			TK43宇城産
53	滝川石田遺跡	3区12号		1			土師器8点	1			
54	滝川石田遺跡	3区13号		1			須恵器1点				MT85
55	滝川石田遺跡	3区14号	焚口付近に横長の川原石を設置し、その左右に柱状角礫を立てる。	1	柱状礫埋設		須恵器1点、土師器10点				TK10～MT85
56	滝川石田遺跡	3区15号	火床に高坏を伏せ置く。煙道を付設。	1		高坏伏置	須恵器1点、土師器6点				TK43～TK209
57	滝川石田遺跡	3区16号	火床から石製支脚が出土。	1			土師器5点	1			
58	滝川石田遺跡	3区17号	火床で土製支脚2点を検出。	3			須恵器9点、	2	1		MT85
59	滝川石田遺跡	3区18号		1			土師器1点				
60	滝川石田遺跡	3区19号	土製支脚、石製支脚が出土。	4			土師器4点	1			
61	滝川石田遺跡	3区20号	焚口に角柱状の凝灰岩を横位設置。火床から円礫支脚を検出。煙道を付設。	1	柱状礫破却		須恵器4点、土師器15点、金属器1点	3			TK10～TK43
62	滝川石田遺跡	3区22号	火床から土製支脚1点を検出。	1			須恵器7点、土師器11点、石器1点、金属器1点	5			MT85～TK43
63	滝川石田遺跡	3区23号	煙道を付設。	1			土師器4点				
64	滝川石田遺跡	3区24号	火床から円礫支脚が出土。煙道を付設。	1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器11点、石器1点、金属器1点	2			TK43～TK209
65	滝川石田遺跡	3区25号	煙道を付設。	1	柱状礫破却		須恵器5点、土師器9点	2			TK43～TK209
66	滝川石田遺跡	3区26号	煙道を付設。	3			須恵器17点、土師器25点	8	1		TK43～TK209
67	滝川石田遺跡	3区27号		1			須恵器6点、土師器1点	1			TK43
68	滝川石田遺跡	3区29号	煙道を付設	1			須恵器5点、土師器7点、金属器1点	1			TK43
69	南請遺跡	SI003		4				1		2	
70	南請遺跡	SI004		2							TK10～MT85
71	南請遺跡	SI009		4				1			

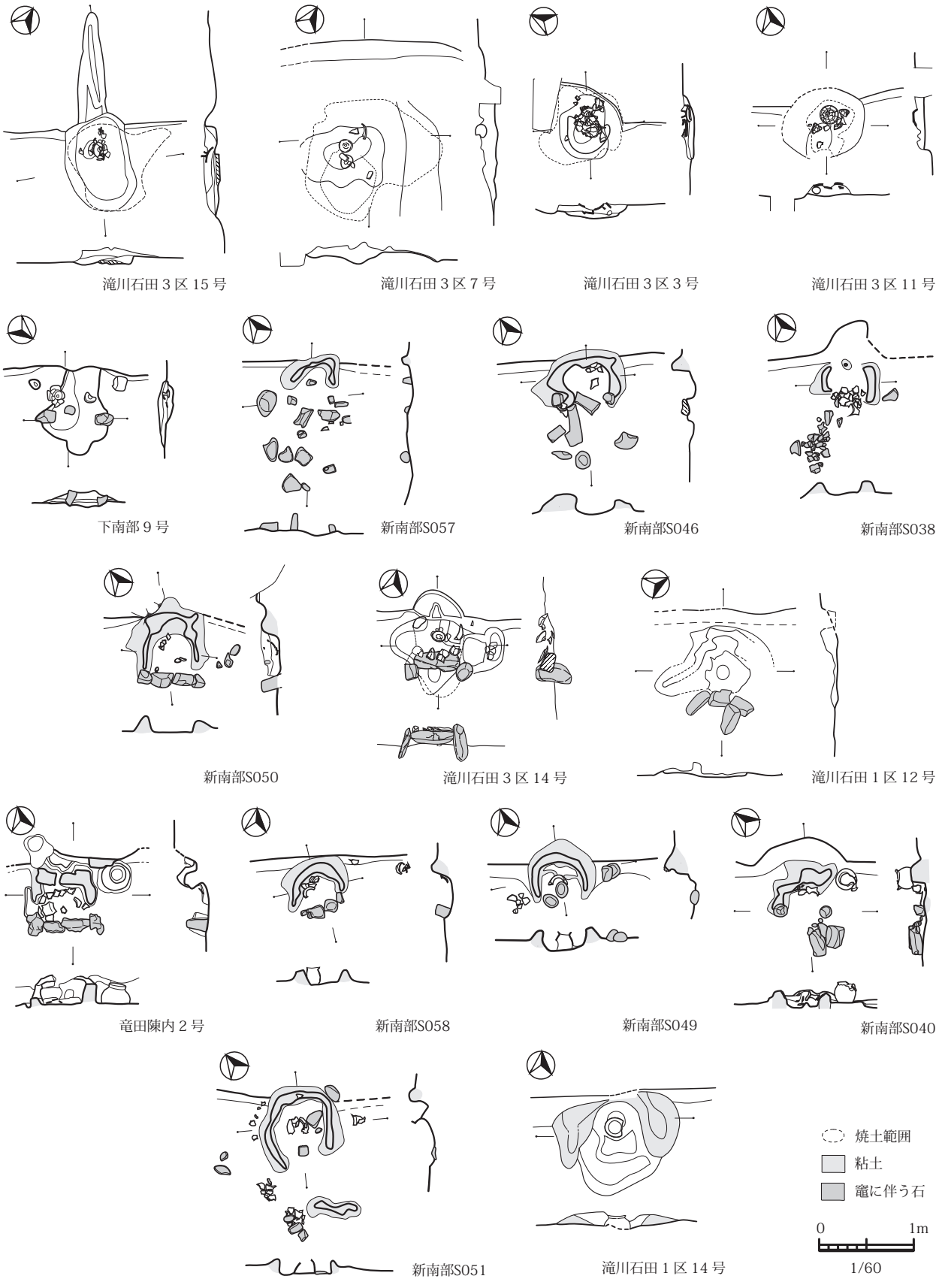


Fig.3-3-2　低平な沖積地に構築された竈 集成図

3　分析

新南部遺跡群と上記の類似した 4 遺跡とを比較し、共通する特徴を抽出する。

各遺跡で検出された住居数は、新南部遺跡群は古墳時代の竪穴住居 16 棟、竜田陳内遺跡は古墳時代の竪穴住居 2 棟、下南部遺跡は弥生時代の竪穴住居 8 棟、古墳時代の竪穴住居 4 棟、合計 12 棟である。滝川石田遺跡は古墳時代の竪穴住居 49 棟、中世～近世の掘立柱住居 6 棟、合計 55 棟であり、南請遺跡は古墳時代の竪穴住居 18 棟、古代の掘立柱住居 1 棟、合計 19 棟であった。

造り付け竈が設けられた竪穴住居（竈の壁体破片や粘土、焼土の堆積のみを検出した住居は除く。）は、新南部遺跡群では 16 棟のうち 14 棟、竜田陳内遺跡では 2 棟のうち 2 棟、下南部遺跡では 4 棟のうち 1 棟、滝川石田遺跡では 49 棟のうち 33 棟、合計 50 棟である。これら竪穴住居は、すべて TK47 ～ TK209 型式（5 世紀第 4 四半期～ 7 世紀第 1 四半期）の範疇に収まる。

なお、造り付け竈を備えた竪穴住居には、竈の燃焼部と焚出部の間に角柱状の砂岩等が一列に埋置されたり、固め置かれたり、あるいはこれが破却され散在していた竪穴住居が存在する。このような例は、新南部遺跡群では 14 棟のうち 13 棟、竜田陳内遺跡では 2 棟のうち 1 棟、滝川石田遺跡では 33 棟のうち 9 棟、合計 23 棟を確認できる。これらの存続時期は TK47 ～ TK209 型式にあたり、うち 14 棟は MT15 ～ MT85 型式(6 世紀第 1 四半期～ 6 世紀第 3 四半期) に集中している。

また、造り付け竈の火床に完形高坏を伏せ置く竪穴住居は、新南部遺跡群で 1 棟、下南部遺跡で 1 棟、滝川石田遺跡で 4 棟、合計 6 棟存在する。

おって、造り付け竈の燃焼部からほぼ完形の土師器甕が検出された竪穴住居が存在した。新南部遺跡群では 14 棟のうち 3 棟、滝川石田遺跡では 33 棟のうち

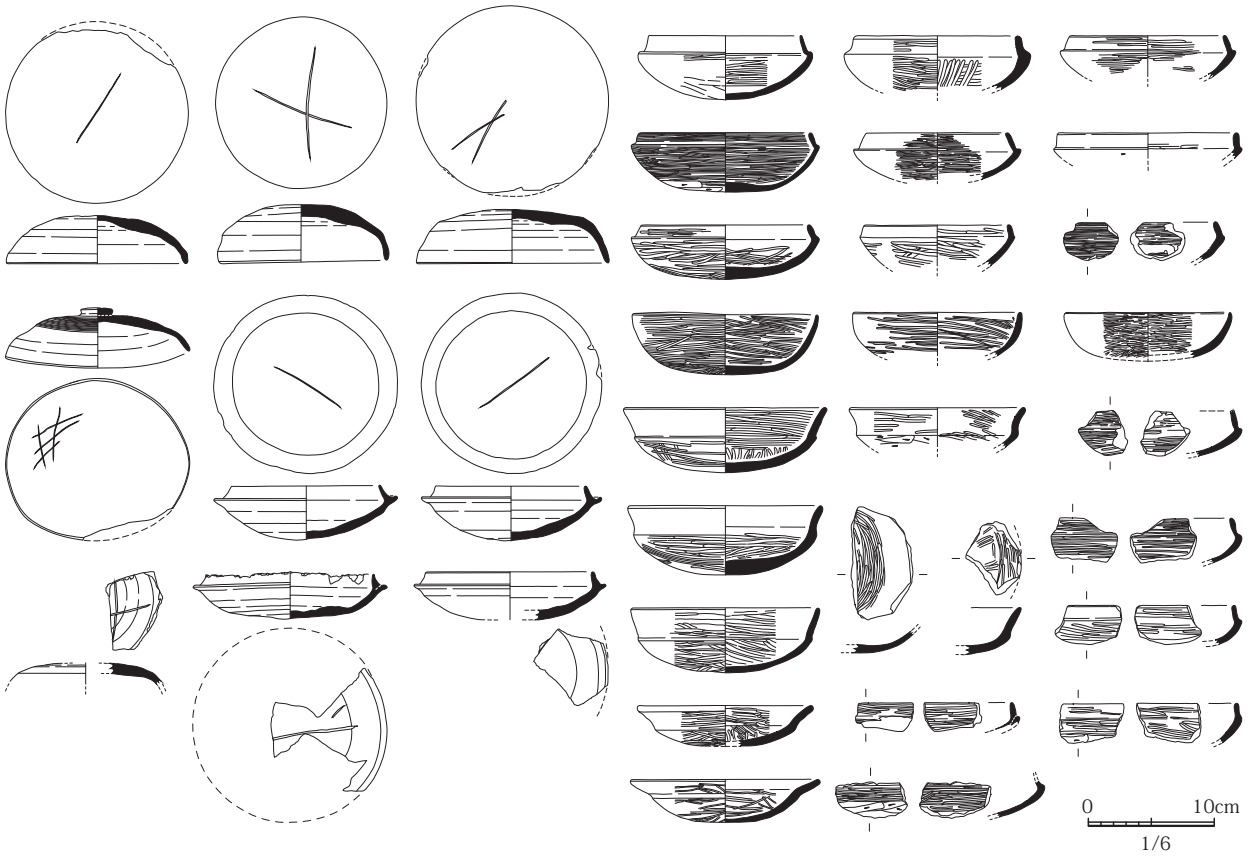


Fig.3-3-3　箆書坏及び須恵器模倣坏 集成図

2 棟、合計 5 棟を確認でき、うち 4 棟では、先述した砂岩等を伴う竈を備えていた。

このような竪穴住居の時期は TK47（5 世紀第 4 四半期）型式と MT85 ～ TK43 型式（6 世紀第 3 四半期～ 6 世紀第 4 四半期）に二分することができ、その間に 50 年程の空白期間が存在する。竈内に伏せ置かれた高坏はすべて土師器であり、竜田陳内遺跡の 1 棟のように正置状態で検出された高坏は須恵器であることと併せ、土師器を選択的に用いていたと考えることができる。さらに、新南部遺跡群で 1 例検出された、火床に割れ倒れていた土師器の高坏もこの例に加えてよいであろう。いずれの土師器高坏も坏部外面下半をケズリ、脚部には面取り整形が施され、屈曲裾部をもつ点が共通する。

移動式竈が、新南部遺跡群では 16 棟のうち 5 棟、滝川石田遺跡では 49 棟のうち 6 棟、南請遺跡では 28 棟のうち 1 棟、合計 12 棟から検出されている。新南部遺跡群では 5 棟のうち 4 棟、滝川石田遺跡では 6 棟のうち 5 棟、合計 9 棟で造り付け竈と重複しているため、2 種の竈は並行して使用されていたと考えられる。

なお、須恵器模倣坏も多数検出されている。新南部遺跡群では 16 棟のうち 7 棟から 16 点、竜田陳内遺跡では 2 棟のうち 1 棟から 3 点、滝川石田遺跡では 49 棟のうち 22 棟から 63 点、合計 82 点が検出されている。その年代は、TK47 ～ TK209 型式と幅広いが、新南部遺跡群では、13 棟が MT15 ～ MT85 型式に集中している。

また、箆記号をもつ坏も出土しており、新南部遺跡群では 16 棟のうち 2 棟から 8 点、下南部遺跡では 4 棟のうち 1 棟から 1 点、滝川石田遺跡では 49 棟のうち 10 棟から 12 点、南請遺跡では 18 棟のうち 1 棟から 1 点、合計 22 点が検出された。これらの箆記号をもつ坏は、滝川石田遺跡の 4 点を除き、すべて須恵器である。その時期は MT15 ～ MT85 型式に集中している。

新南部遺跡群と竜田陳内遺跡、下南部遺跡、滝川石田遺跡、南請遺跡の 4 遺跡とのあいだには、以上の共通点を認めることができる。特定の時期（6 世紀）に集落が同様の立地（低平な沖積地）に形成された現象を認めることができるのであるが、このような遺跡は現在、上記 5 遺跡しか確認されていない。

（引用文献）

大城康雄、廣瀬正照、1979、『下南部遺跡発掘調査報告書』、熊本市住宅協会、熊本。

浦田信智、丸山伸治、1988、「第 4 節　古墳時代」、『竜田陳内遺跡』熊本県文化財調査報告 98、熊本県教育委員会、熊本。

美濃口雅朗、2002、「第 2 節位置と環境」、『つつじヶ丘横穴群』熊本市教育委員会、熊本。

岡本真也、2014、『滝川石田遺跡・辺田見中道遺跡』、熊本県文化財調査報告 301、熊本県教育委員会、熊本。

新熊本市史編纂委員会、1996、『新熊本市史』資料編 1 考古資料、熊本市、熊本。

3-4　西日本における竈破却の一二相

宮崎敬士

1　はじめに
2　竈破却の一二相
3　対象と方法
4　結果
　4-1　概要
　4-2　空間分布
　4-3　時間分布
5　分析
　5-1　系譜
　5-2　動静
　5-3　価値
　5-4　予察
　5-5　まとめ

1　はじめに

先節では、低平な沖積地に点在する古墳時代後期集落の特徴を抽出した。その特徴は、第一に水害が予想される立地を採った通時代的稀観例であり、第二に須恵器模倣坏が使用される時期に営まれ、第三に住居火処の廃止方法が複数認められたことであった。

本節では、第三の特徴のうち造り付け竈の破却を対象とし、西日本におけるその分布を示し、新南部遺跡群の位置をもとめることとする。

2　竈破却の一二相

低平な沖積地に点在する古墳時代後期集落の竈を造り付けた住居は、次のとおり配列することができる。

A　造り付け竈の燃焼部から完形の甕等が検出される竪穴住居
B　造り付け竈の燃焼部と焚出部の間に石材を設える竪穴住居
C　造り付け竈の燃焼部中央（火床）に高坏を伏せ置く竪穴住居
D　その他

A～C は竈使用状況の保持の度合いにより配列されており、A は竈の使用を示し、B 及び C は竈の破却という行為を示している。（ただし、本来、D は AB 間に位置し、B、C は並置されるものである。B、C は新南部遺跡群における出土数量にしたがい配列した結果である。）

なお、B における石材を袖芯等、竈の構築材の一部とする見解、C における高坏を竈の支脚とする見解もある。しかし、前者は石材に竈粘土の付着が認められず、石材直上でも土器片等の遺物が出土すること、後者は高坏に被熱痕が欠如し、竈が破壊された高さに位置する脚部も含めた完形品であることにより、いずれも肯じがたい。

つまり、低平な沖積地に点在する古墳時代後期集落における造り付け竈の破却には、上記のとおり、B 石材設置と C 高坏伏置という二相が存在するのである。

3　対象と方法

対象遺構は、造り付け竈を B 石材設置、C 高坏伏置を伴って破却した竪穴住居である。B 石材設置は石材が角柱、扁平礫、板石のいずれであっても例に加え、C 高坏伏置は竈内に高坏を伏せ置いたことが示されていれば該当と判じている。

対象範囲は、九州、四国、中国及び近畿の 4 地方から沖縄県を除し、三重県を加えた範囲とした。府県名を概ね南方から記せば、九州地方の鹿児島県、宮崎県、大分県、熊本県、長崎県、佐賀県、福岡県、四国地方の高知県、愛媛県、香川県、徳島県、中国地方の山口県、広島県、岡山県、島根県、鳥取県、近畿地方の和歌山県、奈良県、兵庫県、大阪府、京都府、滋賀県及び三重県である。

以上にもとづき、文献検索により類例を集成した。検索には熊本県文化財資料室に配架された発掘調査報告書を用い、各報告書に掲載された文章、表、図又は写真に拠って該当例を抽出した。

4　結果

4-1　概要

造り付け竈を破却した竪穴住居のうち、B 石材設置例は 69 遺跡 156 例、C 高坏伏置例は 74 遺跡 236 例を確認した。

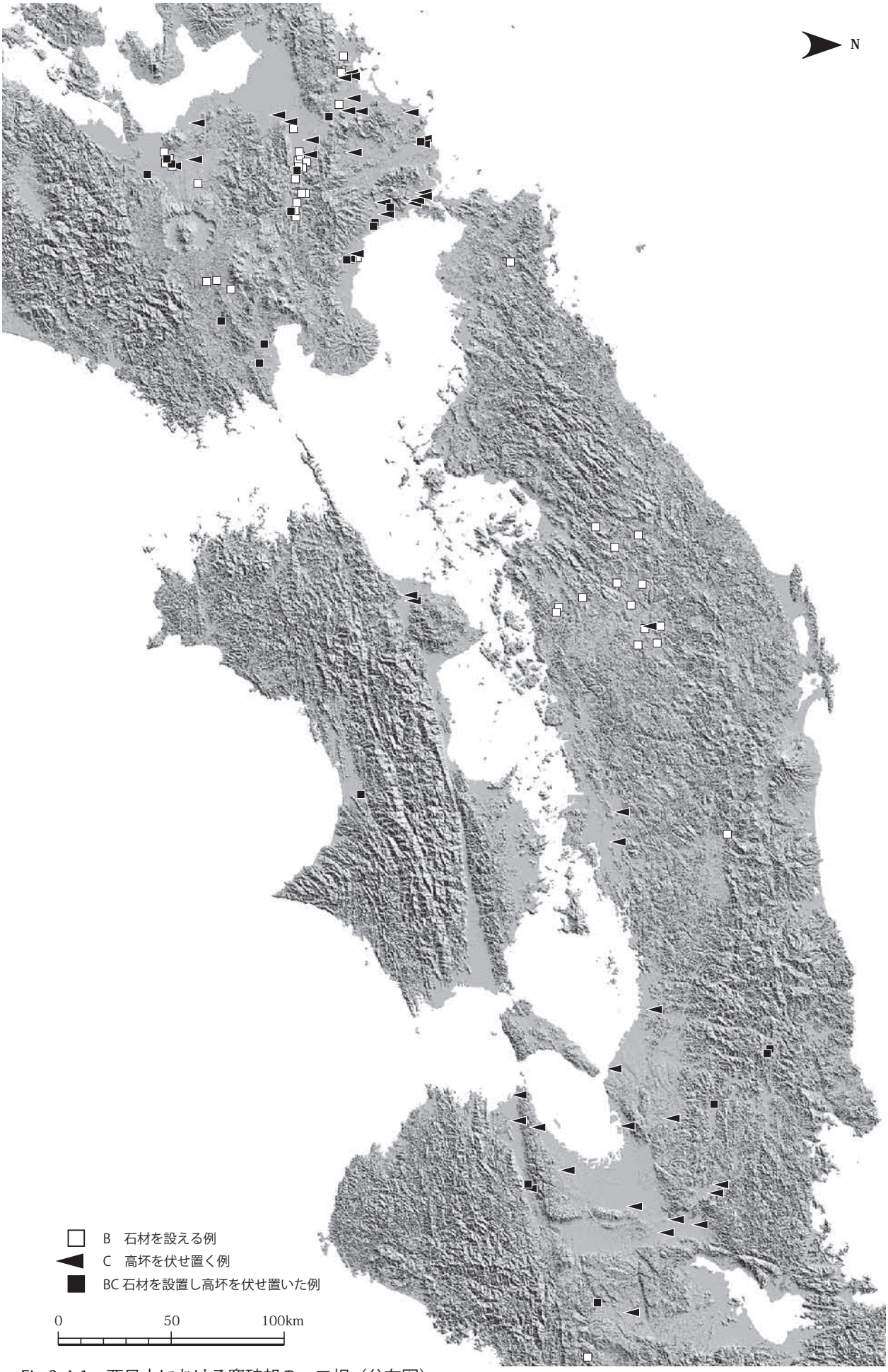


Fig.3-4-1　西日本における竈破却の一二相（分布図）

相	遺構数	遺跡数
B石材設置	89	49
C高坏伏置	160	54
B+C	30+25	11
B+BC	13+4	3
BC+C	2+35	2
B+BC+C	12+6+4	4
合計	380	123

Tab.3-4-1　竈破却の一二相（集計表）

なお、この二相は遺構又は遺跡において複合する場合がある。遺構において複合した例、すなわち石材を設置し、かつ高坏を伏せ置いた竈破却例は 9 遺跡 12 例を確認した。（以下、この例を「BC 石材高坏」と記述する）。遺跡において複合した例、すなわち B 石材設置、C 高坏伏置又は BC 石材高坏のうち複数相が共伴する例は 20 遺跡を確認した。

その空間的な分布は、九州では中央構造線以北、四国及び本州では中央構造線以北かつ中国山地以南の範囲に限られ、さらに各相に固有の分布傾向が存在することを確認した。その時間的な分布は、5 世紀に九州の筑紫地域にはじまり、5 世紀後半までには四国及び本州への展開を終え、さらに各相に固有の終焉時期が存在することを確認した。

4-2　空間分布

B 石材設置、C 高坏伏置、BC 石材高坏の分布範囲は、その南端を中央構造線、その北端を四国及び本州では中国山地、としてよい。中央構造線以南の分布例は高知県伏原遺跡のみであり、かつ本州における分布例は日本海に至ることはないからである。この分布範囲内において、B 石材設置は山間部に凝集し、C 高坏伏置は平野部に散在する、といった各相固有の分布傾向を示している。

B 石材設置が山間部に凝集する分布傾向は、中国地方において明瞭である。その分布範囲は地体構造区分では秋吉帯に該当し、古代以降の銅、鉄の生産地域に一致する。秋吉帯はベルム紀後期の弱変成付加体からなり、砂岩、泥岩、チャート等、通常の海洋プレート層序構成岩の他に、古海山起源の緑色岩と礁石灰岩からなる巨大異地性岩体を含むことが特徴である（磯崎ほか 2010）。このような石灰岩地帯に花崗岩が貫入すると、銅、鉄を含む接触交代鉱床（スカルン鉱床）が形成される。なお、秋吉台、帝釈台のように広く石灰岩が分布する地域にはカルスト地形が発達する。その景観は錐状の石灰岩柱（ラビエ）とすり鉢状の窪地（ドリーネ）が群れた構成をとるため、カルスト地形は視認しやすい。

なお、九州における B 石材設置の分布範囲は、概ね北九州浅熱水性金鉱床区（豊肥地域）に該当し、近代の金、銀等の生産地域に一致する。熱水性鉱床は、深層の金、銀、銅等の鉱物を含む熱水が表層移動することにより冷却し、鉱物を晶出沈殿させて形成される。九州には、鮮新世から更新世にかけての火山活動に伴う浅熱水性金銀鉱床が分布する（渡辺 2004）。このうち、国東半島から日田盆地にかけての一帯が北九州浅熱水性金鉱床区（豊肥地域）であり、馬上、引治、星野、鯛生等、金、銀を産出する鉱床が含まれる。九州が日本で最も金に富む島になった原因は、鮮新世以降、各地で伸張運動に伴う地溝が形成されたために他ならず、その形成メカニズムから金鉱床は温泉に隣接している場合が多い。

また、C 高坏伏置は沖積平野の縁辺部に散在している。C 高坏伏置を擁する遺跡は、扇状地の扇頂、丘陵の端部、地峡の入口等、沖積平野と異地形との接点すなわち地形変換点に立地する。その分布密度が最も高い九州をみれば、これらの遺跡は領域区分の基本形（平野 2002、p.119）の縁端部にそれぞれ位置し、網状に展開する遺跡群となっている。

おって、BC 石材高坏は山間部に点在している。これは、B 石材設置、C 高坏伏置、二相の特徴をそれぞれ部分的に併せもった分布傾向である。

竈破却の二相は、西日本において概ね上記のとおり分布する。

4-3　時間分布

B 石材設置、C 高坏伏置、BC 石材高坏は、5 世紀に始まり、6 世紀に盛行し、それぞれ異なる時期に終焉する。

5 世紀初頭の福岡県塚堂遺跡 17 号住居跡では、高坏 2 脚が重ねられ、川原石を焚口の芯に用いた造り付け竈の「破壊後に整然と再配置」されている（馬田 1985、p.146）。高坏は、いずれも坏部を取り去り、燃焼部中央に正立した状態で重ね置かれていた。ともに脚部に円窓を透かし、坏部と脚部を充填式を用いて接合していることから、5 世紀初頭に比定される。竈はその上半を壊し、両袖芯の川原石の上端を露出し、さらに内傾させ、その上に川原石を架けている。横位

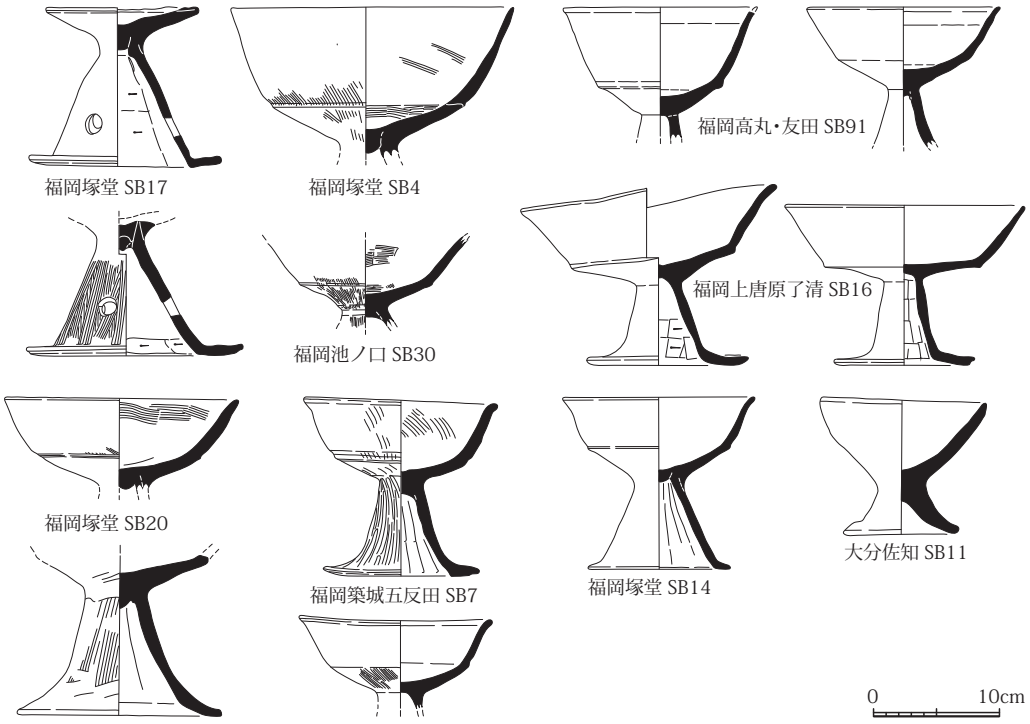


Fig.3-4-2　竈に伏せ置かれた高坏（九州、筑紫、5 世紀）

に架されたこの川原石は復元長 45cm を測るが、「両袖石を正立させた状態での両袖石内側間はこれよりも大きく、天井石を架すことはできない」ものであった（馬田 1985、p.137）。したがって、塚堂遺跡 17 号住居跡例は、竈を破壊し焚口に石を組み燃焼部に高坏を重ね置いた竈破却、としてよい。さらに、B 石材設置、C 高坏伏置、BC 石材高坏の最古例として位置付けることができる。

なお、5 世紀前半のうちに、B 石材設置、C 高坏伏置が出現し、九州では筑紫地域、本州では近畿地方を中心とした分布を示す。そして 5 世紀後半までには四国及び本州中国地方へも分布範囲を伸張させ、一世紀に満たない期間で最大版図への分布を完了する。

また、6 世紀には、BC 石材高坏、B 石材設置、C 高坏伏置いずれもが最大数となり、盛行期を迎える。6 世紀後半には、B 石材設置 30 例のうち 16 例が中国地方の秋吉帯に展開し、同じく石灰岩分布域である三重県壇・柏原遺跡に 1 例が出現する。この他九州の日田盆地に 7 例が確認できるため、6 世紀後半は B 石材設置の凝集傾向が顕在化する時期、としてよい。

おって、7 世紀以降、BC 石材高坏は確認できなくなる。C 高坏伏置は 7 世紀前半で終焉を迎える。B 石材設置は少数のまま 8 世紀まで継続するが、その分布範囲は肥後地域を中心とした九州の内に限られる。

竈破却の二相は、西日本において概ね上記のとおり変遷する。

5　分析

5-1　系譜

竈破却の二相は、遺構において複合した福岡県塚堂遺跡例を最古としていた。その直後に同所で、石材を設える例と高坏を伏せ置く例を確認することができる。このことから、石材を設える例と高坏を伏せ置く例の二相は、この筑紫地域において石材を設置しかつ高坏を伏せ置く一相を起原として、ほぼ同時に派生した、と考えてよい。

5-2　動静

これら竈破却の三相は、各々固有の分布傾向をもちながら、一連のものとして特定期間のうちに西日本の特定地帯に拡散している。竈の破却に際し石材を設える例は金属鉱床の分布地域に凝集し、高坏を伏せ置く例は領域区分の基本形を網状に編成するあり方を示していた。いずれの相も単独で集落を形成することはなく、すべての住居に対する三相の住居の比率は、最低値 0.5％（愛媛県北井門遺跡）、次点 0.6％（徳島県大柿遺跡）、平均 1.4％である。しかし、三相のうちに限れば、単相例は多数（103 遺跡 252 例）、複合例（20 遺跡 128 例）は少数であり、さらに複合が複雑化するほど例数を減じている。この例数の多寡にしたがい、竈破却の三相を複雑な複合例、複合例、単相例の順に配列すると、階層性をそなえたピラミッド型の構造が抽出される。これは軍隊等、特定の目的達成のために

時期		期間	
草創期	弥生時代	～	仏教伝来（538）
定着期	仏教伝来（538）	～	東大寺大仏開眼供養（752）
模索期	東大寺大仏開眼供養（752）	～	石見銀山の開発（1526）
発展期	石見銀山の開発（1526）	～	小判座（金座の前身）の設置（1595）
熟成期	小判座（金座の前身）の設置（1595）	～	元文の貨幣改鋳（1736）
爛熟期	元文の貨幣改鋳（1736）	～	ペリーの来航（1853）
再生期	ペリーの来航（1853）	～	

（村上2007から作成）

Tab.3-4-2　技術から見た 7 つの時期区分

編成される組織に採用される構造であり、単一の指揮命令系統の下、戦略（Strategy）、作戦（Operation）、戦術（Tactics）、後方支援（Logistics）といった職掌が階層的に分担されることが特徴である。これらの各階層に三相の分布的特徴を重ねると、高坏を伏せ置く例は情報伝達や物資補給等を担う後方支援、石材を設える例は鉱床探査等の個別目的をもった実働戦術部隊、複合例は両者を統合して特定地域の鉱床開発を計画運営する作戦部、と整理し位置付けることができよう。つまり、竈破却の三相からは、集落内でも一般化することなく、地方を超えて広範囲に分布し、複数世代にわたり維持された組織が復元できるのである。その根拠地は、竈破却の三相の系譜、分布数、分布密度から九州筑紫地域とすることが適切である。そして、その戦略は、中央構造線という若い地体構造の中を、視認しやすい金属鉱床を探りながら東進している組織の動静の中にある。

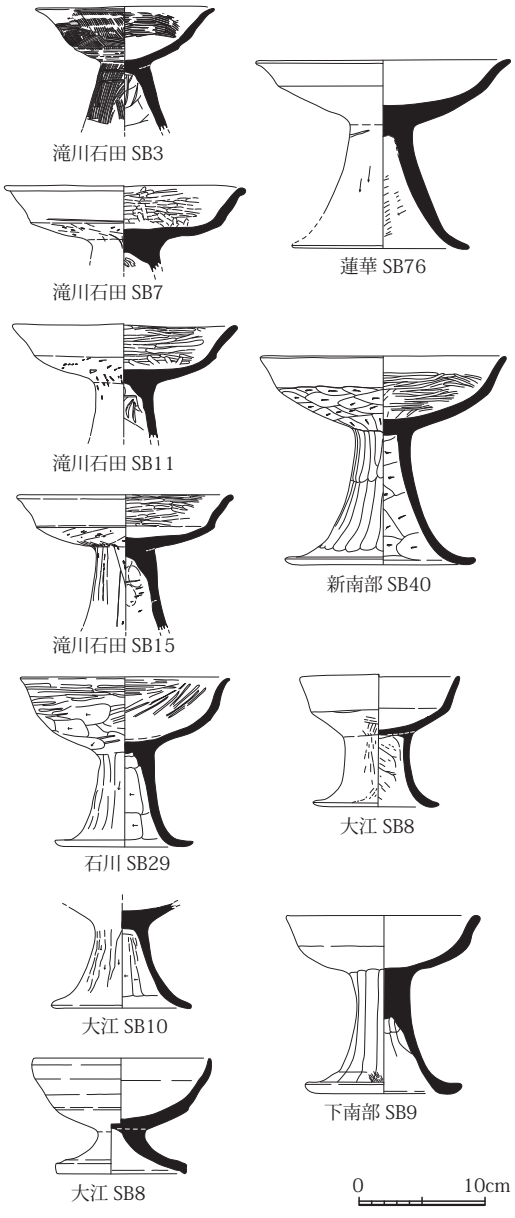


Fig.3-4-3　竈に伏せ置かれた高坏（九州、肥後）

5-3　価値

村上隆は、金銀銅に代表される金属を地球から得る技術を「第一の技術」、金属素材を加工してモノを作り出す技術を「第二の技術」と定義し、日本における金属と人の歴史を技術から見た 7 つの時期に区分した（村上 2007）。なお、『日本書紀』、『続日本紀』の記述から、7 世紀後半は鉱物資源を国産で調達しようとする機運が盛り上がった時期であるととらえ、これを「第一次鉱山ブーム」とした。そして、この段階において、第一、第二の技術が日本国内に揃い、原料を輸入して加工するだけの段階から、原料を自前で調達するところまで到達したと評価した（村上 2007、pp.52-55）。

竈破却の三相からは、6 世紀後半に盛行する石材を設える例が金銀銅の鉱床探査を実行し、高坏を伏せ置く例が後方支援、複合する例が計画運営を分担する系統だった組織に担われた、と推定した。各遺跡の在り方は、この竈破却の三相をそなえた少数の遺構が各地域の集落に浸潤する様相を示しており、それは各地域土器群に組成する高坏を用いること、須恵器使用等の多様化が認められること等､遺物にもあらわれている。その一方で竈破却の三相は、特定型式の煙道を備えた竈等の遺構、初期須恵器、須恵器模倣土師器、土鈴等

の韓半島系の遺物、そして紡錘車等の自給自足側面をもつ遺物を共伴している。また、砂岩等、金鉱床に分布する石材を用いること、凝灰岩等、金属精錬に用いる石材の露頭に近在するといった専門的な要素も継続的に保持している。つまり、竈破却の三相は在地の既往要素と共存し、それに編入して緩やかに展開したものの、基本的同一性は一貫して保ち続けた現象であることを示している。これは大陸、韓半島からの渡来集団に准えることができる現象であるが、当の大陸、韓半島の要素は反復されないばかりか、当初から一定程度変容して存在していることに注意が必要である。

なお、村上は、金属原料の自前調達の技術が 6 世紀後半以前に開始された可能性を指摘している（村上 2007、p.54）。竈破却の三相は、5 世紀初頭の福岡県塚堂遺跡 17 号住居跡に初例をもとめることができ、金属原料の自前調達の技術の開始時期をここにまで遡らせることができる、と示唆している。

5-4　予察

竈破却の三相は本川遺跡（愛知県豊田市）、神屋遺跡（茨城県稲敷市）、当向遺跡（茨城県西茨城郡岩瀬町）等にも分布し、現在の最北端例は高木遺跡（福島県本宮市）である。高木遺跡は、奥羽山脈と阿武隈高地の間を南北にのびる郡山盆地の北端に位置し、北流する阿武隈川に沿って 1.5㎞以上にわたり展開する。集落は東西方向に走る複数の大溝により区画され、200 軒以上の住居群が 7 世紀を中心に隆盛する。6 世紀後半に属する 103 号住居跡の竈は、燃焼部中央に栗囲式の高坏が伏せ置かれ、破却されていた（大波 2002）。このように、東北日本では関東平野から奥羽山脈に沿って仙台平野に向かって断続した沖積地帯を北上する様相が存在する。すなわち、竈破却の三相は後代の律令制社会の辺境より一国くらい狭い範囲に展開している、と予察することができるのである。

さて、上記の様相は、竈破却の三相が後代の律令制社会の前駆体である、との理解を惹起するかもしれない。しかし、竈破却の三相は始終その中心地域を九州に置き、後代の律令制社会の中心地である奈良盆地を通時的な空白地域とする分布を示している。したがって、この現象を律令制社会の成立に直結するものと理解することはできない。

なお、竈の破却に際して石材を設える例は 6 世紀までは筑紫地域に中心が在るが、後に肥後地域へと遷っている。この肥後地域への中心の移動は 7 世紀前半に認められる現象であり、領域区分の基本形を精確に網羅していた竈の破却に際して高坏を伏せ置く例の終焉時期、そして、中央と地方の間の情報伝達や物資逓送を担う古代道路と古代駅伝制の開始時期に重畳している。

これら複数の現象は、日本列島における古代国家形成過程は、それほど単線、短絡、単純ではないことを明示している。古代国家の形成過程には共同、競争、略奪のいずれもが国家形成の方途として存在し、その方途を選択する主体も単一である必要はない。このことを顕示する現象を複数伴って、竈破却の三相は存在している。

5-5　まとめ

造り付け竈の破却には三つの相があり、その分布は律令制社会の版図の内にある。5 世紀から九州筑紫地域を起源として、中央構造線上に展開した竈破却の三相は、金、銀、銅、鉄の鉱床開発組織の存在を示し、金属をめぐる技術から見た定着期（村上 2007）に最盛し、模索期（村上 2007）には終焉する。

竈破却の三相が確認される時期は古代国家形成期にあたるが、竈破却の三相が示す古代国家の形成過程は、複雑で、多様性をもち、順序だった遷移を示してはいない。すなわち、古墳時代（後期）から律令制社会にいたるまでの遷移は、共同体の外部からの力によっておこった他成的な遷移（Allogenic Succession）であることを竈破却の三相は示している。そして、竈破却の三相それ自体も外部からの力の一例に数えられる。新南部遺跡群の発掘結果は、上記のような在り方を示す竈破却の三相の例証として位置づけられよう。

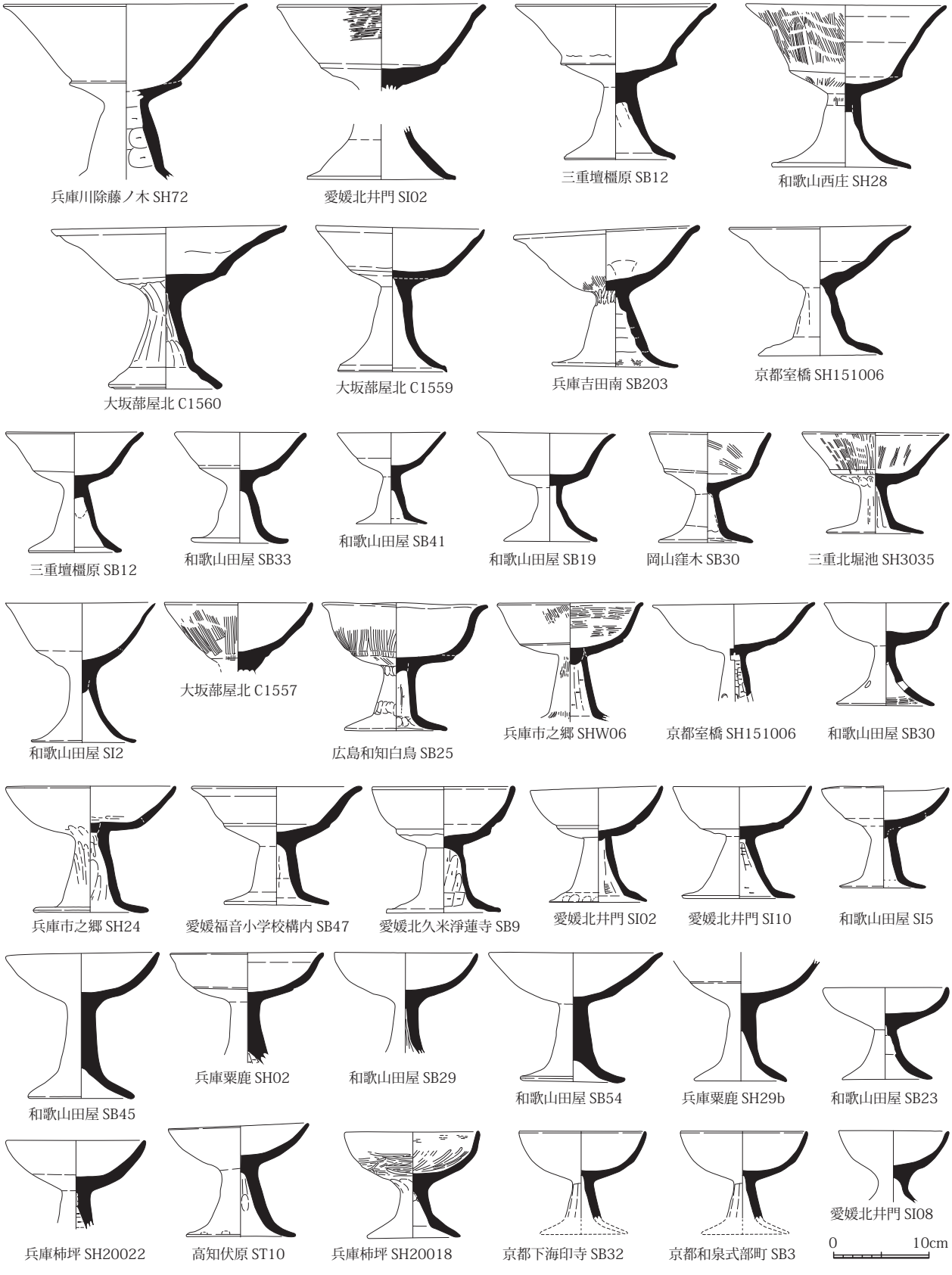


Fig.3-4-4　竈に伏せ置かれた高坏（四国、中国、近畿）1

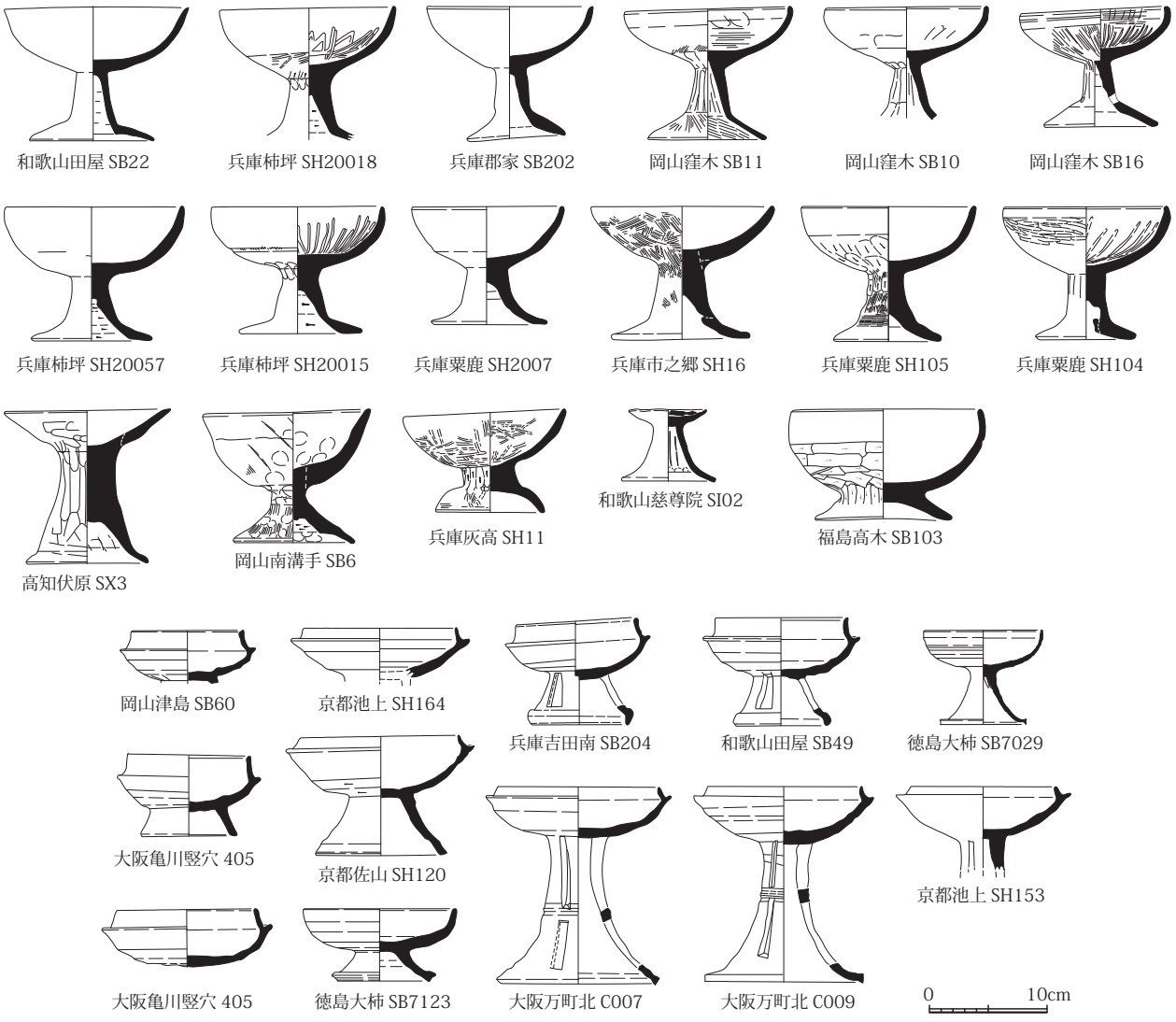


Fig.3-4-5　竈に伏せ置かれた高坏（四国、中国、近畿、附福島及び須恵器）

（引用文献）

磯崎行雄、丸山茂徳、青木一勝、中間隆晃、宮下敦、大藤茂、2010、「日本列島の地帯構造区分再訪」、『地学雑誌』119(6)、東京地学協会、999-1053。

大波紀子、2002、「103 号住居跡」、『阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告』2、福島県文化財調査報告 401、福島県教育委員会、福島、pp.322-328。

平野邦雄、2002、『邪馬台国の原像』、学生社、東京。

馬田弘稔、1985、「17 号住居跡」、『塚堂遺跡Ⅳ』(2) 一般国道 210 号線浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 4、福岡県教育委員会、福岡、pp.136-150。

村上隆、2007、『金・銀・銅の日本史』、岩波書店、東京。

渡辺寧、2004、「生きている九州 - 浅熱水性金鉱床生成区の変遷」、『地質ニュース』599、産業技術総合研究所、31-39。

Tab.3-4-3　対象遺構とその種類

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
1	熊本県	新南部	3	S038	B	1
2	熊本県	新南部	3	S040	BC	1
3	熊本県	新南部	3	S042	B	1
4	熊本県	新南部	3	S043	B	1
5	熊本県	新南部	3	S046	B	1
6	熊本県	新南部	3	S047	B	1
7	熊本県	新南部	3	S049	B	1
8	熊本県	新南部	3	S050	B	1
9	熊本県	新南部	3	S051	B	1
10	熊本県	新南部	3	S057	B	1
11	熊本県	新南部	3	S058	B	1
12	熊本県	新南部	−	9 号	B	2
13	熊本県	竜田陣内	−	2 号	B	3
14	熊本県	下南部	−	5 号	C	4
15	熊本県	下南部	−	9 号	C	4
16	熊本県	大江	1	4 号	B	5
17	熊本県	大江	3	8 号	C	6
18	熊本県	大江	3	12 号	B	6
19	熊本県	大江	23	2 号	B	7
20	熊本県	大江	42	2 号	B	8
21	熊本県	大江	69	4 号	B	9
22	熊本県	大江	69	7 号	B	9
23	熊本県	大江	84	2 号	C	10
24	熊本県	大江	84	4 号	C	10
25	熊本県	大江	97	SI08	C	11
26	熊本県	大江	97	SI10	C	11
27	熊本県	大江	108	1 号	C	12
28	熊本県	辻	1	15 号	B	13
29	熊本県	西谷	3	3 号	B	14
30	熊本県	新屋敷	16	14 号	B	15
31	熊本県	新屋敷	26	SI03	B	16
32	熊本県	新屋敷	27	2 号	B	17
33	熊本県	陣山	−	19 号	B	18
34	熊本県	陣山廃寺	3	3 号	B	19
35	熊本県	二本木	35	SH12	B	20
36	熊本県	二本木	49	SI090	B	21
37	熊本県	石川	12	29 号	C	22
38	熊本県	蓮華	−	S076	C	23
39	熊本県	滝川石田	1	3 号	B	24
40	熊本県	滝川石田	1	12 号	B	24
41	熊本県	滝川石田	1	15 号	B	24
42	熊本県	滝川石田	3	3 号	C	24
43	熊本県	滝川石田	3	7 号	C	24
44	熊本県	滝川石田	3	10 号	B	24
45	熊本県	滝川石田	3	11 号	C	24
46	熊本県	滝川石田	3	14 号	B	24
47	熊本県	滝川石田	3	15 号	C	24
48	熊本県	滝川石田	3	20 号	B	24
49	熊本県	伊坂上ノ原	−	SX Ⅱ 14	B	25
50	福岡県	薬師の森	5	SC13	C	26
51	福岡県	薬師の森	9	SC05	C	27
52	福岡県	中道	−	105 号	C	28
53	福岡県	外之隈	5	7 号	B	29
54	福岡県	外之隈	7	11 号	B	29
55	福岡県	外之隈	7	17 号	B	29
56	福岡県	外之隈	7	27 号	B	29
57	福岡県	長島	−	23 号	B	30
58	福岡県	長島	−	35 号	B	30
59	福岡県	鷹取五反田	2	8 号	B	31
60	福岡県	鷹取五反田	2	112 号	B	31
61	福岡県	塚堂	4	1 号	B	32
62	福岡県	塚堂	4	4 号	BC	32
63	福岡県	塚堂	4	9 号	B	32
64	福岡県	塚堂	4	14 号	C	32
65	福岡県	塚堂	4	17 号	BC	32
66	福岡県	塚堂	4	20 号	BC	32
67	福岡県	堂畑	3	137 号	B	33
68	福岡県	堂畑	3	196 号	B	33
69	福岡県	日詰	1	12 号	B	34
70	福岡県	船越高原	−	24 号	B	35
71	福岡県	日永	1	71 号	B	36
72	福岡県	沖出梅木	−	7 号	B	37
73	福岡県	沖出梅木	−	15 号	B	37
74	福岡県	貝元	2	117 号	B	39
75	福岡県	貝元	2	120 号	C	39
76	福岡県	貝元	1	121 号	B	38
77	福岡県	貝元	2	168 号	B	39
78	福岡県	貝元	1	176 号	B	38
79	福岡県	貝元	1	248 号	B	38
80	福岡県	貝元	1	258 号	B	38
81	福岡県	宮原	−	227 号	C	40
82	福岡県	有田・小田部	8	SI09	C	41
83	福岡県	有田・小田部	124	SC02	C	42
84	福岡県	有田・小田部	131	SC01	C	43
85	福岡県	有田	−	3 号	C	44
86	福岡県	金武城田	−	SC04	B	45
87	福岡県	那珂	82	SC09	C	46
88	福岡県	那珂	86	SC006	C	47
89	福岡県	那珂	125	SC019	C	48
90	福岡県	重留村下	4	SC06	C	49
91	福岡県	惣利西	−	1 号	B	50
92	福岡県	三雲・井原	7	1 号	B	51
93	福岡県	牛ガ熊	−	7 号	C	52
94	福岡県	牛ガ熊	−	8 号	C	52
95	福岡県	筑後国府跡	65	SI3021	C	53
96	福岡県	太郎原	1	SI80	B	54
97	福岡県	太郎原	1	SI160	B	54
98	福岡県	北の前	1	1 号	C	55
99	福岡県	北の前	1	2 号	C	55
100	福岡県	北の前	1	3 号	C	55
101	福岡県	北の前	1	25 号	C	55
102	福岡県	瀬戸	−	1 号	C	56
103	福岡県	瀬戸	−	3 号	C	56
104	福岡県	瀬戸	−	12 号	C	56
105	福岡県	瀬戸	−	25 号	C	56
106	福岡県	高塚	−	2 号	C	57
107	福岡県	高丸・友田	−	91 号	C	58
108	福岡県	高丸・友田	−	96 号	C	58
109	福岡県	高丸・友田	−	104 号	B	58
110	福岡県	高丸・友田	−	106 号	C	58
111	福岡県	尾崎・天神	1	8 号	C	59
112	福岡県	尾崎・天神	1	9 号	C	59
113	福岡県	尾崎・天神	1	21 号	C	59
114	福岡県	尾崎・天神	1	23 号	C	59
115	福岡県	尾崎・天神	1	27 号	C	59
116	福岡県	尾崎・天神	2	31 号	C	60
117	福岡県	尾崎・天神	2	34 号	C	60
118	福岡県	尾崎・天神	3	48 号	C	61
119	福岡県	尾崎・天神	4	63 号	C	62
120	福岡県	尾崎・天神	4	65 号	C	62
121	福岡県	尾崎・天神	4	69 号	C	62
122	福岡県	尾崎・天神	4	72 号	C	62
123	福岡県	尾崎・天神	5	85 号	C	63
124	福岡県	尾崎・天神	5	89 号	C	63
125	福岡県	尾崎・天神	5	93 号	C	63
126	福岡県	尾崎・天神	5	97 号	C	63
127	福岡県	尾崎・天神	5	105 号	C	63
128	福岡県	尾崎・天神	5	118 号	C	63
129	福岡県	尾崎・天神	5	130 号	C	63
130	福岡県	尾崎・天神	5	143 号	C	63
131	福岡県	金丸	−	1 号	C	64
132	福岡県	金丸	−	2 号	C	64
133	福岡県	金丸	−	3 号	C	64
134	福岡県	金丸	−	14 号	C	64
135	福岡県	金丸	−	15 号	C	64
136	福岡県	金丸	−	16 号	C	64
137	福岡県	金丸	−	18 号	C	64
138	福岡県	金丸	−	19 号	C	64
139	福岡県	金丸	−	23 号	C	64
140	福岡県	金丸	−	24 号	C	64
141	福岡県	金丸	−	28 号	C	64
142	福岡県	金丸	−	29 号	C	64

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
143	福岡県	金丸	−	31 号	C	64
144	福岡県	金丸	2	38 号	C	63
145	福岡県	奴山大門	1	SC-08	C	65
146	福岡県	奴山大門	1	SC-29	C	65
147	福岡県	片野	−	1	C	66
148	福岡県	三郎丸	2	5 号	C	67
149	福岡県	三郎丸	2	11 号	C	67
150	福岡県	三郎丸	2	12 号	C	67
151	福岡県	三郎丸	3	4 号	C	68
152	福岡県	三郎丸	3	9 号	C	68
153	福岡県	森山西	2	1 号	C	69
154	福岡県	森山西	2	2 号	C	69
155	福岡県	森山西	2	4 号	C	69
156	福岡県	森山西	2	5 号	C	69
157	福岡県	長野 A	4	20 号	C	70
158	福岡県	長野 A	4	31 号	C	70
159	福岡県	長野 E	−	1 号	C	71
160	福岡県	長野 E	−	2 号	C	71
161	福岡県	長野 E	−	6 号	C	71
162	福岡県	長野 E	−	7 号	C	71
163	福岡県	長野 E	−	9 号	C	71
164	福岡県	長野 E	−	11 号	C	71
165	福岡県	長野 E	−	12 号	C	71
166	福岡県	長野 E	−	14 号	C	71
167	福岡県	長野 E	−	15 号	C	71
168	福岡県	長野 E	−	16 号	C	71
169	福岡県	長野 E	−	17 号	C	71
170	福岡県	黒田八田ヶ坪	1	32 号	C	72
171	福岡県	黒田八田ヶ坪	1	33 号	C	72
172	福岡県	黒田持田	−	3 号	C	72
173	福岡県	黒田持田	−	4 号	C	72
174	福岡県	黒田持田	−	6 号	C	72
175	福岡県	黒田畑掘	2	1 号	C	72
176	福岡県	影塚東	−	28 号	C	73
177	福岡県	影塚東	−	30 号	C	73
178	福岡県	福富小畑	−	1 号	C	74
179	福岡県	延永ヤヨミ園	1	5 号	C	75
180	福岡県	延永ヤヨミ園	1	6 号	C	75
181	福岡県	延永ヤヨミ園	1	20 号	BC	75
182	福岡県	延永ヤヨミ園	1	41 号	C	75
183	福岡県	延永ヤヨミ園	1	43 号	C	75
184	福岡県	延永ヤヨミ園	1	48 号	C	75
185	福岡県	延永ヤヨミ園	1	53 号	C	75
186	福岡県	延永ヤヨミ園	2	2 号	C	76
187	福岡県	延永ヤヨミ園	2	9 号	C	76
188	福岡県	延永ヤヨミ園	2	14 号	C	76
189	福岡県	延永ヤヨミ園	2	17 号	C	76
190	福岡県	延永ヤヨミ園	2	24 号	C	76
191	福岡県	延永ヤヨミ園	2	34 号	C	76
192	福岡県	延永ヤヨミ園	2	41 号	C	76
193	福岡県	延永ヤヨミ園	2	47 号	C	76
194	福岡県	延永ヤヨミ園	2	81 号	C	76
195	福岡県	延永ヤヨミ園	2	91 号	C	76
196	福岡県	延永ヤヨミ園	2	2 区 137 号	C	76
197	福岡県	延永ヤヨミ園	3	21 号	C	76
198	福岡県	延永ヤヨミ園	3	27 号	C	76
199	福岡県	延永ヤヨミ園	5	29 号	C	77
200	福岡県	延永ヤヨミ園	5	38 号	C	77
201	福岡県	延永ヤヨミ園	5	39 号	C	77
202	福岡県	延永ヤヨミ園	5	51 号	C	77
203	福岡県	延永ヤヨミ園	5	56 号	C	77
204	福岡県	延永ヤヨミ園	5	61 号	C	77
205	福岡県	延永ヤヨミ園	5	62 号	C	77
206	福岡県	延永ヤヨミ園	5	64 号	C	77
207	福岡県	延永ヤヨミ園	5	69 号	C	77
208	福岡県	延永ヤヨミ園	5	71 号	C	77
209	福岡県	延永ヤヨミ園	5	74 号	C	77
210	福岡県	赤幡森ヶ坪	−	23 号	B	78
211	福岡県	赤幡森ヶ坪	−	51 号	B	78
212	福岡県	赤幡森ヶ坪	−	55 号	B	78
213	福岡県	赤幡森ヶ坪	−	71 号	B	78
214	福岡県	赤幡森ヶ坪	−	95 号	BC	78
215	福岡県	赤幡森ヶ坪	−	101 号	B	78
216	福岡県	赤幡森ヶ坪	−	106 号	C	78
217	福岡県	築城五反田	−	2 号	B	79
218	福岡県	築城五反田	−	7 号	C	79
219	福岡県	上唐原	1	45 号	B	80
220	福岡県	上唐原了清	2	16 号	C	81
221	福岡県	池ノ口	−	30 号	C	82
222	大分県	佐知	−	11 号	C	83
223	大分県	佐知	−	27 号	B	83
224	大分県	高畑	2	SH155	B	84
225	大分県	尾漕	−	7 号	B	85
226	大分県	尾漕	−	8 号	B	85

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
227	大分県	山口	2	2 号	B	86
228	大分県	本村	5	1 号	B	87
229	大分県	求来里平島	2	5 号	B	88
230	大分県	求来里平島	2	7 号	B	88
231	大分県	求来里平島	4	10 号	B	89
232	大分県	求来里平島	4	11 号	B	89
233	大分県	求来里平島	4	22 号 A	B	89
234	大分県	求来里平島	4	23 号 C	B	89
235	大分県	金田	−	9 号	C	90
236	大分県	金田	−	20 号	B	90
237	大分県	金田	−	25 号	C	90
238	大分県	町ノ坪	B	7 号	B	91
239	大分県	大肥	2	8 号 A	B	92
240	大分県	大肥	2	9 号	B	92
241	大分県	大肥	2	10 号	B	92
242	大分県	大肥	2	11 号 A	B	92
243	大分県	大肥吉竹	−	25 号	B	93
244	大分県	毛井	B	33 号	B	94
245	大分県	毛井	B	53 号	C	94
246	大分県	北ノ後	−	4 号	C	95
247	大分県	北ノ後	−	11 号	BC	95
248	大分県	北ノ後	−	16 号	B	95
249	大分県	北ノ後	−	23 号	B	95
250	大分県	北ノ後	−	24 号	B	95
251	大分県	北ノ後	−	48 号	B	95
252	大分県	桑迫	−	10 号	B	96
253	大分県	桑迫	−	36 号	B	96
254	大分県	桑迫	−	44 号	B	96
255	大分県	楠野	−	17 号	B	97
256	大分県	中殿	−	A10 号	B	98
257	大分県	中殿	−	B11 号	B	98
258	大分県	中殿	−	B13 号	B	98
259	大分県	中殿	−	B15 号	B	98
260	大分県	加原	−	SH04	BC	99
261	大分県	加原	−	SH06	C	99
262	大分県	加原	−	SH11	B	99
263	愛媛県	北久米浄蓮寺	3	SB-9	C	100
264	愛媛県	福音小学校構内	2	SB10	C	101
265	愛媛県	福音小学校構内	2	SB39	C	101
266	愛媛県	福音小学校構内	2	SB47	C	101
267	愛媛県	福音小学校構内	2	SB82	C	101
268	愛媛県	福音小学校構内	2	SB93	C	101
269	愛媛県	福音小学校構内	2	SB97	C	101
270	愛媛県	福音小学校構内	2	SB46	C	101
271	愛媛県	福音小学校構内	2	SB127	C	101
272	愛媛県	北井門	−	MSK5SI02	C	102
273	愛媛県	北井門	−	MSK6SI03	C	102
274	愛媛県	北井門	−	MSK6SI08	C	102
275	愛媛県	北井門	−	MSK6SI10	C	102
276	愛媛県	北井門	−	MSK6SI62	C	102
277	徳島県	大柿	2	SB7029	C	103
278	徳島県	大柿	2	SB7123	C	103
279	高知県	伏原	1	ST-10	BC	104
280	高知県	伏原	1	SX-3	BC	104
281	高知県	伏原	1	SX-4	B	104
282	山口県	上ノ山	−	SB7	B	105
283	山口県	上ノ山	−	SB9	B	105
284	山口県	上ノ山	−	SB11	B	105
285	広島県	中筋	−	SB1	B	106
286	広島県	青木原	−	SB07	B	107
287	広島県	岡の段	−	SB3	B	108
288	広島県	岡の段	−	SB15	B	108
289	広島県	岡の段	−	SB18	B	108
290	広島県	岡の段	−	SB19	B	108
291	広島県	岡の段	−	SB23	B	108
292	広島県	和知白鳥	2	SB25	C	109
293	広島県	大歳	−	SB6-b	B	110
294	広島県	河原田 2 号	−	SB305	B	111
295	広島県	風呂谷	−	SB5	B	112
296	広島県	川高 2 号	−	SB2	B	113
297	広島県	小谷黄幡	−	SB2	B	114
298	広島県	小谷黄幡	−	SB4	B	114
299	広島県	志村	−	SB6	B	114
300	広島県	志村	−	SB7	B	114
301	広島県	浅谷山東	−	SB7	B	115
302	広島県	石谷 3 号	−	SB1	B	116
303	広島県	道ヶ曽根	−	SB5	B	117
304	広島県	道ヶ曽根	−	SB26	B	117
305	広島県	道ヶ曽根	−	SB31	B	117
306	広島県	道ヶ曽根	−	SB33	B	117
307	広島県	道ヶ曽根	−	SB64 b	B	117
308	広島県	道ヶ曽根	−	SB90	B	117
309	広島県	道ヶ曽根	−	SB97	B	117
310	広島県	郡山大通院谷	−	SB21	B	118

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
311	広島県	郡山大通院谷	−	SB303	B	118
312	広島県	郡山大通院谷	−	SB502	B	118
313	広島県	植谷	−	SB9	B	119
314	岡山県	久田原	−	竪穴住居 24	B	120
315	岡山県	久田原	−	竪穴住居 29	B	120
316	岡山県	久田原	−	竪穴住居 35	B	120
317	岡山県	南溝手	−	竪穴住居 6	C	121
318	岡山県	窪木	−	竪穴住居 10	C	121
319	岡山県	窪木	−	竪穴住居 11	C	121
320	岡山県	窪木	−	竪穴住居 16	C	121
321	岡山県	窪木	−	竪穴住居 30	C	121
322	岡山県	津島	4	竪穴住居 60	C	122
323	兵庫県	柿坪	−	SH20015	C	123
324	兵庫県	柿坪	−	SH20018	C	123
325	兵庫県	柿坪	−	SH20022	C	123
326	兵庫県	柿坪	−	SH20057	C	123
327	兵庫県	柿坪	−	SH30031	B	123
328	兵庫県	粟鹿	−	A-SH105	C	124
329	兵庫県	粟鹿	−	A-SH104	C	124
330	兵庫県	粟鹿	−	B-SH2007	C	124
331	兵庫県	粟鹿	−	D-SH02	C	124
332	兵庫県	粟鹿	−	D-SH12	C	124
333	兵庫県	粟鹿	−	D-SH29 b	BC	124
334	兵庫県	灰高	−	SH05	B	125
335	兵庫県	灰高	−	SH11	C	125
336	兵庫県	川除・藤ノ木	−	SH72	C	126
337	兵庫県	市ノ郷	−	SH16	C	127
338	兵庫県	市ノ郷	4	SH23	C	128
339	兵庫県	市ノ郷	5	SH-W02	C	129
340	兵庫県	市ノ郷	5	SH-E09	C	129
341	兵庫県	吉田南	2	SB203	C	130
342	兵庫県	吉田南	2	SB204	C	130
343	兵庫県	郡家	83	竪穴建物 202	C	131
344	京都府	室橋	15	SH151006	C	132
345	京都府	池上	13	SH153	C	133
346	京都府	池上	13	SH164	C	133
347	京都府	和泉式部町	−	3 号	C	134
348	京都府	下海印寺	−	SH32	C	135
349	京都府	佐山	−	SH101	C	136
350	京都府	佐山	−	SH120	C	136
351	大阪府	亀川	−	竪穴住居 405	C	137
352	大阪府	蔀屋北	1	C1557	C	138
353	大阪府	蔀屋北	1	C1559	C	138
354	大阪府	蔀屋北	1	C1560	C	138
355	大阪府	蔀屋北	1	D1	C	139
356	大阪府	万町北	1	C007	C	140
357	大阪府	万町北	1	C009	C	140
358	和歌山県	西庄	−	28 号	C	141
359	和歌山県	田屋	−	SB17	C	142
360	和歌山県	田屋	−	SB19	C	142
361	和歌山県	田屋	−	SB22	C	142
362	和歌山県	田屋	−	SB23	C	142
363	和歌山県	田屋	−	SB29	C	142
364	和歌山県	田屋	−	SB30	C	142
365	和歌山県	田屋	−	SB33	C	142
366	和歌山県	田屋	−	SB41	C	142
367	和歌山県	田屋	−	SB45	C	142
368	和歌山県	田屋	−	SB49	C	142
369	和歌山県	田屋	−	SB53	C	142
370	和歌山県	田屋	−	SB54	C	142
371	和歌山県	田屋	4	SI-2	C	143
372	和歌山県	田屋	3	SI-5	C	143
373	和歌山県	西飯降	−	5150	B	144
374	和歌山県	西飯降	−	5770	B	144
375	和歌山県	西飯降	−	5930	C	144
376	和歌山県	慈尊院	−	SI02	C	145
377	三重県	檀・柏原	−	SB12	BC	146
378	三重県	檀・柏原	−	SB19	B	146
379	三重県	北堀池	−	SH3035	C	147
380	三重県	下ノ川富田	−	SH15	B	148

[出典]

1　本書

2　新南部・潤野遺跡、1986、熊本県文化財調査報告 84、熊本県教育委員会

3　竜田陳内遺跡、1988、熊本県文化財調査報告 98、熊本県教育委員会

4　下南部遺跡発掘調査報告書、1979、熊本市教育委員会

5　大江遺跡群Ⅰ、1989、熊本市教育委員会

6　大江遺跡群Ⅱ、1993、熊本市教育委員会

7　大江遺跡群第 23 次調査区、2008、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H19、熊本市教育委員会

8　大江遺跡群第 42 次調査区、2005、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H19、熊本市教育委員会

9　大江遺跡群Ⅴ、2004、熊本市教育委員会

10　大江遺跡群第 84 次調査区、2005、熊本市埋蔵文化財調査年報 7、熊本市教育委員会

11　大江遺跡群Ⅵ、2007、熊本市教育委員会

12　大江遺跡群第 108 次調査区、2008、熊本市埋蔵文化財調査年報 10、熊本市教育委員会

13　辻遺跡第 1 次調査区、2001、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H11・12、

14　西谷遺跡、1985、熊本県文化財調査報告 76、熊本県教育委員会

15　新屋敷遺跡第 16 次調査区、2005、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H16、熊本市教育委員会

16　新屋敷遺跡第 26 次調査区、2007、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H18、熊本市教育委員会

17　新屋敷遺跡第 27 次調査区、2004、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H15、熊本市教育委員会

18　陣山遺跡、1996、熊本県文化財調査報告 155、熊本県教育委員会

19　陣山廃寺、1996、熊本市教育委員会

20　二本木遺跡群第 35 次調査区、2009、熊本市埋蔵文化財調査年報 11、熊本市教育委員会

21　二本木遺跡群 19、2012、熊本市の文化財 19、熊本市教育委員会

22　石川遺跡、2002、植木町文化財調査報告書 14、植木町教育委員会

23　今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡、2002、玉名市文化財調査報告 10、玉名市教育委員会

24　滝川石田遺跡・辺田見中道遺跡、2014、熊本県文化財調査報告 301、熊本県教育委員会

25　伊坂上ノ原遺跡、2004、旭志村文化財調査報告 8、旭志村教育委員会

26　乙金地区遺跡群 4、2012、大野城市文化財調査報告書 100、大野城市教育委員会
27　乙金地区遺跡群 6、2013、大野城市文化財調査報告書 106、大野城市教育委員会
28　中道遺跡・石成久保遺跡・大還端遺跡、1996、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 39、福岡県教育委員会
29　外之隈遺跡Ⅱ、1996、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 40、福岡県教育委員会
30　長島遺跡の調査Ⅰ、1995、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 34、福岡県教育委員会
31　鷹取五反田遺跡Ⅱ、1999、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 10、福岡県教育委員会
32　塚堂遺跡Ⅳ D 地区、1985、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 4、福岡県教育委員会
33　堂畑遺跡Ⅲ、2005、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 23、福岡県教育委員会
34　大的遺跡Ⅰ・日詰遺跡Ⅰ、2003、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 19、福岡県教育委員会
35　船越高原遺跡、2000、田主丸町文化財調査報告 13、田主丸町教育委員会
36　日永遺跡 1、1993、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 6、福岡県教育委員会
37　沖出梅木遺跡、1999、浮羽町文化財調査報告書 14、浮羽町教育委員会
38　貝元遺跡Ⅰ、1998、福岡県教育委員会
39　貝元遺跡Ⅱ、1999、福岡県教育委員会
40　宮原遺跡の調査Ⅳ、1998、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 51、福岡県教育委員会
41　有田・小田部 2、1982、福岡市埋蔵文化財調査報告書 81、福岡市教育委員会
42　有田・小田部 37、2002、福岡市埋蔵文化財調査報告書 725、福岡市教育委員会
43　有田・小田部 11、1990、福岡市埋蔵文化財調査報告書 234、福岡市教育委員会
44　有田周辺遺跡調査概報、1977、福岡市埋蔵文化財調査報告書 43、福岡市教育委員会
45　都地遺跡・金武城田遺跡、1988、福岡市埋蔵文化財調査報告書 186、福岡市教育委員会
46　那珂 59、2012、福岡市埋蔵文化財調査報告書 1154、福岡市教育委員会
47　那珂 36、2004、福岡市埋蔵文化財調査報告書 802、福岡市教育委員会
48　那珂 60、2012、福岡市埋蔵文化財調査報告書 1155、福岡市教育委員会
49　重留村下遺跡 3、2006、福岡市埋蔵文化調査報告書 880、福岡市教育委員会
50　春日地区遺跡群、1985、春日市文化財調査報告書 15、春日市教育委員会
51　三雲・井原遺跡Ⅶ、2012、糸島市文化財調査報告 7、糸島市教育委員会
52　牛ガ熊遺跡、1993、須恵町文化財調査報告 6、須恵町教育委員会
53　築後国府跡、1986、久留米市文化財調査報告書 46、久留米市教育委員会
54　太郎原遺跡第 1 次調査、2010、久留米市文化財調査報告書 290、久留米市役所
55　北の前遺跡Ⅰ、1992、広川町文化財調査報告書 9、広川町教育委員会
56　瀬戸遺跡、1990、岡垣町文化財調査報告 11、岡垣町教育委員会
57　高塚遺跡、1993、岡垣町文化財調査報告 15、岡垣町教育委員会
58　高丸・友田遺跡群、2008、岡垣町文化財調査報告 27、岡垣町教育委員会
59　尾崎・天神遺跡Ⅰ、1991、遠賀町文化財調査報告書 2、遠賀町教育委員会
60　尾崎・天神遺跡Ⅱ、1992、遠賀町文化財調査報告書 4、遠賀町教育委員会
61　尾崎・天神遺跡Ⅲ、1995、遠賀町文化財調査報告書 7、遠賀町教育委員会
62　尾崎・天神遺跡Ⅳ、1999、遠賀町文化財調査報告書 13、遠賀町教育委員会
63　尾崎・天神遺跡Ⅴ、金丸遺跡Ⅱ、2007、遠賀町文化財調査報告書 18、遠賀町教育委員会
64　金丸遺跡、1999、遠賀町文化財調査報告書 12、遠賀町教育委員会
65　新原・奴山古墳群Ⅱ、2001、津屋崎町文化財調査報告書 17、津屋崎町教育委員会
66　片野遺跡 2、2002、埋蔵文化財調査室年報 18、㈶北九州市芸術文化振興財団
67　三郎丸遺跡第 2 地点、2003、北九州市埋蔵文化財調査報告書 304、㈶北九州市芸術文化振興財団
68　三郎丸遺跡第 3 地点 2、2014、北九州市埋蔵文化財調査報告書 512、㈶北九州市芸術文化振興財団
69　森山西遺跡Ⅱ区、1997、北九州市埋蔵文化財調査報告書 204、㈶北九州市教育文化事業団
70　長野 A 遺跡 1(Ⅰ・Ⅳ・Ⅷ区の調査)、1986、北

九州市埋蔵文化財調査報告書 47、㈶北九州市教育文化事業団
71　長野 E 遺跡調査報告書、1985、北九州市埋蔵文化財調査報告書 42、㈶北九州市教育文化事業団
72　みやこ町内遺跡群Ⅴ、2011、みやこ町文化財調査報告書 7、みやこ町教育委員会
73　影塚南遺跡影塚東遺跡、1986、桂川町文化財調査報告書 6、桂川町教育委員会
74　福富小畑遺跡 D 地点、2010、福岡県文化財調査報告書 228、福岡県教育委員会
75　延永ヤヨミ園遺跡Ⅰ区の調査 1、2013、東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 9、九州歴史資料館
76　延永ヤヨミ園遺跡Ⅱ区 2、2014、東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 11、九州歴史資料館
77　延永ヤヨミ園遺跡Ⅴ 4 ～ 7 区、2014、福岡県文化財調査報告書 244、九州歴史資料館
78　赤幡森ヶ坪遺跡、1992、椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 8、福岡県教育委員会
79　築城五反田遺跡・築城小迫遺跡、2000、福岡県文化財調査報告書 153、福岡県教育委員会
80　上唐原遺跡Ⅰ、1995、一般国道 10 号線豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 2、福岡県教育委員会
81　上唐原了清遺跡Ⅱ、2000、一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 5、福岡県教育委員会
82　池ノ口遺跡、1996、一般国道 10 号豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 3、福岡県教育委員会
83　佐知遺跡、1989、大分県文化財調査報告書 81、大分県教育委員会
84　高畑遺跡 2、2014、大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 76、大分県教育庁埋蔵文化財センター
85　尾漕遺跡、2001、日田市埋蔵文化財調査報告書 30、日田市教育委員会
86　山口遺跡、2000、日田市埋蔵文化財調査報告書 20、日田市教育委員会
87　朝日の遺跡Ⅱ鍛冶屋廻り遺跡 2 次・本村遺跡 5 次の調査、2014、日田市埋蔵文化財調査報告書 111、日田市教育委員会
88　求来里平島遺跡Ⅱ、2007、日田市埋蔵文化財調査報告書 77、日田市教育委員会
89　求来里の遺跡Ⅳ求来里平島遺跡 4 次の調査、2012、日田市埋蔵文化財調査報告書 102、日田市教育委員会
90　求来里の遺跡Ⅱ金田遺跡の調査、2009、日田市埋蔵文化財調査報告書 89、日田市教育委員会
91　求来里の遺跡Ⅰ町ノ坪遺跡 B 地区の調査報告、2009、日田市埋蔵文化財調査報告書 88、日田市教育委員会
92　大肥遺跡Ⅱ、2006、日田市埋蔵文化財調査報告書 66、日田市教育委員会
93　大肥吉竹遺跡、2004、日田市埋蔵文化財調査報告書 48、日田市教育委員会
94　毛井遺跡 B 地区、2002、大分県文化財調査報告書 135、大分県教育委員会
95　馬姓遺跡北の後遺跡乙院屋敷遺跡、1999、大分県教育委員会
96　桑迫遺跡・宮原遺跡・小園久保遺跡、2010、竹田市教育委員会
97　楠野、1983、大分県文化財調査報告 63、大分県教育委員会
98　中殿遺跡、2001、久住町文化財調査報告書 11、久住町教育委員会
99　加原遺跡、2014、大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 73、大分県教育委員会
100　北久米浄蓮寺遺跡 3 次調査、1994、松山市埋蔵文化財調査報告 42、㈶松山市生涯学習振興財団
101　福音小学校構内遺跡Ⅱ、2003、松山市埋蔵文化財調査報告書 91、松山市教育委員会
102　北井門遺跡、2010、埋蔵文化財発掘調査報告書 159、㈶愛媛県埋蔵文化財調査サンター
103　大柿遺跡Ⅱ、2004、徳島県埋蔵文化財センター報告書 48、㈶徳島県埋蔵文化財センター
104　伏原遺跡Ⅰ、2010、高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 108、㈶高知県文化財団
105　上ノ山遺跡、1994、山口県埋蔵文化財調査報告書 168、山口県教育委員会
106　中筋遺跡、1997、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 152、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
107　青木原遺跡発掘調査報告書、1986、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
108　岡の段 C 地点遺跡、1994、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 132、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
109　和知白鳥遺跡 2、2012、㈶広島県教育事業団発掘調査報告書 42、(公財) 広島県教育事業団
110　大歳遺跡、1994、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
111　河原田 2 号遺跡・寺の前古墳、1992、広島県

埋蔵文化財調査センター調査報告書 102、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
112　風呂谷遺跡・風呂谷古墳、2014、㈶広島県教育事業団発掘調査報告書 59、(公財) 広島県教育事業団
113　川高 2 号遺跡、2005、㈶広島県教育事業団発掘調査報告書 9、(公財) 広島県教育事業団
114　山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査調査報告Ⅷ、1992、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
115　浅谷山東 B 地点遺跡、1992、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 101、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
116　石谷 2 号遺跡・石谷 3 号遺跡、2013、㈶広島県教育事業団発掘調査報告書 50、(公財) 広島県教育事業団
117　道ヶ曽根遺跡、1998、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 158、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
118　郡山大通院谷遺跡 (西地点編)、2003、㈶吉田町地域振興事業団報告書 9、㈶吉田町地域振興事業団
119　郡山大通院谷遺跡 (古代編)、2003、㈶吉田町地域振興事業団報告書 8、㈶吉田町地域振興事業団
120　植谷遺跡・根野見遺跡・植谷古墳発掘調査報告書、2002、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 199、㈶広島県埋蔵文化財調査センター
121　久田原遺跡久田原古墳群、2004、岡山県埋蔵文化財調査報告 184、岡山県古代吉備文化財センター
122　南溝手遺跡窪木遺跡、2008、岡山県埋蔵文化財調査報告 214、岡山県古代吉備文化財センター
123　津島遺跡 4、2003、岡山県埋蔵文化財調査報告 173、岡山県古代吉備文化財センター
124　柿坪遺跡、2008、兵庫県文化財調査報告 336、兵庫県教育委員会
125　粟鹿遺跡、2007、兵庫県文化財調査報告 323、兵庫県教育委員会
126　三釈迦山北鹿遺跡群灰高遺跡、2013、兵庫県文化財調査報告 453、兵庫県教育委員会
127　川除・藤ノ木遺跡第 2 分冊、1992、兵庫県文化財調査報告 104、兵庫県教育委員会
128　市之郷遺跡、2005、兵庫県文化財調査報告 286、兵庫県教育委員会
129　市之郷遺跡発掘調査報告書Ⅳ、2012、兵庫県文化財調査報告 433、兵庫県教育委員会
130　市之郷遺跡Ⅴ、2013、兵庫県文化財調査報告 454、兵庫県教育委員会
131　吉田南遺跡第 17．18 次調査発掘調査報告書、2006、神戸市教育委員会
132　郡家遺跡発掘調査報告書第 83 次調査、2008、神戸市教育委員会
133　室橋遺跡第 15．17 次、2010、京都府遺跡調査報告集 139、㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター
134　池上遺跡第 13．18 次、2004、京都府遺跡調査概報 112、㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター
135　和泉式部町遺跡、1991、京都市埋蔵文化財調査概要 S62、㈶京都市埋蔵文化財研究所
136　下海印寺遺跡、2010、長岡京市埋蔵文化財センター年報 H20、㈶長岡京市埋蔵文化財センター
137　佐山遺跡、2001、京都府遺跡調査概報 101、㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター
138　亀川遺跡、2002、㈶大阪府文化財貯砂研究センター調査報告書 75、㈶大阪府文化財調査研究センター
139　蔀屋北遺跡Ⅰ、2009、大阪府埋蔵文化財調査報告 2009-3、大阪府教育委員会
140　万田北遺跡Ⅰ、1993、和泉丘陵内遺跡発掘調査報告書Ⅴ、和泉丘陵内遺跡調査会
141　西庄遺跡、2003、㈶和歌山県文化財センター
142　田屋遺跡発掘調査報告書、1990、㈶和歌山県文化財センター
143　田屋遺跡第 7・8 次発掘調査報告書、2014、和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書 1、(公財) 和歌山市文化スポーツ振興財団
144　中飯降遺跡・西飯降Ⅱ遺跡・加陀寺前経塚・大谷遺跡・重行遺跡、2012、(公財) 和歌山県文化財センター
145　慈尊院Ⅱ遺跡、2005、㈶和歌山県文化財センター
146　檀・柏原遺跡、1984、三重県埋蔵文化財調査報告 63、三重県教育委員会
147　北堀池遺跡発掘調査報告、2011、三重県埋蔵文化財調査報告 51、三重県埋蔵文化財センター
148　下之川富田、1998、三重県埋蔵文化財調査報告 170、三重県埋蔵文化財センター

4　写真図版

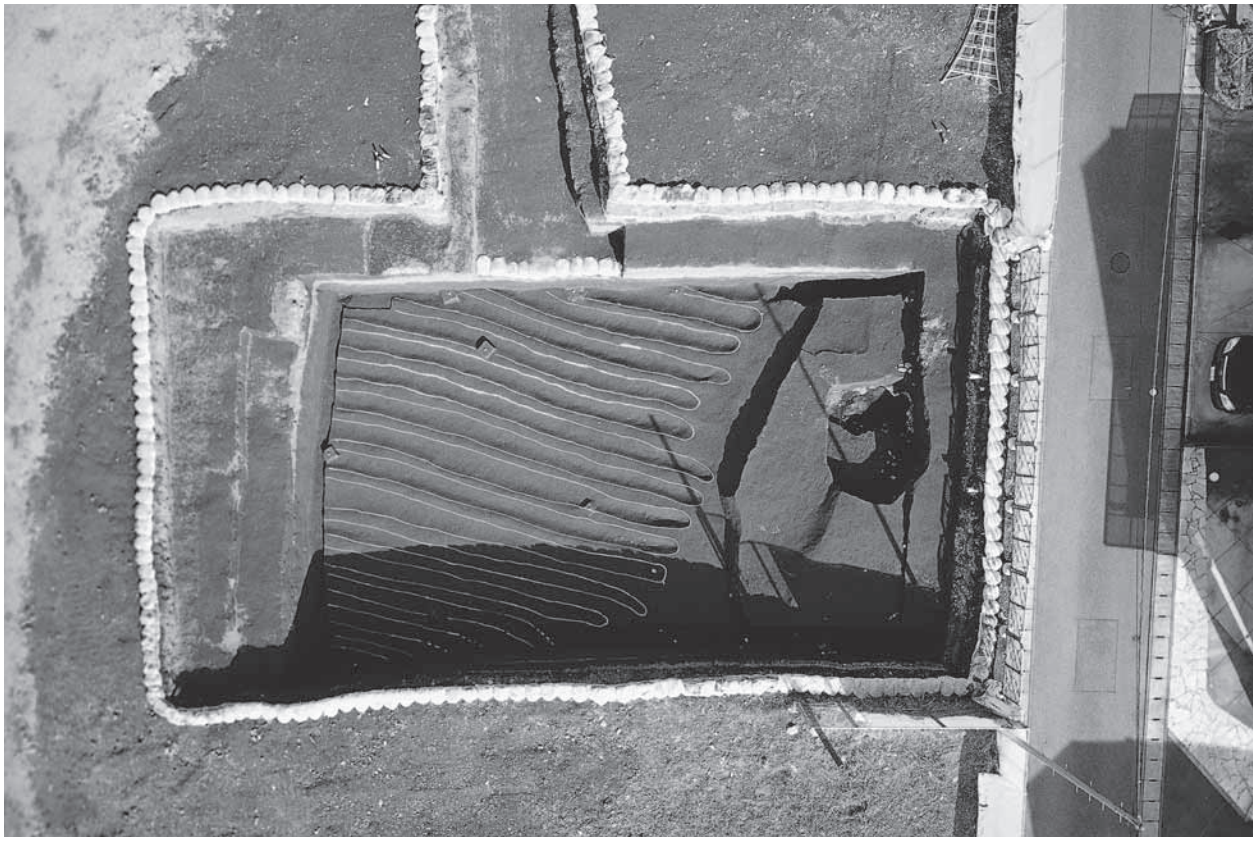
4-1　遺構写真

4-2　遺物写真

新南部遺跡群遠景

新南部遺跡群遠景

1 区・2 区完掘状況



3 区完掘状況

1区　全景完掘状況　S→N

1区　中央部完掘状況　W→E

1区　S005・S021・S022
S007～S011完掘状況　W→E

1区　S005･S022断面　E→W

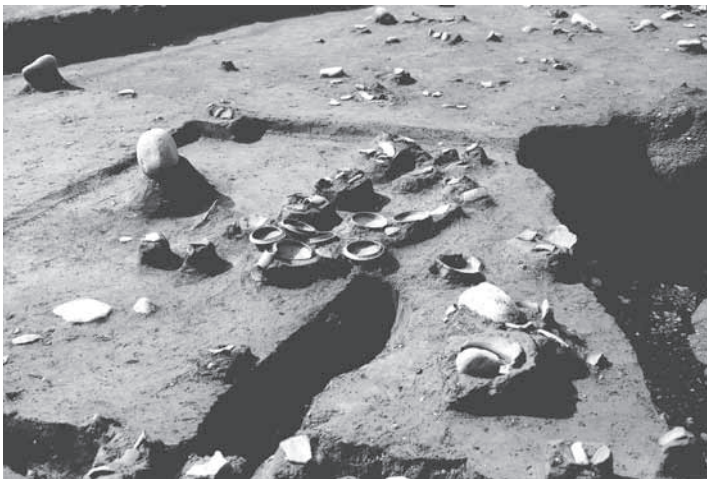
1区　H-1G(S005)　獣骨出土状況　E→W

1区　S019・S020 完掘状況　S→N

1区　S023 完掘状況　W→E

1区　S025 完掘状況　S→N

1区　SO28 完掘状況　W → E



1区　SO28 北・西部
遺物出土状況　S → N

1区　SO28(上層)
遺物出土状況　S → N

1区　SO31 完掘状況　S → N

1 区　S032・S033 完掘状況　SW → NE

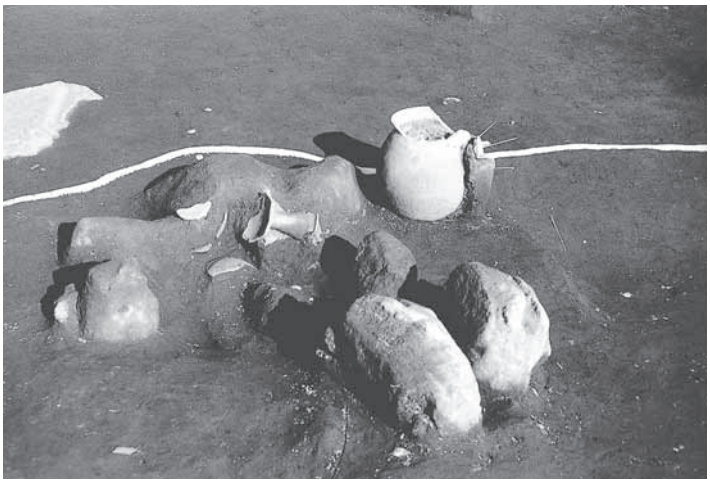
1 区　S038 完掘状況　E → W

1 区　S038 竈内遺物出土状況　E → W

1 区　S038 遺物出土状況　W → E

1 区　S038 (上層) 遺物出土状況　W → E

1 区　S040 完掘状況　SW → NE



1 区　S040 竈検出状況　SW → NE

1 区　S028・S043 完掘状況　S → N

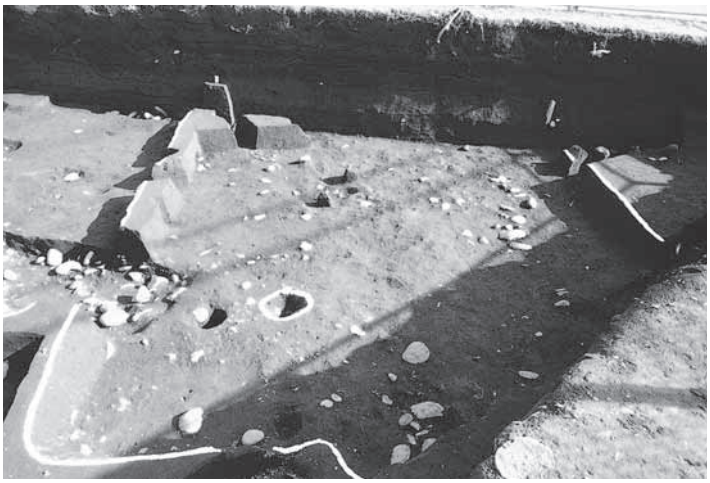
1 区　SO42 完掘状況　N → S

1 区　SO46 完掘状況　S → N

1 区　SO46 竈検出状況　E → W

1 区　SO47 完掘状況　SW → NE

1区　S047 竈内遺物出土状況　W→E



1区　S048 完掘状況　W→E

1区　S048 竈完掘状況　E→W

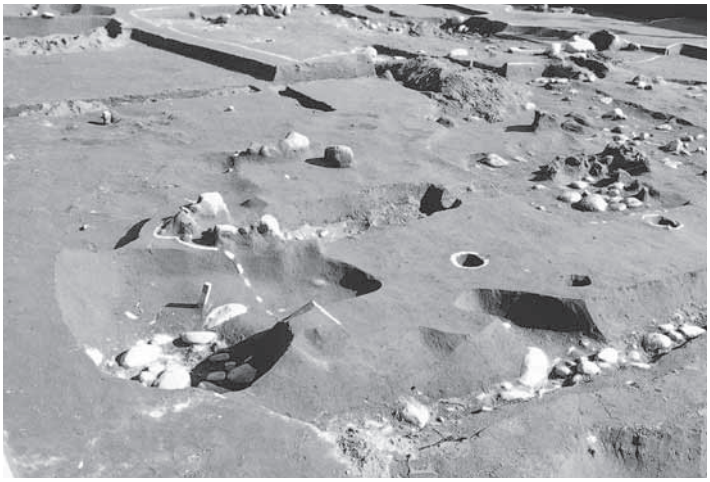
1区　S049・S051 完掘状況　W→E

1区　S049 竈内遺物出土状況　W→E

1区　S051 竈断面　S→W

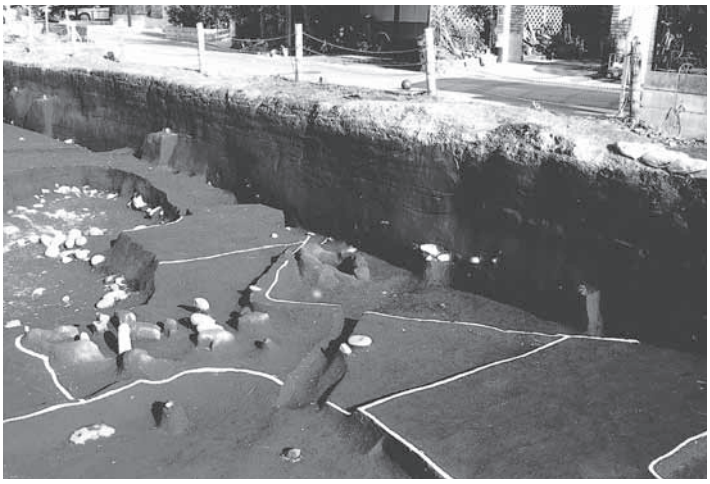
1区　S050 完掘状況　W→E

1区　S050 竈完掘状況　S→N



1 区　S054 完掘状況　S → N

1 区　S054 竈断面　E → W

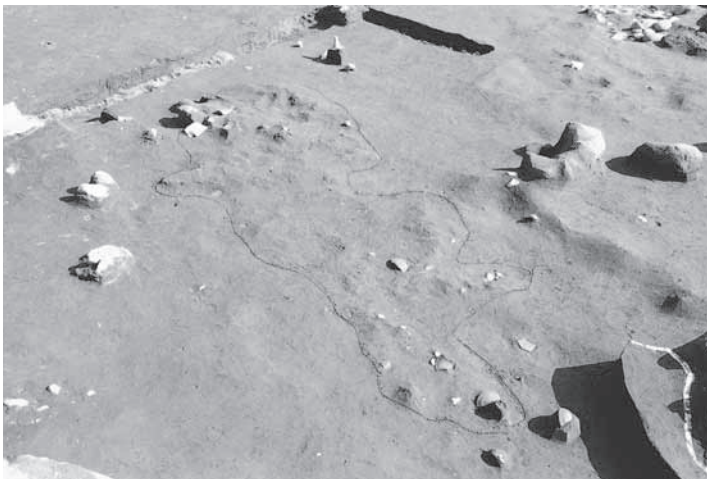


1 区　S056･S057･S058 完掘状況　S → N

1 区　S056 竈断面　W → E

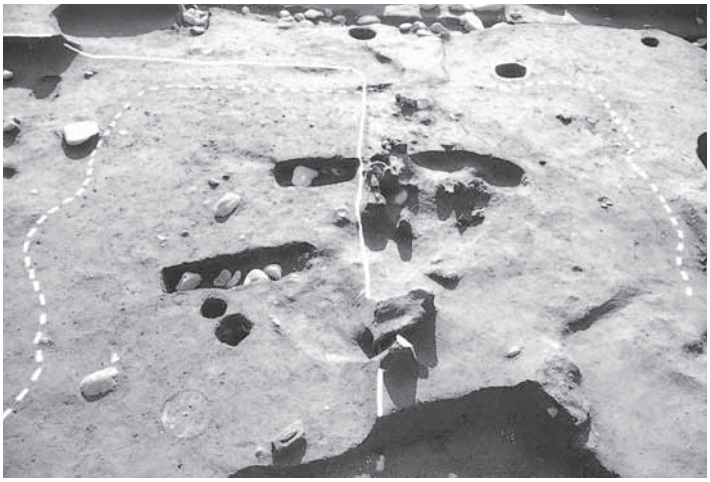
1区　S057 竈完掘状況　S→N

1区　S058 竈内遺物出土状況　S→N



1区　S059・S062 完掘状況　W→E

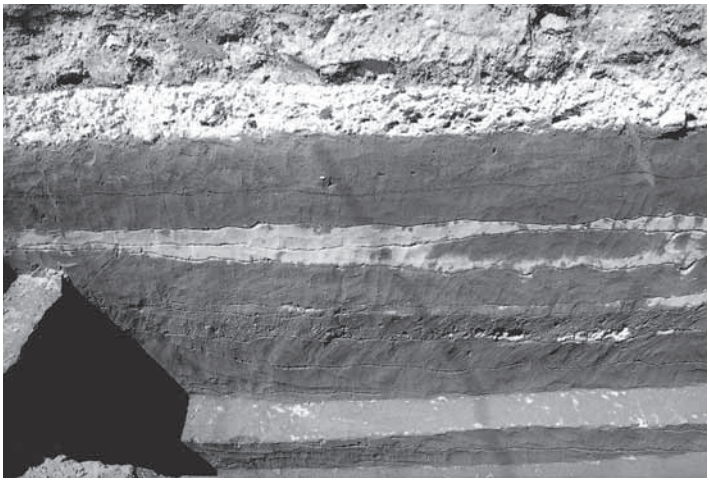
1区　S063 完掘状況　W→E



1区　SO64 完掘状況　N→S

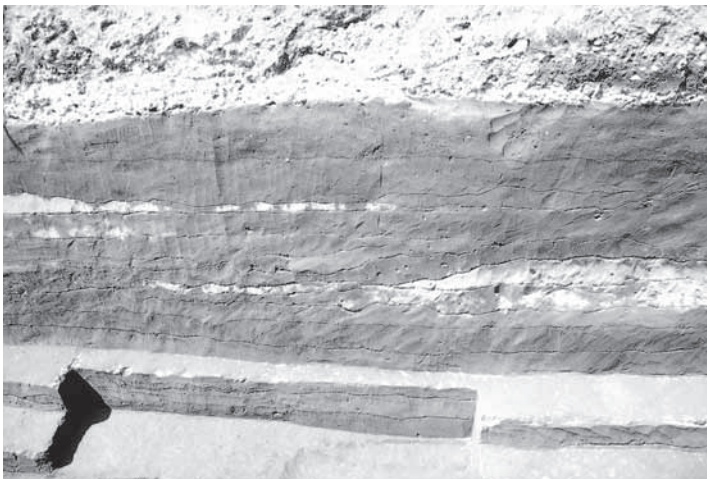
2区　南部完掘状況　N→S

2区　中央部完掘状況　SW→NE

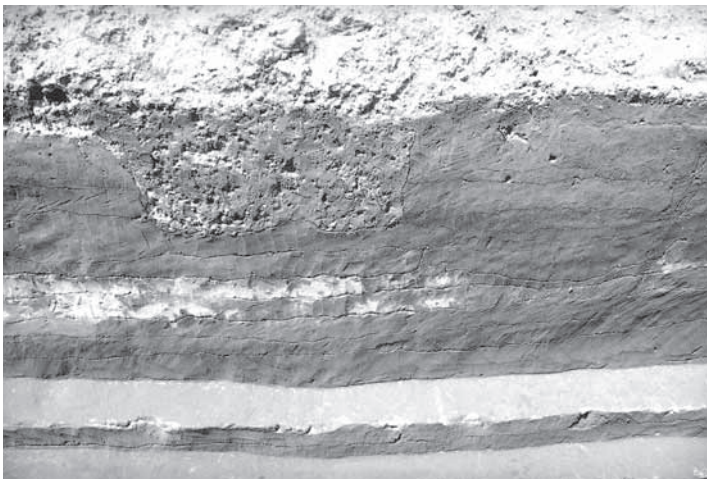


2区　アパート北東側 (P-12・Q-12)
土層断面 (C2-D)　NE→SW

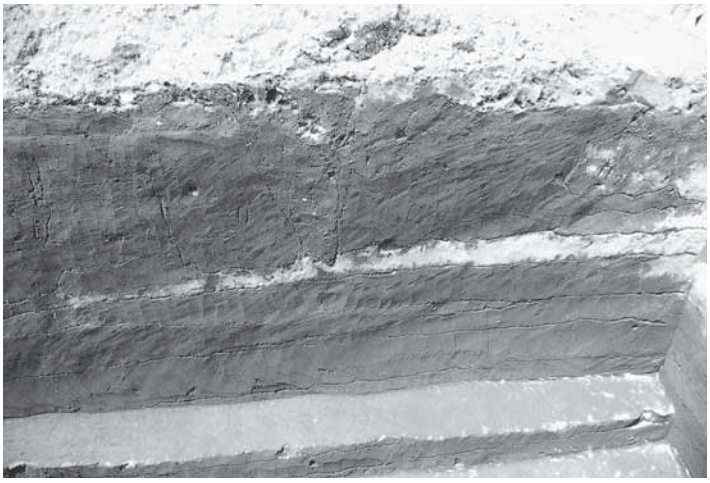
2区　アパート北東側 (Q-11・12)
土層断面 (C2-D)　NE → SW



2区　アパート北東側 (Q-11・12)
土層断面 (C2-D)　NE → SW



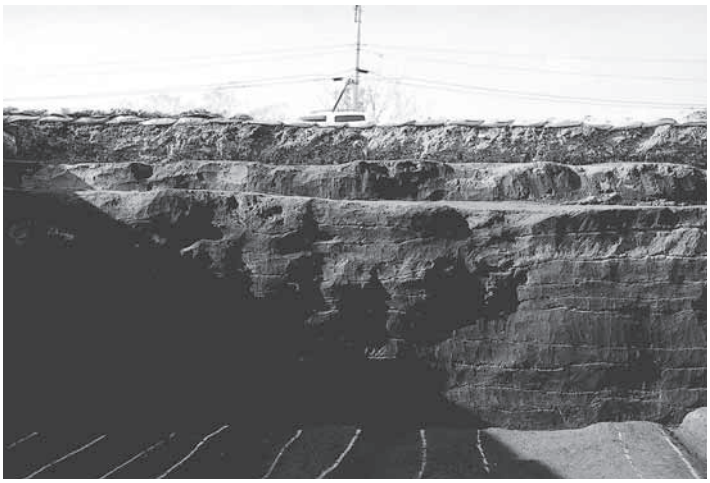
2区　アパート北東側 (Q-11・R-10・11)
土層断面 (C2-D)　NE → SW



2区　アパート北東側 (R-10)
土層断面 (C2-D)　NE → SW

3区　畝検出状況　W → E

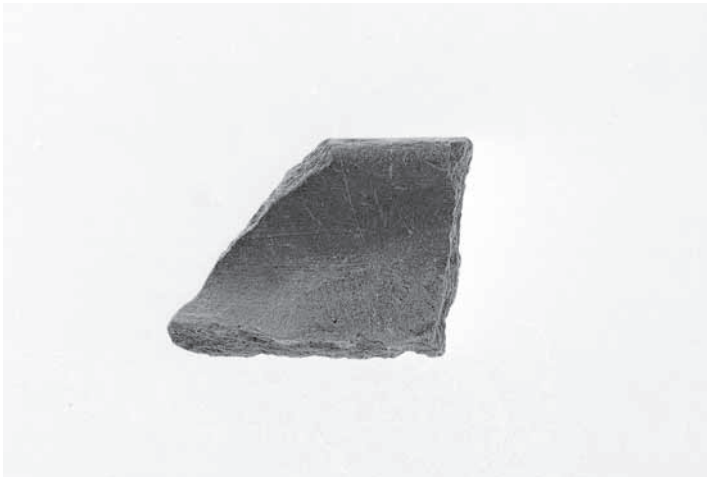
3区　土層断面 (A-A')　E → W



3区　土層断面 (A-A')　E → W

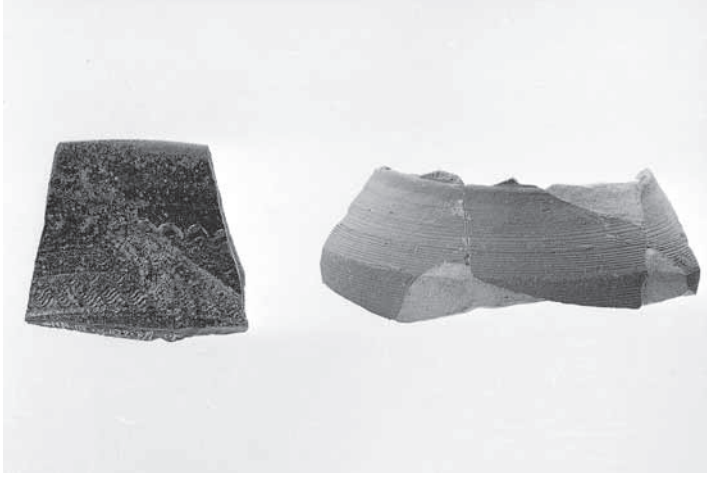
3区　土層断面 (A-A')　E → W

1区　S005　出土土器



1区　S008　出土土器

1区　S021　出土土器



1区　S022　出土土器

1区　S028-Ⅰ群　出土土器

1区　S028-Ⅰ群　出土土器

1区　S028-Ⅱ群　出土土器

1区　S028-Ⅱ群　出土土器

1区　S030　出土土器

1区　S031　出土土器

1区　S038- Ⅰ群　出土土器

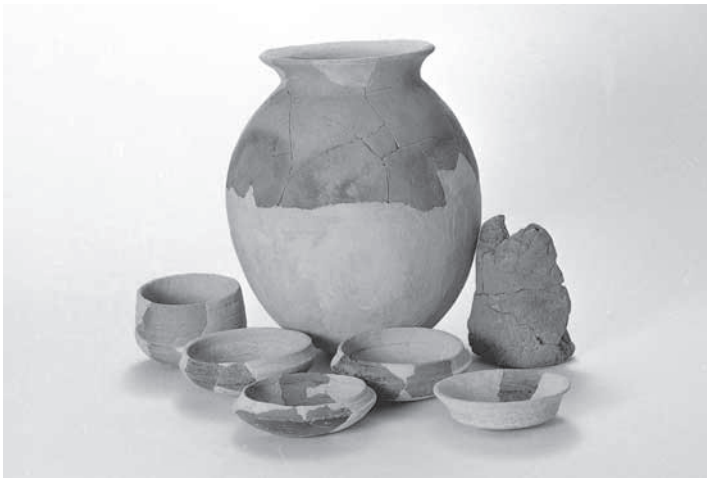
1区　S038- Ⅰ群　出土土器

1区　S038-Ⅱ群　出土土器

1区　S038-Ⅱ群　出土土器

1区　S040　出土土器

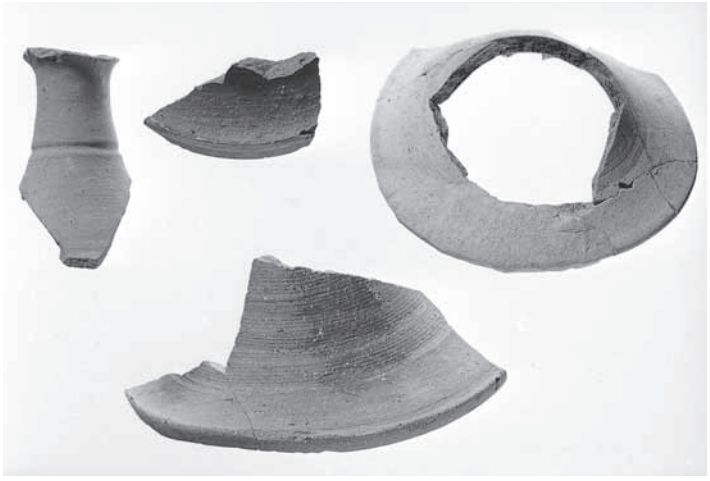
1区　S040　出土土器



1区　S042　出土土器

1区　S042　出土土器

1区　S043　出土土器



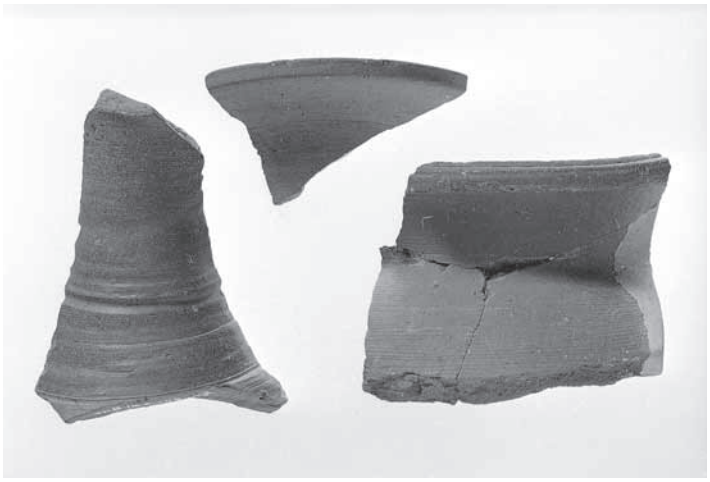
1区　S043　出土土器

1区　S045　出土土器

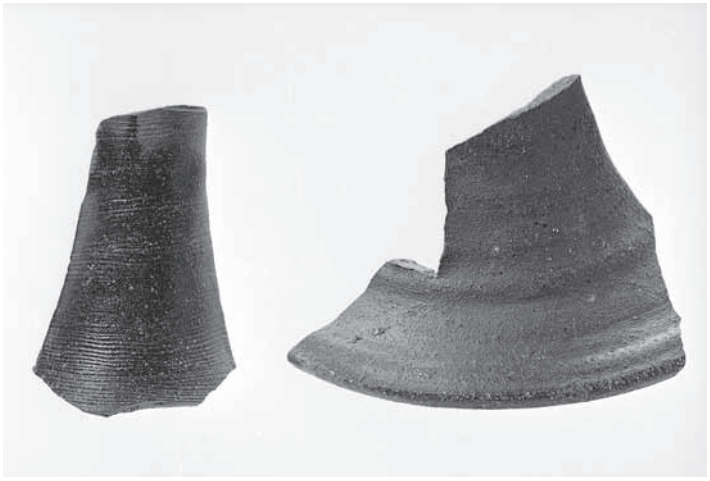
1区　S046　出土土器

1区　S047　出土土器

1区　S048- I群　出土土器



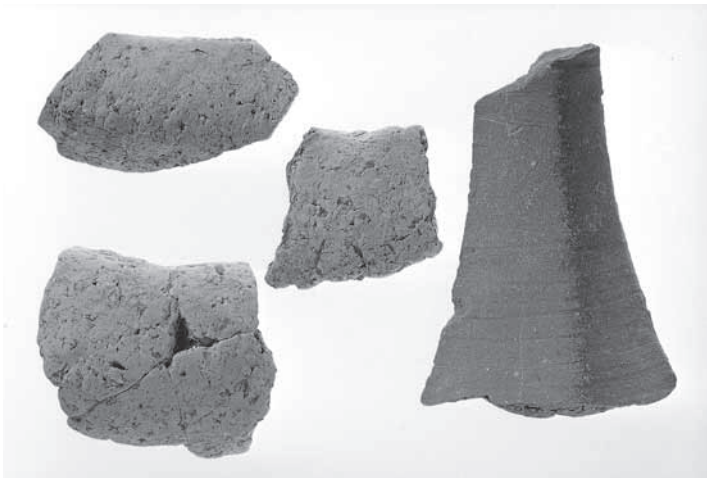
1区　S048-Ⅰ群　出土土器



1区　S048-Ⅱ群　出土土器

1区　S049　出土土器

1区　S050　出土土器



1区　S050　出土土器

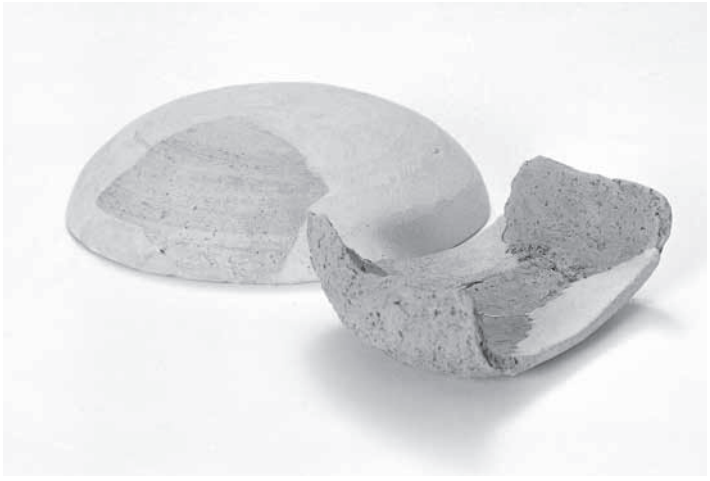
1区　S051- Ⅰ群　出土土器

1区　S051- Ⅰ群　出土土器

1区　S051- Ⅱ群　出土土器

1区　S052　出土土器

1区　S054　出土土器



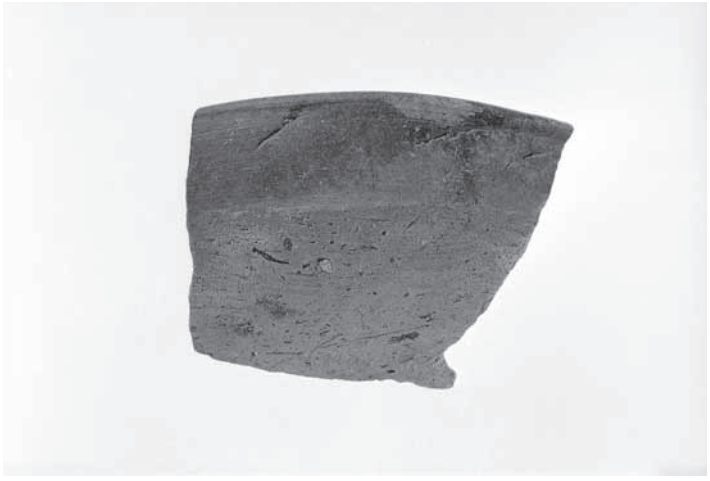
1区　S056　出土土器

1区　S057　出土土器

1区　S058　出土土器

1区　S058　出土土器

1区　S059　出土土器



1区　S060　出土土器

1区　S062　出土土器

1区　S063　出土土器

1区　S064　出土土器

2区　S024　出土土器

包含層　出土土器

包含層　出土土器

包含層　出土土器

包含層　出土土器

包含層　出土土器

須恵器模倣坏

製塩土器

縄紋土器

土製支脚

砂岩製竈石

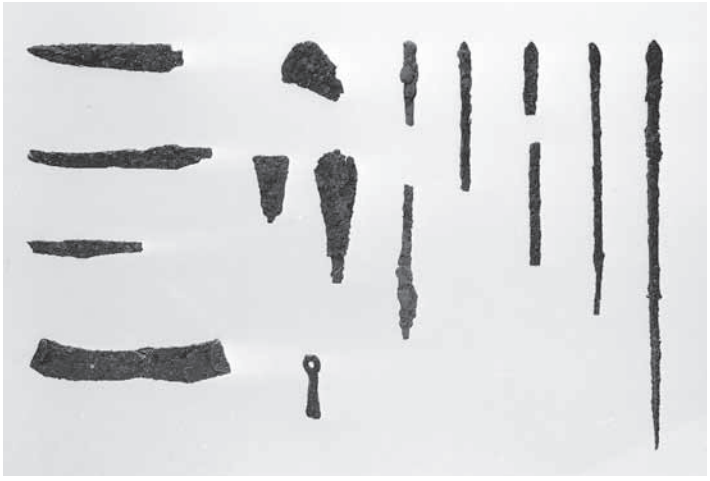
石器 1

石器 2

石器 3

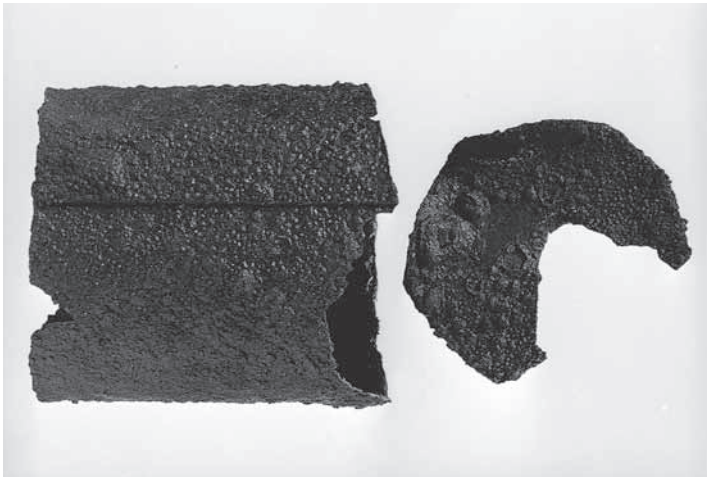
石器 4

石器 5

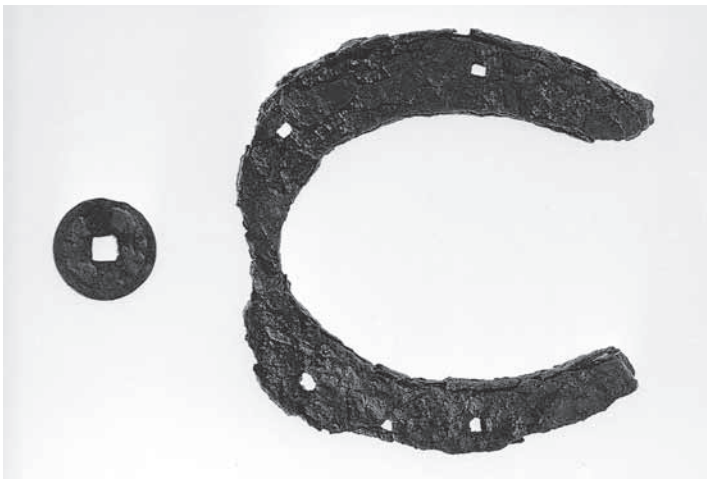


鉄器 1

鉄器 2



鉄器 3



鉄器 4

報告書抄録

ふりがな	しんなべいせきぐん
書名	新南部遺跡群
副書名	白川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	3
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	311
編集者名	宮崎敬士
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862－8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 TEL 096－383－1111（内線6716）
発行年月日	西暦 2015年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんなべいせきぐん	くまもとけんくまもとしちゅうおうくとろく8ちょうめ	43201	332	32度 48分 59秒	130度 44分 34秒	20040610 ～ 20041201	2,930㎡	河川改修
新南部遺跡群	熊本県熊本市中央区渡鹿8丁目					20101101 ～ 20041210	230㎡	河川改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新南部遺跡群	集落跡	古墳時代	竪穴住居 18棟	土製品 土師器、須恵器、 支脚、移動式竈 石製品 紡錘車、浮子、砥石、 台石、敲石、石皿、 磨石 金属製品 長茎鏃、刀子、摘鎌	竈破却、須恵器模倣坏、石製紡錘車
	散布地	近世	畝溝（群）	蹄鉄、鉄缶	

要約	新南部遺跡群では、古墳時代後期の竪穴住居が18棟検出された。うち15棟には竈が造り付けられ、5棟から移動式竈が検出された。造り付け竈と移動式竈とが共伴した竪穴住居は4棟である。 なお、竪穴住居からは、須恵器及び土師器、砥石、紡錘車等の石器、摘鎌、鉄鏃、刀子等の金属器が出土した。なかでも、須恵器模倣坏が18棟のうち7棟から合計16点出土した。 また、新南部遺跡群は、白川中流域と下流域の境界、白川左岸の沖積地に位置する、低平地に立地した数少ない集落例である。熊本平野と阿蘇カルデラを含む九州山地との交通路の出入口にあたり、対岸には古墳5基、横穴古墳群8群170余基が位置している。 新南部遺跡群は、古墳時代集落の形成動機、形成集団等を考察するには好立地の遺跡であり、古墳時代後期なかでも磐井の乱とその前後の熊本地域の動静分析等の資料となる遺跡であった。

熊本県文化財調査報告第３１１集

新南部遺跡群３

白川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行年月日　平成２７年３月３１日
編集・発行　熊本県教育委員会
〒 862-8609　熊本県熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号
印刷・製本　弘栄印刷株式会社
〒 861-8038　熊本県熊本市東区長嶺東８丁目６番１号

発 行 者：熊本県教育委員会
所　　属：教育総務局文化課
発行年度：平成２６年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 311 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：新南部遺跡群 3
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2016 年 9 月 21 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。
熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/